

鹿塩

大島家文書目録

長野県下伊那郡大鹿村

CD 版 : Ver. 2006 年 11 月 18 日

まえがき

この目録に収録されている文書は、長野県下伊那郡大鹿村鹿塩地区の大島家が所蔵している文書で、大部分は江戸時代信州下伊那郡鹿塩村のいわゆる名主所文書類である。大鹿村は江戸時代には大河原村と鹿塩村の二村であった。どちらにも江戸幕府直轄林(御榑木山、御林)があり、江戸時代の前半は実際に榑木で年貢を納める榑木成村であった。明治以後は両村合併して大鹿村一村になった。鹿塩村には寛延年間あたりから明治新政府の時代になるまで南・北、あるいは古役・新役組と呼ぶ二組に分離、あるいは統合することを繰り返した歴史がある。大島家はその一組の名主をつとめ、概ね代々大嶋彦兵衛を名乗っていた。大河原村名主所文書(前島家文書)のように、村方文書のほとんどが一家に残されているわけにはいかないが、大島家にはこの目録に示したような約二千七百点と他に多くの私文書類が保存されている。年貢、国役金など例年の上納金計算、徴収帳の類が多く、宗門改帳や御用村用日記類は多くはない。特筆すべきは、大河原村あるいはその他の村々と共同で榑木や諸木材木を伐り出した元文商木、あるいは榑木代材木納期の文書記録で、これらの歴史的経緯をより詳細に知るためには、大河原の前島家文書と相互補完的になる文書が存在している。この目録に掲載した文書以外に、土地売買、借金證書類、大嶋家家業だった酒造関係および水車関係、家計帳簿類、大嶋家由緒関係、村民などの個人文書などがあるが、これらのほとんどは私文書類として別に整理した。私文書類は公開しない。

目録は、通しの整理番号、年号別の番号、文書の表題、年号、月日、一つの整理袋に整理した文書の数量、文書差出人あるいは筆者と受取人の名前、文書の内容概略を記した。また備考には、文書を整理する際に使用した仮番号を残してある。文書は概ね項目によらず、編年で配列した。年号が記載されていない文書の多くは年号不明として記録したが、内容から年号を特定できたものも多く、それらは括弧つきの年号でそれぞれの年号の中に記録した。

この『鹿塩大島家文書目録』は、大鹿村自然環境の変遷と人間について研究した縁で整理・作製された『大鹿村前島家文書目録』に引き続いて、大島家に所蔵されている文書を参照させていただいた松原輝男(名古屋大学大学院環境学研究科)が整理・作製した。目録は印刷されたものとしては数多く発行できなかったが、CD-Rとしてあるので、いずれにしても必要ならば大島家が大鹿村教育委員会に問い合わせされたい。また、目録の電子版は名古屋大学学術機関リポジトリに登録することを予定している。

2006年3月20日記す。

（この『鹿塩大島家文書目録』の電子版は、『大鹿村前島家文書目録』とともに、名古屋大学学術機関リポジトリに登録・保存される。名古屋大学附属図書館にアクセスすれば、参照できる。）

目次

年号	西暦	整理番号	
		通し番号	年号別番号
承応	(1652～1654)	1	1
明暦	(1655～1657)	2— 5	1— 4
万治	(1658～1660)	6— 8	1— 3
寛文	(1661～1672)	9— 32	1— 24
延宝	(1673～1680)	33— 49	1— 17
天和	(1681～1683)	50— 54	1— 5
貞享	(1684～1687)	55— 56	1— 2
元禄	(1688～1703)	57— 78	1— 22
宝永	(1704～1710)	79— 86	1— 8
正徳	(1711～1715)	87— 93	1— 7
享保	(1716～1735)	94— 134	1— 41
元文	(1736～1740)	135— 174	1— 40
寛保	(1741～1743)	175— 208	1— 34
延享	(1744～1747)	209— 305	1— 97
寛延	(1748～1750)	306— 359	1— 54
宝暦	(1751～1763)	360— 539	1—180
明和	(1764～1771)	540— 587	1— 48
安永	(1772～1789)	588— 643	1— 56

年号	西暦	整理番号	
		通し番号	年号別番号
天明	(1781～1788)	644— 699	1— 56
寛政	(1789～1800)	700— 818	1—119
享和	(1801～1803)	819— 843	1— 25
文化	(1804～1817)	844— 963	1—120
文政	(1818～1829)	964—1128	1—165
天保	(1830～1843)	1129—1298	1—170
弘化	(1844～1847)	1299—1335	1— 37
嘉永	(1848～1853)	1336—1365	1— 30
安政	(1854～1859)	1366—1403	1— 38
万延	(1860)	1404—1409	1— 6
文久	(1861～1863)	1410—1429	1— 20
元治	(1864)	1430—1432	1— 3
慶應	(1865～1867)	1433—1442	1— 10
明治	(1868～1912)	1443—1515	1— 73
大正	(1912～1926)	1516—1517	1— 2
年号不明		1518—1678	1—161

整理番号	年号別番号	題目	年月日	数量	筆者 差出人・ 受取り人	主内 容	備考 仮番号
1	承応 1	(一札)	(慶安三年承応元 年 辰 三月五日)	一通	三右衛門・喜平・六左 衛門・宮下彦兵衛 同 彦五郎	御意の通り相違申すまじく、手形二札を差し上げる	1451
2	明暦 1	借用金字之事	明暦三年 申 三月十日 明暦三年 酉 一月十日	一通	塩沢伊兵衛他・ 宮下彦兵衛他・	(一)塩沢伊兵衛金十両 (二)川野村喜左衛門三両 の金字借用証	1539
3	2	(一)差上申書付之事 (二)差上申一札之事	(一)明暦三年 申 (酉) 十一月十九日 (二)寛文十二年 子 十二月二日	一通	本人新兵衛 他・ 二郎左衛門・清兵衛	西山陣文垣外を買つて百姓をやる、郎左衛門に勤める ことの二札。唐傘や羽織を主人の前で使わないという 一文ぶめずらしい。明暦三年は酉ではなく申、壬寅の記 述違いがある	835 後年の 写し
4	3	(手形書付) (部分)	明暦三年 酉 二月三日	一通 (部分)	新兵衛・ 清兵衛他	御勘定仕出しについての文書か。前文は失われている	1452
5	4	借用書	明暦三年 酉 三月二十四日	一通	請人 弥兵衛・ 彦五郎	申年の未通に付き、向、それ以前の借用四両、合計十 両の借用書。實物は田地	522
6	万治 1	仕候一札之事	(明暦四年) 万治元 年 戌 三月九日	一通	本人平四郎他・ 鹿嶋村庄屋彦兵衛	平四郎不届きについて、代宣に訴え仰せ付けられた。 平四郎親子に説教したこと	836
7	2	仕候一札之事	万治三年 子 二月八日	一通	本人五右衛門他・ 彦五郎	大嶋に代々奉公するという證文	523
8	3	預り申金字ノ事	万治三年 子 十二月十九日	一通	元右衛門・ 彦五郎	四両を預る。ヒノキ板子、クロベ板子の代金	1540
9	寛文 1	(一)二札之事 (二)御講狀之事	(一)寛文元年 丑 二月十二日 (二)寛文十年 戌 十月十二日	一通	請け人または本人親・ 宮下彦五郎	(一)公儀奉進勘本百丁 (二)未進勘代金二両の質として二人の女を奉公人 として差し出す	287
10	2	請領申手形之事	寛文三年 丑 閏八月七日	一通	飯田知久町中ノ町弥三 左衛門・代宣弥次左衛 門	長左衛門はギリシタンではなく、代々神宗の者である という書面保証書	288

11	寛文 3	(寛文年間宗廟へ) (一)二請負申手形之事 (三)請合申一札之事 (四)仕渡候一札之事 (五)仕渡二札之事 (六)御請状之事	(一)寛文七年 丑 八月十日二二寛文 元年 丑 八月十 一日二二寛文五年 巳 二月五日 (四)寛文五年 巳 二月十一日(五)寛 文六年 午三月十 五日(六)寛文十年 戌 七月廿日	六通	下記本人・ 宮下彦兵衛 宮下長兵衛 宮下彦五郎 下嶋佐次兵衛	小左衛門・久助・四郎左衛門・源之丞・角之丞・七兵 衛・惣次郎の身元保証書	1
12	4	預り申田地之事	寛文三年 卯 七月十一日	一通	本人彦五郎他・ 長右衛門他	田地を預り、年貢の樽木を一年に百十挺引き受ける	524
13	5	預り申金子之事	寛文四年 辰	一通	庄屋彦兵衛他・ 佐橋嘉左衛門	十二両二分の預り証。塩泉院華請人用金。内五両二分 は雑木分。残り預り置く。雑木尺二三十本の代金	525
14	6	請合申一札之事	寛文五年 巳 二月五日	一通	飯田知久町二丁目請け 人・惣惣左衛門・本人長 左衛門・下嶋佐次兵衛・ 宮下彦五郎	本人長左衛門は本国美濃の国。宗旨は代々神宗でキリ シタンではないという証明書	289
15	7	請合申一札之事	寛文五年 巳 二月五日	一通	宗右衛門・ 下嶋左次衛門 宮下彦五郎	「小たつ」という者は神宗者でキリシタンではない。 軍事働くものではない。	2
16	8	請合申一札之事	寛文五年 巳 二月六日	一通	本人・長左衛門・ 庄屋彦五郎	長左衛門という者は神宗者でキリシタンではない。一 之瀬村惣左衛門の証明	3
17	9	車運割状(森辻通割状)	寛文五年 巳 五月二十三日	一通	大川原鹿堀二門の者	何事かにより大川原・鹿堀両村二十五名の者による車 運割状	1453
18	10	売渡申きゆうそう田地之事	寛文五年 身 十二月五日	一通	栄左衛門他・ 宮下彦五郎	「きゆうそう」田地。年貢樽木二十八丁相当の田地を 一両一分奈の借金の代わりに売り渡す	1541
19	11	御供仕御樽年来之事	寛文六年 午 四月十八日	一通	大川原鹿堀村庄屋組 頭・野間茂左衛門・浅 野太左衛門	六百俵葉鯛米和六斗八代樽木三万丁、この公儀段 のとおり拝借。樽木を割り出して勘年する	526
20	12	言	寛文六年 午 十二月二十八日	一通	川嶋武左衛門・ 鹿堀村庄屋中	寛文五年から六年に。塩泉院および鹿堀村内山より雑 木を伐り出す、合計一万七千七百七十五本	4
21	13	仕上ル一札之事	寛文七年 未 七月十九日	一通	本人平吉他・ 宮下彦五郎	不届きを行なったことが塩泉院預りになった。親兄弟 に背いてきたが、塩泉院を頼りにすること	1454
22	14	請合申一札之事	寛文七年 未 十二月二十四日	一通	長谷川吉左衛門・ 宮下彦五郎	傳左衛門と八兵衛の両人の保証状	5
23	15	(一)預り申金子之事 (二)借用申金子之事	(一)寛文八年 申 四月二十八日(二) 寛文十二年 子十 二月十三日	一通	利左衛門他・ 宮下彦兵衛 同 彦五 郎	金子借用証	1542

24	寛文 16	仕一札之事	寛文十年 戌 二月六日	一通	市瀬村本人彦兵衛他・ 鹿塩村宮下彦五郎	市瀬村彦兵衛が鹿塩村六兵衛に馬一匹二疋 宋と売つた。その後さらに馬の売買でいざよふ起つたので寛文義貸所に訴訟するという知らせ	527
25	17	山相渡申手形之事	寛文十年 戌 三月十日	一通	鹿塩村宮下彦五郎他・ 口口五郎彦衛門、大橋 利右衛門	瀬川入山中にある雑木を残らず人回で売り渡す	6
26	18	仕渡候一札之事	寛文十年 戌 十二月十八日	一通	本人庄助他・ 宮下彦五郎	二千八百丁の榎木を割り出したことにつき、金子二分を受け取った	528
27	19	御榎木請取申事	寛文十二年 亥 一月二十八日	一通	宮崎佐太夫 宮崎太郎 左衛門・千村平右衛門	大河原・鹿塩村で五万挺年貢榎木納の時期、鹿塩村より九万七千六百五十九挺出榎した	1543
28	20	請取申榎木之事	寛文十二年 亥 二月十五日	一通	大河原村・鹿塩村両村 名主・飯田御役所	大河原村で割りたてた榎木二百四十士挺の請取、届け	1544
29	21	借用申金子之事	寛文十二年 亥 二月十六日	一通	前八郎他・宮下彦五郎 同彦五郎	金二両一分を借用する。担保は田畑とする	1455
30	22	御公儀御未進御座候二付御奉仕候 手形之事	寛文十二年 亥 三月十四日	一通	鹿塩寛平 他・ 宮下彦三 宮下彦五郎	未進榎木が二千二百八十四丁あり、この代として亥から辰までの六年年奉で奉公する	290
31	23	仕上候一札之事	寛文十二年 子 七月	一通	兵吉 五郎兵衛・ 宮下彦兵衛 下嶋 佐次 衛門	げん宿を宮んだことを記し、今後しないことの一札	7
32	24	(借用金証書)	寛文十三年 他	十通	各人・ 彦兵衛	寛文十三年、延享三年、五年、元文五年、天明四年、六年、六年、文政五年、天保十三年、慶応三年の月付借用金証書	1335
33	延宝 1	仕渡候一札之事	(寛文十三年)延宝 元年 丑三月九日	一通	九郎兵衛他・ 宮下彦兵衛	落合河原にある田地の譲渡證文	1336
34	2	(一)預り申御榎木金之事 (二)御榎木三借用仕候金子之事	延宝元年 丑 十月十六日	一通	大川原村庄屋七左衛 門・鹿塩村庄屋彦兵 衛・大石傳右衛門 彦五 郎	(一)榎木代金として計三百七十八両余預る。一両につき四両五丁替えを榎木にて納入する (二)榎木渡入帳場で入用の金二両二分を借り入れ	1545
35	3	(一)仕上候一札之事 (二)請取之事	(一)延宝三年 丑 十二月二十七日 (二)延宝三年 寅 二月三日	一通	源兵衛 六藏・ 宮下彦兵衛 同 彦五 郎	助藏公儀未進榎木八百七十丁の代として女工一人、借用金二両の代として男を七年奉公に差し出す	291
36	4	仕上候一札之事	延宝三年 卯 八月十九日	一通	本人清左衛門 他・ 宮下彦兵衛 同彦五郎	杣日用(日雇)として勤める美濃國清左衛門の保証書	292
37	5	(田地譲渡證文)	延宝三年 卯 十二月十八日	三通	平左衛門他・ 宮下彦兵衛 同彦五郎	年貢米進があり納入のため田地譲るの證文	1546
38	6	寛渡之申山畑田手形之事	延宝三年 卯 十二月廿日	一通	本人門四郎他・ 宮下彦兵衛 同彦五郎	わざわざ山畑田の永代売渡手形	1456
39	7	(一)(二) 借用申金子之事	延宝三年 卯 延宝六年 午	三通	庄右衛門他・ 宮下彦兵衛 同彦五郎	借金証書 返済を榎木割り出しにやることもあった	1547

40	延宝 8	(一) 延宝 作 兎 指上ケ申御訴訟状之事	延宝四年 辰 二月二十五日	一通	大川原村七左衛門、 塩村彦兵衛・久々利御 家老中	延宝三年丑に殿様御博木御用があり、年貢未進がある ので延期を願ったが、御奉公のため割り出したこと について、博木直盛その他について訴訟	293
41	9	(一) 御博木進手形之事 (二) 一札之事	延宝四年 辰 三月四日	一通	鹿嶋村彦兵衛・大河原 村七左衛門他・染田門 太夫他	(一) 延宝三年博木渡入に向けて寛文八年に割り立てた 博木のうち、五万丁未進になった。当年中にこれを割 りたてる (二) 五万丁未進の内、半分は請け負う	1548
42	10	差上ケ申一札之事	延宝四年 辰 七月十日	一通	鹿嶋村庄屋彦兵衛・大 河原村庄屋喜五郎・ 筒井半右衛門、小川次 郎右衛門	丑年(延宝元年)に渡入した博木の内刻木になつたも のを三日に見分、四日に大雨満水で六千六百四十挺が 押し流れ、残木が千三百六十九挺になつてしまつた	8
43	11	(一) 延宝 (二) 兎 御訴訟申上候御事 覚	(一) 延宝四年 辰 九月十日 (二) 延宝 六年 午 四月六 日 (三) 延宝六年 午 六月	三通を 一枚で 控えて いる	大河原村庄屋七左衛 門、鹿嶋村庄屋彦兵衛 他・ 代官	(一) 延宝四年七月四、五日両日の大雨で満水、 割り出して置いた博木、家が多量流失した。雑木伐り 出しをお救いのためおせ付けを願う。(二) は千村平右 衛門より勘定所への添え願い書	294
44	12	仕上ル一札之事	延宝五年 巳 四月三日	一通	本人博太郎他・ 宮下彦兵衛、同彦五郎	不届きな行いをとりなしてもらつた、ききつ	295
45	13	鹿嶋村寺社領之覚	延宝五年 巳 五月五日	一通	鹿嶋村庄屋・ 青木勘兵衛他	佐次左衛門、文四郎、文左衛門、源左衛門、塩桑院の 持つ中、下畑六ヶ所を條け地に願う	296
46	14	信濃國伊奈郡鹿嶋村松地帳	延宝五年 巳 八月	一冊	千村平右衛門、鈴木 右衛門	延宝の松地帳、総収米合三百四十七石二斗三合、内二 百九十五石は先高、三十三石五斗九合は今度松地出高、 十九石二斗四合は今度新量改め高	529
47	15	(延宝御訴訟申上候御事) 覚	延宝六年 午 六月	一通	千村平右衛門・ 御勘定所	延宝四年七月四日五日に大雨満水、山内に割り置いた 博木や山畑家屋が多く流され村は困窮している。延宝 六年四月に同様の願いを受けて千村平右衛門が勘定所 へ諸果材木伐り出しを願った	530
48	16	一札之事	延宝六年 午 九月二十一日	一通	平左衛門ほか・ 庄屋彦五郎ほか	平左衛門が公儀へ訴訟した件、郷中組頭と今後も争う ことはない	9
49	17	未之年免定之事	延宝七年 未 十月	一通	千村平右衛門・鹿嶋村 庄屋組惣惣庄	延宝七年の免定、高三百二十八合五斗九合、取米合九 十四石二斗五斗九合を博木にて納め、当未年渡入	531
50	天和 1	(一) 寛文元年免定之事 (二) 亥之年免定之事	(一) 天和五年 酉十 月 (二) 天和三年 亥 十月	一通	千平右・ 塩桑院大和尚、鹿嶋村 庄屋組惣惣庄中	(高) 三百二十八合五斗五合、取米七十八石五斗四斗五合 立毛普意見分の上成領を決めた。天和元年、三年の免 定	297
51	2	被官身請けおよび被官職事付	天和三年 酉 から 文化十四年 丑	十二通		(延宝) 順養、年奉日付、差出(本人) 被官として勤めることの一札、暇願い、奉公などにつ いて一札	298

		(一)指上ケ申手形之事 天和元年 酉 十一月十八日 彦兵衛より宮下彦五郎 (二)指上ケ申手形之事 元禄十年 丑 三月二十八日 八兵衛より宮下彦兵衛 (三)仕り上ケ申一札之事 享保三年 戌 一月二十四日 六左衛門より宮下彦兵衛 伊左衛門 (四)差上申一札之事 享保七年 寅 二月 弥助より宮下彦兵衛 (五)差上申一札之事 享保十二年 巳 八月 弥助より大嶋彦兵衛 (六)一札之事 享保十三年 未 三月 松下九右衛門より大嶋彦兵衛 (七)御様被下候二付差出候證文 明和七年 寅 二月 傳藏より大嶋彦兵衛 (八)御様被下置候三付差上申候證文 寛政十三年 酉 二月 伊介より大嶋彦兵衛 同彦兵衛 (九)差出申一札之事 文化十三年 子 十二月 弥助落利左衛門より彦兵衛 (十)年忌以上書奉願上候御事 文化十四年 丑 六月 鹿塩村彦兵衛より飯田御役所 (十一)一札之事 文化十四年 丑 七月 飯田町傳左衛門より名主佐佐内					
52	天和 3	(土地争い)	天和三年から正徳五年	一通	売主門四郎彦兵衛・二郎作 二郎助	門四郎二郎作の土地争いの関係 土地譲渡文書 関係者は門四郎二郎作 二郎助 甚左衛門 孫七他	1549
53	4	仕上候一札之事	天和三年 亥 四月十七日	一通	清左衛門・宮下彦兵衛	本国豊濃麻生村出身 代々禪宗の者という宗商一札	1550
54	5	(出入り)	天和三年 亥 九月十二日 門四郎 天和三年 亥 十一月十九日 二郎作	一通	鹿塩村門四郎二郎作	門四郎が飢饉に及んだ際に二郎作に二両の借金をした家や田地をかたにしていたが、洪水で流失したことにより借り貸しが入り組んだことになり訴訟に及んだことについて	1551
55	貞享 1	(一)子之年免定之事 (二)寅之年免定之事	(一)貞享元年 子 十月 (二)貞享三年 寅 十月	一通	千平右(子村立右衛門) 鹿塩村庄屋組頭惣旨 姓代中	貞享元年・三年の免定 例年の通り榎木で (一)一万五千二百五十丁 (二)一万三千八百四十五丁	10
56	2	寛	貞享三年 丑 七月十日	一通	鹿塩村おすまり久左衛門 門他彦兵衛	公儀役人が来村するので諸手役を引き受ける 諸手入用費の扱いについて	1552
57	元禄 1	仕一札之事	元禄元年(貞享五年) 辰 四月二十八日	一通	庄左衛門 他	高林寺出入りの件は、大河原村庄左衛門 太郎左衛門 兵左衛門扱いで埒が明いた。今後は申し分はない	11
58	2	指上申手形之事	元禄元年 巳 十二月十日	一通	仁左衛門他・ 宮下彦兵衛	榎木請合 その勘定十両の内二両五分支払われ 残り三年で勘定されること	1553
59	3	仕かいふ田作之事	元禄三年 午 二月十六日	一通	本人庄左衛門他・ 宮下彦兵衛	くき(畠)五斗五升二合と五斗五升一合の寺平の畑地を譲り受ける	1554
60	4	預り申御榎木之事	元禄三年 午 二月二十五日	一通	彦兵衛 他・ 五市 他	榎木をあわせて百十丁、北人より預った。去年勘定に加える	12
61	5	(寛)	元禄三年 午 三月二十九日	一通	本人定衛門 他・ 宮下彦兵衛	小嶋家屋敷田地林の持ち主を決めた寛	299
62	6	(一)寺請手形之事 (二)宗免請状之事	元禄四年 未 四月四日 元禄十一年 寅 九月十日	一通	川野村泉龍院 飯田正念寺・彦兵衛	曹洞宗 一向宗の宗商一札	1555

63	元禄7	指上ノ申一札之事	元禄五年 申 二月十八日	一通	本人角内 他・ 宮下彦兵衛	畑耕作人として働いてきたが、昨年の未満水で田地が流れたので、他地へ移る。しかし、桑原、四徳、大草の三ヶ村には居住しない	300
64	8	(三)元禄年間の免定	左記	七通	千平右・ 鹿塩村庄屋組頭惣吉姓 中	(高)三百二十八石五升九合(三)元禄年間の免定	301
65	9	田地割付之事	元禄六年 酉 五月十九日	一通	清三郎・庄屋彦兵衛 宋左衛門	田地割付通りに定納を割付ください	13
66	10	為取替申手形之事	元禄七年 戌 十月十六日	一通	大川原鹿塩村庄右衛門 彦兵衛他・ 松屋吉左衛門	去る辰と未の満水で樽木流失、年貢未進になり困窮、御用木伐り出しを願う。材木伐り出しから運材までの概要	302
67	11	戌之年免定之事	元禄七年 戌 十月	一通	千村平右衛門・鹿塩村 庄屋組頭惣吉姓	高(高)三百二十八合五升九合、取米四十八石六斗八升、中樽木八十石十四丁	532
68	12	林定之事	元禄十二年 寅 二月廿日	一通	本人三左衛門 他・ 宮下彦兵衛	小嶋林の林地を分けて、それぞれの持ち主を定め、宛	303
69	13	乍取替付ヲ御訴訟申上候	元禄十二年 寅 三月	一通	大川原鹿塩村庄右衛門 彦兵衛他、村役人・ 御奉行	先年辰と未の満水で樽木と田畑家屋が流れた。救済のため願ひ出た御用木伐り出しが聞き届けられたので、神田四郎、松屋吉左衛門関わりで仕事を請け負う	304
70	14	仕手形之事	元禄十三年 辰 一月廿日	一通	本人利左衛門・ 宮下彦兵衛	当年二十四歳の女子が九年間奉公することの一札	305
71	15	外之御渡入勘定目録	元禄十三年 辰 三月	一通	鹿塩村庄屋組頭・ 佐野畠左衛門、大竹庄 左衛門	鹿塩で割りたてた樽木、中樽木六万九千六百十八丁、丑、寅、卯年分の年貢として計、一万五千五百二丁	837
72	16	外之御渡入御勘定目録	元禄十三年 辰 三月	一通	鹿塩村庄屋彦兵衛他・ 佐野畠左衛門、大竹庄兵 衛	元禄二年鹿塩村が割り出した樽木中樽七万丁余の渡入および勘定目録	1556
73	17	請状之事	元禄十四年 巳 正月	一通	奉公人親、右衛門 他・ ・宮下彦兵衛	娘、十六歳を奉公人として勤めさせる、耐えられず死ぬようなことがあっても、異は言えない	14
74	18	乍取御訴訟申上候御事	元禄十四年 巳 四月	一通	鹿塩村彦兵衛、大河原庄 右衛門他、村役人・ 江戸御奉行	大満水により年貢樽木が多く流失し、未進になった。年貢を払うための諸木伐り出しの願がかない、去る辰から申入りした。これら材木の材木藏納を願う	306
75	19	差上ノ申一札之事	元禄十四年 巳 九月	一通	何村庄屋 誰・ 廣瀬三衛門	焼倉のため来村する役人が遠隔中に作法を守る。特別なものではない、扶持米を豊作取った	838
76	20	未之年免定之事	元禄十六年 未 十月	一通	千村平右衛門・鹿塩村 庄屋組頭惣吉姓代	元禄十六年分の年貢高、取米合五拾九石五斗五升式合で、中樽木九千八百七十一挺	15
77	21	乍取替付ヲ以奉願候御事	元禄十六年 未 十二月	一通	大河原村庄屋平七郎 他・御代官	辰と未の満水で流失した樽木が未進になった。年貢納のため材木を切り出した	16

78	元禄 22	作原書付を以奉願候御事	元禄十七年 未 十二月	一通	大河原村庄屋平七郎鹿 塩村庄屋又左衛門 他 村役人・御代官	辰と未の満水で流失した榎木が未進になった 困窮救 済と年貢納のため材木を切り出した	307
79	宝永 1	仕一札之事	(元禄十七年) 宝永元年 申 五月十一日	一通	新蔵 他・ 彦兵衛	分別のない申し出をして申し訳なく一言もない	17
80	2	宝永年間免定	左記	六通	千平右・鹿塩村庄屋組 頭惣吉姓年	高三百二十八石五升九合 宝永年間免定	308 (六)の下 三分一 破損
81	3	指し申一札之事	宝永四年 亥 十月十二日	一通	小嶋小左衛門	先年に比して役目が年々増大し迷惑している。斧役も 一丁から四丁になった。田地を下さるかお暇を出すか 二つに一つに願う	309
82	4	一札	宝永四年 亥 十一月二十六日	一通	高遠龍聖院住持	長泉という名の者は同行の者にまきれもないという一 札	533
83	5	御役目付之事	宝永四年 亥 十一月十八日	一通	喜右衛門他・宮下彦兵 衛 同 口立郎	奉公人が一月から十二月に果たすべき役目の主なもの を書き出し、請ける 札	534
84	6	仕り申一札之事	宝永五年 子 二月十二日	一通	本人清左衛門他・ 宮下彦兵衛	二カ所の総田を預かり、今後も何事につけ御意に沿う	310
85	7	仕り申一札之事	宝永五年 子 二月十二日	一通	本人市右衛門他・ 宮下彦兵衛	隠匿するに当たり田畑・新田なら取り上げのところが一 代限り預け下さること、もし背いたときは取り上げに なつても限まない	1337
86	8	一札之事	宝永五年 子 四月十一日	一通	飯田本地屋賀右衛門・ 鹿塩村彦兵衛	内山の中山でトナリ、ブナを伐る。ろくろは二丁で、 一丁につき二年一疋をおさめる。本鹿師宗間は鎌宗	535
87	正徳 1	仕二筆之事	(宝永八年正徳元年 卯 七月八日	一通	本人六三郎他・ 宮下彦兵衛	酒の上で無礼を働いたが、喜八、喜平のとりなしで許 された。今後慕道で慎む	1338
88	2	仕り上申一札之事	(宝永八年正徳元年 卯 七月十九日	一通	本人清左衛門 他・ 宮下彦兵衛	跡目を仰せ付けられたが、わがままを言い叱りを受け た。普兵衛はじめ三人の取り持ちで許されたこと	311
89	3	(正徳年間免定 (一)卯年免定之事 (二)辰年免定之事 (三)午年免定之事 (四)未年免定之事	(一)正徳元年 卯 十月 (二)正徳二年 辰 十月 (三)正徳 四年 午 十月 (四) 正徳五年 未 十 月	四通	千村平右衛門・ 鹿塩村庄屋組頭惣吉姓	高三百二十八石五升九合 (一)取米五十四石五斗五升六合 中榎木九千九十三挺 (二)取米五十六石四斗八升八合 中榎木九千四百十五 挺 (三)取米六十二石三斗九升九合 中榎木一万三千八 十二挺 (四)取米六十九石一斗六升七合 中榎木一万千 五百二十八挺	536
90	4	宗廟手形下書帳	正徳 年 辰 三月	一冊	鹿塩村嶺麓院・ 飯田御役所	宗廟改め本文、指し申一札之事、鹿塩村庄屋 文左衛 門 他	839
91	5	相対し以申定證立之事	正徳二年 辰 十一月十八日	一通	部奈村禰与村 村役 人・大草村同村私領役 人	大草・部奈・禰与村など村境の道・橋・資源の扱い方 について 榎木山下し、奉行通達の際の出現などを取 り決め文久二年戊子二月二十一日に与したものの	312

92	正徳6	諸継候事	正徳四年 午 二月二十六日	一通	上村本人立書他・ 鹿塩村彦兵衛	家系来おむつ七歳を永代贖代とする。身代金二分 利息三割の證文	313
93	7	申請候田地手形之事	正徳五年 未 七月二十一日	一通	本人宗左衛門他・ 九兵衛他	二十五年前に二箇で譲り受けそ田地を仲間で割り受けた。これを売り渡すときは五匁で渡す	1557
94	享保1	寺土嶋境書之覚	享保元年(正徳六年) 申 三月十三日	一通	万右衛門・定右衛門・ 塩泉院和尚	土地の境目についての覚書 宝暦八年十二月十三日の写し	18
95	2	享保年間免定		十八通	千平右・ 鹿塩村名主通頭惣百姓	高三百二十八石五升九合鹿塩村高辻 享保徒間の免定。享保六年は欠、享保二十年は別整理(整理番号は34・享保二)	314
96	3	指上申一札之事	享保五年(正徳六年) 申 五月十八日	一通	本人万右衛門 他・ 宮下彦兵衛 伊左衛門	万右衛門親等が勘定をこうむり、家内殿らず追放の所塩泉院や年寄り衆のとりなしで帰村できることになり、今後の忠勤を約した一札	315
97	4	鹿塩村当申起燭改帳	享保五年 申 十月	一冊	大竹庄兵衛 桑原覺石 衛門 鹿塩村庄屋申	当年申年の起し返り田畑調べの確認	840
98	5	備金子之事	享保三年 戌 三月二十六日	一通	本人長次郎他・ 彦兵衛	金子二両の備金 利息三割 来る十二月二十日前に返す	316
99	6	覚	享保五年 子 九月	一通	鹿塩村・ 御代官	家数二百四軒 他 馬 田畑 寺数 宮数 家数の報告	19
100	7	覚	享保五年 子 十月十三日	一通		大河原鹿塩村への夫食米六十石、川除共米十五石余を中坪、野口、八手村の山村へ割付した覚	317
101	8	宗廟手形鹿塩村	享保七年 丑 三月	一冊	塩泉院 香林寺、宗次 寺土嶋庄兵衛 桑原角 右衛門	宗廟改めの本文 指上ケ申一札之事	841
102	9	鹿塩村定納帳	享保七年 寅 二月	一冊	庄屋彦兵衛他	高持各公定納高 永流引きの書上帳	537
103	10	差上ケ申一札之事	享保八年 卯 七月二日	一通	弥兵衛他・ 大嶋彦兵衛	総役官一身連郎に加わり、家筋取り上げ追放の所 七郎右衛門と源左衛門の取り成しで許された際の一札	318
104	11	一札	享保十年 巳 二月十八日	一通	山科立六・ 大嶋彦兵衛	宗廟送りの一札。代々浄土宗である	1457
105	12	一札之事	享保十年 巳 六月	一通	小山村庄屋源右衛門・ 民右衛門・鹿塩村庄屋 伴右衛門・普兵衛	榎木渡入の任用 諸事世話代として来訪	20

106	享保 13	定	享保十年 巳 十月	一通		榎木の享保十年申渡の定め、長榎木長さ三尺三寸、三方三寸腹す、短榎木長さ三尺三寸、三方三寸腹す、二つ節四つ割の若木白杣節木は停止	538
107	14	相見入申一札之事	享保十二年 午 八月七日	一通	鹿堀村庄屋善兵衛・ 彦兵衛	彦兵衛持ち林の内、舞師小屋を起点に境界を確認している	21
108	15	(由山二件) (一) 相見入申一札之事 (享保十二年午八月廿日) 他 (二) 覚 享保十二年 午 八月 大嶋彦兵衛親 (三) (三) 内渡税検査證文之事 享保八年寅 丑 二日 久々里庄屋儀右衛門、彦右衛門 (五) (由山) 総図 書付	享保十二年 午 八月廿日 他 享保七年 丑 五月 享保八年寅 丑 二日	五通		(一) 享保七年十月に享保十二年八月の文書を写し確認。中山の持ち林を伐り売ることに申し分はない。一節は村中人会であることを決めた二札。 (二) 中山持ち林について争いになったいきさつの覚え	1458
109	16	物連判仕相願候御事	享保十二年 未 七月二十四日	一通	下峯村左平他村民多 数・庄屋 年寄り中	北入村から下峯村へ賣割の件で度々申し入れ。高に応じて費用分担には応じがたい	319
110	17	差上方申一札之事	享保十三年 申 一月二十九日	一通	久五郎他・ 大嶋彦兵衛	常々御山大切に守ってきたが、このたび榎木を少々伐り出したことは不心得だった	22
111	18	指上方申一札之事	享保十三年 申 三月	一通	彦三郎他・ 大嶋彦兵衛	禁じられている賭博を行わないことはもちろん、宿も貸さないことを厳守する	320
112	19	一札之事	享保十三年 申 五月	一通	本人傳左衛門他・ 彦兵衛	先年我儘を働き村八分を受けたが、彦兵衛引き受けて塩竈院にも許された。今後繰り返さないことの二札	1339
113	20	書差證文之事	享保十三年 申 六月	一通	組頭嘉兵衛他・ 下峯中	公用の取り扱いや村用諸事、支払など相応の仕事を分担して勤めることの約定	321
114	21	書差證文之事	享保十三年 申 六月	一通	組頭嘉兵衛他・ 下峯中	山内入会、道橋割合、渡入、送迎人足、宗廟改め、村内入用割合、箕輪米、御山分け金などを先年通り	539
115	22	書差證文之事	享保十三年 申 六月	一通	下村彦兵衛他・ 北入村中	山内入会、草木採取、道橋割合、材木渡入、書入用金高割などを約定	540
116	23	田畑流矢書上付控帳	享保十三年 申 七月十五日	一冊	庄屋善兵衛、伴右衛 門・市岡源六、唐沢源 藏	今八日塩川満水で流れた田畑、及び六月七日の流れ畑の追報書	842
117	24	(各種賦金など諸取 覚 各年 括	享保十三年 から 享保 年	二十六 通	飯田御役所・ 鹿堀村名主中	(左) 順番登り 題目 年号月付 差出人名 賦などの別 (一) (一) (廿六)	23

		(一) 請取申金子之事 享保十三年申十二月廿日 桑原寛右衛門 国役金 (二) 請取申金子之事 享保十五年戌二月十九日 市岡源六 高掛金 (三) 寛 享保十五年戌十二月十一日 市岡源六 国役金 (四) 寛 元文四年未二月九日 市岡源六 百石二分御藏買 (五) 寛 元文四年未四月十日 彦沼源藏 年 貢轉木と拜借米代金 (六) 寛 元文五年申十月十一日 市岡源六 津州四天王寺奉加錢 (七) 寛 元文五年申十二月十七日 市岡源六 年貢轉木・拜 借米・寄附金代金 (八) 寛 寛保元年酉十二月廿五日 彦沼源藏 年貢轉木代金 (九) 寛 寛保二年戌十月十五日 市岡太右衛門 国役川除寄附金 (十) 寛 寛保三年戌十一月十九日 国役川除寄附金 彦沼源藏 轉木代金 (十一) 寛 寛保三年亥正月 市岡源九郎 百石二分寄附金 (十二) 寛 寛保 三年亥十二月五日 彦沼源藏 轉木代金 (十三) 寛 寛保四年子正月十九日 市岡源九郎 百石二分高掛金 (十四) 寛 延享元年子十一月廿八日 市 岡源九郎 轉木代金 (十五) 寛 延享二年丑十月十七日 市岡太衛門 国役高掛金 (十六) 寛 寛延元年(延享五年) 辰五月十二日 市岡源九郎 右の 通り五郎三郎に渡した (十七) 寛 寛延三年巳二月十一日 市岡源九郎 辰年材木代金 (十八) 寛 寛延三年人月廿六日 市岡源九郎 材木赤減金 (十 九) 寛 寛延四年未三月 藤井儀左衛門 轉木不足金 赤減額不足金 長木代増金 (廿) 寛 明和三年戌十二月朔日 宇都只右衛門 年貢轉木代金 山林 永 (廿一) 寛 明和七年寅十二月八日 宇都只右衛門 年貢 (廿二) 寛 明和七年寅十二月八日 宇都只右衛門 子、丑分川普請国役寄附金 (廿三) 寛 安永元年巳九月八日 湯淺儀左衛門 子丑寅三年分薄瀬川普請 国役寄附金 (廿四) 寛 安永元年巳十二月朔日 市岡左藏 御蔵前入用金 (廿五) 寛 安永元年巳十二月二日 湯淺利源治 小物成 (廿六) 寛 安永元年巳十二月二日 湯淺利源治 小物成山林木					
118	享保 25	寺建立奉加帳	享保十四年 西 二月	一冊	塩泉院 龍屋利夫	塩泉院開保 奉加帳 (文政三年辰十月に大嶋彦兵衛に より与されたもの)	843
119	26	相兎ノ申一札之事	享保十四年 西 四月二十六日	一通	源右衛門 他・下村庄 屋年寄衆組頭衆	渡入奉行方が出張して来る時の諸事賦役を勤める、水 風呂炊く・飯田と大河原村への運搬など	24
120	27	相兎申證文之事	享保十五年 戌 三月	一通	船明山形屋伊左衛門・ 鹿塩村庄屋組頭	村方による雑木一万本伐り出し願いの件、万事引き受 ける、運上金やその他は庄屋など云々で行うこと	25
121	28	指上申證文之事	享保十五年 戌 六月二十八日	一通	彦兵衛他・今泉陸右衛 門・桑原寛右衛門	風圪 思返り、立ち枯れ、御用木未木などあるかとい う問い合わせに対し、少しはあるが商木にはならない ので切り出し願は商木になる本品であること	322
122	29	戌・出御轉木御勘定目録	享保十六年 亥 三月	一通	鹿塩下村名主善之助 他 御代官	享保十五年戌年分年貢轉木・借米・桑原寛右衛門仕入 れ轉木・過納轉木・合計中轉木廻し九万八千八百三十 六挺を下村と北入から出す	323
123	30	差上ノ申證文之事	享保十六年 亥 五月	一通	鹿塩下村名主 他・ 代官所	鹿塩村山内へ木地師を入山させたことの吟味がなさ れ、今後入れさせないこと	26
124	31	差出申一札之事	享保十六年 亥 六月	一通	鹿塩下村五十一人名代 牛兵衛他・ 同村彦兵衛	鹿塩下村の名主役は総百姓納纏の上で引き受けること	324
125	32	御山之事	享保十七年 子 六月十六日	一通	次右衛門 他・ 百姓代	材木三万本を下す金子四十両は仕事をしている間に支 払う、残りは総百姓代方へ払うと定めた	27
126	33	作取書付を以奉願上候	享保十七年 子 六月	一通	大河原村名主兵左衛門 他・御代官	大河原、鹿塩両村困窮につき、雑木商木払い下げ許可 の願書	28
127	34	作取書付を以奉願上候	享保十七年 子 六月	一通	大河原村名主兵左衛門 他・御代官	水損・旱損 凶作で、村方は困窮の極みにあり、拜借 しても返すあても無いので、雑木商木伐り出しを願う	325
128	35	(一、二) 取扱申證文之寛	享保十八年 丑 三月	一通	大河原村名主兵左衛門 他・鹿塩村名主他	池田町宿治郎八と市左衛門が扱い人になって大河原・ 鹿塩両村御轉木山から割り出しの轉木は等分とするこ と、薪山などは従来とおり入会とすること、入用金・ 河狩入足のことなど前村合意事項の證文	1340

129	享保 36	(一) (二) 享保十八丑年勘定帳	享保十九年 寅 二月 一日	一冊	左源太 定七郎	(一)養料分 (二)下村分の年貢榎木勘定帳、中木高二万九千九百九十四挺は下村分、他に四百九十九挺北人より、計三万四千九十三挺	541
130	37	(一) (二) 寛文出御榎木内勘定帳	享保二十年 卯 二月	一冊	勘定人左源太 定七郎	(一)養料 (二)下村の享保十九年分年貢榎木勘定帳	542
131	38	乍恐口上書を以奉願上候御事	享保二十年 卯 三月	一通	鹿塩大河原村名主組頭 惣百姓代・御役所	八々里への願い出下書き、近江榎木底につき小木若木ばかりになり、寸法を減らしても榎木割り出しは不可能、当所から十年金納を願う	543
132	39	御年貢御榎木尽山故割立候義不罷成 依之当卯年より子年まで拾ヶ年之間 御榎木相休金納之御願申上候二付委 細御吟味之趣奉承知差上候口上書之 覚	享保二十年 卯 三月	一通	六カ村・ 御役所	榎木を御榎木を出さないで金納を願ったことの吟味はなして、さらに説明した口上書	326
133	40	差上申一札之事	享保二十年 卯 六月	一通	鹿塩村名主左衛門は か村役人	榎木尽山につき十年の金納願い。御榎木山は今後も大切に守るこの一札	327
134	41	卯年免定之事	享保二十年 卯 十月	一通	千村平右衛門・ 鹿塩村名主	享保十二年から元文二年日まで十年の定免だが、本年は増毛を考えてこのような成願である	29
135	元文 1	(一) 辰年免定之事 (二) 巳年免定之事 (三) 午年免定之事	(一) 元文元年辰十 月 (二) 元文二年 巳十月 (三) 元文三 年午十月	三通	千平右・鹿塩村名主組 頭惣百姓	高三百二十八石五升九合、元文年間、免定、去る申より当所まで十カ年の定免、当所より来る卯まで十カ年定免	328
136	2	(一) 卯年御榎木成御勘定目録 (二) 辰年御榎木成御勘定目録 (三) 巳年御榎木成御勘定目録 付・ 書付) (四) 午年御榎木成御勘定目録 (五) 未年御榎木成御勘定目録	(一) 元文元年(享 保十二年)辰三月 月 (二) 元文二年巳四 月 (三) 元文三年午 七月 (四) 元文四年未 四月 五 元文五年申 三月	六通	鹿塩村名主彦兵衛 他・ 御代官	享保二十年卯から元文四年未年までの御榎木勘定	30
137	3	(通願吹替交換)	(元文元年) 辰 五月 十一月	一冊		慶長新金は百両を百両、宝永金三百両につき新金百両の銀両、引替金は慶長金、正徳金は百両につき増張六十五両で引き換え(このレシートは元文元年改鑄)	844
138	4	(一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (一) 田畑井屋敷賃段之覚 (二) 田畑井屋敷賃段之覚 (三) 田畑井屋敷賃段之覚 (四) 田畑井屋敷賃段之覚 (五) 田畑井屋敷賃段之覚 (六) 田畑井屋敷賃段之覚 (七) 田畑井屋敷賃段之覚 (八) 田畑井屋敷賃段之覚	元文元年 から享保十年	八通	鹿塩村名主他・ 飯田御役所	田畑屋敷賃買の便殿、小作が納める上米の便殿親告 (三) (四) (五) (六) (七) (八) 同文	1341
139	5	相宛々申證文之事	元文二年 巳 六月 十七日	一通	北人村名主五郎左衛門 他村役人・下村邊中	十年以前に下村と北人村の二つに分かれたがこの度彦兵衛榎木御役所の口入で和合、一つでやっていく	329

140	元文 6	(一)鹿嶋村之内下村と北ノ入向後二致ニ罷成候段双方より訴遣候ニ付口書 (二)相定ノ申證文之事 (三)覚え書付	元文三年 巳 六月十九日	三通	鹿嶋村名主善兵衛他・御役所	(一)十年來下村と北ノ入は二つに分かれていたが、このたび一致すると知らされる。包み紙には三通とある (二)下村と北ノ入村の取替き證文 (三)證文取扱の覚え書付	544
141	7	相定申不地勘證文之事	元文三年 巳 八月	一通	利兵衛 太郎九・村方衆中	北ノ入谷のトチを買い取った。代金と轡一疋につぎ一両二匁を払う。年奉は当已から来る丑まで九年	31
142	8	相拵申一札之事	元文三年 巳 閏十二月二日	一通	文左衛門 他十六名・大嶋彦兵衛	山仕事につく人数と名前のお知らせ	32
143	9	相究ノ申證文之事	元文三年 巳 閏十二月十九日	一通	善兵衛 他十八名	今後五年間、材木伐り出し作業につくにつぎ、抜け駆けしないことなどの約束	33
144	10	御山助成金頭割帳	元文三年 巳 閏十二月十九日	手帳一冊		郷中助成金を頭分各人高割りで配分。計四十五両の内二十三両は今回、残り二十二両は癸丑三月	545
145	11	預り金渡帳	元文三年 巳 十二月二十五日	一冊		預り金の受け渡し帳。文金四十五両、分にも及ぶ	1342
146	12	相渡シ申口上覚	元文三年 巳 閏十一月	一通	高木新兵衛・鹿嶋村惣堂時代	一万本に付き五十両の材木價戻取り決め。この礼金につき過去に訴訟が起ったが村役人などに勝る	34
147	13	相究ノ申證文之事	元文三年 巳 十二月	一通	山方屋喜多右衛門 他・鹿嶋村名主中	元文御用木伐り出しのため山入り川下げなど、請負の取り決め證文	35
148	14	年頭割帳	元文三年 巳 十二月二十二日	一冊	名主善兵衛 五郎左衛門	年頭割を百六十五人(百六十七人)で割り二匁貳百五拾五文(二匁二匁五十二文)を徴収した	845
149	15	(一)田畑起帰りの改帳 (二)鹿嶋村当年起返内改帳 (三)下帳	元文三年 午 一月	三冊	鹿嶋村名主善兵衛 五郎左衛門	起し返り田畑の反別、高、持ち主の書き出し	846
150	16	御用書留メ并村中入用帳	元文三年 午 三月	一冊	鹿嶋村大嶋彦兵衛 百姓代茂平	村入用費の覚えと書きとめ(金額割合)四天王寺勸化の口上亭じがある	847
151	17	村中諸入用費割帳	元文三年 午 六月十一日	一冊	鹿嶋村茂平、利兵衛	村入用費の個人別割り付け書留。元文三年三月から六月	848
152	18	本新田畑檢地帳之辻反別書費并流差引	元文三年 午 八月	一冊		本新田畑の広さ、上、中、下分米の書き出し	849
153	19	持高書出写帳	元文三年 午 九月	一冊	大嶋彦兵衛	持高書留表内訳の詳細書き出し。総高三十八石九斗七合、本新田畑三町八反九畝九歩	850
154	20	相究ノ申證文之事	元文三年 午 十一月	一通	山方屋喜兵衛、小嶋屋清兵衛・鹿嶋村名主組頭	元文商木、材木間卸仰せ付けられた分、二万五千本に及し所成と分込み金七十六両三分、米の支払い證文	546
155	21	村中諸入用費割帳	元文三年 午 十二月四日	一冊	鹿嶋村百姓代利兵衛	村入用費の個人別割り付け書留。元文三年七月以降	851
156	22	指上申證文之事	元文四年 未 六月	一通	何村名主信衛門・千村兵右衛門 御役人中	去年左四月、十六歳ほどの女が伊勢へ参宮。今又村へ帰らざにいる。同時期間様に不帰の女は当村にいない	36

157	元文 23	借用申金子之事	元文四年 未 十月	一通	本人仙左衛門他・ 彦兵衛	金百六十両の借用書 村方日雇賃 材木厘代などに入 用のため	547
158	24	(一)預り申金子之事 他 左記 (二)預り申金子之事 元文四年未十二月 戸谷仙左衛門 利八より大嶋彦兵衛 (三)請取申金子之事 (三)寛 (寛保二年戊辰八月晦日 飯嶋町与左より彦兵衛 右馬之丞 (四)寛 (寛保二年戊辰八月晦日 飯嶋町与市より唐彦彦兵衛 前嶋右馬之丞 (五)寛 年号不詳元文四年 寛保二年か?十一月朔日 唐沢佐治より大嶋彦兵衛 (六)書簡 年号不詳元文四年 寛保二年か?十一月八日 松嶋口左 衛門より前嶋右馬之丞	元文四年から寛保 二年	六通	左記	元文尙木に開わり、金子の都合、金子預かり、受け取 り、米の送り状など、六通がひとくくりになっていた 寛保二年戊辰八月十二日 佐治より彦兵衛 寛保二年戊辰八月十二日 飯嶋町与市より唐彦彦兵衛 前嶋右馬之丞	330
159	25	差上申御請負證文之事	元文五年 申 三月	一通	請負人雑賀屋治蔵・ 御奉行	材木請負證文の写し 武州秩父郡中津川御林の材木 を、当年から五ヶ年の伐り出しを請け負う	37
160	26	寛	元文五年 申 三月	一通	戸谷仙右衛門代理丹 藏・山方屋喜太右衛門 代理九右衛門・ 鹿塩村彦兵衛	去る冬の日雇 飯米三百五十俵受け取り	331
161	27	鉄砲御改帳	元文五年 申 三月	一冊	名主善兵衛他・ 御代官	御師鉄砲二十三挺 おとし鉄砲三十挺	548
162	28	寛	元文五年 申 五月	一通	戸谷仙右衛門代理丹 藏・右馬之丞彦兵衛	上米五石を受け取り請求があれば取り立てる	38
163	29	相模申證文之事	元文五年 申 六月	一通	戸谷仙右衛門代理丹 藏・山方屋喜兵衛 小 嶋屋清彦衛代人九右衛 門 鹿塩村名主綱頭	仙左衛門の金銭が延引きしている 袖日雇金そのほ か諸々関連入用費のため、喜嶋渡場にある間知浜みの 材木を二両に五本で都卓する	332
164	30	差出シ申一札之事	元文五年 申 六月	一通	山方屋喜兵衛・小嶋屋 清彦衛代人九右衛門・大 河原鹿塩村名主中	大河原鹿塩村が請け負った苗木の諸事請け負ってい るが、金主仙右衛門不始で差し障りが起こった。新た に江戸問屋中で金主引き受ける事の一札	549
165	31	書簡 (此度後様寛住)	元文五年 申 七月二十七日	一通	右馬之丞彦兵衛・ 兵左衛門 弥忠次	信州・遠州にある材木一万九千本が江戸に着木したら 返済する	550
166	32	願申金子之事	元文五年 申 七月二十九日	一通	遠州掛塚村仙右衛門 他・信州鹿屋彦兵衛	材木山下げの入用金として九百両を借りた。返済は材 木一万九千本江戸着で売り払い次第に行う、など	333
167	33	(書付)	(元文五年 申) 九月二十九日	一通	桑原寛右衛門・今泉陸 右衛門・十力村名主中	甲州信州御料私領寺社願諸社社在町中へ、木伊賀守他 諸奉行(大岡越前守玄信む)による通達 申八月二十 八日付の、青木文蔵による書翰書物類取り集めについ て伝達書	39
168	34	寛	元文五年 申 十月二十七日	一通	彦兵衛 右馬之丞・ 西村衆中	仙左衛門の借金が多く、五十七人の借り方の内 池田 七右衛門一人得心はず訴えなど、二千八百両を問屋中、 傳蔵と彦兵衛右馬之丞で引き受けた	40
169	元文 35	寛	元文五年 申 十月	一通	山方屋喜多右衛門・小 嶋屋清彦兵衛・大嶋彦兵 衛	元文尙木期、金元の繰振ままならず、当年杣入りが出 来なかったが、当面の金十両を渡しに寛え	1343

170	36	一札之事	元文五年 申 十月	一通	山方屋多衛門・ 戸谷仙右衛門 仙助	鹿塩大河原山から伐り出し材木の金元を引ききり続け ることが不可能になったこと	334
171	37	山方為仕鹿嶋渡場三留置候材木伐 下仕候二付差上候書付	元文五年 申 十一月	一通	大河原村名主右馬之 丞・鹿塩村名主彦兵 衛・御役所	鹿塩大河原山から伐り出した商木の金元戸谷仙右衛門 の金手が廻らなくなったので 渡場に残る九千本は他 の者が分担で伐下げる	335
172	38	預り申米之事	元文五年 申 十二月	一通	大嶋彦兵衛 前島右馬 之丞・平澤	大嶋御蔵米目俵の預り証	336
173	39	人馬并家数書上帳	元文五年 申 十二月	一冊	鹿塩村名主圭右衛門他	家数九十七軒、人総三百五十七人、男六百九十二人、 女六百六十四人、馬数三千疋	852
174	40	相究メ申證文之事	元文五年 申 十二月	一通	川野村本人七之助他・ 鹿塩村弥助	七之助は若手で年貢 諸役勤め難いので、弥助の子源 三郎を七之助の姉に縁組み多財産を受け継ぐ、七之助 が成後は高三分の一を受け継ぐ	337
175	寛保 1	寛	(元文六年 寛保元 年 西二月二日)	一通	百姓代平右衛門・ 大島彦兵衛	去る申年山方諸ノ用のため十二両三錢二匁文を受 け取り、勘定を済ませた	1459
176	2	(惣米教旨五千九百八拾三本)	寛保元年 西 三月	一通	掛簀村中川屋又兵衛 他・千村平右衛門役人 中	大河原村から伐り出した商材木のうち、このたび間知 を受けた材木数(文書の部分か?)	41
177	3	(一)差上申口上書見 (二)指上申一札之事	(一)寛保元年西六月 二十四日(二)寛保元 年西七月	一通	大河原村名主・ 千村平右衛門御役所	書本文蔵様による書籍 書き物その他手紙にいたるま でお尋ねのものは村内に見出せない	42
178	4	寛	寛保元年 西 十一月十七日	一通	遠州鹿嶋村又三郎・鹿 塩村彦兵衛 大川原村 右馬之丞	尺べ二千六百本余を一両に六本替えて買い取る。手付 金五両 残金と目量勘定、間知入用金などそれぞれの 時期に支払う	338
179	5	證文	寛保元年 西 十一月十七日	一通	大河原村右馬之丞・鹿 塩村彦兵衛・又三郎	尺べ二千六百本余を売り渡す證文	551
180	6	相極メ申一札之事	寛保元年 西 十二月三日	一通	大河原村名主前嶋右馬 之丞・鹿塩村名主彦兵 衛代大嶋弥兵衛治・江戸 大坂屋儀兵衛	成(寛保三年)から元禄元年まで二カ年三万本の伐 りだし方の取り決め	43
181	7	相定申證文之事	寛保元年 西 十二月八日	一通	本人右馬之助他・ 源次郎	孫之丞の子を源次郎の養子にする。併い孫之丞の借金 返済金十両を源次郎がだし、孫之丞の田畑山川を源次 郎と右馬之助が分割取得すること	1460
182	8	相極メ申一札之事 付・寛	寛保元年 西 十二月	一通	江戸大坂屋儀兵衛・ 前嶋右馬之丞 大嶋弥 兵衛治	来年度(寛保二年)から元禄元年までの三年の材木 伐り出しかたについて取り決め、付・寛は金手の受 け取り	44
183	寛保 9	乍ら書付を以奉願候	寛保元年 西 十二月	一通	鹿塩村名主彦兵衛 大 河原村名主右馬之丞	元文商木五年目の今年まで出すはずの材木が大雪で山 内に出し遅れている。来年から三カ年に出したい	45

184	10	作忠書付を以奉願上候	寛保二年 西	一通	鹿塩・太河原村惣百姓代、山方屋喜多右衛門所・千村平右衛門御役	元文商人朝間を終わつたが、なお山内に残されている材木を、戌から壬まで三年間で運び出したい	339
185	11	差出申口上之覚	寛保二年 戌二月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・大河原村名主右馬之丞・山方屋代九右衛門・飯田御役所	鹿塩大河原山売り材木(元文商人の金主戸谷仙右衛門が手を引き、その後金主のあてがなく困っている。このままでは増量多く、今後右馬之丞と彦兵衛両人が引き受ける構り)	552
186	12	作忠書付を以奉願上候	(寛保二年) 戌十月	一通	鹿塩・太河原村請負人山方屋喜多右衛門、同戸谷仙左衛門・千村平右衛門御役所	鹿塩大河原山に伐り置いた材木の出しを請け負つたものが、請負条件を述べている(元文商人)	553
187	13	覚	寛保二年 戌 七月	一通	千村平右衛門・御勘定所	元文二年已から寛保元年西まで五年間で尺べ二万七千六百九十本余残り出し、山内に尺べ約二万本ほど出し残されている。これを当戌年中に渡場まで出したい	340
188	14	覚	(寛保二年) 戌 十月四日	一通	千村平右衛門家来小嶋市右衛門・御勘定所	元文商人の年季が終わり、すでに出した材木と山内に残された材木、合計三万七千本あまりの報告書と今後の対策	341
189	15	覚	寛保二年 戌	一通	彦兵衛他・飯田御役所	御用の大横の木が村内山々にあるかどうかの問い合わせに一切無いという回答	853
190	16	勘定出諸人用帳	寛保二年 戌 十一月九日	手帳一冊	勘定人茂助・太郎丸	寛保二年亥十一月二十八日付けまでの村用人用諸人用金の覚え	554
191	17	(一、二)御年貢御拝借米代請取帳	寛保二年 戌 十 一月九日 寛保三年 亥 十 一月二十五日	一冊		寛保二年、三年分年貢と拝借米代の徴収、受け取り帳	854
192	18	相対申渡文之事	寛保二年 戌 十二月	一通	弥市他・大嶋彦兵衛	これまで中嶋長次郎地内で耕作してきたが洪水で流れてしまった。御地を借りるにあたり約束すること	46
193	19	差出候書付	寛保二年 戌十二月	一通	本人伊三郎他・大嶋御隠居	毎年言われていたのに、旅人を何心無く泊めた者が盗人などよ大河原村から知らされ、吟味の上追放されたが、今後このようなことはしないという一札	1344
194	20	覚	(寛保二年)	一通	飯田御役所・加々須村	加々須村はじめ人カ村の御林や百姓持ち山には横(かなりの長材)があるかどうかの問い合わせ。整理番号189上寛保15と関連か？	1345
195	寛保 21	(彦島身請および彦島暇書付) 各年一括	寛保二年 から 明治五年	三十三 通	被官各本人・大嶋彦兵衛	(彦島身請書) 数通 欄目 年号日付 差出人本人 家来 被官の暇にあたり身代金を出して子々孫々、あるいは當代限り仕えることの誓約書 暇を出したこと 証明、その他関連	47

<p>(一)御暇被下候三付差出シ候證文 寛保三年戌 清次郎 (二)御暇被下候三付差出候證文 延享三年寅十月 長之助 (三)御暇被下候三付差出候證文 延享五年辰七月 松五郎 (四)御暇被下候二付差出シ候證文 寛延三年壬三月 忠七 (五)三通 御暇被下候三付差出シ候證文 明和四年亥三月 九郎半・一札之事 明和四年亥三月 大嶋彦兵衛・書簡 五月六日 平嶋宗右衛門 (六)差出申一札之事 享和三年亥三月四日 常信 (七)御暇被下候二付差上申候證文之事 享和四年子一月 儀三郎 (八)御暇被下候二付差上申證文之事 享和四年子正月 清八 (九)三通 身請證文之事 文化十二年亥十二月 松立郎・相渡シ置申書付事 文化十三年子正月 彦兵衛 (十)一札之事 文化十五年寅正月 六左衛門 (十一)御暇被下候三付差上候書付之事 文政四年巳三月 助之丞 (十二)三通 一札之事 文政四年巳正月 栄吉・差上申一札之事 文政四年見正月 栄吉 (十三)一札之事 文政六年未 彦兵衛 (十四)三通 一札之事 天保元年卯正月 中兵衛・もう一通は年寄書き遣し 文政十四年事は天保二年 (十五)差出申一札之事 天保九年戌九月 弥兵衛 (十六)三通 御暇被下置候二付差上申書付之事 天保十四年卯二月 繁左衛門・身請二付差遣書付之事 天保十四年卯二月 彦兵衛 (十七)一札之事 寛永七年寅正月 喜兵衛 (十八)年寄御書付奉請候 明治 年巳正月 喜左衛門 飯田辰馬町塩屋忠兵衛方々養子 (十九)身請役赦免并屋敷地添證文事 明治四年未三月 大嶋彦兵衛他より万立善郎 (二十)身請役赦免一札之事 明治四年未三月 彦兵衛他より稲田又四郎 (二十一)差出申身請一札之事 明治四年未三月 北沢太平 (二十二)三通 差出申身請一札之事 明治四年未三月 宮下寛次 一通は享し (二十三)差出申身請一札之事 明治四年未二月 小澤政吉 (二十四)身請役赦免一札之事 明治四年未花月 大嶋彦兵衛より左の次郎と淺次郎 (二十五)身請役赦免并屋敷地添證文事 明治四年未三月 森出万平 (二十六)御暇被下候三付差出シ候證文 明治五年子二月十四日 与七 以上計三十三通</p>							
196	22	寛	寛保三年 亥 正月	一冊	高村名主組頭百姓代・ 御役所	鹿塩大河原山より出した材木尺一萬本に付き、葛嶋渡邊着の價段仕訳	48
197	23	鹿塩大河原山より葛嶋渡邊迄之諸人 用仕訳帳	寛保三年 亥 正月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛・ 御役所	元文商人、鹿塩大河原山より出した材木 間一尺角廻し一萬本当たりの葛嶋渡邊着價段仕訳帳	555
198	24	田畑下作其外寛帳	寛保三年 亥 三月	一冊		古市場他の田畑下作の收穫物・小作料その他の寛え	1558
199	25	此度葛嶋渡邊二御間知御改奉請候材 木取之儀三付被仰渡候據奉承知差 上候書付	寛保三年 亥 二月	一通	彦兵衛他・千村平右衛 門御役人中	元文商人、鹿塩大河原山より伐り出した材木は間知をうけ、お上の買い上げになった件。材木を大切に守るといふ書付	556
200	26	戌年御年貢御木不成勘定目録	寛保三年 亥 六月	一通	鹿塩村名主彦兵衛 他・御役所	寛保三年の年貢勘定の仕付け	49
201	27	證文之事	寛保三年 亥 六月	一通	遠州二股村河嶋屋左 衛門・大嶋彦兵衛 前 嶋石馬之丞	鹿塩大河原山から伐り出した材木を、伐り出しから江戸で売りさばくまで請け負う。助成金と酒代として金百五十両支払う	342
202	28	此度赤松木御用二付信州伊那郡鹿塩 大河原嶺山御林之内吟味仕書上ケ候 様三被仰渡候三付左々奉願上候	(寛保三年 亥 六月)	一通	鹿塩村名主彦兵衛大河 原村名主若島之丞高村 百姓代次郎右衛門	赤松という名目はないとして、唐松といふとし、材木にすればどれほどになるか、千二百から千五百本ほど採出できるとしている。この文書と同一は館田美術博物館蔵前島家文書366・延享二にある	50
203	29	送呈形之事	寛保三年 亥 十月十九日	一通	八手村名主弥次介・鹿 塩村彦兵衛	三斗入りの俵三十三表と一斗、計十石の米の送り状	51
204	30	家数并人馬数改帳	寛保三年 亥 十月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・ 御役所	家数九十七軒 人数三百七十八 男七百十六人 女六百五十四人 馬数三十疋	343
205	寛保 31	一札之事	寛保三年 亥 十一月	一通	小川村 加々須 南山 村名主・鹿塩 大河原 清内路村名主	上嶋御林と大嶋村やんしう山から構木を割り出し上納したい。諸人用費など負担をかけるな	344

206	32	御年貢御樽木来十一年より創立御上納仕候様三被仰付候二付御願書差上候御事	寛保三年 亥十一月	一通	六カ村名主他村役人・御役所	樽木で年貢を納めるにつき、四ヶ割以上で割り出せるだけ割り出す願い	345
207	33	今度御樽木割納之儀御吟味二付差上候書付	寛保三年 亥十一月	一通	六カ村名主他村役人・御役所	年貢樽木一年につき三万丁の割り出し方について尋ねられたことに応えた	346
208	34	鹿塩村足納帳	寛保三年 亥十二月	一冊	名主彦兵衛 定右衛門	寛保三年足納帳、各人別書より、総高三百四十七石二斗三合	557
209	延享1	寛	(延享三年) 子二月	一通	河嶋屋与左衛門・彦兵衛	大河原、鹿塩両村御林から御月木伐り出しの計画に、金次郎人と山与左衛門が当たるということで欠々里へ願ひ出る件	1346
210	2	書付を以御願申候事	延享五年 子三月	一通	次郎右衛門の母その他・名主吉	せがれ次郎右衛門の出奔届けと、改心して帰国した際の処置につき願ひ	53
211	3	亥御樽木成御勘定目録	延享五年 子三月	一通	鹿塩村名主他・御役所	寛保三年分の年貢樽木と食米勘定仕上げ	54
212	4	御年貢御樽木御吟味二付去亥年榎三万挺割立御上納可仕由御願申上候処此度又御樽木高相増之候様二と被仰付候二付以書付御願申上候御事	延享五年 子六月	一通	御預所六カ村名主組頭惣百姓代・御役所	樽木値段を樽すよごとの仰せだが、大勢の百姓渡世のために年々樽木三万丁、残りは只一本に付樽木百丁替えて願う	347
213	5	御年貢割付帳	延享五年 子十二月二十日	一冊	鹿塩村勘定人佐源太利助	年貢と拝借米廿、本新田畑、御場、拝借米合計中樽木二万八千百九十三挺、代金十二両二分余	855
214	6	御年貢并拝借米代請取帳	延享五年 子十二月二十日	一冊		年貢と拝借米代徴収の請取帳	856
215	7	御樽木御用二付去少亥年事より子五月迄御樽木割納再應御吟味被仰渡候二付……御代納御値段御願御書付奉差上候処今般新二御仰申有之二付両村一統御願書差上候御事	(延享三年) 子	一通	鹿塩大河原村名主組頭百姓代・御役所	年貢樽木代材木納につき、六カ村一統ではなく、鹿塩大河原が別に納めることは出来ないということ	348
216	8	預り申金子之事	延享三年 丑一月十二日	一通	本人八五郎他・彦左衛門、彦兵衛	大島家系来次助に家督相続させるについて、田畑相続と定めによる金五十両を預ること	1461
217	9	下作甚外寛帳	延享三年 丑一月	一冊	大嶋彦兵衛	寛保から延享二年頃の下作上がり帳	1559
218	10	書付を以奉願上候御事	延享三年 丑二月	一通	六カ村名主他村役人・御役所	樽木代材木納の初年、樽木値段を定めることの願い。代金に樽木納と引き換えに村々へまかうことの願ひ	349
219	11	書付を以御願申上候御事	延享三年 丑二月	一通	両村名主組頭百姓代・御役所	六カ村一統では樽木のみで年貢を納められない。三万丁以外は金納か、鹿塩大河原はほかと分かれるが、二村も別々の方法で納めるか。樽木値段は高く願う	350

220	延享 12	御樽木三万丁其奈へ代材木を以御年貢上納之積・・・・御樽木三万丁其奈へ金納三而御上納之積此度奉願上候二付御吟味之趣承知仕差上候書付	延享三年 丑 二月	一通	六カ村名主組頭惣百姓代・千村平右衛門御役所	樽木皆納は不可能 樽木及び代材木納は當時材木の必要は無いというので 樽木とその他は金納願を出した事について吟味 その返答書	351
221	13	書付を以奉願上候御事	延享三年 丑 二月	一通	六カ村名主他・御役所	御樽木割り出し年々三万丁の件 いずれの村から切り出すにしても 樽木代金は三万丁替に願う	558
222	14	樽樽木再御吟味之節願書写帳(左)忝再訴を以奉願上候御事	延享三年 丑 二月	一冊	六カ村名主他・御役所	樽木の寸法を減らしてでも樽木で年貢を納めたいが、それでも間に合わないほど樽が尽きた。この十年は金納した。樽も生い立つたので樽木三万丁と残りは諸木材木で年貢を納めたい	559
223	15	(一、二) 覚	(一)延享三年丑三月 (二)宝暦五年未三月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・御役所	前々から申し付けでもある通り、御林はもちろんで、自分持ち山からでも諸材木の伐り出しは勝手に出来ないという飯田役所の申し付け請求	560
224	16	樽樽木七拾丁代り二御材木長貳間木壹尺角廻シ毫本宛之積り御上納仕候様二と被仰渡候二付御慈悲之御了簡奉願度差上候書付	延享三年 丑 五月	一通	六カ村名主組頭惣百姓代・千村平右衛門御役所	代材木は樽木七十挺につき一本とのことだが、御慈悲をもって九十挺につき一本にする事の願い	561
225	17	鹿塩村切畑之儀御吟味三付差上候書付	延享三年 丑 四月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他村役人・千村平右衛門御役所	百姓持ち山の内切畑を昔から作付けしてきた。新しく切り開いたものは無い。更加地代はこれまどおり免除願う	352
226	18	鹿塩村名主組頭其外土地之様子能存候者御案内仕明細二掛御目差上候書付	延享三年 丑 四月	一通	名主彦兵衛他村役人・市岡太右衛門他	一切御座るもの、無知高見取敷、小物成、漁獵川舟役、竹林、など。御林については御林帳で報告した	353
227	19	樽御材木御吟味二付村中詮議之上差上候書付	延享三年 丑 四月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・御役所	樽材木の調査を鹿塩村御林と百姓山その他で行うことの請け書	55
228	20	御樽木代材木之儀中樽木九拾丁之積り二仕度段申上候二付御覧之上差上候書付	延享三年 丑 五月	一通	・御役所	代材木値段は只一本の材木につき樽木百丁、九十丁でもなく七十丁の仰ぎだが、どうしても願がかなわぬなら七十丁でもしかたがない	354
229	21	田畑屋敷当料實入并小作入上米價段之覚	延享三年 丑 九月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・御役所	鹿塩村内で借金購入をする時の抵当 實値の相場申し合わせ。竹木は売買しない	562
230	22	御樽木納代材木代金納大積り勘定納	延享三年 丑 十月、十一月、十六日	一冊		年貢樽木代材木納期の計算と覚え	355
231	23	(一)御借割付帳 (二、三) 覚	延享三年 丑 十月	一冊と 二通	喜右衛門、兵左衛門	拝借米割付帳と米の受け取り覚え	857
232	24	(一、二、三) 覚	(一、二)延享三年丑 十一月二十二日 十三日 (三)延享三年寅二月廿二日	三通	久四郎代義助、市岡太右衛門、市岡源九郎・鹿塩村名主	米十俵 その代金 材木代金 百石二分高取金の受け取り覚え	1560

233	延享 25	材木渡場着木之儀米奉三罷成候二付 御吟味上差上候書付	延享三年 丑 閏十二月	一通	六カ村名主組頭惣百姓 代・飯田御役所	樽木代材木の渡場着木は遅れて、米奉二月十日前後に なること 出水などで失われることのないように	356
234	26	(一) 丑年免定之事 (二) 卯年免定之事 (三) (四) は号し	(一) 延享三年丑十月 (二) 延享四年卯十月 月	四通	千村平左衛門代・桑原五 兵衛 他・ 鹿塩村名主	(一) 元文三年から延享四年まで十年の定免 (二) (三) 延享四年分の免定	56
235	27	(一) 子年御年貢御樽木成勘定目録 (二) 丑年御年貢御樽木成勘定目録	(一) 延享二年丑 (二) 延享三年寅九月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他村 役人・ 御役所	延享五年三年の年貢勘定目録(一)には付紙により丑年 分の下書きになっている	357
236	28	(一) (二) 鹿塩村定納帳	(一) 延享二年丑 四月 (二) 延享三年 寅 四月	二冊	名主彦兵衛・五郎左衛 門	延享三年と三年の定納帳、各人別書上	563
237	29	寛	(延享三年) 寅 一月	一通	大河原村名主石馬之 丞・七左衛門・御役所	代材木延享三年に根伐した榎・樺・姫子・榎の合計二 千三百二十九本の寛え	1347
238	30	去丑年伐出シ候御樽木代材木之 内……間尺木品願之通仕出し不申 候哉と御尋ニ御座候付差上候書付	延享三年 寅 正月	一通	六カ村名主・ 御役所	去る丑年は山入りが遅れたことにより郷山で採取し たことにより間尺・木品などは一部願のとおりにはな っていないことの添書	358
239	31	信州伊那郡鹿塩村人月帳	延享三年 寅 二月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛・ 御役所	延享三年分・村として行う仕事に伴って必要金銭費の 寛え報告・宗門・祭礼・出振費用など	359
240	32	信州伊那郡鹿塩村高反別井明細帳	延享三年 寅 二月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・ 御役所	延享五年御地に基づく高反別明細帳。村の饗宴・寛延 五年人月に享す。延享三年三月二十八日に江戸から巡 見が来村した際に差し出した	564
241	33	巨五百人川除人月帳	延享三年 寅 二月	一冊		川除人足に出た人名 のべ合計四百六十二人	858
242	34	客殿書控帳	延享三年 寅 二月	一冊	彦兵衛控え	塩原院関係・七世茶州和尚の代から十世金福和尚の代 まで客殿などの屋敷書き替えて入用品・金の寛え	859
243	35	(一) (書付) (二) 御儀傍江申上 (三) 江戸御役所様中村五右衛門様加 納入左衛門様江申上	延享三年 寅 三月	三通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 江戸御見分御奉行	落合にある田について見分役中村五右衛門にあてた書 付、落合にある田は鹿塩村持ちの飛び地であること及 び見取畑の寛え	1348
244	36	(差上申一札)	延享三年 寅 三月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 江戸見分御奉行	大河原村字落合にある鹿塩村飛び地は元文三年と延享 二年に改めを受け鹿塩村本田返りに仰せ付けられた 事。二通同文	565
245	37	差上申一札之事	延享三年 寅 三月	一通	五郎兵衛 他・ 名主組頭中	村役人による呼び出し・押印にはななかったが、許さ れたことについて、今後さら度は無にこの一札	57
246	38	寛下書	延享三年 寅 四月	一通	六カ村名主・ 御役所	樽木代材木を伐り出す際、諸人目見積もりを五郎郎の 帳面を参考にして詳細を記した、必要金銭と項目すべてが わかる。五百七箇二分錢五百六十五文	58
247	39	仕り申一札之事	延享三年 寅 六月四日	一通	本人三左衛門 他・ 名主中	本人と三左衛門との田地境界紛糾・和解を名主所 に依頼	59

248	延享 40	御材木仕入金請取覚	延享三年 寅 六月十二日	一通	今津や久四郎・ 六カ村名主	榎木代材木納期 材木の仕入金の請取覚え	1349
249	41	六カ村勘定中目録	延享三年 寅 九月	一通	六カ村名主	差引き三十二両二分奈の榎木勘定目録	60
250	42	一札之事	延享三年 寅 六月	一通	六カ村名主他・請負飛 州萩原村儀兵衛	六カ村年貢代材木伐り出しを主請負した儀兵衛との間 の伐り出しについての了解事項一札	360
251	43	鹿塩村高別書控帳	延享三年 寅 九月十二日	一冊	鹿塩村分	鹿塩村高別について、地主、広さ、上中下評価、な どの詳細総記帳	361
252	44	覚	延享三年 寅 九月	一通	六カ村名主他・ 御役所	村々田畑荒れ所返り切添などについて廻村吟味の件 は承知した	61
253	45	覚	延享三年 寅 九月	一通	六カ村名主他・ 吉田八郎、藤井儀兵衛 門	当座年貢榎木代材木はまだ出来ないうちに材時期 を過ぎようとしているが、くれぐれも油断無くという 仰せ渡しをかしこまされたという返答覚書	362
254	46	田畑切添書上帳	延享三年 寅 九月	一冊	鹿塩村	田畑地続き切り開き、持ち主と広さ、場所の書き上げ	860
255	47	北入村地本帳	延享三年 寅 九月	一冊		北入各地の地主名簿	861
256	48	覚	(延享三年) 寅 九月	一冊	千村平左衛門内役人吉 田八郎他、天竜川沿い 村々	延享三年丑の榎木及び材木の篠下ろしについて、各村々 への廻状、榎木は薪明へ、材木は揚家へ運ぶ事	862
257	49	御年貢御拝借米代取立帳	延享三年 寅 十月三日	一冊	勘定人茂助、史兵衛門、 惣八	年貢と拝借米代他、総書き上げ帳取帳	863
258	50	覚	延享三年 寅 十月十二日	一通	飯田荒町役所	女高に復泊分、鹿塩村分、大河原村分、復泊米の高 手形の覚え	363
259	51	差出申一札之事	延享三年 寅 十月十二日	一通	五カ村惣代請負人鹿塩 村五郎三郎他・五カ村 惣代名主彦兵衛他	今度五カ村名代に選ばれたので、是後出精し材木渡場着 できるようにする	364
260	52	一札之事	延享三年 寅 十月	一通	小川村名主八郎兵衛他 村役人・五カ村名主組 頭衆中	材木渡場着で働く小川村が不埒により遅れが出たが、 今後五カ村名代を立て、決められたとおり油断無く出 精する	365
261	53	御拝借米割付帳	延享三年 寅 十月	一冊	甚内、小吉	借米二十五石の割り付け帳	865
262	54	丑之出御米廻し帳	延享三年 寅 十一月	一冊	勘定人善兵衛門、新六 和助	延享三年に北川、塩川の木元から出された榎木一万六 千五百挺の上中下品等の数とその詳細廻しの覚え	866
263	55	(一)切添新田畑并切開新田畑并切替 山畑定町書控帳 (二)切添新田畑并切開新田畑并切替畑 書控帳	延享三年 寅 十一月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛、五 郎左衛門	新田畑、切添え切開き、切替の書き上げ帳	867

264	56	鹿埴村小前帳	延享三年 寅 十二月	一冊	大嶋彦兵衛	鹿埴村田畑、高反別書を上げ	868
265	延享 57	御年貢割付帳	延享(武生)三年 (丑)寅 十一月	一冊	勘定人新六、善兵衛門、 利助	延享三年、三年の年貢割り付け	869
266	58	書付を以奉願上候御事	延享三年 寅 十一月	一通	六カ村名主他、 御役所	代材不下し方の遅れは御断があつたことによるので、 今後は出方巧まを付け、そのうち一人を総掌配人とし て出方に精出す。金子入用なので精進したい	366
267	59	見取取米将本高除入致覧	延享三年 寅 十二月	一冊	鹿埴村	見取畑、取米高 書を上げ	864
268	60	口上書	(延享三年)寅 十二月十七日	一通	前沢助八、 六カ村名主兼中	材木仕出し方仕入れ金、両を目代教右衛門に渡してほ しいことの口上	367
269	61	五カ村より被相尋候二付書付差出候 事	延享三年寅 十二月十九日	一通	本人助八他、 五カ村名主親頭中	代材木の出方が遅くなったことは申し訳なく、晴禾な ら五日十日のうちに葛嶋渡場着になるようしだす	368
270	62	(一)書付を以申上候御事 (二)差上申證文之事	延享三年 寅 十二月	一通	六カ村名主、 御役所	(一)材木間知は当月二十六日に願うといふこと、(二) このように材木渡場着と間知が遅れた理由、二月廿日 までには渡場着になるようにするといふ一札	369
271	63	(一、二)寅年中御樽木舞帳 (三)寅年御樽木割付帳 (四)寅年御樽木小割帳	延享三年 寅 十二月	四冊	勘定人忠左衛門、惣助、 茂助	(一、二)寅年中樽木一万五千五挺、(三)樽木生貢割 り付け、(四)割り付けのまとめ算え	870
272	64	差上申一札之事	延享三年 寅	一通	何科、 吉田八郎他	御樽木山とその他において、諸木をみだりに伐らない ことなどの請け書 見本文	62
273	65	御樽木代材木式間木斗山出シ御政請 候二付式間半三間之長木山出シ不仕 候段御吟味二付書付を以申上候御事	(延享三年 寅)	一通		願書には「間半や三間木も出すはずであつたのに、間 知の際 間木ばかりなのはなぜか」ということに答えた	370
274	66	見取上納帳	延享三年 寅	一冊	鹿埴村	見取り年貢畑の各人別年貢高、対象となる畑の広さ算 え	371
275	67	(御樽木代材木に関する) 左記	延享三年 寅 か ら延享四年 卯	五通 一 包み	左記	(一)小川村役人より請け負つたことにより代材木伐 り出しについて諸事項一札 (二)小川村は儀兵衛に請 け負わせること (三)代材木延引きにつき請負金子 の件 (四)尺三三本代金受け取り (五)渡場仕舞日雇 勘定五十八両の受け取り	372
276	88	(一)御年貢御樽木御代材木御請負仕候一付一札之事 (二)差上申證文之事 (三)覚	延享三年 寅 十二月 (三)延享四年 卯 一月一日	三通	鹿埴村名主、 御奉行	(一、二)寅年貢樽木代材木の間知の役人は食料の 米、味噌持参なので、村は向うに馳走がましき願ひは していない (三)都合十一人分の昨より用の報告	373

277	69	(代)材木納につぎ合計一括	延享三年寅 延享四年卯	二十通		(一) 当年代材木請負人引き受け證文の件 (二) 二間半三間の材木は今の所出来ない (三) 手開山その他から材木を仕出す時期について (四) 手開山他から伐り出し予定の材木見積もり (五) 拝借金五十両の使い道報告 (六) 百九十両の拝借金使い道報告 (七) 四十両の拝借金使い道報告 (八) 百十両の拝借金差方賞御助より請取 使い道報告 (九) 拝借金四十両の内十両の請取 (十) 峠より参る米駄賃払い金 両の請取 (十一) 米百俵の代金の内二分請取 (十二) 芳賞御助より受取った四十両の内二両一分 (十三) 会所諸人用の二分を拝借金とは別に預る (十四) 拝借金の内 両二分請取 (十五) 拝借金の内三分、米駄賃払いのため請取 (十六) 拝借金の内 両米賸代米代として請取 (十七) 拝借金の内 両米駄賃その他として請取 (十八) 一両二分太倉村にて木炭代払い金請取 (十九) 百両の内五十両 (彦兵衛請取) の使い道報告 (二十) 百両の内五十両 (五郎三郎請取) 使い道報告	1350
278	延享 70	請取申金子之事	延享四年 卯 一月	一通	鹿塩村五郎左衛門・大 河原村左馬之丞他四カ 村・御役所	榑木代材木の仕入れ金五十両の受け取り	374
279	71	請取申金子之事	延享四年 卯 二月二十三日	一通	木助八人他・五カ村名 主組頭百俵代	五カ村御材木代金仕切り三十四両余の受け取り	566
280	72	覚	(延享四年) 卯 二月晦日	一通	鹿塩村名主彦兵衛・大 河原村名主吉崎之丞	延享三 丑 三寅年分榑木勘定の覚え	1351
181	73	作忠書付を奉願上候	延享四年 卯 一月	一通	六カ村名主他村役人・ 御役所	当年の年貢榑木代材木の当番は清内路村だが、鹿塩山 からも切り出す。支配人は久四郎	375
282	74	覚	(延享四年) 卯 三月	一通	鹿塩村彦兵衛他五カ村 名主・御役所	山入りするに当り飯代、日雇前金など五月から十 月必費總計三百八十八両の報告	1352
283	75	請取申金子之事	延享四年 卯 三月	一通	六カ村名主他村役人・ 御役所	寅年代材木鹿塩日雇その他諸所に金差し支えたので、 前借金として五十八両の受け取り、勘定内訳の覚え	376
284	76	差上申證文之事	延享四年 卯 三月	一通	六カ村名主他村役人・ 御役所	年貢榑木代材木は当年鹿塩山から仕出す。榑木は定 法寸法、二万八千丁、四つ割以上、材木寸間、山入り は三丁半、など	377

285	77	差上申一札之事	延享四年 卯 三月	一通	六カ村名主組頭百姓 代・ 飯田御役所	代材木納は江戸材木蔵納なので歩減木多く、渡勢納めにしてほしいが、村方困窮に金を受け取ったことにより材木蔵納後まで待つ	63
286	延享 78	差上申證文之事	延享四年 卯 三月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・ 市岡太右衛門	安仁右衛門が廻村し鹿塩村に一宿するにつき一汁一菜の他は無用、入用費は後日請求する	567
287	79	乍取書付を以奉願上候	延享四年 卯 三月	一通	六カ村名主組頭百姓 代・ 飯田御役所	当所左官樽木代材木の出入りは六カ村相談の上、塩村御樽木山から伐り出す。仕入れ金お渡し願う。樽木は六河原鹿塩岡山から廻り出す	568
288	80	鹿塩村百姓願百四拾名分帳	延享四年 (寅) 卯 四月一日	一冊		弥左衛門をはじめ百四十一人の名前	871
289	81	鹿塩村地押小前帳	延享四年 卯 四月	一冊	彦兵衛	古新田畑、山林なら高及別書き上げ帳の下書き	872
290	82	丑年御材木代金納過之割渡シ帳	延享四年 卯 四月	一冊	勘定人援助他	延享三年の年貢樽木代材木納では納め過ぎがあり、その代金三画三分余りを割り渡す	873
291	83	寛	(延享四年) 卯 四月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・五 郎左衛門・御役所	年貢樽木代材木納期、延享三年寅に鹿塩山から根伐した樹木数三千四十七本、内、樽木千八本、樫千一本、榎千十八本	378
292	84	寛	(延享四年) 卯 五月二日	一通	棚橋惣太夫・ 鹿塩村彦兵衛	去る寅年材木請負人飛州義兵衛および五カ村差出の證文の預り寛え	379
293	85	(請取寛左記	延享四年 卯	十通			383
294	86	(一)寛 (延享四年卯五月朔日 棚橋惣太夫より鹿塩村北組名主 江戸朱蔵金請取 (二)寛 (延享四年卯五月八日 棚橋惣太夫より鹿塩村名主 寅年歩減金請取 (三)寛 (延享四年卯二月十三日 市岡源九郎より鹿塩村名主申 寅年巨石老分高掛金請取 (四)寛 (延享四年卯二月十三日 小川村名主倉兵衛 十右衛門より五カ村名主他五カ村材木代支払い (五)寛 (延享四年卯二月二十五日 市岡源九郎 小次郎左衛門、市岡太右衛門より鹿塩村名主申 寅年代材木仕入れ金過払の返納金請取 (六)寛 (延享四年卯十二月 彦左衛門より五郎左衛門、彦兵衛 年貢、諸人用金請取寛え (七)寛 (延享四年卯十二月二十七日 彦兵衛より伴四郎 樽木高五カ村割 一通 一通は寛え下書き (八)寛 於延享四年卯二月二十四日 鹿塩村彦兵衛より御役所 年貢と米代差し引き寛え 一通 一通は三カ村割りの寛え	延享四年 卯 六月	一冊	六カ村名主他・ 御役所	延享四年六月から八月まで、年貢代材木を江戸材木蔵納めで歩減木が出た件について出した願書が下り帳	569
295	87	(一)乍取書付を以御樽木仙賃口上四ヶ村より受取方之義三付奉願上候御事 (二)差出シ申證文之事	延享四年 卯 七月 八月	一通	伴四郎・ 名主組頭中	去る斗年に六カ村立会いで決めた御樽木高割りにつき、小川村が異を唱え出入りになった件、解決につき吟味願う。差配を引き受けた伴四郎の口上	570
296	88	取扱證文之事 乍取書付を以奉願上候御事	延享四年 卯 八月	二通を 一枚	鹿塩村彦兵衛・ 六カ村物代、御役所	材木出方支配人の久四郎に不届きあり、五郎三郎に替えないと願い出た件	571
297	89	乍取書付を以奉願上候御事	延享四年 卯 八月	一通	鹿塩村五郎左衛門・大 河原村左馬之丞他・飯 田御役所	延享三年分の年貢代材木の江戸材木蔵納の際に出た歩減木の弁納について、六カ村代表が江戸へ御免願いのため行く	380
298	90	差上申一札之事	延享四年 卯 九月	一通	六カ村名主他・澤美林 五左衛門	樽木代材木の件で五左衛門と相談し申しあげた事、材木の出しかたについて	64

299	91	一札之事	延享四年 卯 九月	一通	加々須村左衛門、小 川村五郎左衛門・ 六カ村役人中	六カ村総代として参加する六カ村御役人連印状は材木 拵減の願いがかなわない時でも、金納五巨三千十奉、 または榎木巨丁替えの時以外は使わないことの一札	65
300	延享 92	御年貢材木御蔵納金納願事	延享四年 卯 九月	一冊	鹿塩村他六カ村総代・ 千村平右衛門御役所	延享三年丑年に江戸材木蔵納の際に出た拵減木の御免 を願い出たが叶わず、弁納することになったが、金納 にすることの願い、その他 延享四年外十月十二月の 願書 三通二冊	381
301	93	里三方村より御年貢御榎木仕入金割 付帳	延享四年 卯 九月	一冊		加々須、清内路、南山三方村榎高七百十二挺を大 河原、鹿塩高村へ割付、鹿塩村では高割りで割付る	874
302	94	六カ村二而元太三万挺割合入積り左 之通	(延享四年) 卯	一通	六カ村	榎木三万挺を山方六カ村に割り付けた計算書	66
303	95	鹿塩村上納帳	延享四年 卯 十一月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛、五 郎左衛門	総合百四十七石三斗三合、残高三百三十石九斗九升 四合の上納帳、個人別上納高	382
304	96	(一、二) 寛	延享四年 卯 十二月六日 十二月二十八日	一通	市岡源九郎・ 鹿塩村名主	(一) 材木割合金十七両を五郎三郎に渡した (二) 同じく十五両を渡した	572
305	97	丑寅両年中木拵帳	延享四年 卯 十二月	一冊	大嶋控中	延享二、三年分、本薪田榎木中木高算帳	875
306	寛延 1	寛	(寛延元年) 辰 正月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	年貢御榎木代材木本数 千九百八十三束根伐 榎 榎 榎子	67
307	2	(一) 年貢書付を以申上候御事 (二) 鹿塩村組別三付人数算帳	(延享五年) 寛延元 年 辰 二月 三月	一通	名主・ 御役所	元文二年の分科騒ぎでは納得して古来通り一村をやつ てきたが、このたびの騒ぎでも平和してこれまで通り やつてゆくことを願う。(二)は裏紙、一丁のみ	1462
308	3	差上申證文之事	(延享五年) 寛延元年 辰 三月	一通	何村名主他・ 飯田御役所	御榎木山、百姓山にかかわらず、諸木をみだりに伐つ てはならない、良く見回りする	68
309	4	年貢書付を以奉願上候御事	(延享五年) 寛延元年 辰 三月	一通	六カ村名主組頭百姓 代・御役所	延享四年卯の代材木簡知において減木三百本余の急な 山出しは間に合わない。女嫁で買い木したい。入用費 四十五両準備したい	384
310	5	寛	(延享五年) 寛延元年 辰 三月	一通	・ 御役所	去年卯年分材木不足分を仕出し、その入用金四十五 両を借り入れた寛延	385
311	6	南組名主組頭長百姓相定三付人数連 印帳	(延享五年) 寛延元年 辰 四月十八日	一冊	彦兵衛他・ 名主組頭衆中、惣百姓 代	名主・組頭、惣惣百姓代を定め、それを惣惣百姓で認 めた千八名の連印帳	876
312	7	(一) 差上申書付之事 (二) 二鹿塩村組分三付高組申合取替 證文之寛	(延享五年) 寛延元年 辰 四月	三通	鹿塩村彦兵衛他・ 久々里御役人	鹿塩村を南北二分し、名主役はじめ諸事別々に治める ことにした。(二) 三は諸事執り行ないについて両組の 申し合わせ	386
313	8	(寛)	(寛延元年) 辰 五月十二日	一通		葛嶋澤場で上納した金十の寛 六カ村卯年分	69

314	9	御檢地御奉行様御先触御廻状亨	(延享五年)寛延元年 辰 六月十一日	一冊	吉田源之助内石橋久 内、鹿塩村にて	江戸から檢地御用のため派遣された吉田源之助の家来石橋久内英、御用先触れ書の写し、大河原村から鹿塩村へ	877
315	寛延 10	乍取書付を以申上候	(延享五年)寛延元 年 辰 六月	一通	鹿塩村名主五郎左衛門 他 御指地御奉行	落合にある鹿塩村下作田場は延享三年寅に中村文右衛門、賀納久右衛門昌分の際の謄文のように鹿塩村下作地に紛れもないという一札	1353
316	11	鹿塩村之落合之田飛地之儀御尋二 付定取書付を以申上候御事	(延享五年)寛延元年 辰 六月	一通	鹿塩村名主五郎左衛門 他	大河原村内にある飛地は古来鹿塩村のもので、見分の証書御らからであった	70
317	12	信州伊那郡何村言辰秋田方内見合毛 帳	寛延元年 辰 九月	一冊	飯田御役所	寛延元年の素題文書様式見本	878
318	13	辰年免定之事	寛延元年 辰 十月	一通	千平石・鹿塩村名主組 頭惣吉姓代	寛延元年分の免定	387
319	14	丑之御年貢御勘定目録	寛延元年 辰 十一月十三日	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	延享三年丑の榎木代材木納年貢勘定、未正月付けの皆 流書がある	71
320	15	卯年御榎木六ヶ村分仕上御勘定目録	寛延元年 辰 十一月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	卯年に上納した榎木三万丁のうち、大河原二万五千四百九十五丁、鹿塩村は一万四千五百七丁、これを六ヶ村に分けて計算	388
321	16	御榎木野帳	寛延元年 辰 十二月	一冊	鹿塩村	寛延元年十二月及び二年十二月榎木野帳。塩川及び北川帳場にて改め。長短それぞれ二万五千七百八十九挺、二万百八挺、その他品等廻し詳細	879
322	17	(一) 鹿塩北組上納帳 (二) 南分上納帳	寛延元年辰十二月 寛延元年巳二月	一冊	名主所	寛延元年分の年貢上納高の書上帳、南北両組分	573
323	18	寛	(延享五年)寛延元年 辰	一通	市岡源五郎・ 鹿塩村名主	巨在寺分高掛金三分五厘八十六文の請取	389
324	19	飯田御役所御用書置帳	寛延 年 巳 四月	一冊	名主忠兵衛	年貢榎木代材木納期、延享三年寅年の材木江戸御蔵納で出る赤減木の件、材木方巧孝の支配人を決める件など、飯田における役目、役所に出した文書の控えなど	574
325	20	寛	寛延 年 巳 五月十二日	一通	名主善内他・ 名主組頭吉姓代	水張、小前帳、切添切開、その他種々計四十七冊の帳面を互に繰ぐ	1561
326	21	(一) 寅年分減金取立帳 (二) 見取御年貢割付取立帳	寛延 年 巳 七月	一冊	鹿塩村南組名主忠兵衛 他	本新田、見取年貢分減金、材木貳百本、三百本条分の分減金年貢敷取帳	880
327	22	御仕入御榎木前金割付帳	寛延 年 巳 八月十二日	一冊	名主忠兵衛	年貢榎木の仕入れ金割付、南組七十八人、北組百七十一人に計四両を割り付ける	881
328	23	御拝借米割付人糞帳	寛延 年 巳 十月	一冊		北組百六十人、南組七十五人に米二十五石を割り付け る	882
329	24	(一) 辰年御榎木六ヶ村分御勘定仕上 目録 (二) 巳年御榎木六ヶ村分御勘定仕上 目録	(一) 寛延 年 巳 十月 (二) 寛延 年 午 十月	一通	鹿塩村名主 他・ 飯田御役所	寛延元年 年分の年貢榎木、鹿塩村より勘定した分を大河原村を除いた五ヶ村に割り付けた(二万七千四百十四挺、および 一万六千挺)	72

330	25	(寛)	寛延三年 巳 十月	一通		寛延元年辰分の年貢過納金二両二分奉受け取り寛	73
331	寛延 26	(一) 見取御年貢取立帳 (二) 御年貢并三御拝借米取立帳 (三) 寛	寛延三年 巳 十一月	二冊 一通	名主忠兵衛他	本新田御・見取年貢・拝借米代・取立帳と互立衛から 忠兵衛への年貢・分減金納めの書え	883
332	27	御年貢并御拝借取立帳	寛延三年 巳 十一月	一冊	鹿塩北組村	年貢と拝借米代取立帳、取米八十五石一斗八升、拝 借米二十五石を樽米と代材木で納入する。樽米九千九百 九十二挺七分六厘を樽米で	884
333	28	巳十二月御樽米代金請取候節帳	寛延三年 巳 十二月	一冊	幸内・善左衛門	取米百二十石九斗六升を樽米六千三百二十九挺、代材 木百九十九本余、代金三十九両三分を納める	885
334	29	差出之申一札之事	寛延三年 午 一月六日	一通	本人新六、証人源太 郎・大嶋彦兵衛	母死去、其の葬儀に四方舞張りは停止との頭中の意同 はもともとだが、母生前中の願いでもあり、今回限りの 四方舞張をしたい	1562
335	30	古来筋目之者申合通判之事	寛延三年 午 正月	一通	傳兵衛 他	村内の筋目なしの者が死亡したとき、葬礼に葬を張る 事、過分の位号であるか否かを筋目の者が集まつて吟 味する事の申し合わせ	575
336	31	(申渡請書下書き及び掛札写し)	寛延三年 午 二月	一通	鹿塩村役人・ 飯田御役所	寛延三年正月に御役所から陳訴、徒免・越訴禁止の 申し渡しの請け書、掛札写し。飯田御役所へ提出文書	576
337	32	(一) 巳出御樽川々中木廻之帳 (二) 巳之出樽銘々中木割帳	寛延三年 午 三月六日	一冊	鹿塩村南組名主忠兵衛 他	寛延三年巳に出し、樽米、中樽廻し二万三千五百十四挺 および二千七百九十三挺の長尺・根木、白木の別、(二) は(一)の内訳か?	886
338	33	巳出御樽米御年貢勘定帳	寛延三年 午 三月吉日	一冊	鹿塩村南組名主忠兵衛 他	鹿塩村納仕・樽米五千七百九十九挺、本新田割分三 千五百七十七挺、仕入れ寄三千三百五十四挺、中樽二両に 四両舞書え	887
339	34	人形并家数書上帳	寛延三年 午 三月	一冊	鹿塩村名主忠兵衛他・ 飯田御役所	家数百十九軒、人数三千三百二十人、男六百九十一人、 女六百二十九人、馬鞍四十疋	577
340	35	乍取書付を以願上候御事	(寛延三年) 午 三月	一通	清内路名主五郎左衛 門・御役所	樽米と代材木を仕出すにあたり、月々入用費をいた きたい	74
341	36	寛	寛延三年 午 三月	一通	大河原村左馬之丞・ 鹿塩村衆中	当去年樽米と代材木は清内路村から仕出す、五郎左衛 門による讀負證文を預かっている	75
342	37	乍取書付を以申上候御事	寛延三年 午 三月	一通	六カ村名主・ 飯田御役所	樽米代材木は当去年は清内路村から出す、月原渡場で なく「いとや」渡場を使う	76
343	38	差出之申一札之事	寛延三年 午 三月	一通	六カ村名主・ 清内路名主五左衛門	当去年は清内路村から年貢代材木を出す、間違いな いように、人足持持は去年の通りであること	77
344	39	差出證文之事	寛延三年 午 三月	一通	六カ村名主・ 御役所	当去年は清内路村から樽米代材木を出す、樽米は定法に 従う、材木は樺・樺・姫子・唐松、その他材木仕出し 条徒の證文	78

345	40	小川村古名主八郎兵衛重左衛門江戸御願二付松浦河内守様より六ヶ村名主御召三付用留	寛延三年 午 六月十九日から	一冊		小川村と他の六ヶ村とで出入りとなり、小川村が江戸へ訴え出たことにより六ヶ村名主が呼び出され吟味を受けを際の日記用留	888
346	寛延 41	(小川村と他の五ヶ村との出入り一供内済まで)	寛延三年 午 六月 七月 八月	十通 (二件一 括)		延享三年寅の榎木代材木は小川村はじめ六ヶ村が請け負ったが、当番料の小川村の不埒・不手際により支障あり、出入りになった。江戸表への訴訟・呼び出しなどの騒ぎになったが、寛延三年八月内済された。(七はその縁の文書	390
347	42	寛	寛延三年 午 七月七日	一通	鹿塩村彦兵衛・伴四郎・千村平右衛門江戸御役所	このたび召出された人数の内、五郎三郎は現在秩父御用木山に出稼ぎに出ている。呼び出したが今の所一緒には出頭できない	578
348	43	書簡書付	(寛延三年 午) 七月九日 八月四日	五通	千村平右衛門内小嶋市右衛門・六ヶ村名主	江戸河内守および伊勢守屋敷への出頭命令とその取り消し延期状(寛延三年七月か八月のものか?)。鹿塩村名主伴四郎・彦兵衛・五郎三郎の時代	272
349	44	寛	寛延三年 午 七月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・飯田御役所	川除・道・橋の自分立請を行う場所の報告。左年川除場所は六石、柳嶋・大塩・平瀬、大栗・日之前・幸平、場之前・塩川、下嶋前	391
350	45	(寛)	(寛延三年 午) 八月十四日	一冊	(名主記)	榎木代材木納期。延享四年卯に江戸材木蔵納めで出た歩渡木の弁木勘定、金納五ヶ村分扱、鹿塩村南組割付三画一分、北組三画二分	889
351	46	寛	寛延三年 午 八月	一通	加々須村名主七左衛門他五名・御奉行所	延享三年寅榎木代材木三千本の代金、勘定残り、小川村分七十一両余を叩き、延享四年卯二月十三日に村々立金の上渡しを完了。一通は下書き	392
352	47	(申渡込)	(寛延三年 午) 九月四日	一通	飯田御役所・鹿塩村名主彦兵衛	榎木代材木納の当番料小川村の不埒により出入りとなつたが、江戸表での吟味の後内済となり、六ヶ村代表として彦兵衛が久々里へ出向くことの申し渡し	579
353	48	(御用料書留)	(寛延三年 午) 九月二十一日	一冊		九月二十日付け御奉行方来村についてから十二月十一日付けまで御用料書留。未正月十五日付け飯田御役所からの廻状が最終頁	890

354	49	午年免定之事	寛延三年 午 十月	一通	(千村平右衛門)千平 右・鹿埜村名主組頭惣 百姓代	(寛延元年辰)から(宝暦二年申)まで五年定免の内 午年の年貢高の運達	79
355	寛延 50	(一)見取御年貢取立帳 (二)如年見取御年貢取立帳 (三)御拝借米割付ノ帳 (四)御年貢并御拝借米代取立帳	寛延三年 午 十一月 吉日	四冊	名主彦兵衛他	如年貢見取取年貢 拝借米代の割付徴収帳	891
356	51	鹿埜村南組後帳面渡ノ覚	寛延三年 午 十二月	一通	宮下忠兵衛・ 大嶋彦兵衛	鹿埜南組の帳面類を引き継ぎ渡す覚え。当時の村用御 用帳面類の種類が良く分かる	1463
357	52	巳年御年貢御樽木目録	寛延三年 午 十二月	一通	鹿埜村名主惣兵衛他・ 飯田御役所	寛延三年分の年貢樽木代材木の勘定	80
358	53	(一)辰年寄別目録 (二)辰年寄別目録	(一)寛延三年 午 十一月 (二)寛延 四年 未三月	一通	(一)彦兵衛・幸内(二) 嘉兵衛他村役人・飯田 御役所	(一)辰年貢差引き勘定仕上げ (二)六カ村御樽木割り納の内鹿埜村分	81
359	54	清内路村五郎左衛門御材木御請負二 付帳物ノ覚	寛延三年 午	一通	六カ村名主組頭百姓 代・御役所	清内路名主五郎左衛門始め計五名の家屋敷、家財、田 畑を質物として樽木代材木を貸り出す	82
360	宝暦 1	巨石二付金老分御上納割付帳	(寛延四年)宝暦元 年 未正月	一冊	名主彦兵衛	巨石二分の上納金割付。南組へ二分永巨五十七文二 分五厘七毛五、北組へ一分永巨七十七文九分二厘七毛五	892
361	2	御林并他領様三付御吟味書覚	(寛延四年)宝暦元 年 未正月	一冊	万石衛門他・ 大嶋彦兵衛	一軒々江申渡覚(整理番号362・寛延3)の御樽木山 大切に他領様の際は必ず届け出る事の申し渡しの 請状	580
362	3	村々へ申渡覚	(寛延四年)宝暦元年 未 一月	一通	飯田御役所・ 村々名主他	御樽木山境界はよく守り、枝葉下草、株など一切刈 り取り禁止、他村へやむを得ず出稼するときは届け 出ることなど	83
363	4	覚	(寛延四年)宝暦元年 未 一月	一通	鹿埜村名主彦兵衛・幸 内・飯田御役所	去る如年延喜四年の樽木代材木納、差引請納の覚え	393
364	5	差出シ申一札之事	(寛延四年)宝暦元年 未 一月 吉日	一通	嘉右衛門他・ 大嶋彦兵衛	上飯田出身、善光寺に宗門ある鍛冶商売の身だが、大 河原左馬之丞地内の世俘の元に老後移りたいので了解 を求めている	1563
365	6	覚	(寛延四年)宝暦元年 未 二月	一通	鹿埜村名主彦兵衛・幸 内・飯田御役所	北組百姓数右衛門他五名、甲州雨畑山へ日雇移きに出 る。お断りは知らず	84
366	7	覚	(寛延四年)宝暦元年 未 二月	一通	鹿埜村名主彦兵衛他村 役人・飯田御役所	去る巳年寛延三年分山方六カ村納入の樽木割り納の うら、鹿埜村分の覚え	394
367	8	(一)(二)覚	(寛延四年)宝暦元年 未 三月	一通	鹿埜村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	寛延三年巳の樽木仕上げの覚と、延喜四年如年に江戸 蔵前および葛嶋で出庄炭木の小札の賣取り受取り	85
368	9	六カ村御年貢御樽木御代材木仕出し 請負仕候三付一札之事	(寛延四年)宝暦元年 未 三月	一通	清内路村五郎左衛門 他・六カ村名主衆中	未年分の材木は清内路村が引き受け、薪文を五カ村が 預かった	86
369	10	覚	(寛延四年)宝暦元年 未 三月	一通	鹿埜村名主彦兵衛他村 役人・飯田御役所	巳年寛延三年納入のうら、過納分返還の請取覚え	395

370	11	寛延四年未三月御材木御轉木御役所 二而六ヶ村立金惣差引金手取方渡方 算帳	(寛延四年)宝暦元年 未 三月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛	三月十八日、十九日、二十日、二十一日に六ヶ村立会 いで行なわれた。延享三年頃から寛延三年までの年 貢轉木代材木納の決着結果の覚え	893
371	宝暦 12	柳工敷大工木挽工敷帳	(寛延四年)宝暦元 年 未 四月二十 七日	一冊	大嶋彦兵衛	柳 大工 木挽仕事に従事した人数、日付、人名など の覚え	1354
372	13	(一) 村方井控入白鷹帳 (二) 未年下作金請取方算帳	(寛延四年)宝暦元 年 未 四月二十 七日	二冊合 冊	大嶋彦兵衛	(一) 雇った村方人足の個人別集計下帳、四月廿七日 から。大河原村前島忠島之丞との共同雇いもあった。 (二) 下作料の徴収帳	894
373	14	材木方林代勘定并木挽方勘定帳 (付) 木挽へ渡す書付控	(寛延四年)宝暦元年 未 五月二日	一冊 付一通		伐り出し材木の寸法など覚え、機軸材木板子百本系	895
374	15	寛延四年未五月十日二印判致候二付 意留書	(寛延四年)宝暦元年 未 五月九日	一通	飯田御役所・ 鹿塩村名主	田畑土中質入賃段及び已年轉木納中樽木五十六箇 十挺ほど	87
375	16	田畑土中質入并小作人土米賃段之覚	(寛延四年)宝暦元年 未 五月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他村 役人・飯田御役所	田畑土中質入と小作人土米賃段の覚、竹木賃段は入 れな	88
376	17	覚	(寛延四年)宝暦元年 未 五月	一通	鹿塩村彦兵衛他・飯田 請負人依左衛門	清内路村から当年伐り出す年貢材木の日雇二組を引き 渡す、一組当たり二畝二分渡した	89
377	18	北入山遺作不出シ方白鷹勘定帳	(寛延四年)宝暦元年 未 閏六月十一日	一冊	大嶋彦兵衛	六月十日付けから七月まで、木材出し日雇賃金と人名 の覚え	1355
378	19	宗前錢請拂算帳	(寛延四年)宝暦元年 未 六月廿日	一冊	鹿塩村名主彦兵衛	塩屋院関係三百七十九人、香林寺関係百六十五人分な ど、宗前調べに関する費用の覚え	896
379	20	(一) 南組已年御轉木指引目録 (二) 北組已年御轉木指引目録	(寛延四年)宝暦元年 未 十二月	一通	忠兵衛	中樽通り、南組八千六百五十二挺、北組一万七百三 挺を元に、南組の樽木過不足覚え	396
380	21	御拝借米割渡シ帳	宝暦二年 未 十二月三日	一冊	鹿塩村南組名主伴四郎	拝借米八石七斗六升の代金五兩二分永二十七文を米売 りの節の諸人用金を引いて割り渡す	897
381	22	(年貢等取覚)	宝暦元年十年	二十四 通	飯田御役所・ 鹿塩村	主に宝暦年間の年貢算納人受け取りの覚え	1464
382	23	六ヶ村年貢御材木仕出し請負仕候二 付一札之事	宝暦三年 申 四月二日	一通	大河原村名主組頭吉姓 中	年貢轉木代材木納、申年の材木は大河原村で請負に付 き、諸事取り決めの一札下書き	581
383	24	差七由證文之事	宝暦三年 申 四月	一通	小川村名主勘右衛門他	申年は大河原山、当西より成まで鹿塩山にて御轉木代 材木を伐り出す。二年分文書の付紙による下書	582
384	25	書付を以添願申上候	宝暦三年 申 四月	一通	六ヶ村名主組頭吉姓 代・飯田御役所	当申から戌年まで材木を山出しする、前番五十願願 ためなら来年度から戌年まで二年分十箇	90
385	26	(一、二) 覚	(金暦三年) 申 十月七日 (金暦三年) 酉 十一月十五日	一通	飯田御役所・ 五ヶ村	寛延三年已及び三年午に出来た江戸御蔵前代材木添減 木の代金を村々に割り付け	1356
386	27	(一、二) 河安屋遺事人足其外諸極々帳	宝暦三年 申 十月吉日	一冊		河安屋遺事請をするので高に定めて島津人足、人足、 金手、米など供出することについての決まりのお願い	898

387	28	御拝借米割付々費帳	宝暦三年 申 十月	一冊	名主忠兵衛	米二十五石を名主組頭の分を四石余ひいた二十石余を二百三十五人に割り付ける	899
388	29	御材木代金御材木老分違候二付申 年取立納候々費帳	宝暦三年 申 十二月	一冊	名主佐四郎	御材木代金二分違にがあつたので、翌年取立割付、米年分の取立帳につけた	900
389	宝暦 30	御拝借米代金割付々渡々費帳	宝暦三年 申 十二月	一冊	名主忠兵衛 勘定人彦 兵衛他	拝借米八石七斗六升の代金四圓二分米六十二文五分を米荒損の際の諸人申金を引いて割り渡す	901
390	31	寛	宝暦三年 申 十二月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	当酉年御材木を出すために根伐りした数 樅 榎 唐 松 榎大合わせて三千五十二本	91
391	32	申年御年貢御仕入樽代差引費帳	(金暦三年) 申	一冊		樽木代材木納期 宝暦三年申年の樽木仕入計算帳	902
392	33	乍恐口上之寛	(金暦三年 西) 二月十七日	一通	鹿塩村名主内他・御 役所	樽木代材木の伐り出し申酉戌の三年は鹿塩村大河原村が引き受ける、山入りに当たり申上げること、去年の大河原村の二の無にならぬよう、能き申を早めに雇いたい	92
393	34	書簡	(金暦三年 西) 二月十七日	一通		樽木代材木納期 (一)は鹿塩村名主組頭から前嶋右馬之丞へ、(二)は前嶋右馬之丞の書、いずれも(金暦三年)申は同村請負(三年四年)酉戌は鹿塩村請負で材木を出す件について	1357
394	35	書簡 (一)口上之寛 (二)口上	(金暦三年 西) 二月十七日	一通	前嶋右馬之丞・ 鹿塩村名主	代材木納期、当酉年大河原村が請け負うについて口上	93
395	36	差出申證文之事	宝暦三年 西 二月	一通	鹿塩村名主内他村役 人・大河原村名主組頭 惣百姓代	酉戌年樽木代材木は鹿塩村請負二面一尺同じ五本一分二面より、葛嶋渡塩着まで鹿塩村が請け負うなど證文	94
396	37	六ヶ村御年貢御材木仕出し請負仕二 付一札之事	宝暦三年 西 二月	一通	鹿塩村名主組頭惣百姓 代・五ヶ村衆中	酉戌年二年の樽木代材木を鹿塩村が請け負うに当たり、飯田御役所に出した六ヶ村で決めた文書に加え、鹿塩村から約束すること	95
397	38	差出之申一札之事	宝暦三年 西 二月	一通	六ヶ村名主組頭惣百姓 代・鹿塩村名主彦兵衛	当酉と来年戌の二年、年貢代材木伐り出しを引き受けた件。一面に付き材木五本、間知の件、材木流し、樽木の件など、請負に付いての申し合わせ	583
398	39	鉄砲御帳	宝暦三年 西 三月	一冊	名主組頭惣百姓代・御 役所	獵師鉄砲二十三挺 おとし鉄砲三十挺	584
399	40	差出之申證文之事	宝暦三年 西 三月	一冊	鹿塩村	年貢樽木代材木伐り出しを鹿塩山から行い、鹿塩村が請け負うにつき、大河原村他五ヶ村飯田御役所など取り交わした文書六通の合冊	585
400	41	乍恐書付を以奉願上候御事	宝暦三年 西 三月	一通	六ヶ村名主組頭惣百姓 代・御役所	当酉と来年戌の二年の樽木代材木は鹿塩村が請け負う、木品守間は決められたとおり守る	96
401	42	為取替證文之事	宝暦三年 西 三月	一通	忠兵衛他・請負人彦 左衛門 同彦兵衛	六ヶ村取り決めに従い申年は大河原村、酉年は鹿塩村が請け負う、日廣 仕出し、川長 出水の際の約定	97

402	43	六ヶ村年貢御材木仕出請負任二付一札之事	宝暦三年 西三月	一通	鹿塩村名主忠兵衛他村役人・五ヶ村御人中	付紙を付けて宝暦三年四月、大宮原村文書の控えを鹿塩村からの文書とする「下書き」。樽木代材木を鹿塩村が請け負うに当たりそれらの仕出方	397
403	44	(一) (二) 年忌書付を以奉願候御事	宝暦三年 西四月	一通	六ヶ村名主組頭惣吉姓所代・千村立右衛門御役	樽木代材木を納めてきたが、樽木は遠州船明、材木は江戸材木蔵納である。江戸へ運ばれるまでに腐るなどして生減木多くなる。材木も船明納にしてほしい	98
404	宝暦45	(一) 年忌書付を以奉願上候御事 (二) 覚	宝暦三年 西四月	一通	六ヶ村名主組頭惣吉姓代・飯田御役所	江戸蔵納めの材木生減木分、使段増木の事について江戸にも願ひ出ており、力添えを願いたい、(二) は旅人用一日一人七十文	99
405	46	杣組請負證文之事	宝暦三年 西四月	一通	杣頭立 衛門他・彦兵衛	鹿塩村が今年の年貢樽木代材木を請け負うに当たり、杣組を引き受ける。八両の請取。公儀・法度など青かないことの一札	398
406	47	杣方間知改請取帳	宝暦三年 西七月十四日	一冊		七月十五日より十六日、直左衛門組出す材木本数、木種、寸角記録、他に清左衛門、普兵衛、庄左衛門、文蔵組の分	903
407	48	御樽木仕入三分二金割付帳	宝暦三年 西七月	一冊		樽木一万五千挺を宝暦四年鹿塩村より割り出し、内五千六百五十挺鹿塩村御樽木納、残り九千三百六十挺の代金三十二両余を南組と北組に割り付ける	904
408	49	差出之申一札之事	宝暦三年 西八月	一通	本人称兵衛 他・名主彦兵衛	九年以前延享三年丑年、身替ら懸く出来、このたび後悔して帰国、今後母に孝行、妹たちを良く見る	100
409	50	南組御上納帳	宝暦三年 西九月五日	一冊	名主彦兵衛 忠兵衛伴四郎	宝暦三年上納帳。未頁に北組分も記されている。総高三百四十七石二斗三合	586
410	51	村方諸留置々書帳	宝暦三年 西九月五日	一通	名主彦兵衛	宝暦三年九月五日付け字間帳納めの記事を始めとして、宝暦五年四月までの御用村用書き留め	905
411	52	上納訳ケ下帳	宝暦三年 西九月五日	一冊	名主彦兵衛他	上納高を高掛りで割り付けた下帳	906
412	53	御樽木代三分二金割帳	宝暦三年 西十月二十六日	一冊	鹿塩村南組名主忠兵衛	二両永三百三十三文九分二厘を北組、一両二分余を南組に割り付ける。金割一丁につき二十六文	907
413	54	(一) 酉年免定之事 (二) 丑年免定之事 (三) 寅年免定之事 (四) 辰年免定之事	(一) 宝暦三年西十月(二) 宝暦七年五月(三) 宝暦八年十月(四) 宝暦十年辰十月	四通	千平右字都只兵衛門、湯浅儀兵衛・鹿塩村名主組頭惣吉姓	宝暦二、七、八、十年の免定	399
414	55	午年御年貢御代材木江戸御蔵前米減金割付帳	宝暦三年 西十一月二十五日	一冊	名主彦兵衛 勘定人新六他	午年材木二百五十五束減金九両二分余を北組、南組に割り付ける	908
415	56	御年貢米新田畑御取米御樽木計帳 (付文書・覚)	宝暦三年 西十一月二十五日	一冊	名主彦兵衛	本新田畑年貢取米、御樽木高計帳。本田畑三百二十八石五斗九合、新田十九石余	909

416	57	(一)御年貢本新田畑見取御拝借米代取立帳 (二)見取御年貢取立帳	宝暦三年 西十一月二十五日	一冊	名主彦兵衛 勘定人新六他	本新田畑 見取畑の年貢及び拝借米代取立帳	910
417	58	御拝借米割付ケ算帳	宝暦三年 西十二月	一冊	名主彦兵衛	宝暦三年分拝借米二十五石の割付覚え	911
418	59	差上候一札之事	宝暦三年 西十二月十七日	一通	鹿塩大河原村名主組頭百姓代・飯田御役所	酉年の年貢榎木は実際に岡村合計二万七千八百二十九挺割り出し、鹿塩は六千二百九十三挺過漕割り出し、大河原村々は千四百四十六挺の過漕となった。この過漕は来年分の年貢計算に入れてほしい	101
419	60	相対入申證文之事	宝暦三年 西十二月二十一日	一通	本人次郎七他・彦左衛門、彦兵衛	平吉を養子に申し受け、田畑、山林残らず、家督も譲り相続させる。万一不縁の時は世間並みの給金として年に二両支給う	587
420	61	(一)大河原より遺書取覚え (二)覚 (三)書簡	(一)宝暦三年西(二)月(三)日(二)宝暦三年西十二月(三)日(二)宝暦三年西十二月(三)日	三通	大河原村右馬之丞・鹿塩村彦兵衛 喜兵衛	大河原村材木工場から鹿塩村へ送られた諸遺書の覚えと関連する大河原村右馬之丞の書簡	1465
421	62	来亥年より御年貢納方切替御願二付私井村方存念申上候様三被仰付候間指上申口上書之御事	宝暦四年 戊辰正月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他村役人・飯田御役所	榎木も良き小木苗ばかりなので来年からの年貢は一両につき千樽六百挺の代金納したい	102
422	63	当戌年迄三而御代材木御年奉相勤申候二付来亥より及御切替三候二付銘々之御仕方ヲ以今度從茲出そう様二付六ヶ村一統御年貢御切替奉願上候一札之事	宝暦四年 戊辰正月	一通		来年からの年貢は小川、加々須、南山村は榎木代金納で三百五十挺替え、鹿塩、津内路村は四百挺替え、大河原村は材木納を希望した	103
423	64	諸遺書取覚え (付願文書・覚)	宝暦四年 戊辰一月吉日	一冊	鹿塩元へ	御榎木御代材木山会所において、大河原渡場よりの、よぎ、なた、榎、つるはしなど山仕事遺書調べの覚え	912
424	65	覚	宝暦四年 戊辰閏二月十五日	一通	鹿塩村名主彦兵衛・飯田御役所	宝暦四年の年貢榎木は大河原村より切り出したが、尺へ百三十八本八分六厘不足になったので、宝暦三年の材木と一緒鹿塩村から勘定する	400
425	66	事(一)(二)年貢書付を以奉願上候御事	宝暦四年 戊辰閏二月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・飯田御役所	日雇持持方賃銀支払い願ひ、榎木代材木納の最終年なので過不足納について定めてほしい	104
426	67	事年貢書付を以六ヶ村一統奉願上候御事	宝暦四年 戊辰閏二月	一通	山方六ヶ村名主組頭惣百姓代・飯田御役所	榎木代材木の割り出し、山入りは三月なので、山入り金高をお渡しください。閏月があり、今年は四月同然なので三月月上旬に山入りすることゝ願ひ	105
427	68	事年貢書付を以六ヶ村一統奉願上候御事	宝暦四年 戊辰閏二月	一通	六ヶ村名主組頭惣百姓代・飯田御役所	今年で年貢榎木代材木納は終わる。榎木は船間納めだが材木は江戸蔵納め歩藏が多く出て、弁納により村方は困窮した。来年からの年貢は代金納で願ひたい	106
428	69	覚	宝暦四年 戊辰二月二十六日	一通	彦兵衛・飯田御役所	宝暦三年酉分の年貢材木代金として十両の受取	588

429	70	当戌年御樽木材仕出申渡覺	(宝曆四年) 戊 三月二日	一通	(飯田御役所・ 鹿塩村)	樽木一万二千四百丁、材木三千三十本を仕出す申し渡	1466
430	71	御朱印	宝曆四年 戊 三月二十六日	一通	相模・ 衆中	牧野物重郎による御林見分の際に、入用の人員の手配	107
431	宝曆 72	指出申證文之事	宝曆四年 戊 三月	一通	四郎三・五人組・七、四 郎・右衛門・弥三郎・御 頭中	四郎三が、法度の行いをしたというが、そのようなこ とは行っていない、という訴えを五人組が預かつて御 頭に願ひ出た	108
432	73	乍次書付を以申上候事	(宝曆四年) 戊 四月	一通	鹿塩村名主・彦兵衛・他村 役人・飯田御役所	村高也、扱は現在の所健在、書き亭しを送る	109
433	74	差上候御請之事	(宝曆四年) 戊 四月	一通	鹿塩村名主・彦兵衛・幸 内・飯田御役所	御林奉行牧野物重郎が見分のため来村するので必要な 準備をする	110
434	75	差上候口上書之事	(宝曆四年) 戊 四月	一通	六カ村名主・ 飯田御役所	川村屋新兵衛が引き取る材木、江戸木場地代、日雇賃 などに付て	111
435	76	酉出御樽木銘々中木割付帳	宝曆四年 戊 四月	一冊	鹿塩村南組名主・彦兵衛 他	宝曆三年酉に出した南組関係樽木中樽木五千四百十六 挺二分の内貯覺え	913
436	77	酉出樽過木書出帳	宝曆四年 戊 四月	一冊		計中樽木二千三百六十九挺七分の樽木出しすぎ、各人 明細帳	914
437	78	(書付・先触)	(宝曆四年) 戊 六月十日	二枚	相模・ 村々	御林見分のため牧野物重郎来村の先触れ状写し	589
438	79	御用状	(宝曆四年) 戊 六月二十七日 八月七日	一通	飯田御役所・ 鹿塩村	戌年の大河原、鹿塩両村出入りは牧野物重郎来村出迎 えについてである。このときの御役所から特に彦兵衛 への呼び出し状	1358
439	80	此度御年貢納御切替之儀奉願上候処 ニ堪御樽木御用ニ付少々羨望立候様 ニ再御吟味被仰渡村々御樽木山詮議 仕上申上候	宝曆四年 戊 六月	一通	鹿塩村他四カ村・ 飯田御役所	大河原村を除く五カ村年貢切替願ひ(現金納)をして いるところに來た樽木御用についての返答。榎は小木 苗木ばかりで樽木は出せないのでも十年ほどすれば生長 するのでそれまで年貢は金納を願う	1359
440	81	差上申一札之事	宝曆四年 戊 六月	一通	鹿塩村名主・彦兵衛・幸 内・飯田御役所	御林奉行牧野物重郎が大河原村の樽木山見分のため来 村する。この出迎え人足などの手配は村境までとする など、この件について大河原村と鹿塩村の扱ひ方の相 違申し立て	1360
441	82	大河原村来多より申上迄々年村高切 御樽木割出シ可相納御頼仕候二付年 取事付を以奉願上候御事	宝曆四年 戊 六月	一通	鹿塩村名主・他村役人・ 飯田御役所	大河原村は来多から申までの十年、他の五ヶ村と違い、 樽木納とするが、御樽木を境境を越えてとらない	112
442	83	差上申一札之事	宝曆四年 戊 六月	一通	鹿塩村名主・組頭・牧野 惣十郎・浅岡喜左衛 門・河内弥三郎	鹿塩村御樽木山の見分は、青山草竹生い茂り、とても 予定のすべては日数内では不可能のこと。里数は南北 三里、東西は不明、木品、木数などの概略は御林帳の 通り	401

443	84	差出申連印之事	宝曆四年 戊 六月	一通と 一冊	鹿塩村物置百姓残らず・ 御頭中	江戸御奉行が御林見分に来村するに当たり、大河原村 が灘津まで出迎える際に鹿塩村からも出迎えを合 ようとしたことだが、今度は大河原村への御用で、鹿 塩村は送迎はしない	402
444	85	春日御造立入用帳	宝曆四年 戊 七月七日	一冊		春日宮造営の材料、大工などの手間賃入用覚え	1564
445	宝曆 86	乍恐口上書を以申上候御事	宝曆四年 戊 七月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	江戸御林奉行の出迎えにつき、大河原村と出入りにな った。従来行ってきた出迎えに付いて鹿塩村の言分	590
446	87	乍恐口上書を以申上候御事	(宝曆四年) 戊 七月	一通	(大河原名主他・ 飯田御役所)	御林奉行来村の際の出迎えなどは大河原村古来定法 のように行いたい。鹿塩村へ仰せ渡しを願う、という 大河原村願書の写し	591
447	88	乍恐口上書を以申上候御事	宝曆四年 戊 七月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	御林奉行の送迎は大河原村鹿塩村それぞれで村内は行 なうこと、鹿塩村から灘津まで出迎えた前例はなし	1361
448	89	両江江御林御奉行御越二付人足出入 諸人用帳	宝曆四年 戊 七月から十月	一冊	名主彦兵衛・幸内他	八月九日付けから十月付けまで御林奉行廻村に際し働 いた人足など諸費用の覚え	915
449	90	乍恐書付を以奉願上候御事	宝曆四年 戊 八月十四日	一通	六カ村名主組頭・ 飯田御役所	宝曆三年申大河原伐り出し材木の筏下げが遅れ、宝曆 三年夏分の材木蔵裏がなくなつたので、申年材木をと かず、その入用費について	113
450	91	御居責御切替二付御樽木少々二而茂 割出し候様更三御吟味被仰付候二付 書付を以申上候御事	宝曆四年 戊 八月(十四日)	一通	鹿塩村名主彦兵衛他村 役人・ 飯田御役所	鹿塩・清内路の山内にある榎はすこでも榎木を産出 できないほど小木目ばかりである。元伐り一本で定 法樽木は一長程度である	114
451	92	差出申口上書之事	宝曆四年 戊 八月(十五日)	一通	六カ村名主組頭惣百姓 代・飯田御役所	去年年貢代材木の内、越前へ出た丸ね木処分には立ち 会えない。お上で処分してほしい	115
452	93	(申上候一札)	(宝曆四年) 戊 八月二十六日	一通	鹿塩村名主彦兵衛・ 飯田御役所	御役人方が鹿塩、大河原村両村においでの際はそれぞ れ送迎するが、大河原村だけの用事の場合は鹿塩村は 人足など出さないことなど、前例を違けて申し立て	1362
453	94	覚	宝曆四年 戊 八月	一通	鹿塩村名主他・ 飯田御役所	寛年改めの田畑と山畑取場の広さ、田畑七町五反余 山畑二十八町三反	1363
454	95	(一) 乍恐書付を以奉願上候御事 (二) 乍恐書付を以奉願上候御事 (三) 当十四日二鹿塩村御願書差出候 二付大河原村江迄被仰付候二付乍 恐願書上仕候御事	宝曆四年 戊 八月	三通	鹿塩村名主彦兵衛他村 役人・ 御役所	江戸表から御林奉行来村の際、出迎えについて大河原 村と争いになったこと他、飯田御役所に訴えた。(二) は(一)の下書と(三)は大河原村の返答書で、大鹿 村前島家文書55、宝曆24と同じ	116
455	96	覚	(宝曆四年) 戊 八月	一通	飯田御役所・ 六カ村名主	年貢樽木代材木納期宝曆三年申年材木伐り出しを引き 受けた入用費の、六カ村割り当ての覚え	592
456	97	大河原鹿塩両村出入二付口書差上候 控帳	宝曆四年 戊 八月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛	江戸御役人來村の際の出迎えに付いて大河原鹿塩両村 が出入りとなつた。八月十六日の「口書」をはじめい くつかの文書と出入りのいきさつの記録	593

457	98	寛	宝暦四年 戊 九月十一日	一通	飯田池田町専右衛門、 市左衛門・荒町御役所	鹿塩・大河原村が江戸奉行来村差迎人足などの件で出 入りとなつたものを飯田の宿が内済するよう話し合 つたが両村納得しないこと	1364
458	99	書付を以奉願上候事	宝暦四年 戊 十月六日	一通	六カ村名主組頭惣吉姓 代・飯田御役所	当年に伐下げの酉年分材木はこれまでとおり差配する	117
459	100	書付を以奉願上候御事	宝暦四年 戊 十月六日	一通	小川・岡山・加々須 村役人・飯田御役所	当戌年の伐下げは酉年分の材木で、川村新之丞が船給 を請け負う。さしあたり入用金・工高を前借りしたい	403
460	宝暦 101	当六月十一日御樽木山為御見分江戸 表より牧野惣重郎様御越二付御迎人 足・大河原村之内籠沢耕地・太草境町場 継両村出入二付取扱和談為取替證文 一札之事	宝暦四年 戊 十月十二日	一通	大河原村名主右馬之丞 他村役人・ 鹿塩村名主他村役人衆 中	江戸からの諸奉行の出現と方と関連した事項につい て、出入りとなつたが、和談した結果の了解事項の詳 細一札 通同文	404
461	102	(一) 寛(書付) (二) 奉願上候口上寛 (三) (口上書) (四) (此段此度)	(宝暦四年) 戊 十月	四通	池田町四人市左衛門 他・ 御役所	大河原・鹿塩村が一村限りの御用で来村する公儀役人 で迎え方などの取り扱い方について出入りとなった際 の役所への扱いかた通知	1365
462	103	六カ村一統此酉年分御材木納方御 願に付申合セ一札之事	宝暦四年 戊 十月	一通	小川村他五カ村村役 人・大河原村名主右馬 之丞	代材木納九年目宝暦三年酉分の材木出し方について申 し合おせの一札	118
463	104	(一)(二)御樽木山御見分三付差上申書 付之事	宝暦四年 戊 十月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他村 役人・御役所	椎立・米沢山で小木若木ばかり、樽木を定法で割り出せ ない。十年ほど後には腐食して割り出せる(二)通箇文	119
464	105	御樽木朝改寛帳	宝暦四年 戊 十月(十二月廿日)	一冊	鹿塩村名主彦兵衛 名 主代書三左衛門	最樽木八十八十九挺の樽木調べ。上中下の品等と樽 木割り出し人書きよび	916
465	106	去年江戸木場入用遠州勿木・減申年 葛嶋材不引除入用割付帳	宝暦四年 戊 十一月二十四日	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他	宝暦五年の江戸木場入用費・掛帳における赤減木・代 金、および宝暦三年葛嶋渡場における材木処理費を割 り付ける	917
466	107	寛	宝暦四年 戊 十二月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・飯 田御役所	当宝暦四年に根伐りした樹木、数、の寛々。計千九 百六十二本、榎千七百四十三本、樺千九百七本、唐松 九百五本、姫千二十八本	405
467	108	寛	宝暦四年 戊	一通		高入になるべき場所を吟味したときの書付。大河原村 早取り場を書きとめた	120
468	109	乍ら書付を以六カ村一統奉願上候御 事	宝暦四年 戊	一通	六カ村名主組頭惣吉姓 代・飯田御役所	十年の樽木代材木納が終わる。江戸材木蔵納で出た赤 減木并納についてと、来年からの樽木假敷を全く巨抵替 の願	121
469	110	書簡	宝暦五年 亥 二月二十五日	一通	牧野惣十郎役所・浅岡 喜右衛門、河内弥三 郎・鹿塩村名主彦兵衛 伴二郎	去る戌年まで鹿塩山から切り出した樽材木の請負積 り書他、書付を差し出すように	406

470	111	酉年御仕入樽代渡	宝暦五年 亥 二月	一冊	名主彦兵衛他	酉年出す樽木二万三千九十七挺(中樽廻し九千六百九 丁)の内、仕入れ樽分三萬二分余を割り渡した受取り	918
471	112	乍兵書付を以奉願上候御事 (慶安なし)	宝暦五年 亥 二月 (金四月二十五日)	(三通 の写し を一通)	六カ村惣代五郎左衛 門・御役所	亥年からの年貢樽木通致の願ひ、一両につき五百挺替 えの金納。村々困窮の事件災害などが記述されている	122
472	113	御請書	宝暦五年 亥 四月十二日	一通	鹿塩村名主彦兵衛・ 飯田御役所	鹿塩村が材木伐り出しを願うなら見積書を出すように との仰もだが、宝暦四年代材木納期最後の材木の問知 がすみ、その後調査して願書を出すようにする	594
473	宝暦 114	(一、二鹿塩村飛地落合田境見分改覧 (二、四、五覧	宝暦五年 亥 四月十七日	五通	大河原村名主右馬之 丞・傳左衛門・地主彦 兵衛	落合にある鹿塩村飛地彦兵衛地主の境について、寛延 元年御奉行に出した総図面に従って再確認した	407
474	115	御材木御願堅村中物運印帳	宝暦五年 亥 四月十二日	一冊	鹿塩村	御材奉行牧野物十郎から鹿塩山樵梅などの材木見積も りを求められ、御用木は地元願いをききとけるよう、 連印で願う	919
475	116	乍兵書付を以奉願上候御事	宝暦五年 亥 四月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・ 御役所	戌年分の樽木代材木請負三千三百二十本を出し、問 知の結果二千九百六十本になった。尺三三百六十本 不足、歩減木が多いのでこの取敢についての願ひ	408
476	117	大井御請御入用高割付帳	宝暦五年 亥 五月二十日	一冊	鹿塩村南組名主彦兵衛	去る丑年から戌年まで大井通りを算請した。入用費を 各戸村々に割り当てる。鹿塩村分は高割で二両二分余 村民へ割付徴収した	920
477	118	寛	宝暦五年 亥 六月廿日	一通	定右衛門他・ 彦兵衛	御役所御用の享保・元文、寛保、延享の免定を計十通 持出す	123
478	119	差出申一札之事	宝暦五年 亥 六月	一通	清五郎他五人組・ 御名主中	駿河山木師と称する男が山越えて鹿塩村へ来たとき、 俵と米の世話をしたことは不法で今後心配かな	124
479	120	差上申一札之事	宝暦五年 亥 八月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・飯 田御役所	当三日月御林奉行牧野惣重郎から材木伐り出しにつき細 書を渡された。早速金主を探しているが遅れている	125
480	121	(一、二相見々申付之事	宝暦五年 亥 十月十七日	一通	本人新六他・ 善左衛門	「おくめ」に渡した金子五両の返金や實地についての 取り決め、土地買取の取り決め	1565
481	122	御年貢本新田畑見取御拝借米代取立 帳	宝暦五年 亥 十一月二十九日	一冊	鹿塩村南組名主組彦兵 衛・他	本新田畑見取年貢と拝借米代金、宝暦五年分の取立帳	921
482	123	御延貢本新田畑御取米御樽木計帳	宝暦五年 亥 十一月	一冊	鹿塩村南組名主組彦兵 衛・他	宝暦五年分本新田畑延貢計帳	922
483	124	御延貢計割付帳	宝暦五年 亥 十二月吉日	一冊	名主組彦兵衛	本新田畑、新田と見取年貢、および御入用、拝借米 代を割り付ける。中樽木九千七百五十九挺二分七厘	923
484	125	(一)見取御年貢取立帳 (二)御年貢納金控書両ヶ月利息 取立帳	宝暦五年 亥 十一月吉日	一冊	南組名主組彦兵衛他	見取総区三十五町八反七畝二十一歩の年貢取立及び 年貢納金一ヶ月遅れの利息二貫二百八十七文の取立帳	924
485	126	寛	宝暦五年 亥 十二月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他村 役人飯田御役所	宝暦四年戌に根伐した樹種毎の樹木数、合計二千九百 六十三本	126

486	127	作忠書付を以奉願上候御事	(宝暦五年)亥	一通	(幸内)・ (御役所)	延享五年に村を南北に分けたが南組泊まらず(幸内)が立ち合っていたが、遠方で公用ままならず、名主組を互争つ年季でやつてゆきたい	127
487	128	名主在問御役儀願二付申合二札之事	宝暦五年 亥	一通	幸内 彦兵衛 借間郎 忠左衛門	名主組四人は二人ずつ年番で名主を勤めるよう申し合っていたが、今後は四人一総で勤める	409
488	129	作忠書付を以奉願上候御事	(宝暦五年)亥	一通	(鹿嶋村)・ (御役所)	榎木代材木納終了後の亥年、すなわち宝暦五年に尚木として「来子年より辰年まで五年で二万本の請木」払い下げ願書の下書き	1366
489	宝暦 130	宝永元年より延享元年迄之分御 免定控	宝暦六年 子 正月二十七日	一冊	組頭左衛門他・ 彦兵衛	宝永元年から延享元年まで四十二年間の免定の写し。ただし見当たらない年の分五通もある。役所の御用で調査し写し報告したもの	410
490	131	鹿嶋南組御用留書帳	宝暦六年 子 二月五日	一冊	南組組頭左衛門	前半は宝暦六年の主に榎木代材木納に関する記事、後半に宝暦七年、八重元年などの御用状が写されている	925
491	132	戌年出御榎木御年書勘定帳	宝暦六年 子 三月十日	一冊	鹿嶋村南組名主彦兵衛 他	宝暦四年に榎木八千九百七十七丁仰せ付けられたうち、五十六丁四丁十は納め、残りは仕入れ榎木	926
492	133	榎木代通書書付	宝暦六年 子 三月	一冊と 六枚		宝暦四年戌に出した榎木四十二挺余の覚書	927
493	134	(一)操持御免帳 (二)地盤請人用并金出シ方御勘定帳	宝暦六年 子 六月五日	一冊	大嶋彦兵衛	「操持度人用」として諸人用品、金銭の覚え	1566
494	135	(一)〃(五)覚	宝暦六年 子 八月	五通一 包み	鹿嶋村名主彦兵衛 飯 田御役所	已から亥年まで名出役役人が滞在中に消費した米の量報告(五)は 覚	128
495	136	五ヶ村銘々江差出シ申扱書付之事	宝暦六年 子 九月	一通	扱人加々須村名主七左 衛門 鹿嶋村名主衆	年貢榎木代金納について江戸へ行っている総代二名の交替二名の所用金は大河原村を別として五ヶ村割りとする	411
496	137	五ヶ村銘々江差出シ申扱書付之事	宝暦六年 子 九月	一通	扱人加々須村名主七左 衛門 鹿嶋村名主衆	去る戌年に年貢榎木代金納について代表が江戸へ行つたが、その入用費分担について加々須村の異議	595
497	138	金納御願二付六ヶ村惣代江詰之内 六ヶ村立会路金勘帳	宝暦六年 子 九月	一冊	六ヶ村立会い、鹿嶋村	宝暦四年戌に六ヶ村総代が年貢切替金納につき江戸詰めした。その連や江戸における入用費割り当て	928
498	139	御檢地場御吟味二付是所分別書上帳	宝暦六年 子 閏十二月	一冊	鹿嶋村名主左理定右衛 門他・飯田御役所	田畑是所を吟味、明細の書上	929
499	140	信州伊那郡鹿嶋村高区別并明細帳	宝暦六年 子 十二月	一冊	鹿嶋村名主左理定右衛 門他・御役所	延享五年御地に基づく高区別明細帳。延享三年の帳面を左右にした宝暦五年版	596
500	141	護渡申家屋敷之事	宝暦六年 子 十二月	一通	譲り主彦兵衛他請け 人・新六	家一軒、屋敷三畝十五坪の代金十二両で譲る	1367
501	142	田畑是所引高小前帳	宝暦六年 子 十二月	一冊	鹿嶋村名主左理定右衛 門他・飯田御役所	前々から是所として申けてきた場所などは、依然として記し返り難しく、引き高として書き上げる	930
502	143	(一)一札 (二)口上	(宝暦七年)丑 三月十五日	一通	大河原村右馬之丞・ 頸意坂 中ノ坊	江州多賀神社の御免勘化に関する「札」と口上	1368

503	144	(一、二) 百姓持林ヶ所書上帳亨	宝暦七年 丑 六月	一冊	鹿塩村名主在理組頭定 右衛門他・飯田御役所	鹿塩村中入会 百姓持林一カ所の所在の報告 一冊 同文	597
504	145	乍恐口上書を以奉候御事	宝暦七年 丑 八月十二日	一通	鹿塩村長官百姓彦兵衛・ 千村平右衛門御役人中	殿様次子継目の懸に巡村するが、現在名主表ではない がお目見 本陣を召き受けなければならないかを問う ている	412
505	146	差上方申一札之事	宝暦七年 丑 八月	一通	鹿塩村名主在理組頭定 右衛門他・千村平右衛 門御役人	江戸へ代継のお礼に行つた殿様次子所村々に公儀 へ送度 村中作法なども仰せ渡しを裏まつたこと	413
506	宝暦 147	百姓持山持林御吟味二付被仰付候所 御用回置帳	宝暦七年 丑 八月晦日	一冊	鹿塩村彦兵衛	宝暦七年八月二十七日付けから享暦八年二月三日付け まで、御用村用書き留め日記	1369
507	148	組下得心印形人数并無印形人数書費 帳	宝暦七年 丑 九月十三日	一冊		持ち林印、総人数七十七人の内、得心人数五十九人、 無得心十八人の名前	931
508	149	切添立出シ見取場御高入有無書上帳	宝暦七年 丑 十月	一冊	鹿塩村名主在理組頭定 右衛門他・飯田御役所	見取田畑山畑三十五町八区七畝二十一歩の内訳とし て、それぞれにどれほどが高入れ出来ないか、理由を 述べて記している	598
509	150	(一) 百姓持山持林書上帳 (二、三) 百姓持山持林ヶ所書上帳	宝暦七年 丑 十一月	二冊	鹿塩村名主在理組頭定 右衛門他・飯田御役所	百姓持山持林百二十五カ所 (一) 書上帳名主彦兵衛控え 持ち山持ち林の持ち主 名前入り (二、三) 同、場所名と広さの書上 文化十三年に役所から借り出し与えられた文書	600
510	151	乍恐書付を以御訴申上候御事	宝暦七年 丑 十一月	一通	鹿塩村百姓七十人念惣 代伴四郎甚内・千村 平右衛門御役人	百姓銘々持ち林と思つていた中山という内山が、御樽 木山でもなく彦兵衛持ち山という。このことについて 出入りとなり、江戸への訴状	414
511	152	乍恐口上書を以御内證三而奉申上候 御事	宝暦七年 丑 十二月二十五日	一通	鹿塩彦兵衛・ 久々里御役人衆	寛文十年に雑木を売つたこと、延宝四年に被官を調べ たこと、延宝七年の中山境界論争のことなど、證文が ある事を知らせ、相手には内証にしてほしいと申し立 てている	599
512	153	百姓持山持林入会二山林永割付帳	宝暦七年 丑 十二月五日	一冊		山林永割北岡組五百一十一文九分上納、百姓持山持林百二 十五カ所、持山二カ所	932
513	154	相定申一札之事	宝暦八年 寅 二月二十九日	一通	鹿塩村名主在理組頭惣 代定右衛門他・惣百姓 中	山林永との関わりで御樽木山との境を明確にして、他 は内山の見取り場として本草の採取は入会をする。各 見取り場の一覽書え	415
514	155	寛延免定之事	宝暦八年 寅 十月	一通	千村平右衛門・ 鹿塩村名主組頭中	当寛より来る迄までの十年間の定免通達	130
515	156	六斗納米割付帳	宝暦八年 寅 十二月	一冊		寛三百四十七石三斗二合に折し六斗納米は百石につき 二斗で、計六斗九升四合四勺、中樽百十五挺七分	933
516	157	(一) 百姓持林山入付帳 (二) 御年貢御取米帳	宝暦八年 寅 十二月	二冊	鹿塩村名主在理組頭定 右衛門他	百姓持林と年貢取り米高書き出し帳	934

517	158	南組御上納帳	宝暦八年 寅 十二月五日	一冊	彦兵衛	宝暦八年上納帳、南組分、各人別書上	601
518	159	一村隈惣代之者御請申上候一札之事	宝暦九年 卯 閏七月	一通	鹿塩村名主任埋組頭 之丞・左次右衛門・飯 田御役所	衣食住、身持ち、稼穡など百姓の守るべき事を守るこ との一札	129
519	160	乍取書付を以奉願上候事	宝暦九年 卯 閏七月	一通	南組惣代左衛門・北 組惣代左衛門・飯田 御役所	鹿塩村百十五人の南組が十六人組村役人の願いによ り名じ呼ばれた。相談成り立たず、南北両分けてそれ ぞれ村役人を置く	416
520	161	亭村隈御請申上候一札之事	宝暦九年 卯 七月	一通	信濃国伊那郡・千村平 右衛門御役所	前々から百姓守るべき事を守らない者がいることが奉 行に知られ、改めて守るべき事のお触れを守る一札	131
521	宝暦 162	信濃国伊那郡鹿塩村新田検地帳	宝暦九年 卯 九月	一冊	千村平左衛門 他	六尺一分間辛で二区三百歩の検地を行った記録。見付 田五区六歩、見付畑二町七反九畝三歩、山畑五畝	602
522	163	(金程改高)	宝暦九年 卯 十月	一通		宝暦八年寅と九年卯年の本田新田別開畑、山畑など改 高算総反合わせ三十五町八反七畝二十一歩	935
523	164	(一)当所在御年貢本田御新田辻目録 (二)喜左衛門組下八人辰年御年貢辻 目録 (三)辰年御年貢勘定目録 (四)巳年御年貢勘定目録 (五)午年御年貢目録定右衛門喜左衛 門組下四十三人分	(一)宝暦九年卯十二 月 (二)宝暦十年辰 十二月 (三)宝暦十 年辰十二月二十四 日 (四)宝暦十二年 巳十二月二十二日 (五)宝暦十三年未二 月	五通	名主任埋組頭左衛門・ 飯田御役所	宝暦五年から宝暦十二年まで四年分年貢勘定目録 鹿塩村定右衛門組は別勘定にしている	132
524	165	奉差上御請書之事	宝暦十年 辰 七月	一通	名主任埋組頭左次右衛門 他・飯田御役所	宝暦九年鹿塩村を百十五人組と四十九人組に分けるこ とを許可されたことについての請け書。村役人以外に 百四十六名署名押印している	133
525	166	口上覚	宝暦十年 辰 七月	一通	仕埋組頭喜左衛門・定 右衛門・御役所	久々里表の裁件によると、百十五人と四十九人組共に 南北に分けることを得心しない。組頭が組を治め難い こと、定衛門帳の作り方についての口上	1370
526	167	(一)(二)乍取書付を以奉願上候御事	宝暦十年 辰 七月、八月	二通	名主任埋組頭定右衛 門・同喜左衛門・百姓 惣代伴左衛門・飯田御 役所 久々里御役所	百十五人組南組と四十九人組北組に二分する。古来 通り請事行う。南北組の呼び名は村内限りで定衛門など には書かない。人数が必ずしも正確ではないことにつ いて	417
527	168	去外之閏七月百四十五人組四十九人組 と相別り候趣意左三申上候	宝暦十年 辰 八月	一通	鹿塩村名主任埋組頭喜 左衛門他・久々里お役 人衆中	宝暦九年に百十五人組と四十九人組の二つに鹿塩村が 別れたいきさつ	418
528	169	(書付)	宝暦十年 辰 九月	一通		宝暦十年から五年間で伐り出す御用木と敷木を栗寛川 岸するについて村々へ触書を廻すこと	1371
529	170	喜左衛門組下八人辰年御年貢辻目録	宝暦十年 辰 十二月	一通		九人分の当辰年貢と伴惣代、宿場六尺梁米、山林 永の埴清	419

530	171	辰年御年貢并御座借米代六石給米代 山林永共三九人分取立帳	宝暦十年 辰 十二月	一冊	鹿塩村名主仕理組頭喜 左衛門	喜左衛門組九人分の年貢など取立帳	936
531	172	辰年御年貢取立帳	宝暦十年 辰 十二月	一冊	勘定人彦兵衛他	辰年貢取米六石五斗五升八合六分七匁の取立帳	937
532	173	巳年御年貢勘定覚	宝暦十二年 巳 十二月二十一日	一通	名主仕理組頭定右衛 門・勘定人彦兵衛他	定左衛門、喜左衛門、仙左衛門組下年貢上納分覺済の 申告	1567
533	174	新高御上納帳	宝暦十二年 午 正月十五日	一冊	彦兵衛	各人別高上納の書・帳 二十二石五斗一升九合 内訳 田五十二石五斗二升四合 畑方十九石一斗五合	603
534	175	請取覚	宝暦十二年 午 十一月十六日	一通	名主任理組頭定右衛 門・彦兵衛	当年年貢金三納受け取り、十二月に納納	420
535	宝暦 176	(御用状)	(宝暦十二年) 未 二月五日	一通	飯田御役所・ 名主仕理組頭定右衛 門、喜左衛門	申卯より午までの四カ年分未納と、午年分五石二分が 未納である。来る八日までに役所に勘定目録を持参せ よ	1467
536	177	作取書付を以申上候送書之事	宝暦十三年 未 二月	一通	鹿塩村願人惣右衛門・ 利兵衛、庄蔵・飯田御 役所	幸内、勝右衛門が訴え出たことについて返答書、堀坊 役について、名主組頭承認の事、村役人の申し付けを 聞かないことなど弁明	1468
537	178	作取書付を以奉願上候御事	宝暦十三年 未 二月	一通	鹿塩村願人五十人余 惣代幸内他、飯田御役 所	去る正月二十七日幸内寺住職が死したので村方相談 し、これまでのように堀坊成り立つようにとしたが、 異を申し立てる者がありまとまらない。村法が成り立 つように役所に訴えた	604
538	179	覚	宝暦十三年 未 四月	一通	大嶋彦兵衛・ 惣左衛門他	弥四郎の不埒で騒ぎが起こったが解決し、その酒代と して一画受け取る	421
539	180	切添新田畑切開新田切替山畑見取 四十九人組反別帳	宝暦十三年 未 十一月	一冊	傳兵衛	切添え、切開き、切替山畑の見取反別を四十九人組分 書き出し	938
540	明和 1	差上り申一札之事	明和五年 申 十月	一通		江戸表で殿様継目のお礼が済み、預かり所の村々へ改 めて請事・法度の申し渡しの請状	422
541	2	差上り御請書之事	明和五年 申 十月	三通	鹿塩村彦兵衛他・ 飯田御役所	三通問文、鹿塩村宗門帳は寛延三年以来南北二本で納 めてきた。旧来のように村中一本にまとめるよう仰せ を承知した。他に組分けに伴う村役人のこと	605
542	3	御年貢取立并田畑本田新田覚帳	明和五年 申 十二月五日	一冊	名主所	本田畑新田、借米代、伝馬人用、六石給米、田畑焼畑 畠取在貢書上。合計田畑米二万五千八百八十二石四匁三毛	939
543	4	大工木挽柳屋露蔵公覚帳	明和二年 酉 一月	一冊	大嶋彦兵衛左衛 門	四月三日付けから戌年まで露蔵人なら働いた人名、日 数、手当てなどの覚え	1372
544	5	人数数書上帳	明和二年 酉 三月	一冊	鹿塩村名主任郎他・ 飯田御役所	家数百十九軒、男数四十疋、人数千三百八十八人、男 六百八十八人、女六百百人	606
545	6	(一)酉年免定之事 (二)子年免定之事 (三)丑年免定之事 (四)卯年免定之事	(一)明和二年酉十月 (二)明和五年子十月 (三)明和六年丑十月 (四)明和八年卯十月	四通	千村平右衛門代字都只 右衛門、湯淺儀兵衛・ 鹿塩村名主	宝暦元年から明和四年まで十年定免、明和五年から安 永六年まで十年定免	134

546	7	金字請取一札	明和二年 酉 十二月二十三日	一通	大草村高野源五郎・ 鹿嶋村大嶋彦兵衛	年貢が金納になり二丁間を庄屋所へ納めた受取り	1568
547	8	(一)一札之事 (二)酒俵十ヶ年奉書渡證文之事 (三)(四)(書付)	明和三年 戌 八月	二通 二枚	与市・ 彦兵衛	与市持つ酒俵俵の内、俵俵の二丁石を彦兵衛が当役から来る未まで十年借り預る證文。同封されていた書付一枚は年号目付不明だが、酒造に付いての書え	607
548	9	差出之申口上書之事	明和三年 戌 十一月	一通	本人長八・ 大嶋彦兵衛	四人の者が当月二十二日に巨摩大谷山で総戦を鬼回りに見つかり、塩竈院 宝久寺や香林寺和尚もとりなしたが死なれず追放となった	423
549	10	当戌年御年貢本新田并真取小物成取立帳	明和三年 戌 十一月吉日	一冊	鹿嶋村名主左衛門・ 仙之丞他	本新田畑、切添え、焼畑年貢、宿場入用、六尺紹米、備米代の取立明細帳	940
550	明和 11	お房の道具并衣類蔵帳	明和四年 亥 二月六日	一冊	大嶋彦兵衛控え	お房の道具と衣類の書上げ。嫁入りのためのものか。当時の地主家の女性の持ち物がよく分かる	1569
551	12	(一)増減帳 (二)増減改帳	明和四年 亥 三月	一冊	(鹿嶋村)	明和三年の宗廟増減の調査書二冊。増四十一名、減三十八名。(二)は傳兵衛以下被官関係 (三)は彦兵衛以下被官その他	424
552	13	人数并家数書上帳	明和四年 亥 三月	一冊	鹿嶋村名主他・ 飯田御役所	家数百十九軒、人数千何百何十人、男何百何人、女何百何人、馬数四十疋、調査前下書き又は手本	608
553	14	宗廟御改書控蔵帳	明和四年 亥 三月	一冊	鹿嶋村名主和吉・塩泉 院、香林寺、宝久寺・ 飯田御役所	宗廟改め本文。 指申證文之事	941
554	15	從御公儀様被仰出之趣被仰渡候二付御請書	明和四年 亥 四月	一冊	信州鹿嶋村名主組頭百 姓代・千村兵右衛門飯 田御役所	特に武蔵、下総、上野、下野、常陸辺りにはよろしが、らぬものが多く、博打、三度笠など不相応に振る舞い、困窮の村方が離散々落したりする。しつかり取り締まるよとこの三月の通達に対する請け書	425
555	16	寛	明和四年 亥 七月	一通		朝鮮人参の上並商品とも一株ごとに極印をして定値段で売る事とお触れ、江戸、京の下売りの者の名簿	135
556	17	一札之事	明和四年 亥 九月吉日	一通	鹿嶋村名主和吉他村役 人・宮ノ上地主権九郎、 宮ノ上神主善三郎	宮ノ上皇大神宮の例年祭礼を三月朔日に定めた。その前日に掃除などを村方にて行う	426
557	18	一札之事	明和四年 亥 九月吉日	一通	鹿嶋村名主和吉他・宮 上神主善三郎	皇大神宮を市場上の富地へ移動、御宮を建て替える。例年祭礼はこれまで通り	609
558	19	御内分御尋二付十一ヶ村申上候口上	明和四年 亥 閏九月	一通	十一ヶ村名主・	榎木値段につき内分に吟味中ということを開いたの で、これまでの年貢の納め方を申立て、これ以上の 年貢増では村々立ち行かないことの訴え	427
559	20	寛	明和四年 亥 閏九月	一通	鹿嶋村名主彦兵衛・ 飯田御役所	田畑上、中、下の質入、小作人米値段の寛、竹木値段は入れない	136
560	21	御定納帳	明和四年 亥 十二月吉日	一冊	大嶋彦兵衛	べ三百二十七石八斗九升八合の上納高、村民各人の内 訳	428

561	22	新高上納帳	明和四年 亥 十二亘三日	一冊	鹿塩村名主大嶋彦兵衛	新高十二石二升九合の新高上納 各人内訳	429
562	23	新田御上納帳	明和四年 亥 十二亘三日	一冊	鹿塩村名主彦兵衛	高六斗四升六合庄三郎他 各人の新田高内訳	430
563	24	(一)く(三)寛 (四)く(六)寛 (七)差出申一札之事	(二)く(三)明和四年 亥三月 (四)く(七) 明和七年 寅二月十 八日 三月	七通	計九名・ 名主所	印行改め 新判鑑の届け	137
564	25	相權入申證文之事	明和五年 子 二月十九日	一通	中山被官喜八代幸左衛 門他・大嶋彦兵衛	当年から宗門に加ふ家来になること 謹事守ること	1373
565	明和 26	差出申一札之事	明和五年 子 六月	一通	本人宮下伴左衛門・ 大嶋彦兵衛 和吉	大嶋彦兵衛息子佐吉を宮下伴左衛門の養子とし 娘と 結婚 家督を継ぐ	610
566	27	差出申書付之事	明和五年 子 十月	一通	善左衛門他・ 名主中	出入りに付 役所から召状来る 諸人用などの払い 古例の通り守る	138
567	28	御拝借米割付帳	明和五年 子 十月	一冊	鹿塩村名主幸内・伴四 郎	米二十五石から諸費差し引き二十一石二斗五升を各数 二百三十四挺に割り付ける	942
568	29	(一)く(三)寛	明和五年 子 十一月	一通	飯田御役所・ 鹿塩村名主	当子から来る酉まで定免の通達	139
569	30	当子年御年貢新田見取并小物成取 立帳	明和五年 子	一冊	鹿塩村名主五郎左衛 門・善兵衛他	本新田畑 見取 小物成 など取立明細帳	943
570	31	差出候書付	明和六年 丑 三月	一通	本人善三左衛門他・名 主衆中	五人組の組み合わせに具合の悪くことがあり、組み合 わせを交えてほしい	140
571	32	造酒老本知計算改帳并年々造始より 造仕廻迄日記	明和六年 丑 十月八日	一冊	酒屋彦兵衛	明和六年、七年、八年の造酒高 売り上げ高など収支 のまとめ	1570
572	33	寛	明和七年 寅 一月十八日	一通	北原判助・ 鹿塩村名主彦兵衛	色買衣出入りにつき召呼び一泊二星の掛米三升の寛	141
573	34	差上申御請證文之事	明和七年 寅 一月十八日	一通	鹿塩村訴訟方 相手 方・千村平右衛門御役 所	訴訟方善左衛門 相手方与兵衛 明和四年に始まった 鹿塩村色買衣騒動の顛末と幕府裁許の讀状	611
574	35	差上申御請書	明和七年 寅 一月	一通	与平治 甚之丞 茂平 治各五人組 他名主組 頭惣官姓代・ 飯田御役所	明和四年に始まる鹿塩村色買衣事件の終結 与立治 甚之丞 茂平治はきこと叱り置くことを承知した	142
575	36	差出申書付之事	明和七年 寅 二月十五日	一通	善左衛門他・ 御名主中	出入りについて村方役人中に差違をかけ、加えて夫錢 などの支払いが出来ず都合してもらった。月末までに きつと勘定する	1469
576	37	差出申一札之事	明和七年 寅 二月	一通	本人善三郎・ 村方名主中	上京して吉田様のもとへ行きたい。御役所も認め、一 代領り丸山と名乗る事を許された。神事祭礼は勤める	612

577	38	差出申一札之事	明和七年 寅 三月廿日	一通	太郎兵衛・名主彦兵衛 同定右衛門	印形改め届け	1374
578	39	覚	明和七年 寅 三月二十一日	一通	喜兵衛・ 名主彦兵衛	印鑑改めの確認書	1470
579	40	増減下書御改帳	明和七年 寅 三月	一冊	(鹿嶋村)	客商増減の下改め、増四十七人、減四十七人	431
580	41	鉄砲御改帳	明和七年 寅 三月	一冊	鹿嶋村名主組頭惣百姓 代・飯田御役所	親師鉄砲二十三挺威鉄砲三十挺、計五十三挺の鉄砲改め	432
581	42	差出申一札之事	明和七年 寅 三月	一通	喜三右衛門他・ 彦兵衛	喜三右衛門、兼主は勝平と喧嘩になって訴訟事になるところを五郎左衛門他のとりなして穏便に解決した	1471
582	43	内済取扱書證文之事	明和七年 寅 三月	一通	扱人彦太他・ 飯田御役所	清兵衛と喜三郎が持地境界で争い、清兵衛が御役所に訴え仕込に、村内で収め内済とした	1571
583	明和 44	定	明和七年 寅 六月	一通	鹿嶋村名主組頭惣百姓 代・飯田御役所	徒党、強訴、逃散は御法度、もし知らせた者には褒美を与えるなどの定め、請け書	613
584	45	覚	明和七年 寅 十一月	一通		年貢、国役振、小夫への手当金、合計三十七両二分永二立三厘四毛の覚え	1572
585	46	(一)(五) 一札之事	(一)明和八年卯二月 八日(二)(三)明和 八年卯六月(四)、 五安永四年未閏十 二月	五通	鹿嶋村彦兵衛・ 大河原村右馬之丞、兵 左衛門	大河原村右馬之丞による至磨御用木弁木の伐り出しの際の入用金を、彦兵衛から土地を担保に借り受けた。借金證書	1573
586	47	寅年御年貢御勘定目録	明和八年 卯 三月	一通	鹿嶋村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	去る寅年の年貢榎木代金の勘定、未食返納米	143
587	48	御拝借米割付帳	明和八年 卯 十一月	一冊	鹿嶋村名主五郎左衛 門・喜兵衛	卯年分米十九石五斗と米十六石三斗を諸掛差し引き、差繰、百三十五斗に割り付ける	944
588	安永 1	相究ノ申隠居免之事	(明和九年安永元年 辰二月二十四日	一通	世話人太閤彦兵衛、宮 下五郎左衛門・宮下文 左衛門	飯米七俵四斗入り餅米三斗その他大麦、大豆、小麦、そば、小使金、くるみの木二本、田畑、馬、屋敷を隠居用に定める。片親になったときは半分量になる	1574
589	2	信州伊那郡鹿嶋村別小前帳	安永元年明和九年 辰三月廿日	一冊	名主彦兵衛、文左衛門	鹿嶋村田畑上中下評価、広さ、町書上	945
590	3	酒造御連上御吟味案件	安永元年明和九年 辰四月	一冊	飯嶋町名主人郎他酒 人残らず、御役所	酒造高と連上についての調書、飯嶋御役所報告	433
591	4	(一)御吟味三付申上候書付 (二)願御吟味三差上候書付 (三)御吟味三付差上申候書付	安永元年明和九年 辰四月	三通	彦兵衛、与左衛門・ 市岡才助	品々連上の内、水車連上について、径九尺と七尺の水車があり、連上を承知した。他水車に関する申し上げ。(三)は書式見本	1472
592	5	(一)差上候書付 (二)(三) 覚 (四)御吟味三付申上候書付	(一)(二)(三)明和九 年)安永元年辰 (四)安永元年辰十 月二十四日	四通	大嶋彦兵衛・ 飯田御役所市岡才助	以前から酒造りをしてきたが、元来少量四石なので運上は免ぜられていた。別紙のよき量で今後増量することはない。酒造連上は承知しがたい	144

593	6	明和九辰年免定享(辰年免定之事)	(明和九年)安永元年 辰十月	一冊	宇都呂左衛門・湯淺儀兵衛・鹿嶋村名主他	去々より来る酉まで十年免定。安永二年巳酉二月の享し	614
594	7	当辰年御年貢本新田畑買取井小物成取立帳	(明和九年)安永元年 辰十二月	一冊	鹿嶋村名主又左衛門・傳兵衛	本新田畑・見取り畑など年貢小物成取立帳 中樺木勘定	946
595	8	信州伊那郡鹿嶋村高反別井明細帳	安永元年 巳 三月	一冊		延享五年巳年檢地に基つく高反別と村勢の算。人数千三百七十六人 男七百三十九人 女六百三十七人	615
596	9	奉差上候御請書	(安永三年)巳 七月十七日	一通	大河原村名主弥治左衛門・鹿嶋村名主定左衛門・飯田御役所	江戸普請奉行兼地惣内と中島玄助の三州への往復路、西村にふる山本村への中馬を請ける	434
597	10	願被仰出差上候御請書	安永二年 巳 八月	一通	十二カ村名主・飯田御役所	一奉御を年貢金その他上納金にきせても良いという五月のお触れを承知した	145
598	11	覚	(安永三年)巳 十月廿日	一通	飯田御役所・鹿嶋村名主榎傳兵衛	明和七年寅の鹿嶋村・色眉衣出入御裁許御請書等享共三武通の江戸奉行所への提出を求めたもの	146
599	安永 12	(覚)	安永元年 巳 十月	一通	小川村佐・源内他	公儀へ村方所持の裁許證文や絵図面の写しを提供する件。小川村と小野村が代表で江戸へ持つてゆく。旅費の分担その他了解事項	1473
600	13	奉差上候書付	安永元年 巳 十一月	一通	鹿嶋村名主彦兵衛他・飯田御役所	鹿嶋村は全体が山中で場所が悪く、畑を田に変えるような所はない	435
601	14	津嶋御立符井御日待御饗祭り桶谷小除奉加御帳	安永元年 巳 十一月吉日	一冊	惣百姓代三郎兵衛	津嶋神社お祭りの奉加分損帳	947
602	15	巳年御年貢御勘定目録	安永元年 巳 十二月	一通	鹿嶋村名主他・飯田御役所	当巳年分年貢榺木代金納の勘定	52
603	16	(一) 巳年御年貢御勘定目録 (二) 巳年御年貢御勘定目録 (三) 酉年御年貢御勘定目録 (四) 子年御年貢御勘定目録	(一) 安永元年巳十二 月 (二) 安永三年壬三 月 (三) 安永七年戌六 月 (四) 天明元年(安 永十年)丑三月	四通	鹿嶋村名主彦兵衛他・飯田御役所	安永元年巳分から安永九年子分の年貢勘定目録。年貢榺木及び米食返納米の代金納	436
604	17	御吟味二付申上候口書	(安永三年)午 十月十七日	一冊	十一カ村惣代連印・飯田御役所	来年(安永四年)から皆榺木で年貢を納める件。村々古来の年貢榺木の仕方を吟味に基き、述べたもの	616
605	18	米糺場請取覚帳	安永三年 午 十月吉日	一冊	大嶋代次郎後見酒屋彦太夫	米おろび小糺の請取覚え	948
606	19	米糺場渡シ方覚帳	安永三年 午 十月吉日	一冊	大嶋代次郎後見酒屋彦太夫	十月二十二日から安永四年一月二十七日まで米の受け渡し、人名の覚帳	949
607	20	下笠遣中人用覚	安永三年 午 十一月一日	一冊	伴左衛門	十月二十六日鹿嶋出立。十一月七日晩大笠へ帰る。道中人用覚え。新城辺りまで行つて帰りは足助へ廻り飯田大草へ	1474
608	21	願申畑下作證文之事	安永六年 酉 三月十二日	一通	九郎左衛門・彦太夫	譲り渡した畑地を主作金一両二分預かり下作する	1575

609	22	南御改帳	安永六年 西三月	一冊	鹿塩村香林寺	香林寺分宗所改め帳 総人数 百一人 男百二人 女九十八人 増人三十六 減人四人	950
610	23	(一) 増減御改帳	安永六年 西三月	一冊	鹿塩村名主嘉兵衛他・飯田御役所	安永五年の増減改め帳 (二) 塩泉院 寺久寺 香林寺の各目那分 (三) 宝久寺目那分	617
611	24	奉無爲御連中書帳	安永六年 西四月	一冊	大嶋彦兵衛	徳左衛門の代わりに引き受けた麦の無礼謹連中の出級と各品前の寛え 寛政五年天明七年分の一冊を共に	1475
612	25	(一) 古来新田内検知野帳 (二) 外子御富入場内検知野帳	安永七年 戊辰正月	二冊	鹿塩村名主所	古新田畑の村内検知調書帳	951
613	26	相佐信文之事	安永七年 戊辰二月十一日	一通	本人重蔵他・彦兵衛	彦兵衛借金の質として 重蔵預かり地家財 人共に新六へ渡された。今庫儲金返済のため借金代わりしつづきまでのように主夫として仕える	437
614	27	書付を以申上候	安永七年 戊辰三月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他村役人・飯田御役所	荒所返の報告、古来の川欠け引きと、去る丑年の川欠け	147
615	28	増減帳	安永七年 戊辰三月	一冊	塩泉院旨中	安永六年塩泉院分の宗門増減帳 増人男十六人 女二十八人 減人男十四人 女十二人	618
616	29	(一) 差出申書付之事 (二) 差出申一札之事 (三) 乍恐口上書を以御願申上候御事	(一) 安永七年戊辰三月二十一日 (二) 三月二十四日 (三) 四月	三通	本人忠内、佐重郎、役次郎、直人	忠内と佐重郎他との親方のことと出入りとなつたが、村役人扱いで内済となり飯田御役所への訴えは取り下げた	148
617	30	寛	安永七年 戊辰三月	一通	彦兵衛・傳兵衛・飯田御役所	明和八年の御免定一通 受取状控え	149
618	31	書送證文之事	安永七年 戊辰四月	一通	本人忠内他・徳十郎 明次郎	大栗河原の土地につき出入りとなつた。治郎七郎他の取扱いにより内済 廣泰など定めた	1576
619	32	(一) 前々より御免定所持之分書 上 (二) 御免定写控寛	(一) 二 安永七年戊辰五月 (二) 安永七年戊辰六月十二日	二冊	鹿塩村名主彦兵衛他・飯田御役所	延享から明和年間までの免定の有無書上 (一) の改定下書きが (二) である。 (三) は元文四五年、寛政六二三年 延享五年の免定写し (二) の写しのこととは (二) に記されている	619
620	33	差出申一札之事	安永七年 戊辰七月	一通	左 治右衛門・喜左衛門・左衛門・名主組頭中	御免定を預かつたはずだが紛失したようで見当たらぬ。後日出てきたとしても申し分一言も無い	150
621	34	(一) 請取申国役金之事 (二) 寛	(一) 安永七年戊辰九月十八日 (二) 安永八年亥九月	一通	宇都呂左衛門・湯淺貞左衛門・鹿塩村名主	辰年から戌年分 川々普請国役金の受取り	1577
622	35	(一) 当戌年小夫銭割付帳 (二) 国役高掛割付帳 (三) 御算借米割付帳	安永七年 戊辰十一月	三冊	鹿塩村名主所	国役金 拝借米 諸々入用費の割付分相帳	952
623	36	当戌年御年貢新田畑見取并小物成取立帳	安永七年 戊辰十一月	一冊	鹿塩村名主所	当戌年貢 新田畑 見取り畑 小物成の書き上げ取立帳	953

624	37	寛	安永七年 戊 十二月	一通		御年貢小物成、山林代米、御藏前入用、酒屋番屋連上 の覚え、計四十六兩一分永八十八文四分四厘	954
625	38	切添切開田畑引御案内帳	安永七年 戊	一冊	鹿塩村	切添え、切開き、見取田畑の広さ、持ち主の書上帳。 一冊同内容	955
626	39	一札之事	安永八年 亥 正月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 惠那郡ふかうか村藤九郎	鹿塩村百姓様六の次男藤四郎が濃州惠那郡ふかうか村 (恵那村)へ監出、定宿條き、送る	151
627	40	戌年御年貢勘定目録	安永八年 亥 三月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	戌年分、年貢なら高掛小物成、合計四十六兩一分永九 十二文三分三厘	620
628	41	人馬并家数書上帳	安永八年 亥 三月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・	家数百十九軒、馬数四十疋、調査割卜書き又は手本	621
629	42	(一) 年忌書付を以奉願上候 (二) (案帳上候御事)	安永八年 亥 八月 九月七日	一通 (冊)	鹿塩村名主彦兵衛他・ 御梅地御奉行	鹿塩村には一カ所に塩水井戸があり、利用されている。 この地所を梅地帳に加えることの願ひ出	152
630	安永 43	差出申一札之事 付、覚え書付四枚	安永八年 亥 九月十五日	一通 四枚	大河原御役所名主組頭惣 百姓代・御梅地御奉行	大河原村字赤谷にある鹿塩村飛込地は彦兵衛持ち見取 場で、隣接する大河原村右馬之丞地所との区別境界に 付いて、れ	622
631	44	取敢内済済文之事	安永八年 亥 九月	一通	大河原村右馬之丞他・ 鹿塩村彦兵衛	赤谷飛込地について出入りとなつたが内済、彦兵衛と 右馬之丞の持分がほぼ半分半分となつた。繰引き詳細	1375
632	45	(一) 田畑見取分別小書上帳 (二) 畑成屋敷書上帳	安永八年 亥 九月	一冊	鹿塩村名主所	田畑、見取畑、屋敷などの広さと持ち主書き上げ	956
633	46	彦兵衛分御梅地諸條見控へ帳	安永八年 亥 九月	一冊		彦兵衛持地田畑の餘地結束書え。分別合毫町七区五畝 拾分、他に新田越送り入る	1578
634	47	差出申一札之事	安永八年 亥 十月	一通	金剛院代理富喜院・ 鹿塩村名主組頭中	名主は金剛院弟子金龍の傍の死に不審ありで調べたが 病死にちがいないので今後調べは不要	153
635	48	差出申一札之事	安永八年 亥 十一月六日	一通	本人善吉・ 名主組頭中	善吉が新六と出入りになつた。村方で済まないの飯 田御役所に訴えろが入用費は村方に迷惑かけない	154
636	49	御梅地御用諸人用覚帳	安永八年 亥 十一月吉日	一冊	鹿塩村惣百姓代三郎兵 衛	御梅地御用にかかる諸雜費、安永六、七、八年分、べの 年月日は天明三年七月	957
637	50	(一) 国役高掛割付帳 (二) 米食米割付帳	安永八年 亥 十一月吉日	一冊	鹿塩村名主所	国役金一両三分糸を高掛で、米食米二十五石代金十八 両一分糸を差敷、百三十二匁に割り付け	958
638	51	借屋請状之事	安永九年 子 二月	一通	本人林八・ 大嶋彦兵衛	一年に二分、米の養費で借家、田刈敷、酒作りなどの 手助けもする	1579
639	52	亥年御年貢勘定目録	安永九年 子 三月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	亥年分年貢、山林代米と榎木代金納、合計四十六兩一 分永九十二文三分三厘	623
640	53	(一) 田畑荒引高小帳 (二) 新田立毛御検見合毛帳 (三) 新田畑方御検見立毛書上帳	安永九年 子 九月	三冊	鹿塩村	荒所となつた田畑の書上、新田畑を御見し、荒所と広 さ、持ち主を書上	959

641	54	当子新田舊無引帳	安永九年 子 十月	一冊	飯田御役所・ 鹿塩村名主	当子新田の内、割引のない見付田三坪の通達	960
642	55	見取区別小前帳	安永九年 子 十一月	一冊	名主五郎左衛門、幸治 郎	見取畑の広さ、取米と榎木敷の換算の書上帳	961
643	56	信濃國伊奈郡何村小前町	安永九年 子	一冊		小前帳の様式見本	624
644	天明 1	北入黒河橋市場より見舞錢書帳	安永十年 天明元 年 丑二月	一冊	世話人彦兵衛 和藏	何事かにより見舞金を受けた書帳	962
645	2	宗廟請状之事	安永十年 天明元 年 丑二月	一通	美濃國郡上郡二日町村 内國寺・諸國村々	會市と言う名の者の浄土真宗門であることの証明	963
646	3	鹿塩村御換地帳	安永十年 天明元 年 丑三月十二 日	一冊	帳面仕立て人傳兵衛 伴左衛門	延享五年、宝暦九年、明和五年、安永九年の換地帳享し。田畑古新総合四五百五十五斗五升二合、総区別合六十四町七区何畝二丁四歩	964
647	4	(一)二 相定取替七申山證文之事	天明五年 丑 七月 八月	一通	小川村勘左衛門、佐久 郡川上原村吉藏・ 鹿塩村彦兵衛	大島森持山中山にて榎木、塩地、栗、ぼうだら、川く るみ、水ならを伐り出す。期間は一、二年、小屋一軒十人 につき一年に一畝一分	1580
648	天明 5	(一)新田畑方御檢見立毛書上帳 (二)新田立毛御檢見立毛帳	天明五年 丑 八月	一冊	鹿塩村	下畑、見付畑、林畑、新田畑の場所、広さ、持ち主、 作物名栗、大豆、小豆、稗、蕎麦、新田の広さ、持ち 主、取れ高など調査書	965
649	6	見取畑畑持林	天明五年 丑 十一月	一冊	鹿塩村名主所	見取畑、畑畑、持ち林の区別、持ち主別書上	966
650	7	鹿塩村小前高書帳	天明五年 丑 十一月	一冊	鹿塩村役人左衛門他	総合四五百五十五斗五升二合の小前帳、明細帳	625
651	8	相定出養子證文之事	天明二年 寅 一月	一通	親本人藤五郎他・ 彦兵衛	男子なく、家督相続させるため惣左衛門子息和助を娘 のつ弥に見合わせる。田畑家屋敷などをゆする	626
652	9	作取書付を以奉願上候	天明二年 寅 正月	一通	十一カ村・ 飯田御役所	昨丑年まで七年の年貢代金納は一両につき榎木四百六 十挺書き、当番から引き上げではぐつていけない	627
653	10	差上候書付	天明二年 寅 正月	一通	十一カ村名主・ 飯田御役所	年貢榎木代金納は去る丑年終わった。当寅年から榎木 納を願ったが御用無き代金納になった。四百八十挺か ら四百七十挺書きたら讀けられる	438
654	11	御年貢上納方御吟味二付差上候書付	天明二年 寅 二月	一冊	十一カ村名主組頭百姓 代・飯田御役所	当年年貢納め方切替について便覧引き上げは迷惑だ が、五百五十挺まで讀ける。それ以上は無理である	628
655	12	(一)差出申一札之事 (二)書簡	天明二年 寅 三月 壬子日	一通	本人惣左衛門他・取扱 人安右衛門他	惣左衛門の倅嘉吉は養子離縁となり定状と金十二両余 を彦取つた一札と、この件について取り扱った安右衛 門から彦次への書簡	1376
656	13	増減御改帳	天明二年 寅 三月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	増減改め、増し人五十七人、男三十三人女二十四人、 減り人四十四人、男二十人女二十四人	967
657	14	(一)鉄砲御改帳 (二)差出申一札之事	天明二年 寅 三月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他	宮下和左衛門控との鉄砲御改帳及び宗門帳部分、狹 師鉄砲三十三挺、威鉄砲三十挺	1581

658	15	乍恐以書付奉願上候御事	天明二年寅 六月	一通	十一カ村連印・ 飯田御役所	年貢納め方に付いて、金納御傳本直致は御支配帳には 隠さず四百七十挺が限度でそれ以上は請けられない	629
659	16	申渡	天明二年寅 六月	一通		当意年より年貢切替のこと(天明三年寅)四百六十挺 替を申し渡す	630
660	17	(願名不明)	天明二年寅 六月	一通	十一カ村名主	村々寺院社人が奉行所へ出訴する際に必要添簡につ いてお觸れを承知した	155
661	18	高取別名寄帳	天明二年寅 六月	一冊	名主所・ 彦兵衛	本新田畑合五町七区二畝二十八歩の調査明細差書	968
662	19	差出シ申一札之事	天明二年寅 七月	一通	惣代新六 与兵衛・ 御役人中	左近と出入りになったが、内分では済まず飯田御役所 に出訴する。入用金などは負担する	156
663	20	乍恐以書付奉願上候御事	天明二年寅 七月	一通	鹿嶋村与兵衛 伴次 郎・飯田御役所	村方左近という者は身上ままならず、うしろだてもき かず、役所で吟味を願ったのに対し、村内解決せよと 添付状を付けて返された	631
664	21	村々一統申渡候覽	天明二年寅 八月	一通		久々里御家勝手不如意に付き、人員減も行つ。飯田役 所も人員減になるので、村々争論などはなすべく村で 解決せよ。諸事條約の通達	439
665	天明 22	乍恐以書付奉願上候	天明二年寅 九月	一通	十一カ村連印・ 深尾勘兵衛	八月二十四日廻封到来、二十九日仰せ渡し。懸帳御家 勝手不如意、人員減も行つ。諸事條約の件、村の存続	632
666	23	覽	天明二年寅 十月十二日	一通	湯淺貫左衛門・ 鹿嶋村名主	金二両銀十一匁余、去る成から丑年分の東海通川普請 国役金庫金の取り扱	157
667	24	(一)(二)為取替一札之事	天明二年寅 十一月	三通	鹿嶋村大河原村柄山村 名主相互	横、煙草、大豆などの荷継ぎ駄賃について約束書の交 換立書	633
668	25	(一)国役高掛割付帳 (二)当意年尾年貢御役高掛り小物成 取立提帳	天明二年寅 十一月	一冊	鹿嶋村名主所	国役金二両水百九十八文七分六厘七毛の割付と、年貢 国役、小物成の取立帳	969
669	26	彦兵衛持高被官之内割付帳	天明二年寅 十一月	一冊	大嶋彦兵衛	彦兵衛持高を被官に割り付けた戸帳。各高の取り扱 い方(虎所)などが付紙で詳細に書き込まれている	1582
670	27	(一)(二)為取替一札之事	天明二年寅 十一月	一通	鹿嶋村彦兵衛他、柄山 村奥右衛門他	鹿嶋村から売り出す横、煙草、大豆の荷継代金に關す る申しと合わせ取替立書	1583
671	28	御年貢上納方御吟味二付差上候願書	天明二年寅 十二月	一冊	十一カ村名主組頭百姓 代・飯田御役所	当意年貢納め方切替につき五百二十挺替まではだめ で重吟味、四百六十挺では百姓困窮、五百挺で願う	634
672	29	書付以奉願候御事	天明二年寅	一通	十一カ村連印・ 飯田御役所	当年から年貢納方切替に付き、金納ならば格別便宜引 きよびを願う。五百二十挺替までが限度であるが、 四百六十挺替まで願うこと	440
673	30	(一)丑年御年貢勘定目録 (二)寅年御年貢勘定目録	(一)天明二年寅二月 (二)天明二年卯三月	一通	鹿嶋村名主文左衛門 他・飯田御役所	天明元年丑、二年寅の年貢傳本代金、高掛小物成金勘 定目録、安永七年戌から天明七年未まで定免	158
674	31	(御用村用入用意)	天明二年寅から文 化九年未まで	一冊	彦兵衛 傳兵衛	天明二年から文化九年まで村入用費、年貢国役金など の覚え	970

675	32	覚	天明二年寅から文 化十二年亥	三十七 通	名主・彦兵衛、すね 勝蔵	新古田畑の反別、各種年貢高、運上などの覚え、各組 への報告覚えと思われる	1377
676	33	(一) 天明二年(二) 天明五年(三) (寛政七年)(四) 寛政四年(五) 寛政五年(六) 寛政七年(七) 寛政九年(八) 寛政十年(三)通(九) 寛政十年(十) 寛政十二年(十二) 享和五年(十三) 享和元年(十三) 享和三年(三)通(十四) 文化元年(三)通(十五) 文化二年(三)通(十六) 文化三年(十七) 文化四年(十八) 文化五年(三)通(十九) 文化六年(三)通(二十) 文化七年(二十一) 文化八年(二十二) 文化九年(二十三) 文化十二年(二十四) 文化十 二年	天明三年卯九月十 八日、天明三年卯十 一月	六通	本人和左衛門他、本人 喜左衛門他、 彦次郎他、彦兵衛	喜左衛門倅佐蔵が和左衛門の親定右衛門を奈合の慢送 打觸し、それが原因で病を得た。訴えたが佐蔵が逃 散行方知れずとなったので内済にしたらという役所の 意見により内済とした。関係者相互に交わした一札	971
677	34	取扱内済口邊證文之事	天明三年 卯 十一月	一通	塩川惣次友右衛門他、 北人耕起衆中	北ノ入耕地採場馬道について市場耕地と出入り、双方 納得の解決策	441
678	35	姫取一札之事	天明三年 卯 十二月	一通	北原村本人勘四郎 同 栄次郎他、彦兵衛	彦兵衛娘お徳が北原村勘四郎倅栄次郎に嫁ぐ。持参金 二十両	635
679	36	申合一札之事	(天明三年) 卯	一通		北人耕地採場について出入り、内済となった件と、南 北両組組み分けについては明和元年殿様裁定を守る	1378
680	天明 37	(仰渡請状)	天明四年 辰 正月	一通	飯田御役所	徒免の者主あれば、主立つる者を捕らえるが、役所に 通報せよ。相応の養費を与える、という申渡の請け状	636
681	38	(一) (四) 覚	(一) 天明四年辰閏一 月九日(二) 天明七年 未十一月十五日(三) 四) 天明七年未十二 月一日	四通	井上清助、湯澤貞左衛 門・ 鹿嶋村名主	(一) 十借金五十両の證文受取り覚え (二) 四年貢金、小物成金、国費金の受け取り覚え	1584
682	39	差上候御請書	天明四年 辰 閏 月	一通		文左衛門が名主役動まらずとして代役を立てた所が、 村人騒動がまき事が起こった。代役の是非を役所に 問い合わせる	442
683	40	差上候御請書	(天明四年) 辰 閏一月	一通	鹿嶋村百姓惣代鹿右衛 門他、飯田御役所	文左衛門は常任名主役であるが、不行き届き、且那役 は五人の者に仰せ付けられたことを承知する	443
684	41	差上候書付	天明四年 辰 八月十三日	一通	鹿嶋村貢年名主彦兵 衛、辰年村役人伴右衛 門・飯田御役所	貢年分年貢金を同年十一月十七日に上納したが、その 請取手形が見当たらない。納入証書の事書発行を願う	444
685	42	五人組御法度書	天明四年	一冊	(大嶋麩之進)	天明四年の五人組御法度すべての条目享し、嘉永七年 正月大嶋麩之進過保が写す	160
686	43	(天明五戸年添免定) (一) 覚 (二) 掛札	(一) 天明四年辰十月 (二) 天明五年巳 月	二通 一 包み	飯田御役所・ 鹿嶋村名主	天明四年分格見取成高圖の覚えと天明五年掛札	159
687	44	村方百姓親貯之義被仰渡二付申上候 書付	天明五年 巳 二月二十九日	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛他、 飯田御役所	水害で田方確立付けが出来ない。凶悪赤備の耕作につ いて役所の問いに答えたもの	637

688	45	村々百姓粮貯之儀被仰渡ニ付申上書 付	天明五年 巳 二月	一冊	鹿塩村	天明三年の飢饉に饑み貯穀ならびに救荒作物栽培仰渡 書とその請け書	638
689	46	役多諸人用割付書帳	天明五年 巳 三月吉日	一冊		役多ら諸人用書書き留め。じゅばん、白無垢の代金記 録がある	972
690	47	当巳年御年貢本新田畑見取小物成御 拝供米返納代金書帳	天明五年 巳 十一月	一冊	鹿塩村名主所	本新田畑、見取、仰改め、辰改め、未食米代、伝馬宿 入用、六尺給米入用、藏前入用、山林代永、水車真加 永、酒造真加永の一覽	973
691	48	(一)宗門改二件諸帳面認方案 (二)寺宗門御改帳 (三)藏多宗門御改帳	天明六年 午 三月	三冊	鹿塩村	宗門改帳関係諸帳面の様式原本	974
692	49	鉄砲御改帳	天明六年 午 三月	一冊	鹿塩村名主他・ 飯田御役所	銅鉄砲二十三挺 おとし鉄砲三十挺	639
693	50	信州伊那郡鹿塩村高区別分明細帳	天明六年 午 四月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	延享五年、宝暦十年、明和五年、安永九年の検地に基 づく高区別明細帳。村の概要、人数千四百八人、男七 百六十二人、女六百四十六人	640
694	51	未食米返納割付帳	天明六年 午 十一月	一冊	鹿塩村名主所	未食米返納金割付帳。米四石六斗四升 および十一俵 六斗分	975
695	天明 52	(一)(二)金納田畑下作請取書帳	天明六年午十一月 から天明八年申十 一月	三冊	大嶋彦兵衛	田畑下作料、金納の受け取り徴収の覚え	976
696	53	一札覚	天明六年 午 十二月	一通	新六・ 和茂、彦兵衛	親の代覚延三年以来の借金二面を返す	1379
697	54	(一)取扱證文之事 (二)商米境相改書送之事 (三)絵図	天明八年 申 二月	三通	取扱彦兵衛他・ 清吉、佐市	西山地引米平の土地、これまで代替りしても改め確認 せず、出入りとなつた。彦兵衛他が取扱人として境界 など解決した	1585
698	55	御巡見二付入用金給々割合帳	天明八年 申 三月	一冊		巡見入用金の十一カ村割り付け分掲。三十五両余を高 割り	977
699	56	(御年貢上納方年奉明候二付差上候願 書生恐書付を以奉願上候御事	天明八年 申	一冊	十一カ村連郎・ (飯田御役所)	天明二年から当年八年までの七年間定免の年奉が明け た。中樽四百六十挺着の値段では困窮するので樽木納 に願つ。但し樽以外に糠、唐櫃、姫子などを構う	1586
700	寛政 1	(一)(二) 信州伊那郡鹿塩村高区別分明細帳	寛政三年 酉 二月	一冊	鹿塩村名主和佐衛間・ 飯田御役所	延享五年、宝暦十年、明和五年、安永九年の検地に基 づく高区別明細と村の概要、人数千三百四十一人、男 七百七十三人、女六百六十八人。一冊は文化八年四月の 彦兵衛による写し	641
701	2	信州伊那郡鹿塩村高区別取米帳	寛政三年 酉 二月	一冊	鹿塩村名主和佐衛間・ 飯田御役所	田方畑方荒所引き取高取米をそれぞれ二十二石余と五 十三石余、他に村人口、男七百七十三人内十五歳以下百 七十五人、女六百六十八人内十五歳以下百六十四人	642
702	3	(一)(鹿塩村絵図) (二)(町村絵図様式原本)	寛政三年 酉 二月	絵図一 枚	鹿塩村名主和佐衛間他	(一)寛政元年鹿塩村彩色絵図30cm×42cm (二)町村絵図原本40cm×55cm	1380

703	4	御書二付申上候書付	寛政二年 西 三月二十七日	一通	大河原村名主弥兵衛次・ 鹿塩村名主彦兵衛他・ 井上重助	野口村に止宿した巡見に鹿塩大河原村総代が尋ねられ た事への回答。荒れ所高、川除普請、男女の着物その他 祭礼のことなど	643
704	5	昨米食御書(差出御書付)	寛政二年 西 三月	一冊	十一カ村名主組頭惣旨 姓代・飯田御役所	もうし付けにより取り集めた昨米食は身元の確かな巨 姓に預けておくこと、時穀の郷蔵を建てる材木は巨姓 持山から伐り出すことなどの御書	644
705	6	(一)十老々村御年貢御切替三付奉願 上候書付 (二)御年貢御樽木成上納方之儀二付 御願書御吟味書	寛政二年 西 三月	一冊	十一カ村・ 飯田御役所	一定悉以願書申上候御事一年貢樽木納らば樽・樽で 繰く俵り出すこと、船明納であること、一定悉書付を以 奉願上候御事・樽木代金のこと。「御吟味二付申上候口 書」・樽木代金納らば、困窮の村々なので二面につき 中樽木五百五十枚繕えまでなら請けられる	645
706	7	飢持持貯割付取立帳	寛政二年 西 三月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	穂高四斗五升六匁、高一石につき三合の割り付け	978
707	8	(一、二、三) 去錢帳	(一、二)寛政元年 西三月 (三)寛政 十二年未十二月	三冊	鹿塩村・ 飯田御役所	寛政元年村入用費 去錢帳。入用費書き出しと各割り 徴収帳	648
708	9	差出申一札之事	寛政二年 西 四月六日	一通	九左衛門他・名主彦兵 衛・五郎左衛門	普請役大塚唯一郎巡行の際に迎えに出なかつた本寺を 詫言る	161
709	寛政 10	添證之事	(寛政元年)西 四月十二日	一通	鹿塩村御用方請負人 惣代和左衛門・飯田御 役所	材木仕入れ金が江戸表からまだ来ないので、金巨両を 借りた。来月中旬ころには返す	445
710	11	飯嶋御役所鈴木新五郎より御清触	寛政二年 西 五月吉日	一冊	鹿塩村名主彦兵衛	鹿塩山から出す材木は彦兵衛他人の請負、船積み大 阪廻り、触れ書きと極印、末頁に献立の寛書がある	979
711	12	古田畑荒所御案内帳	寛政二年 西 六月	八冊の 合冊	鹿塩村名主彦兵衛・五 郎左衛門・飯田御役所	六月十八日の出来で田畑荒失、村役人地主立会い調査 結果を一年貢から差し引きを願うための役所への知ら せ。イ、申上まで八冊の信冊帳	980
712	13	(一)荒所持高小前帳 (二)本新田畑荒所小前帳 (三)安永新田畑荒所引高小前帳	寛政二年 西 七月	三冊合 冊	鹿塩村名主所	本新田畑の内、荒所となった高区別と年貢の引き高小 前帳	981
713	14	差出申一札之事	寛政二年 西 七月	一通	五人組喜三郎他・ 名主中	与兵衛が善光寺詣に行つたり慢怠せず、理由不明	162
714	15	(一)差出申取敢二札之事 (二)差出申一札之事	寛政二年 西 八月十二日	一通	本人庄九郎・鹿塩村名 主彦兵衛・五郎左衛門	庄九郎が兵八と勘合をしたが、勘定延引き、兵八と 勘合合つたが勘定済まず、市ノ瀬村役人に頼んだ。内 聞に済ませる	163
715	16	信州伊那郡鹿塩村御林御材木根伐寸 間帳	寛政二年 西 八月	一冊	鹿塩村請負人傳兵衛 他・大塚唯一郎	当年二月二十七日に山入り、同八月二十四日まで根伐 した木品寸間の報告書。木数五斗六百六十五本	646
716	17	信州伊那郡鹿塩村御樽木山より御用 木伐出二付願書	寛政二年 西 九月	一冊	鹿塩村請負人傳兵衛 他・飯田御役所	京都御入用の材木を御用せ付けられ、二月下旬に山入り、 三月月上旬から根伐をはじめ。この材木上納後は引き 繰き伐り出しを願う。その願いの詳細	647

717	18	(本新田畑高荒所帳)	寛政三年 西 九月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他	本新田畑 高 荒所 持ち主など総書き上げ	982
718	19	寛	寛政三年 西 十月	一通	小野、鹿塩、小川、南 山の各村名主・ 飯田御役所	満造に付、制限量、密造の禁止、など公儀のお触れを 連同して承知したと	164
719	20	(一)年宛定并掛札 (二)酉年宛定之事 (掛札同封) (三)掛札 寛 (四)寛 (五)午年宛定之事 (六)寛 掛札	(一)寛政三年西十 月 (二)寛政五年 丑十月 (三)寛政 八年庚子十月 (四) 寛政九年巳十月 (五)寛政十年十 月 (六)寛政十一 年未十月申四月	九通	千村平右衛門代市岡佐 藏、湯淺貞兵衛門・ 鹿塩村名主	(一)天明八年申から寛政五年巳まで十年の定宛、寛政二 年掛札 (二)寛政六年新田成國と寛政五年掛札 (三)寛政八年の新田成 (四)新田成は辰年と同じ (五)寛政十年午から享和二年戌まで五年の定宛 (六)寛政十二年新田成と拾年申掛札	165
720	21	(一)寛 (二)請取寛 付・寛	寛政三年 西 十二月十八日 寛政二年 戌 二 月十五旦 丑 三 日	三通	湯淺貞兵衛門・ 鹿塩村名主彦兵衛	(一)未金貸付返納の事 (二)年貢上納残り金から借入金金の受取り	1587
721	22	為替替申書付之事	寛政三年 西 十一月	一通	中、羣百姓百姓又兵衛 他・	このたびの御用材伐り出しに關る桑原耕地の遺構普請 ならは御用廢失で付として行ふ	446
722	寛政 23	国役金割付帳	寛政三年 西 十一月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛、五 郎左衛門	国役金 両永二百十五文奈の高割割り付け	983
723	24	乍輕(輕)御吟味二付書付御訴訟申 上候事	寛政三年 西 十二月	一通	本人与兵衛他五人組・ 名主組頭中	六月の満水で田畑流失し、そのとき才の二子を失つ た。このことの吟味を行なおうとした時与平衛は他出 しており吟味が遅れた	1476
724	25	請取申年賦之事	寛政三年 西 十二月	一通	彦兵衛他・ 飯田御役所	年賦金の内、当酉年分の受取り。六名の者へ合計十五 両	1588
725	26	(一)当酉年荒所高十分二御改帳 (二)本新田畑荒所小帳	寛政三年 西	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	本新田畑 荒所の持ち主 高取別書き上げ	984
726	27	御用木運賃積帳	寛政三年戊子月 (天明八年申五月)	一冊	遠州掛塚彦政五郎、長 三郎・川嶋藤八、岡野 龍五郎	天明八年の文書を寛政三年に写したのも。掛塚彦から の御用材木の運賃賃見積もり。江戸廻し、尾州廻し、 伊勢、清水、大坂廻しの各場合に付いて	649
727	28	信州鹿塩村御轉木山より遠州掛塚彦 迄御用木出シ方諸人用帳	寛政三年 戊 三月	一冊		鹿塩山から掛塚まで御用木を出すために數と金品な どノキ、ツガ材木四千八百十一本六分二厘を出し た	985
728	29	博打御吟味書	寛政三年 戊 四月八日	一冊	名主所三左衛門他・	博打勝負事御法度のお触れを承知し、村中相談の上過 料を決めた。博打宿をしたもの錢五貫文、諸勝負をし た者三貫文、関わり合ひの者二貫文	650
729	30	御材木方江戸諸御用書上留控帳	寛政三年 戊 四月	一冊	鹿塩村請負人和左衛 門 御奉行	寛政三年四月から同十二月まで京都人用材木は御用木 と鷹木の幕府買い上げ願ひ。木品木救恤段など十二通 分金品	651

730	31	寛政元酉年御勘定目録 (一)西年御年貢御勘定目録 (二)鹿嶋村	寛政二年 戊 七月 九月	二通一 包み	鹿嶋村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	(一)寛政元年申より寛政九年巳まで十年定免と極見取 (二)当戌より来る未まで十年定免	166
731	32	信州伊那郡鹿嶋村御林字榎日向大場 手間黒川三ツ沢より榎横塩地唐櫓桂 御材木伐出木数尺二寸間帳	寛政二年 戊 十月	一冊	鹿嶋村請負人和左衛 門御奉行	寛政二年京都御造用材木の伐り出しを御林五カ所か ら行つ。木品寸間などの見積もり	652
732	33	信州伊那郡鹿嶋村御林木数尺二寸間 帳	寛政二年 戊 十月	一冊	鹿嶋村請負人和左衛 門御奉行	鹿嶋村御林の字榎日向他五カ所から伐り出しの材木の 見積もり。木数五千九百七十五本、尺二四千九百十六 本	653
733	34	櫓材木願書	寛政二年 戊 十月	一冊	鹿嶋村和左衛門・御奉 行所	長さ四間一尺六寸角 四方無節の櫓材木が七本、尺二 千三百八分四厘と見積もるとノギが隣村社木として ある。停止木なので伐り出し許可の下知を願う	654
734	35	貯神石高割付帳	寛政二年 戊 十一月	一冊	鹿嶋村名主左衛門他	村高に対し神二石三斗五升二合、高一石につき代金二 文五分、厘で割り付ける	986
735	36	当戌年本新田畑御年貢小物成取立帳	寛政二年 戊 十二月	一冊	鹿嶋村名主左衛門	本新田畑年貢小物成の徴収帳	987
736	37	乍孫以書付奉願上候	寛政二年 戊 十二月	一通	鹿嶋村名主願人和左衛 門御役所	京都御造用材木伐り出しが甚長よく終わった。その後 度重なる出水などの災害で村方困窮のため救木として 山から五カ年で材木伐り出しを願う。	655
737	38	飢持持貯神割付取立帳	寛政三年 亥 三月	一冊	鹿嶋村名主文左衛門 他・飯田御役所	村高に対し神二石三斗五升二合、高一石に付、神二合 で割り付ける	988
738	39	一札之事	寛政三年 亥 六月	一通	鹿嶋村請負人和左衛門 他・雑屋長彦兵衛	鹿嶋村御林より伐り出しの御用木・榎尺二二千八百 六十四本余と買上木・榎横塩地唐櫓尺二三千本余、基屋市 左衛門の口入により掛家漆から江戸へ、掛け金、借入 金なども差引払い不足を引き受ける	447
739	40	神代金割付取立帳	寛政三年 亥 十一月	一冊	鹿嶋村名主文左衛門 五郎左衛門	亥年時高せじ、神九斗一石二タ代金一分、朱金高一石 につき神二代八分二厘四毛で割付徴収する	989
740	41	信州伊那郡鹿嶋村御林伐出敷木御蔵 納御代金仕出帳并御金手形	寛政三年亥八 十二月 寛政四年 子二月 寛政五年 丑七月	五冊合 冊	鹿嶋村和左衛門他・ 小栗伊左衛門他	寛政元年伐り出し御用木及び敷木の買い上げ仕上げ 帳、支払い帳五冊の合冊。蔵納の高木数三千六百四十 一本、尺二三千二百六十六本余	656
741	42	差出申一札之事	寛政四年 子 三月	一通	本人寛次郎他・ 彦兵衛他	京都御用材を当村御林から伐り出した際に山系所帳元 を願ひたものとして大時を記び、十匁差し出す	448
742	43	(一)飢持持貯神割付取立帳 (二)時高持神代金割付帳	寛政四年 子 三月、十一月	二冊	鹿嶋村名主所	時穀としての神九斗二合一タの取り集めと、一石三斗 五升二合の代金を各人へ右高に付き割り付ける	990
743	44	御吟味二付申上候口書	寛政四年 子 七月	一冊	十一カ村名主組頭惣旨 姓代・飯田御役所	年貢榎木代金納は三百五十挺繕まは承知したが、去る 如年より凶作、難儀なので免除を願う	657

744	45	御年貢上納方二付差上候願書	寛政四年 子 七月	一冊	十一カ村・ 飯田御役所	年貢切替ことに引き上げになり、百姓は困窮している。 御博木納は榎は生い立たず現金納 一両につき五匁五 十挺書きに願うこと	658
745	46	乍孫以書付奉願上候	寛政四年 子 九月	一通	鹿塩村傳左衛門他・ 御奉行所	寛政元年京都御造宮御普請御材木の伐り出しをした が、山入りの時期からたびたびの天災で入用金葉が多く かかった。加えて寛平六月の大洪水で家屋なども多く流 失し村は困窮している。御救いのため御林から材木伐 り出しを願う	659
746	47	当主年新田畑御年貢小物成取立帳	寛政四年 子 十一月	一冊	鹿塩村名主左衛門 嘉兵衛他	当主年の本新田畑年貢と小物成の徴収帳	991
747	48	(一)子年御年貢并国役金割付大寄帳 (二)国役金寄附小前割付帳	寛政四年 子 十一月	二冊	鹿塩村名主左衛門 嘉兵衛他	当主年分国役金 両一分の割付帳	992
748	49	申合 札之事	寛政五年 丑 一月	一通	彦兵衛他・ 預り本人五郎左衛門	榎景院二件について子々孫々にいたるまで仲良く助け 合つてやつてゆくこと	1381
749	50	(一)飢扶持貯蓄割付取立帳 (二)貯扶持種代金割付帳	寛政五年 丑 三月 十二月	二冊	鹿塩村名主所	貯蓄としての種割り付け徴収と、代金割付帳	993
750	51	被仰渡候二付御請書印形帳	寛政五年 丑 三月	一冊	傳左衛門他・ 名主組頭衆中	博奕勝負事禁止、他所より身立金種かな者を入れない こと、百姓仕事を怠らないことを守る	994
751	52	信州伊奈郡鹿塩村御林伐出松櫓御材 木郷御蔵納御仕入金御勘定仕上帳	寛政五年丑九月(寛 政六年寅五月)	一冊	鹿塩村和左衛門他・ 御勘定所	鹿塩村御林より伐り出した材木を江戸廻し上納で仕入 れ金勘定仕上げ帳。本数三千三百二十五本尺べ二千七 百十五本余、検校五十九八挺	660
752	寛政 53	乍孫以書付奉願上候	寛政五年 丑 十二月	一通	鹿塩村名主和左衛門他 村役人・飯田御役所	寛政三年酉の前代主御の大洪水で田畑家屋が数多く流 れ困窮している。荒れ所年貢差引を願う。名主役六人 が無難に役勤を果すことについて	449
753	54	引請申證文之事	寛政六年 寅 一月	一通	山入り本人七右衛門 引・請人四徳村傳左衛 門・林圭彦兵衛	中山へ木地師七右衛門が入山する。山代金二両 横 榎は大切に守る	1589
754	55	差出申一札之事	寛政六年 寅 三月	一通	本人丈助・ 御役人中	大河原村兵左衛門被量割左衛門地所取場になり、それ を支助が預かる。その林にあつた小風折木を切り取 つた。不埒につき預かり地を返す	1590
755	56	寛	寛政六年 寅 三月	一通	伴右衛門・勝蔵・ 名主彦兵衛 傳兵衛	伊勢御師手代橋本政右衛門へ用立てた二両のふち、こ のたび二両の受取	167
756	57	御林内榎子所改帳	寛政六年 寅 三月吉日	一冊	名主彦兵衛 傳兵衛	鹿塩山の各字地において、材木になりうる榎木の多少 が、見分した村民名も共に記されている。手開山他	995
757	58	(一)飢扶持貯蓄割付取立帳 (二)貯蓄高割付帳	寛政六年 寅 三月 閏十二月	二冊	鹿塩村名主彦兵衛 傳 兵衛	貯蓄としての種二五三三三升二合六勺六才、代金米四百 三十二文五分、村高一石につき種三斗を割付徴収	996

758	59	奉差上書付	寛政六年 寅 四月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	御榎木山増木のたぬ見分に來付した市岡佐藏より上浦 助に提出した。御林と百姓山境を改め、永外になっ ていた百姓持雑木並山が見つかり年貢を納めるように するという書付	661
759	60	奉差上一札	寛政六年 寅 四月	一冊	鹿塩村名主他・飯田御 役所	江戸表により御榎木山改めがなされる。御榎木山を大 事に守る	662
760	61	被仰渡御請書	寛政六年 寅 五月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	村人用の割り当り方、村役人の役料高、名主の軒別、人 足の使ひ方に付いて仰せ渡しを通知した	663
761	62	入置申一札之事	寛政六年 寅 八月	一通	支配人桑原市左衛門・ 鹿塩村役人衆中	村方持ち林立木残らず八十両で買い入れ、二十両を渡 す。残金は入山の時に二十両、材木出材のときに四十 両支払う	450
762	63	高割入敷改帳	寛政六年 寅 八月	一冊	鹿塩村	古新田畑山畑焼畑など、高反別、持ち主、土地荒置の 年月などの書き上げ	997
763	64	御吟味二付差出申書付之事	寛政六年 寅 十月	一通	本人宇左次他 名主組頭衆中	村方御役人兵左衛門に対し我傷を申し立てたことは聞 違ひで、名主組頭衆のとりなして許された、以後わが ままなど言わない	1382
764	65	差出申一札之事	寛政六年 寅 十月	一通	中於高見村名主彦兵衛 門他御役人中	鹿塩村内山から御用材伐り出しにつき、山境改めを行 なうについて申し分はない	168
765	66	差出申一札之事	寛政六年 寅 十一月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 高見村名主中	鹿塩村内山から御用材伐り出しを高見村の山境で行 う。寛政七年に材木山落としをした	664
766	67	寛延御年貢小物成取立帳	寛政六年 寅 十一月	一冊	鹿塩村名主勘定人	本新田畑合高五十五石五斗五升二合、荒れ所千三百十一 石八斗四升二合、納金四十二両米百八十二文六分九 厘七毛の割付費帳	665
767	寛政 68	(一)(二) 覚	(一)寛政六年寅十月 (二)寛政十二年申十 月	一通	飯田御役所・ 鹿塩村名主	安永九年子に改め、新田見取は本透高掛、小物成はこ れまでと同免とする	169
768	69	差出申一札之事	寛政六年 寅 十一月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 高見村名主中	鹿塩村内山より御用材伐り出すに際し、高見村と取り 交わした文書の相互違還の一札	170
769	70	(一) 本田畑高分帳 (二) 辰新田畑高分帳 (三) 子新田畑并見取場持林畝歩分帳 (四) 安永田畑高分帳 (五) 古新田畑高分帳	寛政六年 寅 十一月	五冊	鹿塩村名主所	本新田畑、見取場、持ち林の広さ、高分けの書き留め	998
770	71	当寅年本新田畑年貢小物成取立帳	寛政六年 寅 閏十二月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛・傳 兵衛、勘定人住右衛門	当年の年貢、小物成取り立て徴収帳	999
771	72	家別覚覧帳	寛政六年 寅 十二月	一冊	鹿塩村	家別百七十六軒、土軒名主御役分、家数二百四十 一軒	1000

772	73	差出申御請書之事	寛政六年 寅 十二月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・彦 兵衛	鹿塩村百姓内山から赤松、栗杉木の伐り出しを仰せ付 けられた。御用第一、御傳木山には一切立ち入らぬこ と、火の用心、などを怠るべきと	451
773	74	飢扶持神代石割付取立帳	寛政七年 卯 三月	一冊	鹿塩村名主	時給としての神代石割付取立帳	1001
774	75	借用金子證文之事	寛政七年 卯 三月	一通	借用主左衛門・左衛門 他彦兵衛門	村方御用のため三両を利息一割二分五厘、月割り勘定 で借用する	1383
775	76	寛政七年薪木證文書連一札之事	寛政七年 卯 四月	一通	大河原村役人総代彦傳 次、太郎左衛門・ 鹿塩村彦兵衛、和左衛 門	溝田地本地川向の林地にある薪木を一両二分で売る。 当年中に残らず伐採することになった	1477
776	77	寛政七年御勘定目録	寛政七年 卯 四月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・ 飯田御役所	寛政元年申より十年の定免のうら、寛政七年寅年分年 貢なら勘定目録	171
777	78	相定寛政申薪木證文書送之事	寛政七年 卯 四月	一通	買主彦兵衛、和左衛門・ 大河原村頭中	大河原村兵左衛門被官左衛門土地取上になった後、 頭中所持になっていた。その林地にある木を薪木とし て買いつける	1591
778	79	御傳木御伐出被仰付御尋書付控へ	寛政八年 辰 六月	一冊	十カ村名主組頭・鹿塩 村名主彦兵衛門他・ 飯田御役所	御傳木を伐り出せるかどうかお尋ねだが、五十年ほど 年貢現金納の間に榎も生長したが、いまだに榎だけで 金納は出来ない。除、黒松、樺、唐檜、姫子、しらび そ、黒松を混せるのではどうか	666
779	80	貯扶持神代木割付帳	寛政八年 辰 十二月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛・左衛門	貯扶持高二石三斗五升二合の代木六百十四文五分四厘 二毛を高に応じて割り付ける	1002
780	81	出入用割付帳	寛政八年 辰 十二月	一冊		入用金三十両余他を彦兵衛他に割付、その利息を全 め書き上げ	1003
781	寛政 82	差出申御一札之事	寛政九年 巳 一月	一通	本人松五郎・治助・ 門頭利忠・他	佐治助が主人に不調法、謝つて詫されたことを感謝	172
782	83	(一、二左)恐以書付奉願上候	寛政九年 巳 一月	一通	大川原村名主代折兵衛 他五カ村名主・飯田御 役所	年貢をこれまでどのように納めたかについて述べ、榎 木伐採を引き上げないよう願っている	452
783	84	差出之申一札之事	寛政九年 巳 三月	一通	本人彦兵衛他・ 名主組頭中	甚八持高の山畑と屋敷を新六へ十一両で譲る。甚八は 子供をつれて西国巡礼へ行ったきり十二年行方不明、 帰国していない	453
784	85	申渡	寛政九年 巳 四月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他村 役人・飯田御役所	鹿塩村の村方治め方は良くないので、年貢納、五人組 のあり方、何事も申し合わせて行うことなど申し渡さ れたことの請状	454
785	86	組合議定書	寛政九年 巳 八月	一通	(狂人大島)・ 京都吉田殿御本所	今般の神祇取締りのため廻村し調査された条目を守 る。社家組合員の勤めの条目が記されている	667
786	87	左衛門殿より中二付御用状等し	寛政九年 巳 八月	一冊		井上美濃守を名乗る詐欺に注意の触書(寛政三年三 月)の触書写しがある	1004

787	88	神祇師弟之事	寛政九年 巳 十月	一通	元嶋伊集 大平山城・ 鹿塩村社人太嶋	神祇意大切に相勤め申すべき事	668
788	89	当己御年貢初納二納小物成割付内寄帳	寛政九年 巳 十一月十日	一冊	鹿塩村名主所	当己の年貢初納二納小物成の割付	1005
789	90	貯持神代金割付帳	寛政九年 巳 十一月	一冊	鹿塩村名主所	貯持代金の割付。神帳は本切な帳面なので、すべて検 地帳の箱に入れて保存するというは紙がついている	1006
790	91	当己年本新田畑御年貢小物成取立帳	寛政九年 巳 十一月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛 傳 兵衛	当己本新田畑年貢小物成の徴収帳	1007
791	92	本新田畑小前書控帳	寛政九年 巳 十一月	一冊	名主彦兵衛 傳兵衛	代左衛門をはじめ小前右と高の書き抜き。総高四巨五 十五五廿五廿二合	669
792	93	御免定御切替御吟味御請書(差上申御 請書之事)	寛政十年 午 三月	一冊	鹿塩村名主文左衛門 他・飯田御役所	これまでの定免通りならば請ける。安永々新田は少し 引き上げとのこと承知した	670
793	94	貯持貯神石割付取立帳	寛政十年 午 三月	一冊	鹿塩村名主組頭	貯神としての神を意に応じて割付	1008
794	95	(一)己居御年貢勘定目録 (二)寛	寛政十年 午 三月、五月二十六日	一通	鹿塩村名主彦兵衛・ 飯田御役所	寛政元年より十年定免のうち、寛政九年分年貢 小物 成	173
795	96	午より辰迄五ヶ年定免御請證文(差上 申證文之事)	寛政十年 午 八月	一冊	十力村名主組頭百姓代	当年から五年間の定免。安永々新田も定免となる。風 水豊損は引き方願い出ない。川々石砂入りは十分の一 以上の場合見分の上引き方願う	671
796	97	(寛)	寛政十年 午 九月他	七通	各人	その他金子受け取り覚え	1384
797	98	長持御養子祝儀之貯持参物改引分ヶ 帳	寛政十年 午 十一月十七日	一冊	伴右衛門 後家みよ、同 人娘つる・御役人中	たぐす、長持他種々の養子祝儀の持参品書き上げ	1009
798	寛政 99	彦太夫持送之品数改引分請取帳	寛政十年 午 十一月十七日	一冊	直左衛門、彦兵衛・ 御役人中	八月二十四日太嶋彦太夫彦兵衛死により遺品改め 請取帳。当時の隠居の生活用品がな持持物の奉養がよ く分かる	1592
799	100	博奕御吟味御請即改控へ (付文書、差出申一札之事)	寛政十年 午 十二月	一冊 一通	大嶋直左衛門、同裕次 郎	博奕 勝負事禁止のお触れの請け印帳	1010
800	101	本新田畑荒所起渡出博不書出帳	寛政十年 午 十二月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛 文 左衛門	荒所 起し返りの高区別、中博不書勘数の書き上げ、 合計高三十石余、中博不千四巨十挺余	1011
801	102	当己年本新田畑御年貢小物成取立帳	寛政十年 午 十二月	一冊	鹿塩村名主文左衛門、 彦兵衛	当己本新田畑年貢と小物成の取立徴収帳	1012
802	103	鹿塩村中請書控(差出申一札之事)	寛政十年 午 十二月	一冊	代右衛門他、 村中連託	当己三月、戸田采女正から賭博、賭け勝負は停止のお 触れの請け印、理髪に都合おせの者三貫文の過料、知 らせ者へ褒美として与える	672
803	104	差出申書付之事	寛政十二年 未 一月	一通	文左衛門他・ 彦兵衛 新六	観音堂が建立された内、十五堂に当鐘一つを差進する	1478
804	105	本新田畑荒所小前帳	寛政十二年 未 五月	一冊	名主文左衛門他・ 飯田御役所	本新田畑の内、荒所の高区別がな書き上げ、総区別五 区四石、米高四石九斗一升二合七勺	1013

805	106	預り申下作地證立之事	寛政十二年 未 五月	一通	本人住主他・ 裕次郎・直左衛門	当去年から来る酉年まで三年間 下作金三分 諸役村 役迄勤める	1593
806	107	本新田畑所御案内帳	寛政十二年 未 六月	一冊	名主文左衛門・傳兵衛	本新田畑の内、荒所の書き上げ	1014
807	108	寛政十一年末阿佐原遺言取帳帳	寛政十二年 未 七月	一冊	彦兵衛他惣連中	相定由寛、宝暦三年に切開いた阿佐原遺言について の取り決めを新組合全を知らせた	1015
808	109	山本流七氣湯	寛政十二年 未 十一月	一冊	宮下氏・ 大嶋氏雄丈	七つの疾患に対する効果秘法の伝授は相伝であること	1016
809	110	寛	寛政十二年 未 十二月二十七日	一通	鹿嶋村惣左衛門・ 中尾村清助郎	辰巳午の貸借出納の寛、甚郎他出に付、名代猶 左衛門が押印している	174
810	111	寛代代水高掛割付帳	寛政十二年 未 十二月	一冊	名主文左衛門・傳兵衛	貯蔵繰代金米五百六十三文三分 厘四毛を高に応じて 割り付ける	1017
811	112	当去年年貢小物成立帳	寛政十二年 未 十二月	一冊	名主文左衛門・傳兵衛	当去年分年貢小物成、年貢四十五両二分三朱、ほか国 役金・課代、納入用金、合計四十九両三分三朱、錢五百 三十五文	1018
812	113	当去年本新田畑御年貢小物成取立帳	寛政十二年 未 十二月	一冊	鹿嶋村名主文左衛門・ 傳兵衛	当去年分年貢と小物成の取立徴収帳	1019
813	114	飢扶持貯割割付取立帳	寛政十二年 申 三月	一冊	鹿嶋村	貯蔵としての稗一石三斗五升二合五高に応じて割付	1020
814	115	差出申一札之事	寛政十二年 申 四月	一通	願本人宇太次他・ 村方御役人中	上京したい、その前に定め役勤仕務を十分行なう	175
815	116	差出申一札之事	寛政十二年 申 五月十九日	一通	本人長左衛門他・伊那郡 飯嶋織兵衛	先年小傳達いで本郷と御役所で言い渡された。家財な ど本家へ没収、江戸で働いたがどうにもならず帰村、 足達に助けられ二十両支払って許された	455
816	寛政 117	指出申願書之事	寛政十二年 申 五月	一通	松浦孝峰守家中庄次郎 他・ 塩泉院	宗兵衛の父母、宗兵衛の親宗兵衛二人の法名を居士大 姉に替えてほしい、庄次郎孝行のため	176
817	118	(一)当申御年貢初納二納小物成割付 帳 (二)当去年年貢小物成立帳	寛政十二年 申 十月二十八日 十二月	一冊	鹿嶋村名主所	(一)当申年の年貢初納二納小物成四十五両の 割付、(二)年貢国役金・納入用金・課代金の書きと め、(三)当去年が確認されていると考えられる	1021
818	119	当去年本新田畑御年貢小物成取立帳	寛政十二年 申 十二月	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛・傳 兵衛	当去年分年貢と小物成の取立徴収帳	1022
819	享和 1	相定由養子證立之事	(寛政十三)享和 元年 酉 正月	一通	本人代親類引受人和左 衛門他・惣左衛門他	養子縁組に付いて控え地や関する人々との今後の事を含 めて定めた事	673
820	2	議定申為取替書之事	(寛政十三)享和 元年 酉 二月	一通	五郎左衛門他・ 伴蔵・左内他	五郎左衛門持地に關わり土地争いになり御役所へ出訴 に及ぶが、このたび村内で内落として議定した	1594
821	3	飢扶持貯割割付取立帳	(寛政十三)享和 元年 酉 三月	一冊	鹿嶋村名主文左衛門・ 五郎左衛門・飯田御役 所	稗高一石三斗五升二合の代金を高一石につき、永一文 四分九厘の割で割り付ける	1023

822	4	申年御年貢御勘定目録	享和三年 西 六月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	寛政十二年分の年貢榎木代金と小物成など勘定目録	177
823	5	古田畑荒所内検査内帳	享和三年 西 七月	一冊	鹿塩村名主文左衛門・ 五郎左衛門	本田畑・辰新田・安永九子新田畑区別書きとめ	1024
824	6	当番御年貢初納二納小物成割付帳	享和三年 西 十一月二日	一冊	鹿塩村名主所	金四十二両三分納め、割付帳	1025
825	7	当番年本新田畑御年貢小物成取立帳	享和三年 西 十一月	一冊	鹿塩村名主文左衛門・ 五郎左衛門	当年分年貢と小物成の取立徴収帳	1026
826	8	御年貢小物成計帳	享和三年 西 十二月	一冊	鹿塩村名主所	年貢小物成四十七両三分・永八十二文三分八厘毛	1027
827	9	相定書付之事	享和三年 西 十二月	一通	塩泉院金締・ 早家頭中	長口口衣を拙僧が引き受けたい、惣且中へは世話をお願い ない	178
828	10	(寛)	享和三年 戊 三月十五日 他	十通		廻状受け取り覚え	1385
829	11	飢持貯貯割付取立帳	享和三年 戊 三月	一冊	鹿塩村名主善兵衛・泰 助	貯穀種の割り当て取り集め報告	1028
830	12	高野山弘法大師授冬点	享和三年 戊 五月晦日	一通		春雄に行なう念。本体の病氣は治すという。高野山千 手院谷迄之坊壱美院代医候	1479
831	13	御榎木出目記覚帳	享和三年 戊 六月	一冊	鹿塩村名主所彦兵衛・ 傳兵衛	黒川山・ひがしこはの沢・手開山・沢井山の木数を手 分けして六月十二日から十二日に調査した結果の覚	1386
832	14	当戌御年貢初納二納小物成割付帳	享和三年 戊 十一月九日	一冊	鹿塩村名主所	年貢初納二納、小物成の割り付け	1029
833	15	御榎木山御吟味讀書相定年通印一札 之事	享和三年 戊 十一月	三冊		御榎木山停止木を条作りのためや、売るために切り出 さない。三冊同文	1030
834	享和 16	去銭帳	享和三年 戊 十二月	一冊	名主彦兵衛他・ 飯田御役所	享和三年村入用費・去銭の書き出しと割付徴収帳	674
835	17	御年貢小物成計帳	享和三年 戊 十二月	一冊	鹿塩村名主所	年貢四十四両二分・国役金二両一分・秤石代二分・米 余	1031
836	18	酒造方十分二御連上被仰付一件	享和三年 亥 閏一月十五日	一冊	小・野村酒造人直次郎 他・飯田御役所	酒造米の十分二の米を供出せよ。または金締せよとい う申し渡し、小野村直次郎・鹿塩村彦兵衛・南山村治 太主・難儀であり且延べを願っている	675
837	19	享和式戌年分村方より役本へ年改控 へ覚帳	享和三年 亥 一月吉日	一冊	名主彦兵衛	年頭改め入用金徴収の覚え	1032
838	20	(一)(二)(三) 差出申一札之事	享和三年 亥 一月	七通	又右衛門・物役人衆 *	御法度の傳打を行つた人名の者の記び状、始末書と内 済にしたことの届け書き、五人組の口上。*文左衛門 殿御隠居三郎左衛門、彦兵衛殿御隠居直左衛門、傳兵 衛殿御隠居甚五左衛門	456
839	21	飢持貯貯割付取立帳	享和三年 亥 三月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他	貯種の割り付け、及び徴収帳。鼠などに食われぬよう 心付けする事	1033

840	22	家人勘察帳	享和三年 亥 三月	一冊	鹿塩村名主他・飯田御役所	文化三年に「人馬勘帳」から「家人勘察帳」に改めたと記されている。調査前下書きまたは手本、家数五十八人、申込数何百何十人、馬五十六疋	676
841	23	乍取書付を以奉願上候御事	享和三年 亥 八月	一冊	酒造人南山村次大夫 他 飯田御役所	酒造米高十分一の米を提出せよとの申し渡したが、困難に付ても、高のようには造っていないので、実際に酒造米の十分一にしてほしい	677
842	24	(一) 亥より卯迄五年定免御請證文 (二) 定免切替三付村々再吟味書	享和三年 亥 十月	一冊	御預かり所十カ村(鹿塩村)・飯田御役所	当年から五年の定免切替で、(一) 各村は前免と同様、増減額を請けるとした。(二) 少々宛でも増減の再吟味により増減を回答して請ける事にした	678
843	25	当年御年貢初納二納小物成割付帳	享和三年 亥 十二月二日	一冊	名主所	年貢初納二納、小物成の割り付け覚え	1034
844	文化 1	差出申一札之事	享和四年 文化元 年 子 二月	一通	一札本人権左衛門他・酒屋屋左衛門	たびたびの借金が重なり行き詰まったが、みなのお助けにより返してゆけるようになったこと、子々孫々まで忘れることなく伝えてゆく	1387
845	2	(一、二) 飢持貯糧割付取立帳	享和四年 文化元 年 子 二月 十二月	一冊	鹿塩村名主所	(一) 享和三年十二月付、二年分 (二) 享和四年 文化元年十二月貯蔵としての糧割り付け取立	1035
846	3	安永新田御焼賃合算帳	文化五年 子 九月	一冊	鹿塩村名主五郎左衛門 飯田御役所	安永新田高反別持ち主など書き上げ	1036
847	4	当年御年貢初納二納小物成割付帳	文化五年 子 十二月二日	一冊	鹿塩村名主所	当年の年貢、初納二納小物成の割り付け	1037
848	5	差出申一札之事	文化五年 丑 一月十七日	一通	本人紋次郎他・御役人中	紋次郎の女房さんと、柄山松五郎方からもり受けた。宗廟に加える	1038
849	6	差出申一札之事	文化五年 丑 二月晦日	一通	鹿塩村民兵衛他	大河原村との境について、民兵衛とその組のものが大河原村に出した一札、後に取り戻した	179
850	文化 7	飢持貯糧割付取立帳	文化五年 丑 三月	一冊	鹿塩村名主文左衛門 他 飯田御役所	文化五年十二月付け、貯蔵としての糧二石八斗合二匁を高割で割り付け徴収	1039
851	8	御樽木山井内山共三村方相札付被官 井より印形取候控(差出申證文之事)	文化五年 丑 九月十九日	一冊	利忠治他・御主人	御樽木山、内山を請わず、諸木をみだりに切る事を禁止と、うお触れをきると共に、山内見廻りまくに迷惑などかけないことの一札	1040
852	9	御樽木山御札二付小前連印帳	文化五年 丑 九月	一冊	鹿塩村名主所	鹿塩御樽木山の吟味、お調べに際し、御樽木山を大事にすることなど請ける連印帳	1041
853	10	当年生本新田御焼賃小物成取立帳	文化五年 丑 十一月吉日	一冊	鹿塩村名主彦兵衛・傳兵衛	当年生貢小物成徴収帳	1042
854	11	(一、二) 寛	(一) 文化三年丑十二月二日 (二) 文化四年卯四月十五日	一通	市岡佐蔵・湯浅定左衛門・鹿塩村名主	調達金請取、ともに八両	1388
855	12	差出申一札之事	文化五年 丑 十二月	一通	松嶋村利八・鹿塩村安左衛門・鹿塩村彦兵衛	松五郎次男清八が松嶋村へ養子として転出、引き請状	1389

856	13	御年貢小物成計帳	文化三年 丑 十二月	一冊	名主彦兵衛・傳兵衛	年貢四十四匁二分 納入用金二分余 国役金三匁二分 三か月分利息八十四文余	1043
857	14	寛 貯蔵	文化三年 丑	一通		天明八年から文化三年までの貯穀としての稗 粉の収 支	1595
858	15	飢持貯稗割付取立帳	文化三年 寅 三月	一冊	鹿塩村名主彦左衛門・ 五郎左衛門	貯穀としての稗二百三十五升二合を高割で割り付け徴 収	1044
859	16	御類焼御上借金割付帳	文化三年 寅 六月	一冊	鹿塩村名主所	火災で類焼した役所またはお上の屋敷再建金の村々へ の割付金徴収帳	679
860	17	寛	文化三年 寅 七月三日	一通	市岡佐蔵 湯浅貞左衛 門・鹿塩村名主	十匁二分銀十四匁余の借入金 江戸表屋敷が火災によ り焼失 再建のための調達金	180
861	18	(一)丑年御年貢御勘定目録 (二)卯年御年貢御勘定目録 (三)申年御年貢御勘定目録	(一)文化三年寅 十 月二二文化五年辰 六月二二文化十年酉 六月	四通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	享和三年から文化四年まで定免 および検見取の内、 文化三年分および四年分、文化五年から九年まで定免 および検見取の内、文化九年分 (三つの内に文化四年分 掛札)	181
862	19	(一)当寅御年貢初納二納小物成割付 帳 (二)当卯御年貢初納二納小物成割付 帳 (三)当辰御年貢初納二納小物成割付 帳	文化三年寅十一月 文化四年卯十一月 文化五年辰十一月	三通	鹿塩村名主所	当年の年貢初納二納 小物成の割り付け	1045
863	20	寅年掛札	(文化三年) 寅 十二月	一通	・鹿塩村	牛より卯まで十カ年定免 新田・見取田畑年貢掛札 (牛 より卯まで十年定免は寛政十年から文化四年)	1390
864	文化 21	(一)櫛木割株代取引請證文之事 文化三年寅八月 四徳村幸蔵 (二)櫛木割株代取引請證文之事 文化三年寅九月 四徳村長四郎 (三)櫛木割株代取引請證文之事 文化四年卯二月 四徳村幸蔵 (四)相定借長堤山手形之事 文化六年巳月 本人喜五右衛門 (五)櫛木割為取替書付之事 文化十三年子九月 大和地村徳左衛門・四徳村幸蔵 (六)為取替書付之事 文化十三年子九月 鹿塩村彦兵衛 (七)櫛木割出証書取立證文之事 文化拾四年丑五月 四徳村中次郎 (八)差仕上申山手證文之事 文化十四年丑五月 四徳村中次郎	文化三年寅八月 四徳村幸蔵 文化三年寅九月 四徳村長四郎 文化四年卯二月 四徳村幸蔵 文化六年巳月 本人喜五右衛門 文化十三年子九月 大和地村徳左衛門・四徳村幸蔵 文化十三年子九月 鹿塩村彦兵衛 文化拾四年丑五月 四徳村中次郎 文化十四年丑五月 四徳村中次郎		大島桑持山で櫛木としてミナベリ伐り出し 栗そ の他枯れ木で炭焼きの願い出 取り決める	1596	
865	22	指出申一札	文化四年 卯 一月	一通	尾州名主屋柴田屋新左 衛門・代人彦兵衛・鹿 塩村名主彦兵衛	春日社造営の御用木を鹿塩大河原村岡村の社木・松・ 槇杉 帳を買い受ける。その他榎木も敷木として買 う。飯嶋御役所に願い出て承知された	680
866	23	御榎木御切替明細帳	文化四年 卯 三月	一冊	大嶋彦兵衛	榎木代金納のため榎木御切替の歴史寛 安永三年十 月の嘆願書写し(鹿塩村)と享保二十年より文化四年ま で七十二年間の貢租金納のまゝ	182
867	24	飢持貯稗割付取立帳	文化四年 卯 三月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛彦左 衛門他・飯田御役所	御備に備えた貯穀として高一石二匁三合を割り付 け取り立てる。計二百三十五升二合	1046
868	25	寛	文化四年 卯 四月	一通	鹿塩村三役人・千村平 右衛門 飯田御役所	仰せ付けられた圃に米を供出する件 困窮のため 米一俵がせいぜいであること	1391

869	26	子新田内見合附帳寄	文化四年 卯 九月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	当年の田方宅毛を調査し、結果の報告	1047
870	27	安永新田御検査台帳	文化四年 卯 九月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	安永新田の調査記録、高区別、持ち主、場所、原帳面 と付加項目を付紙で加えている	1048
871	28	差出申書付之事	文化四年 卯 九月	一通	駿州今澤村勝蔵麥玄趙 他・彦兵衛、麿左衛門	医師勝蔵麥玄趙の転々人生と土地を得たいという意思 表明	183
872	29	(一、二)本新田畑荒置起返内見察案 内帳	文化四年 卯 十月	一冊	名主彦兵衛、文左衛門	本畑、古新田、辰新畑、古新畑、起し返り、安永新田 畑など、広さと持ち主書き上げ	1049
873	30	(一)本新田畑荒置起返帳 (二)当所起返御改帳	文化四年 卯 十月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛、文 左衛門・飯田御役所	本新田畑で荒置の場所、総反別計七反九畝十九分など 調査報告	1050
874	31	当所起返御改帳	文化四年 卯 十月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	文化四年の見分結果、起し返り書き上げ、古新田、辰 新田新畑、安永新田、新畑	1051
875	32	当所年本新田畑御年貢小物成取立帳	文化四年 卯 十二月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛、文 左衛門	当年の年貢小物成御取帳	1052
876	33	御年貢小物成立帳	文化四年 卯 十二月十九日	一冊	鹿塩村名主彦兵衛、文 左衛門	当年年貢四十四両三分、米錢一円余、園役金二両一分 他書きとめ	1053
877	34	飢持貯貯割付取立帳	文化五年 辰 三月	一冊	鹿塩村名主文左衛門彦 兵衛他・飯田御役所	飢饉に備えた貯穀として計一石三斗五升一合六勺六 分を倉に充てて割り付け取り集める	1054
878	文化 35	乍恐以書付奉願上候御事	文化五年 辰 五月	一通	鹿塩村名主文左衛門、 大河原村名主兵左衛 門・飯田御役所	鹿塩、大河原両村は榎木成村だが、榎が尽きて現金納で あるが、榎木換算従長が三百五十五石まではやつてゆ けないので、昔のように五百五十八石替えるように願 っている	457
879	36	乍恐以書付奉願上候御事	文化五年 辰 五月	一通	鹿塩村、大河原村名主 他・飯田御役所	年貢納に付いてこれまでどうであったかを記し、災害 で困窮の両村年貢は昔のように取り扱うことの願い	681
880	37	(一、二)覚	文化五年 辰 十月五日	一通	七郎右衛門他・ 酒彦兵衛	預かり置いた屋根懸き費用を支払う	184
881	38	(書付)	文化五年 辰 十月吉日	一枚		奉喜甚喜茶師堂の寛、屋根師、意通、田和右衛門、別当 七郎右衛門、氏字宗右衛門、同、主太郎	185
882	39	相定由為取替勘文之事	文化五年 辰 十二月	一通	別当七郎右衛門他・ 当主三人	茶師如來本堂と伽藍修復の御行について	682
883	40	辰年免定之事 酉年免定之事 定免并檢見取辰年御取箇掛札 定免并檢見取酉年御取箇掛札	文化五年辰十月 文化十年酉十月 文化五年辰五月 文化十年酉五月	一冊	飯田御役所	鹿塩村の文化五年辰から来る申まで五年定免 文化十年酉から来る卯まで七年定免 文化五年と十年の掛札の写し 四通分、冊	683
884	41	差出シ申書付之事	文化六年 巳 一月	一通	久四郎他・ 彦兵衛	久四郎の土地は昨年流失し、通行に困っているので彦 兵衛の土地を通行して日々の作業生活をしてたい	1480
885	42	博奕諸々諸勝負被官申渡	文化六年 巳 二月、重日	一冊	大嶋彦兵衛	博奕や諸勝負事禁止のお触れを被官に申し渡し、その 請状	1055

886	43	定免并横見取辰年御取箇掛札	文化六年 巳 五月	一通	飯田御役所	文化七年分年貢取	186
887	44	安永新田御横見合主帳	文化六年 巳 八月	一冊	鹿塩村名主文左衛門 他 飯田御役所	安永新田の立毛 文化六年分。下下田二反八畝六分 畠付田一反七畝二十四分 内畠付田三反五畝十二分	1056
888	45	(一) 田畑荒地御案内野帳 (二) 田畑荒地小前帳	文化六年 巳 八月	一冊	鹿塩村	本新田畑、荒地の高区別、持ち主、川下げが起った 年月の書き上げ	1057
889	46	(一) 荒所起返小前帳 (二) 御勘定御奉行佐藤嘉郎左衛門様 荒地御改起返り帳	文化六年 巳 十月	一冊	鹿塩村名主文左衛門他	文化六年分起返吟味につき調査集書き上げ	1058
890	47	当目御年貢初納二納小物成割付帳	文化六年 巳 十二月	一冊	鹿塩村名主文左衛門 傳兵衛	当年の年貢、初納二納小物成の割り付け	1059
891	48	差出申一札之事	文化六年 巳 十一月	一通	本人和左衛門、定右衛 門・惣役人他	新六の四男定右衛門を養子にしたが備用証文一通分は 土地を實に五畝借用して返済	187
892	49	差出申一札之事	文化六年 巳 十一月	一通	惣右衛門他・ 惣御役人他	借金十三両の内、三両返済、残りは延引きしている。 養子となるに際し所持する土地と五畝で返済する	188
893	50	御年貢小物成寸改帳	文化六年 巳 十二月十七日	一冊	鹿塩村名主文左衛門 傳兵衛	年貢四十四両二分末、米錢一分米、十六文六分、厘 国役金、両一分、甲入用三貫余、起し返り増し年貢一 両一分	1060
894	51	古除遺銭書帳	文化六年 巳 十二月	一冊	鹿塩村	遺銭書請金帳	1061
895	文化 52	申合書付之事	文化六年 巳 十二月	一通	嘉兵衛他	役働動ある際に会所に集まっていたが、今後は行なわ ない。三月の宗門、年貢などについては耕地支配限り で行なう	1597
896	53	増減御改下書帳	文化七年 午 三月二十四日	一冊	塩泉院旨中	文化七年、塩泉院が宗門増減改め下書き帳。増し人男 六人、女十五人、減り人男十二人、女十五人	684
897	54	鉄砲御改帳	文化七年 午 三月	一冊	鹿塩村名主五郎左衛門 他	獨師鉄砲二十三挺、齊し鉄砲三十挺	685
898	55	鹿塩村三分寺宗門一件記録	文化七年 午 三月	一冊	彦兵衛	宗門帳作製に関するご、三月二十二日から七月十七 日付けまで村内や役所とのやり取りなどを詳細日記	1392
899	56	書簡(守し書え)	(文化七年) 午 五月二十七日	一通	井上清助・ 嘉兵衛 五郎左衛門	宗門帳二件について、奥印がないので塩泉院と香林寺 に印紙持参呼び出し	1393
900	57	寛 (文化七年御取箇集書)	文化七年 午 十月	一通	飯田御役所・ 鹿塩村名主	文化七年分の年貢、小物成、その他は従前どおりであ ることの通達	189
901	58	当目御年貢初納二納小物成割付帳	文化七年 午 十二月八日	一冊	名主所	当年の年貢、初納二納小物成の割り付け	1062
902	59	御榎木山木敷御書上帳	文化七年 午 十二月	一冊	鹿塩村名主嘉兵衛他・ 飯田御役所	御榎木山における榎、樺、樺、榎層の目通し即木敷六 万千本の書上帳。この帳面書上の当時の事情が記され ている。文化八年二月八日帳面認め	1063

903	60	御樽木山不教書上帳	文化七年 午 十二月	一冊	鹿塩村組頭兵左衛門 他・飯田御役所	鹿塩村御樽木山にある樹種毎の立木数報告	686
904	61	(一、二) 創扶持時割付取立帳	文化七年十二月 文化八年未三月	一冊	鹿塩村名主五郎左衛 門・嘉兵衛・飯田御役 所	貯蓄としての種一石三斗五升二合六タ六才を高に応じ て割り付ける	1064
905	62	夫錢帳	文化七年十月 二年未十二月	一冊	鹿塩村名主・ 飯田御役所	文化七年八年、村人用費・夫錢の書き出しと徴収帳	687
906	63	(一) 宿割覧 (二) 覧 (三) (左例左之通)	文化八年未 四月二十八日	三枚	千村平左衛門内奥田名 兵衛	(一) 殿様巡村で宿泊上種村における宿割り、人数な どの覧え (二) 家来衆の役職と名前覧え (三) 殿様巡村の立ち寄り宿泊地など、先例の覧え	688
907	64	御殿様御参府御用金割付取立帳	文化八年未 八月十二日	一冊	鹿塩村名主所	久々里の殿様が江戸へ上るについての御用金を割付徴 収する	1065
908	65	当主御年貢初納二納小物成割付帳	文化八年未 十一月	一冊	名主文左衛門・定右衛 門	当年の年貢初納二納小物成の割り付け	1066
909	66	本新田畑年貢取立帳	文化八年未 十一月	一冊	鹿塩村名主文左衛門・ 定右衛門	文化八年国役金・年貢徴収帳	1067
910	67	幕通出申合書付之事	文化八年未 十一月	一通	彦兵衛他	葬礼の際に張る幕に付いて、寛延三年に筋目の者で申 し合なせた通りにする。もし互するものあれば差し止 める申し合わせ(寛延三年一月の関東文書あり)	689
911	文化 68	(一、二、三) 差出申一札之事	文化九年 申 二月	三通	本人寛三左衛門他・ 塩川耕地御役人中	仙六方の婚礼の際、塩川耕地総代として酒客になった。 その時寛三右衛門が不出勤いた事をとりなして下洛と した	1068
912	69	差出申一札之事	文化九年 申 四月	一通	不埒本人傳藏他八名・ 寺平隠居八郎治	禁止されている勝負事を行なつた中に特に大嶋家来 が混じっていた。不埒は今後ないという約束一札	1069
913	70	乍恐以書付奉願上候御事	文化九年 申 四月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	寛政元年以来続く流失に困窮している。役儀もままな らない。唐槽・白ひそで薄板を作り小口木を出したい	690
914	71	乍恐以書付願上奉申上候	文化九年 申 四月	一通	鹿塩村名主彦兵衛傳兵 衛他村役人・飯田御役 所	寛政元年西以来続く流失で村は困窮の極みである。救 済として唐槽目樽の小口木を又払い上げを願う	458
915	72	小口木凡積方聞書帳	文化九年 申 七月吉日	一冊	大嶋彦兵衛 宮下文左 衛門・宮寺傳兵衛	本會敷原佐名川村寄合渡柳頭平七へ小口木見積もり	1070
916	73	(一、二) 差出申一札之事	文化九年 申 九月	一通	定旨・伴左衛門・ 惣役人中	年寄場所左佛石内に享和元年瀬木山崩れで失った原藏 宅への道の代わりの小道を、伴左衛門被官濃蔵が導道 としても使う件についての解決の一札	1481
917	74	本新田畑年貢小物成取立帳	文化九年 申 十一月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛・傳 兵衛	国役金二貫七百三十三文三分一厘七毛 三ヶ月利息百三 一分一厘五毛を割り付け徴収	1071
918	75	借用申金子證文之事	文化九年 申 十一月	一通	本人彦兵衛・ 利左衛門	金二両の借用証文。ただし、被差身請け金租殺され貸 借なしとする	459

919	76	御年貢小物成付帳	文化九年 申 十二月	一冊	名主所	年貢四十六両二朱 納入用、国役金高損など書きとめ	1072
920	77	御樽木山米品生末書上帳	文化九年 申	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	鹿塩村御樽木山にある樹種毎の立木数報告。横 三万五 千本が記録されている。	691
921	78	郷中年玉納所帳	文化十年 酉 一月吉日	一冊	名主嶋彦兵衛	郷中総員から十二文から二十四文ずつ集めた	1073
922	79	(一) 飢饉時貯蔵割付取立帳 (二) 貯蔵石高改帳	文化十年 酉 三月 四月	一冊	鹿塩村名主所・ 飯田御役所	飢饉に備えた貯蔵として、高一石につき皮糠三斗割り 付け取立帳、計二石三斗五升二合六勺六才	1074
923	80	御願方一件 一件小前連印帳 釜出申一札之事	文化十年 酉 九月	一冊	鹿塩村	公儀が御樽木山で盗伐があることを知り、一カ月に三 度の見回りを通達して来た事に付いて、御樽木山大切 に三度の見回りは最続きしないが行う	692
924	81	指出申書付之事	文化十年 酉 十二月	一通	本人染左衛門他・ 御役人中	当年惣百姓代を勤めることになっていたが、人々裏表 から斥借の一件加せ付けられたこと、盜賊騒ぎを勤め を怠らなかつたことの弁明	460
925	82	酉年免定之事(付・覚)	文化十年 酉 十月	二通 一 包み	市岡麻之助、湯浅健 治・鹿塩村名主	当文化十年酉から文政二年卯まで七年の定免と検見取 領 覚は口米代など	190
926	83	遠山・嶋富祭禮入用帳	文化十年 酉 十一月十五日	一冊	惣百姓代染左衛門	祭禮入用費を二百五十六人に割り付け	1075
927	84	御樽木・仙段御樽木山難願方入用帳	文化十年 酉 十二月	一冊	惣百姓代染左衛門	年貢樽木の仙段について願い出に要した費用二両一分 余 割付移取帳	1076
928	文化 85	飢饉時貯蔵割付取立帳	文化十二年 戌 三月	一冊	鹿塩村	貯蔵としての榧一石三斗五升二合六勺六才を徴収する	1077
929	86	一札之事	文化十二年 戌 九月	一通	耕雲寺、大竹村五郎右 衛門、新兵衛・塩泉院 檀中	塩泉院関係、耕雲寺、大竹村から着付の依頼	1078
930	87	(請取一札)	文化十二年 戌 九月 他	六通	耕雲寺、永立寺 他	座光寺耕雲寺、永立寺、秋葉寺、栖林寺に寄進したの でその請取	1394
931	88	当年御年貢初納二納小物成割付帳	文化十二年 戌 十一月	一冊	鹿塩村名主左衛門・ 定右衛門	当年の年貢初納二納小物成の割付帳	1079
932	89	御下穀初貯米食積積り主共覺書	(文化十二年) 亥 十一月二十六日	一冊	井上嘉二郎・鹿塩村名 主五郎左衛門、傳兵衛	天明八年申から文化十二年戌までの間、貯蔵の預り高 と預り主の覚え。文化五年、十年、十一年は不作で貯 蔵なし	693
933	90	物御預所高国井被仰付年号	文化十二年 亥 十一月	一冊		諸侯が仰せ付けられた預かり所の国々名と仰せ付けの 年号 高の書上帳。文政四年十二月大嶋滯跡による 写し	706
934	91	課金請取覚帳	文化十二年 亥 十二月十日	一冊	鹿・塩村名主五郎左衛 門、傳兵衛	組頭兵左衛門と其内、喜左衛門よりそれぞれ四両一分 二朱 二十一両二分 朱、二両二分 朱受け取り	1080

935	92	相定申一札之事	文化十二年 亥 十二月十一日	一通	鹿塩村役人・ 彦兵衛	村役人の内入れ札により決められた者に酒一斗、御役所への進物や出張などの費用は入れ札の者が出すことなどの定め	1598
936	93	御年貢小物成違帳	文化十二年 亥 十二月十二日	一冊	鹿塩村名主五郎左衛門・傳兵衛	年貢四十六兩二分三朱、納入用金二分茶、国役金二両二分ほか	1081
937	94	東内山運上金割付帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	鹿塩村名主	東内山を利用する運上金の割り付け、高一石につき十文八分六厘金毛	1082
938	95	遠山人帳係祭禮市瀬酒作費帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	鹿塩村公所	銭一貫四百五十文は市瀬酒造り費、銭諸事入用、これを二百四十三軒に割り付ける	1083
939	96	借用手形之事	文化十二年 子 一月	一通	井上他・ 鹿塩村名主	久々里役所勝手方入用につき、六十六兩二分三朱借用する	191
940	97	飢扶持貯御割付取立帳	文化十二年 子 三月	一冊	鹿塩村名主五郎左衛門・傳兵衛	飢饉に備え、貯蓄穀一石三斗五升一合六タ六才を高一石につき度俵三合	1084
941	98	申合一札之事	文化十二年 子 三月	一通	六左衛門はじめ百三十六名	昔から見取の場などは百姓入会としてきだが、嘉兵衛持ち山として差し止められ出入りとなつた。今後も入会山とすること、嘉兵衛は名主役にな適合であることなど百三十六人の申し合わせ	461
942	99	御尋二付申上候書付	文化十三年 子 五月	一通	鹿塩村・傳兵衛・ 飯田御役所	鹿塩村・嘉兵衛の見取場は入会地ではないが、株など年々年代なら持ち取ることを申し知らせてきた	192
943	100	内済為取替一札之事	文化十三年 子 五月	一通	訴訟方・鹿塩村百三十六名・ 飯田御役所他・ 余飯田・等蔵他・ 飯田御役所	北入草場について出入り、訴訟になつたが、熟談の上内済となつた。了解事項の確認、一通は控え	462
944	文化 101	(一) 博奕御詰及御請書 (二) 博奕勝金諸勝負御吟味連印帳	文化十三年 子 (一) 五月 (二) 七月二十八日	一冊	五人組物代・唯左衛門他・代左衛門・ 村御役人	勝負事は嚴重に御法度のこと、他所者入り込み禁を犯すものがあり、取締りに対して手向かものもあつた。今後さらに嚴重に禁止の事に付いて謹け書	694
945	102	申合一札之事	文化十三年 子 六月	一通	五郎左衛門他	北入耕地耕身で草木採取入会の所、嘉兵衛見取場まで入り込んでゐる件について、金十文を入会者は払うこと、村内組分けは古来より一組とする件	1395
946	103	御炊太夫様御遊頭分割合帳	文化十三年 子 閏八月十日	一冊		食料品など、飯田における買ひ物の覚え、他の入用金の覚え	1085
947	104	当子御年貢初納二納小物成割付帳	文化十三年 子 十一月六日	一冊	鹿塩村名主嘉兵衛・五郎左衛門	文化十三年分年貢初納二納小物成の各高持百姓と地区への割り付け額	1086
948	105	寛政元暦年より同六寢年迄夫錢帳之 写留書	文化十四年 丑 三月	一冊	鹿塩村頭分物代・出役彦兵衛・嘉兵衛	寛政元年から六年の夫錢帳等しで、その間の村方と役所御用の様子が出費額とともに記されている	1087
949	106	援組人数控費帳	文化十四年 丑 六月	一冊	鹿塩村名主	紋次郎はじめ五十九名の名簿	1088
950	107	願方人数書上帳	文化十四年 丑 六月	一冊	鹿塩村名主・役忠内他・飯田御役所	名主役役が支配している者百十一人の名書書上	695

951	108	被組人教書上帳	文化十四年 丑 六月	一冊	鹿塩村名主五郎左衛門 他・飯田御役所	計六十人は支配の考であることの申し達し	696
952	109	申渡	(文化十四年) 丑 六月	一通	鹿塩村名主五郎左衛門 他・飯田御役所	左衛門、伴右衛門が名主役でありながら組した草場 出入りについて内済申し渡し文の請求	463
953	110	身請別左衛門一件記録帳	文化十四年 丑 六月	一冊	彦兵衛	利左衛門一件について井上嘉二郎と村役人どつ対処し ている様子が記録されている	1396
954	111	一札之事	文化十四年 丑 七月	一通	鹿塩村彦兵衛他・ 利左衛門	被官が不埒、御役所に願い出て内済にした。書付などは 焼却した	464
955	112	一札之事	文化十四年 丑 八月二十三日	一通	彦兵衛他	秣場と組み分けの件はこの夏に内済となった。村役人 は近年困窮したので内々御用材伐り出しの相談をし た。この件は他言しないこと	1397
956	113	本新田畑持高小前帳	文化十四年 丑 八月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛	文化十四年八月、役所から井上青助出張し、新田畑持 ち高を調査確認した小前帳。本新田畑区別合計六町七 区二丁六分、高五十六石二斗六合、総村高四百五十石 五斗五升六合	697
957	114	御高割拝見一札之事	文化十四年 丑 九月	一通	鹿塩村当人知寿藏他・ 大草村松次郎	売り掛けと貸し金簿納で出入りとなり、榎原主計へ出 訴された。十二月四日の高割を請ける	1482
958	115	当丑御年貢初納二納小物成割付帳	文化十四年 丑 十二月九日	一冊	鹿塩村名主五郎左衛 門、嘉兵衛	文化十四年分年貢初納二納小物成の割り付け	1089
959	116	一札之事	文化十四年 丑 十一月十四日	一通	百姓代佐傳次、村役百 姓代喜左衛門・ 彦兵衛	市邊荒所五間八間の所に番人屋敷を、一年に錢三百 文で借りる	1599
960	117	当丑御年貢小物成増引帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	名主所	年貢小物成の会計帳、各人への金繰書き上げ	1090
961	文化 118	本新田畑残高書き戻帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	鹿塩村名主五郎左衛 門、嘉兵衛	本新田畑高書き上げ	1091
962	119	湯淺様御頼金割付帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	名主所	湯淺様へ用立てる金十二両を高一石につき四十一文 余、一件につき三十三文余を割り付け取り立てる	1092
963	120	寛		三十一 通	湯淺徳治、市岡麻之助、 井上金四郎、市岡寛 藏・鹿塩村	各種書き取り寛文	465

		(二)日光御宗国役高掛金 文化十四年五十月 (二)国役高掛金 文化十四年五十月 (三)納入用金 文化十四年五十一月 (四)国役金 文政五年寅十月二十六日 (五)納入用金 文政元年寅十二月十六日 (六)国役金 文政三年辰十月二十六日 (七)納入用金 文政三年辰十二月十七日 (八)納入用 国役金 文政四年辰十二月十七日 (九)国役高掛金 文政六年未十月 (十)納入用金 文政六年未十一月十七日 (十一)役所寄書金 文政七年申四月四日 (十二)国役高掛金 文政八年酉十二月十七日 (十三)納入用金 文政八年酉十二月十七日 (十四)国役高掛金 文政十年亥十月二十六日 (十五)納入用金 文政十年亥十二月十七日 (十六)国役高掛金 文政十三年寅十月二十六日 (十七)納入用金 文政十三年寅十二月十六日 (十八)国役高掛金 天保三年辰十一月九日 (十九)納入用金 天保三年辰十二月十六日 (二十)国役高掛金 天保四年巳十月二十六日 (二十一)納入用金 天保四年巳十二月 (二十二)国役高掛金 天保五年午十二月二十日 (二十三)国役高掛金 天保六年未十月二十六日 (二十四)口米代 天保六年未十二月十七日 (二十五)納入用金 天保六年未十二月十七日 (二十六)国役金 天保七年申十二月十六日 (二十七)納入用金 天保七年申十二月十六日 (二十八)国役高掛金 天保八年酉十月二十七 (二十九)納入用金 (天保八年酉十二月十七日 三十二、三十二)日光 国役高掛金 年号不明					
964	文政 1	乍恐以書付奉申上候送書之事	(文化十五年) 文政 元年 寅 三月	一通(部 分)	鹿塩村彦兵衛・ 飯田御役所	大河原村清助他の者が彦兵衛に借用金があることにつ いて願ひ出たことに対する返答書(文頭と文末のみ (飯田美博大河原節豊家文書3863・文政11と関連))	1398
965	2	桶谷橋人足改帳(付・寛)	(文化十五年) 文政 元年 寅 四月	一冊	鹿塩村	大河原村桶谷耕地高橋は鹿塩村も通るのでその修理は 両村協力 人足を出して行なう	1093
966	3	惣代出役諸事日記	文政元年 寅 八月十二日	一冊		八月十二日から九月九日まで 飯田へ出役 役所との やり取りや、村方御用村用その他日常の記録	1094
967	4	本新田畑荒所小領帳	文政元年 寅 十月	一冊	鹿塩村名主坂役方之丞 ほか	当年八月二日の雷雨で山崩れ押し出しによりできた荒 所の報告	1095
968	5	宗商人別錢寄帳(付・書付)	文政元年 寅 十二月	一冊	名主所	宗商人別調べの人数 七百六十一人 金 二分 米四百 三十二文	1096
969	6	(一)井上青助様宗前起替御改諸人用 帳 (二)井上青助様御廻村之節借物覧帳 (三)井上青助様御廻村村人足覧帳	文政元年 卯 三月 四月	三冊	鹿塩村、惣官姓代	井上青助御用廻村の入用費、道真などの借り物、人足 などの覧書きとめ	1097
970	7	飢扶持貯神割付取立控江帳	文政元年 卯 三月	一冊	鹿塩村	貯穀としての神一石三斗五升一合六勺六匁を高に依り て割付徴収する	1098
971	8	宗商人別ノ書按錢寄帳	文政元年 卯 閏四月一日	一冊	鹿塩村名主所	宗商人別計千二百九十六人、古役付七百五十四人、仮 役付五百四十二人	1099
972	9	本新田畑林分別井三下作金入積書上 帳	文政元年 卯 閏四月	一冊	鹿塩村彦兵衛・ 飯田御役所	本新田畑、山畑、持ち林など分別及び下作金の覧え	1483
973	文政 10	出入二付飯田出張目数改帳	文政二年 卯 四月	一冊		出入りて飯田お役所へ出張、たとえば彦兵衛は三月十 日から四月十六日まで三十五日、三十五人分。他多数	1100
974	11	(一)本新田畑荒所起返改帳 (二)本新田畑荒所起返り改帳	文政二年 卯 四月	一冊	鹿塩村名主所	本新田畑の内荒所起返りの調査書きとめ	1101
975	12	田畑林分別書上帳	文政二年 卯 閏四月	一冊	鹿塩村彦兵衛	田、畑、持ち林など場所、分別など書き上げ	1102
976	13	(一)田畑林分別ノ作金書上帳 (二)寛	文政二年 卯 閏四月	一冊	鹿塩村彦兵衛	田畑、林の分別、下作金の書き上げ	1103

977	14	取扱済口地方引渡境改帳	文政三年 卯 六月廿日	一冊		田畑・持林の境界を調査した記録。六月廿日から八月十三日付まで	1104
978	15	御樽木山木品生末書上帳	文政三年 卯 九月	一冊	鹿塩村名主定右衛門 他・飯田御役所	鹿塩村御樽木山にある樹種毎の立木数報告。樫 一万五千本が記録されている	698
979	16	本新田畑小前帳	文政三年 卯 十二月	一冊	順方三十三人持	田畑合三反七畝二十六分、持ち林三三分、秣山四畝、なほ主に安永新田畑の書上	699
980	17	御年貢計過不足留書帳	文政三年 卯 十二月	一冊	鹿塩村会所	文化十四年、文政三年、二年の年貢過不足書きとめ	1105
981	18	井上金四郎様御無心金割付帳	文政三年 卯 十二月	一冊		井上金四郎が申し入れた借金額を村内各人に割付徴収	1106
982	19	乍永以書付奉願上候御事	文政三年 辰 三月	一通	十カ村名主組頭・ 飯田御役所	十カ村免定切替につき増米少しでもなければ承知されないというが、逆に減免を願っている	1107
983	20	常陸御改下書き帳	文政三年 辰 三月	一冊	鹿塩村香森寺	香森寺分の宗門改帳。檀那ノ二百八人、男百三十二人、女八十六人、増人(安三人) 減人(安三人)の覚書が帳末に付けられている	1108
984	21	飢扶持貯神割付取立帳	文政三年 辰 三月	一冊	鹿塩村名主坂役連兵衛 他・飯田御役所	時穀として神一石三斗五升二合六勺六才を高一石につき金で割付徴収	1109
985	22	(定免御切替留書亭) 差申御請書之事	文政三年 辰 三月	一冊	十カ村役人(統連中・ 飯田御役所	当辰より免定切替により村々再吟味し、少々でも年貢高増加させて請ける	700
986	23	御樽木山見分請書帳	文政三年 辰 四月	一冊	代右衛門他	去年九月、国々御林を江戸参が見分した。当番年度村役人による見分を厳しくするよう仰せ付けを承知	701
987	24	御樽木山伐荒三付被官共江申渡書付	文政三年 辰 五月九日	一冊	万右衛門他	「差出申一札之事」「申渡」で御樽木大切に盗取取り締まり見回ることの申し付けの請求	1110
988	25	(一)御樽木山諸事入用帳 (二)御樽木山小屋掛人足割付帳	文政三年 辰 五月	一冊	鹿塩村古物代岡組頭分	御樽木山見回りのため小屋掛け相談、その他費用、小屋掛け人足働きを簿	1111
989	26	御樽木山用留帳	文政三年 辰 五月	一冊	鹿塩村会所	五月十七日から御樽木山本ばこ沢、手開沢、黒河などに小屋をかけ、盗難防止見回りを始めた。八月までの日誌	1112
990	27	本新田畑荒所見分留書帳	文政三年 辰 八月	一冊	鹿塩村	本新田畑のうち、荒所になった高区別、などの調査覚え	1113
991	文政 28	差申證文之事	文政三年 辰 十月	一冊	十カ村名主組頭・百姓 代・飯田御役所	当辰年から定免切替に付き、これまでより増加させるよう申し渡されたが、風水旱魃の荒れ引きの条件を付けて請ける	702
992	29	(御免定免) 辰年免定之事	文政三年 辰 十月	一冊	千村平右衛門代・市岡 麻之助、湯淺徳治・ 鹿塩村名主組頭惣百姓	当辰年御成金の通達。辰より成まで七年定免。納金計 米九十五石四斗七合、金二両永百九十五文二分八厘	703
993	30	(塩竈院修復)	文政三年 辰 十一月十六日	一通	大嶋彦兵衛	寄り合いにより塩竈院修復の段取り、見積もりの覚書	704

994	31	書簡	文政四年 巳 一月十三日	一通 一包	前金久院金藏	金藏和尚六十生忌の武州からの書簡「副書」に後庵に関する世話依頼。金藏和尚は文政四年巳七月に死去	1600
995	32	仇討(御用書之号)	文政四年 巳 二月晦日	一冊		大久保加賀守足輕浅田鉄蔵、門次郎への仇討赦免状とその事情を写し取ったもの、大久保知行所十一万三千石	1114
996	33	本堂巨唐割付物帳	文政四年 巳 三月八日	一冊	塩泉院	本堂建てる替へ材料の覚え、材木については、マツ、マギ、シデ、ハンノキなどの朽ちやすいものは不要としている	1115
997	34	御傳木山一件出役用置帳	文政四年 巳 四月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛・傳兵衛	四月十五日から四月廿七日まで、御傳木山盗伐があり荒れたことにより、吟味のため飯田御役所へ出頭した際の諸事日記	1116
998	35	(一)御傳木山取込連印帳 (二)御傳木山一件出役諸人用置帳	文政四年 巳 四月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛・傳兵衛	御傳木山大切に、の申し渡し請状と、それに関して出張入用費の書きとめ	1117
999	36	作忠以書付御居寮申上候	文政四年 巳 四月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・飯田御役所	鹿塩村御傳木山の所々盗伐あり荒れた。山賊もわからずにいる。御役所様には後日村方に後難なきよう願う	193
1000	37	覚	文政四年 身 六月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・野村周助用人中	鹿塩村当時の金相場米相場の覚え。一両は銭六貫四百文、白米一升銭五十二文	1399
1001	38	御傳木山不品生来書上帳	文政四年 巳 (六月)	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・御林御具次御役人中	鹿塩村御傳木山にある御種毎の生来数報告。寛政元年京都御遊幸の際の代り出し記録がある	705
1002	39	津嶋御立願割金帳	文政四年 巳 七月吉日	一冊	市場郷中	文政三年に痢疾流行し、津嶋立願した際の入用金その他を村民に割り付けた	1118
1003	40	書簡	文政四年 巳 八月四日 十日	一通	武州金久院・御役人衆	金藏和尚が死去した。本葬は九月十一日にする	1484
1004	41	馬廻用定書付帳	文政四年 巳 九月	一冊	代右衛門他 計二十五人	字廻り廻道を造つた節に心得違ひがあり、今後心得違ひならないことを定めた	1119
1005	42	一札之事	文政四年 巳 十月八日	一通	東方村金久院他・塩泉院脇吉中	金久院の先住金藏和尚は元来塩泉院隠居であるが、当月に亡くなった。宗門は塩泉院隠居なので遅れはせながらお知らせする	194
1006	43	鹿塩村惣軒別書抜	文政四年 巳 十月吉日	一冊		計二百五十四軒、内上役付百四十三軒、仮役分百九軒の名前書き上げ	1120
1007	文政 44	御傳木山一件出役用置帳	文政四年 巳 十月	一冊	鹿塩村出役向人	十月二十二日から十一月二十四日付まで御傳木山盗伐、荒れについて吟味を主として、その他御用のため飯田御役所へ出役、その他日常の日記	1121
1008	45	一札	文政四年 巳 十月	一通	鹿塩村豆蔴繁蔵、新八他・飯田御役所	八ヶ里表の金子調運の際、特に出精により、組頭として勤めるようにする。手当の十七石余はこれまで六名で分けたが、今後は八名で分ける	1122
1009	46	(一)巳年定金之事 (二)覚	文政四年 巳 十月	一通	市岡寛蔵、湯浅健治・鹿塩村名主	(一)当文政四年巳から文政九年戌までの七年の定金、当年の成金 (二)巳年年貢金の受取覚	195

1010	47	申合一札之事	文政四年 巳 十月	一通	彦兵衛他十一名	地方産買文に奥書をする件について申し合はせ。万 一出入りで入用の際は滞りなく出さる	196
1011	48	(一)御樽木山一仕諸入用帳 (二)御樽木山組々連印取付帳 (三)御樽木山入用家別付帳	文政四年 巳 十月 十二月 十二 月	三冊	鹿塩村各主所	御樽木山大切に守ることを連所と約す。御樽木山見回 りなら入用金の書き留めと、家別に割り付け徴収する	1123
1012	49	差上申一札之事 (付：贈り物送り状)	文政四年 巳 十一月	二通一 包み	鹿塩村各主彦兵衛他・ 飯田御役所	樽木山の内黒川谷の見回り行き届かず取り締まり不足 の件、吟味がこれ以上続くことつらい。今後約束は守る ので許してほしい	197
1013	50	為監替申一札之事	文政四年 巳 十一月	一通	小野村三左衛門他	小野村飯沼の組頭などは入れ札で決めたが異議が出さ れ争いになったが、鹿塩彦兵衛世話で内事とする	198
1014	51	乍玖以書付御訴訟参申上候御事	文政四年 巳 十一月	一通	鹿塩村各主彦兵衛他・ 飯田御役所	御樽木山は今までも大切に守つてきたが、今後も見回 りなども行い大切にすることが、百姓移きを成り立たせる ために配慮も願う	466
1015	52	(一)差出申書付之事 (二)くろ一札之事 (七)乍玖以書付御願居参申上候御事	(二)文政四年巳十二 月(二)七文政四 年巳十二月	七通	鹿塩村当番名主彦兵衛 他・ 安右衛門	御樽木山見分のために公役が廻付した。その際提出し た本算書上帳に彦兵衛印形を本主不在だったので怪造 酒席に頼んで借り出し保管したこと発した印形取り 扱い方疑惑についての出入り、及び飯田宿仲介の内務 文書	467
1016	53	本新田畑有高書拵帳	文政四年 巳 十二月	一冊	鹿塩村各主彦兵衛・伝 兵衛	本新田畑高反別持主彦兵衛より、合計畧二百二十四 石六斗九升三合、他に坂高三斗五升九合、荒所高四十 五斗六升九合	1124
1017	54	相定庄敷小作證文之事	文政四年 巳 十二月	一通	本人林八他・ 彦左衛門	家と小作料一年に一分二斗、今年巳年から来る四年ま で	1601
1018	55	去錢帳	文政四 五 六 十 年	四冊	鹿塩村各主・ 飯田御役所	分正庄間村入用費、去錢の書き出し徴収帳。	707
1019	56	本新田畑荒所起返御改帳	文政五年 午 一月号之	一冊	名主彦兵衛	文政三 四年四月付け、本新田畑のうら、荒所起し返り の調査結果、文政五年一月に写したものの	1125
1020	57	安永九年新田定免切替三付村々吟味請書 (差上申請書之事)	文政五年 午 二月	一冊	十カ村役人連中・ 飯田御役所	安永九年新田の定免切替に付き、少しでも増米を仰せ 付けられたが、新田は災害多く、猪、鹿も多いので これまで通りで五年定免に願う	708
1021	58	安永九年新田定免切替三付村々再吟 味請書(差上申御請書之事)	文政五年 午 二月	一冊	十カ村名主組頭百姓 代・飯田御役所	安永九年新田も少しづつ増米を仰せ渡され、米三合か ら九斗の増米で承知する	709
1022	文政 59	申合一札之事	文政五年 午 二月	一通	彦兵衛他	当料御林山伐出につき彦兵衛出所、入用金の件は彦兵 衛五口、他は二口の割で分担する	1602
1023	60	飢持持貯割付取立帳	文政五年 午 三月	一冊	鹿塩村	貯穀としての糠二百三斗五升二合六匁六匁を高一石に つき俵三斗で割り付けける	1126
1024	61	寺商御改帳	文政五年 午 三月	一冊	塩泉院香林寺・宝久 寺・飯田御役所	塩泉院佛殿、弟子格夫、宝久寺一人、香林寺一人、計 四人の宗門帳、舞臺禮宗	1127

1025	62	乍現書付を以奉願上候	文政五年 午 七月	一通	名主総代大嶋彦兵衛・ 御勝手御勤定所	苗木を植えたが定着しない。土壌が悪い故でもあるが、古木が生い茂る故でもある。古木を払い下げてほしい。	199
1026	63	塩泉十二世梅庵代新録記	文政五年 午 十月吉日	一冊	彦兵衛他・ 福地村金鳳寺	塩泉十二世梅庵鳳仙が福地村金鳳寺から転入する際の物置書き上げ受け取り寛	1128
1027	64	安永九子新田左より未迄式ノ年定免 御請證文(差上申證文之事)	文政五年 午 十月	一冊	預かり所十力村・ 飯田御役所	安永九年新田の定免は当年より未迄 年の定免を請ける。荒れ所引きなどの条件	710
1028	65	当主年御年貢初納二納小物成割付帳	文政五年 午 十一月八日	一冊	鹿塩村名主彦右衛門・ 伴右衛門	当年の年貢初納二納小物成割付徴収帳	1129
1029	66	(一、二) 本新田畑荒所起返書上帳	文政五年 午 十一月	一冊	鹿塩村	本新田畑のうち、荒所起返りの高区別、持ち主など書き留める	1130
1030	67	西組惣別書抜帳	文政五年 午 十二月	一冊	鹿塩村名主所	鹿塩村西組のすべての家を書き上げ	1131
1031	68	(一) 己年御年貢御勘定目録 (二) 午年御年貢御勘定目録 (三) 未年御年貢御勘定目録 (四) 申年御年貢御勘定目録 (付・寛 一通) (五) 亥年御年貢御勘定目録付・寛 一 通	(一) 文政五年午六月 (二) 文政六年未六月 (三) 文政七年申七月 (四) 文政八年酉六月 (五) 文政十二年子六 月	八通	鹿塩村名主中彦兵衛他 ・ 飯田御役所	文政三年辰より文政九年戌まで七年および辰より巳まで二年定免の内、文政四年から七年と十年分の年貢勘定書	200
1032	69	御殿様御定紋御改進印帳	文政六年 未 二月	一冊	代右衛門他・名主五郎 左衛門・源二郎	殿様の定紋を着物に染付たり遺言に書くなどとはならない。この連印帳 二冊同文	711
1033	70	(一) 宗門御改下書帳 (二) 寺宗門御改帳	文政六年 未 三月	一冊	鹿塩村塩泉院旦那・ 飯田御役所	(一) 旦那八百四十四人男四百三十八人女四百六人の宗門帳 (二) 塩泉院三名 香林寺二名 定光寺一名の寺宗門帳	1132
1034	71	飢扶持貯神割付取立帳	文政六年 未 三月	一冊	鹿塩村	貯穀としての神二百三十五升二合六タ六才を高一石につき二升二合で割り付ける	1133
1035	72	御札二付以書付奉申上候	(文政六年) 未 八月	一冊	大河原御勤定役人・ 飯田御役所	柄山を経て産物を産賣するに際し、荷継の仕方。峠村の者と出入りになつた事に付いて吟味に添えたもの	712
1036	73	いぬぼう丸古跡	文政六年 未 十一月五日	一通		工藤家房丸の古跡、常盤寺において遺品の茶碗 お膳御碗を発見した	218
1037	74	当主年御年貢初納二納小物成割付帳	文政六年 未 十一月七日	一冊	鹿塩村名主五郎左衛 門・源二郎	当年の年貢初納二納小物成割付徴収帳	1134
1038	文政 75	西組惣別書抜帳	文政六年 未 十二月	一冊	鹿塩村名主所	諸般覧見と鹿塩村古役付け家別当主名書き出し、計 百三十八人	1135
1039	76	御用掛用請留帳	文政七年 申 正月吉日	一冊	鹿塩村名主彦兵衛 伝 彦兵衛	文政七年二月八日から八月五日付けまで御用料用日記	1136
1040	77	借用申金子證文之事	文政七年 申 二月	一通	本人堀尾経祖奈他・ 三郎彦兵衛	五両の借用書。上京して大整建立したい	713

1041	78	一札之事	文政七年 申 二月	一通	丸山式部・ 村方御役人中	このたび上京したい。村役など早速滞るが良く勤める	201
1042	79	家人島敷帳	文政七年 申 三月	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	家数百五十八軒 人数二百七十四人 男六百八十八 人 女五百八十六人 馬五十六疋	714
1043	80	鉄砲御改帳	文政七年 申 三月	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	獨歸鉄砲二十三挺 おとし鉄砲三十挺	715
1044	81	安永新田定免切替二付村々吟味請書 (差上申御請書之事)	文政七年 申 三月	一冊	十カ村名主組頭百姓 代・飯田御役所	安永九年新田の定免切替に付き、猪鹿害が多く凶弊、 これまでもより引き下げを願うが、少しでも増米とのこ と、難儀につき、これまでも同様に願う	716
1045	82	(一、二)安永九子新田定免切替二付 村々再吟味請書(差上申御請書之事)	文政七年 申 三月	一冊	十カ村名主組頭百姓 代・飯田御役所	新田切替に当たりすこしでも増米なしにはさきまら ず、各村米一合から一升八合の増米で請ける事(一通 ほぼ同文)	717
1046	83	御役所御類焼御普請金割合帳	文政七年 申 三月	一冊	名主彦兵衛 傳兵衛	飯田火事で御役所類焼、その普請金や見舞入用金など 鹿嶋村割付三画二分奈を、百姓に割付徴収の覚え	718
1047	84	御切替出役日記帳	文政七年 申 四月	一冊	名主彦兵衛	年貢切替について御役所へ出張中の日記、四月二日か ら八日付まで	1137
1048	85	御廻村遺順書上帳字	文政七年 申 六月	一冊	信州伊奈郡村々	勘定方廣木重右衛門、普請役荒河瀬廣仙號夜人の廻村、 村名二覧	1138
1049	86	御公役様御順村出役日記	文政七年 申 六月	一冊	名主彦兵衛	六月二十二日から七月二十三日付まで勘定方廣木重右 衛門、普請方高原清四郎はじめ諸役人順村に際し出役 中諸御用諸事日記	1139
1050	87	(一)御公役様人垣組割合上帳 (二)御公儀様入用ニツ割物覚	文政七年 申 六月	一冊	鹿嶋村直組	公儀公役廻村につき、用金の分相覚え、一通間内容	1140
1051	88	切添切開之場所小前帳	文政七年 申 六月	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛他	本新田畑、林畑貸付、屋敷など意図別、持ち主総書上	1141
1052	89	帳面敷改帳	文政七年 申 六月	一冊		保存している諸帳面の目録、計二十八冊	719
1053	90	御樽木山見廻人足帳	文政七年 申 閏八月	一冊	鹿嶋村名主所	閏八月十一日から沢井谷越路はじめ御樽木山各地を手 分けして見回り、変事の有無の届けを記録した。八月 十五日報告まで九件	1142
1054	91	仲間申入候事	文政七年 申 閏八月	一通	彦兵衛他	御用村用につき組女分付以来の申し合わせ事項	1603
1055	92	一札之事	文政七年 申 十月	一通	古彦彦兵衛他、仮役敷 右衛門他	御用村用諸事につき古役、仮役など、どのように行な うかについて申し合わせ一札	1604
1056	文政 93	覚	文政七年 申 十一月	一通	飯田御役所	天明八年から三年分の柳下穀と、天明八年から三十六 年分の樽出穀、樽と引き替える高、文政七年申年分	202
1057	94	乍恐以書付奉願上候	文政七年 申 十一月	一通	順人鹿嶋村彦兵衛 喜 左衛門・飯田御役所	彦兵衛持ち林字中山にある栗木を屋根板にするため売 りたい。御樽木山は遠く影響はない	720

1058	95	本新田畑有高小前帳	文政七年 申 十二月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛・傳 兵衛他	本新田畑高反別書き上げ帳、記述不全で書きかけ	1143
1059	96	安永九子新田申より西迄式年定免 御請證文(差上申御請證文事)	文政七年 申	一冊	十カ村名主組頭百姓 代・飯田御役所	安永九年新田年貢は三年間定免であることの請書。年 季中の荒れ所引きはその郡度報告し、後に引く	721
1060	97	以書付御申上候御事	文政八年 酉 三月	一通	鹿塩村伴左衛門・ 飯田御役所	伴左衛門被官次郎左衛門の家が失火により焼失したが 小家につき類焼は無し	203
1061	98	一札之事	文政八年 酉 三月	一通	名主役数右衛門他・ 古役役人中	文政七年に公役廻村の際に差し出した絵図面を見たい という申し出を断られ、今後一切無心しないという一 札	219
1062	99	御樽木山内山御見分御請證文	文政八年 酉 四月十二日	一冊	萬右衛門他	寛政六年の絵図面の通り、御樽木山を心得違ひなく守 る。停止木および諸本を勝手に切らない	722
1063	100	博恋御停止御請印帳	文政八年 酉 四月	一冊	萬右衛門他	博恋やそれに類する行いは厳禁の所、最近不逞者が増 えている。文化八年のお触れを守る約束承知した	723
1064	101	乍恐以書付奉願上候御事	文政八年 酉 六月	一通	十一カ村名村名主他・ 飯田御役所	久々里御勝手不如意に付、村々へ御用金の仰せ付けた が、用立てられない。村々上納の年貢金は払う、他	204
1065	102	(一)差出シ申書付之事 (二・三)内渡交發書付之事	文政八年 酉 十一月	三通	定四郎・伴左衛門・利 左衛門・村役人衆	地所をめぐつての争い、内渡立書、芝の先刈りがきつ かけて出来た	1485
1066	103	乍恐以書付奉願上候御事	文政八年 酉 十二月	一通	鹿塩村百姓彦兵衛・ 飯田御役所	所有地境界および所有について出入りとなり、飯田役 所への訴状	1605
1067	104	對談證文之事	文政九年 戌 二月	一通	鹿塩村名主五郎左衛門 他・上松宿田中(彦)勘 兵衛・同周助	村内東内山の沢井入、黒川入、および西内山の樵道、 地蔵谷、じ内ぼく、矢立木、三ツ沢の七カ所から梅、 榎、唐檜、唐松、槻、しばじ、紀州様御用材として売 り渡す	205
1068	105	乍恐以送書奉願上候御事	文政九年 戌 二月	一通	鹿塩村名主園次郎・ 飯田御役所	村内孫兵衛の地所境のこと、これまでの土地の持ち主 説明	206
1069	106	乍恐以書付奉願上候御事	文政九年 戌 三月	一通	鹿塩村名主五郎左衛 門・飯田御役所	甲州小倉村の惣兵衛が内山から唐檜、白檜の伐り出し、 まだ、木曾上松の四郎左衛門が紀州様御用の角材を伐 り出したいと願っている	207
1070	107	安永新田定免切替二付村々吟味請書 (差上申御請書之事)	文政九年 戌 三月	一冊	十カ村・ 飯田御役所	安永九新田の定免切替に付き、少しでも増米というこ とだが、水遣量増で困窮、引き上げ、五年定免を願う	724
1071	108	御触書請印帳	文政九年 戌 四月	一冊	飯右衛門他・ 村御役人衆	無宿人株の者を遠追させない、賭博の類は禁止である というお触れを承知した	725
1072	109	西内山運上金割附帳	文政九年 戌 七月	一冊		金十両の運上金を各段に応じて割り付ける。両組金高 二百四十二丁	726
1073	110	東内山株代割付帳	文政九年 戌 十月	一冊	名主五郎左衛門、運三 郎	東内山から伐り出しの角材、小白木の株代手付金、計 二十三両を唐割で割り渡す	727
1074	文政 111	御用付用諸事用留帳	文政九年 戌 十月	一冊	大嶋金所	十月五日、七日付け株代金割り付け立会ひの記事。立 会ひ、村役人は彦兵衛、和三郎、六兵衛、民之丞など	1144

1075	112	山代金組割合帳	文政九年 戊 十月	一冊	鹿塩村金所	木曾上松宿勤兵衛の肩付金二十両、甲州惣兵衛より小白木手付金五両、葛嶋村友七廻兵衛三両、計三十八両のうち、十五両は奉割りで二十三両は高割で配分する	1145
1076	113	乍忍以書付奉願上候	文政九年 戊 十一月	一通	鹿塩村彦兵衛・ 飯田御役所	入会山の内、黒川山と桂の御木一本、塩地御木一本、手開沢で塩地切り株二株、地蔵谷で塩地御木一本計四本を伐り出した	468
1077	114	(一) 口上覚 (二) 書簡	(文政九年 戊 十二月二十一日	一通	紀伊駿御材木仕役柳原才兵衛	紀伊駿御用材として大河原鹿塩郡村の百姓持ち山から諸木材木一万本敷本五千本を買い上げ、近く山下げ。切割施印はき〇にきの字とする	728
1078	115	差出申一札之事	文政九年 戊 十二月	一通	木曾上松宿田中勤兵衛・同圓助・鹿塩村高組役人衆惣百姓衆	入会山から材木伐り出しを行うが、川下げに必要な木を渡せ差し出し伐乞事、村方に難儀はかけない	208
1079	116	乍忍以書付奉願上候	文政九年 戊 十二月	一通	鹿塩村彦兵衛他・ 飯田御役所	入会山のうち黒川山にある桂御木一本、塩地御木二本、手開にある切り株、地蔵谷の根返り、合計五本を取り出して売りたい	1146
1080	117	軒別取立帳	文政九年 戊 十二月	一冊	鹿塩村名主所	諸事入用の算え、遠山八幡祭り湯立の入用金などを総べ二百七十三文	1147
1081	118	貯穀小割付御願書帳	文政九年 戊 十二月	一冊	鹿塩村名主彦郎左衛門 他・飯田御役所	貯穀としての大事帳、天明八年から文政六年までの分の累積量と天明七年分の書き出し徴収帳	1148
1082	119	御口米割付帳	文政十年 亥 二月	一冊	名主所	御口米代合計一両一分二朱銀六両四分九厘五毛の割り付け	1149
1083	120	取米高改書抜帳	文政十年 亥 二月	一冊	鹿塩村名主所	年貢高と取米五十八石七斗九升六合九タ六才、内仮役組合二十七石二斗二升四合三タ七才	1150
1084	121	一札之事	文政十年 亥 三月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 木曾宿高徳喜蔵	村方惣百姓入会山の内、地蔵谷、黒川谷、深井谷の三カ所、樅、榎、塩地、つき、桂、唐松その他雑木を売り渡す。ただし唐檜、白檜は除外する	209
1085	122	(一) 定免切替三付村中吟味書 (二) 亥より丑迄三年定免備置文	文政十年 亥 三月 十月	一冊	十カ村・ 飯田御役所	定免切替につき少しでも増米するが引き上げが、定免期間の長短についての村々と役所とのやりとり。結局少し増米で三年定免になった	729
1086	123	山代金組割合帳	文政十年 亥 五月	一冊	名主所	山代金を組べそそれぞれ高にばし高役分九両二朱余と仮役分五両三分余を高組立会いで渡す	1151
1087	124	(一) 本新田畑荒高反別改帳 (二) 本新田畑荒所小前書上帳	文政十年 亥 閏六月	一通	鹿塩村	本新田畑のうち、荒所となつた地の高反別調査、書き上げ	1152
1088	125	借物改算帳	文政十年 亥 六月	一冊	百姓代	何らかの行事に必要な借物算え書き	1153
1089 126	文政	乍忍以書付奉願上候	文政十年 亥 六月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・飯 田御役所	甲州川倉村惣兵衛・葛嶋村友七の両人は小白木を去年戌年に割り出したが、今年も割り出したい。代金と木品を決めたので山入りさせたい	210

1090	127	博奈御吟味請書帳	文政十年 亥 七月	一冊	代右衛門他・ 御役人中	博奈御吟味度のとこへ、近年御事筋は厳しい取締りをしたため賭博をするものが近辺に出ている。決して怪しき事を怠めてはならない	730
1091	128	塩原位牌一件	文政十年 亥 九月十三日	一冊		文政十年九月十三日付から十月七日付までの位牌の戒名や法事、和尚葬式などについて日記。大河原村八郎九郎他との交流も記されている	1154
1092	129	東内山株代割付帳	文政十年 亥 十月	一冊	名彦彦兵衛・傳彦衛	東内山から伐り出した小白木の株代手付金十五両を高割で割り戻すこと。二冊同文	731
1093	130	口米割付小前帳	文政十年 亥 十二月	一冊	鹿嶋村名主所	口米代古役組分二両二分三朱余、飯役組分三分三朱余の割付	1155
1094	131	貯穀小割付御願上書帳	文政十年 亥 十二月	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	天明八年から文政六年までの貯穀貯穀量と、文政七年九分の書き上げ	1156
1095	132	借借甲金子之事	文政十二年 子 二月	一通	借主惣兵衛他・ 峠村三左衛門	鹿嶋山小白山株手付金に差し支え、二十両を借りる。四月十日までに五利其に返す	1606
1096	133	本新田畑起請見分帳	文政十二年 子 四月	一冊	鹿嶋村名主所	本新田畑の内、起返りの地の調査結果記録	1157
1097	134	御支配様荒所并小白山御見分人足帳	文政十二年 子 六月	一冊	会所	支配役人による荒所と小白山見分の際に使われた人足の名簿	1158
1098	135	御支配様荒所并小白山御見分諸人用帳	文政十二年 子 六月	一冊	会所	荒所と小白山の役所による見分調査の際、調達した諸町・俵段などの書き	1159
1099	136	小白山御見分入用帳	文政十二年 子 六月	一冊	鹿嶋村会所	小白山見分について入用諸物品の覚え、当時の物品価格がわかる。たゞきはウリ二つ十二文、きぎみたばこ二玉五十文、タマゴ十二個七十二文など	1160
1100	137	(一) 本新田畑荒所御案内帳 (二) 本新田畑荒所拾分一改帳	文政十二年 子 六月	一冊	鹿嶋村名主	本新田畑の地主、上中下、広さその他の書き出し、田畑合計二町二畝二十二分、高二丁五丁三斗八升六合	1161
1101	138	乍取書付奉願上候	文政十二年 子 六月	一通	鹿嶋村名主定右衛門 他・飯田御役所	葛嶋村友七が去る戊辰年から小白山を割り出したが、今年も割り出したい。代金と木品を決めたので山人りさせたい	211
1102	139	本新田畑荒所内檢算帳	文政十二年 子 七月	一冊	鹿嶋村名主所	本新田畑の内、荒所となった地を村内で調査した総書き上げ	1162
1103	140	書簡(西国より大坂江参候書状之号)	文政十二年 子 八月十一日	一通		差出人、あて先不明。文政十二年八月九日から十日にかけて九州北部から長州にわたる各地を襲った暴風雨、子年の大風の被害状況を伝える書簡の号し。この台風で難破した船につんだ荷物から、後に言うシーボルト事件が発覚した	732
1104	141	乍取書付以奉高上候御事	文政十二年 子 八月	一通	鹿嶋村九郎左衛門・ 飯田御役所	蔵内借金で難儀の事を考え、大塩の九郎左衛門が田地残高を差し出すことの申し出	733
1105	文政 142	中山櫛木割一件入用帳	文政十二年 子 十月	一冊	彦兵衛	中山より櫛木の伐り出し作業で必要だった物品と値段、支払いの覚え	1486

1106	143	(一)(二)一札之事	文政十二年 子 十一月	一通	仙眞字七ほか・ 鹿塩村役人衆	去年から入会山で小臼木割り出さしているが、樽木 山へ伐り越していることはない。どこでも申し開き をする	212
1107	144	書簡	文政十二年 子 十二月朔日	一通	葛嶋玄七・ 鹿塩村面名主	当年仕出しの材木は残らず惣兵衛に渡す	213
1108	145	差出申一札之事	文政十二年 子 十二月	一通	甲州小菅村惣兵衛他・ 鹿塩村御役人中	入会山から今年まで小臼木を割り出したが、当年は休 む。仙眞は玄七、直兵衛に引き継ぐ	214
1109	146	(一)(二)差出申一札之事	文政十二年 子 十二月	一通	甲州小菅村惣兵衛他・ 鹿塩村御役人中	小臼木を割り出したが、出木のため運材ままならず、 一山荷物を甲州小菅村惣兵衛に引き渡す	215
1110	147	作恐以書付御居奉申上候	文政十二年 子 十二月	一通	鹿塩村名主定右衛門 他・飯田御役所	葛嶋玄七と直兵衛が当年小臼木を割り出したが、出木 で運材遅れた。材は残らず甲州小菅村惣兵衛に引き渡 したい	216
1111	148	(一)本新田畑高区別荒所差引帳 (二)本新田畑荒所引帳 (三)本新田畑荒所高書抜提	文政十二年 子 十二月	三冊	鹿塩村名主所	本新田畑の高区別と荒所の書き上げ	1163
1112	149	小臼木代金割渡帳	文政十二年 子 十二月	一冊	鹿塩村名主伴右衛門・ 定右衛門	酉年内山運上金、小臼木運上金計十九両二分一朱から 必要経費を差し引き計十五両二分を高に充てて割り渡 す	1164
1113	150	貯穀小前割付御願帳	文政十二年 子 十二月	一冊	鹿塩村名主定右衛門・ 伴左衛門・飯田御役所	貯穀としての小麦玄斗七升五合八匁三才を売り集め預 る	1165
1114	151	家割物割付取立帳	文政十二年 子 十二月	一冊	百姓代替左衛門	べ三分、長銭七匁三分四十二文を特別に割付徴収する	1166
1115	152	(一)(二)宛	文政十二年 丑 正月	一通	田嶋村増屋代吉・ 彦兵衛	曲輪五斗駄の受け渡し宛	217
1116	153	御殿様御家督御渡書	文政十二年 丑 二月十七日	一通	十一カ村名主・ 飯田御役所	殿様病身につき隠居、家督を番刀に継がせる。十一カ 村は今後とも諸事御法度を守ることに連印書付亭し	734
1117	154	(一)博奕御吟味御請書(一札) (二)博奕御吟味御請書(二札) (三)博奕御吟味御請書(差出申連印 一札之事)	文政十二年 丑 二月十七日	三冊	(一)十一カ村名主他 (二)塩屋院他 (三)代左衛門他・ 飯田御役所 御役人衆	博奕、賭け勝負額は禁止であること、不審の者に二倍 させないことの申し渡しに付いて、(一)十一カ村役人 連印、(二)鹿塩村塩屋院、香林寺、宝久寺、惣百姓連 印、(三)惣百姓連印で請ける	735
1118	155	宗廟御改下書帳	文政十年 丑 三月	一冊	鹿塩村宝久寺	宝久寺分宗廟改帳、旦那べ二百九人、男百十三人、女 九十六人、増人べ十二人、男四人、女八人、減人べ十人 男一人、女九人	1167
1119	156	御下殺取立帳	文政十年 丑 三月	一冊	鹿塩村名主源三郎・定 右衛門他	天明八年から文政七年まで三十七年分の貯穀小麦十九 石三斗二升余と文政十二年分小麦三石八斗四升八匁を、 酉年の凶作の際に下殺した。文政十年から五年帳で詰 め戻した	1168
1120 157	文政	丑組組当金改帳	文政十年 丑 三月吉日	一冊	鹿塩村百姓代四郎右衛 門	五月六日付けから(文政十三年)天保元年二月十二日 付けまで組当金の受け取り寛え	1169

1121	158	商人入用改帳	文政十二年 丑 四月	一冊	鹿塩村名主	商人調査で入用物品の購入など覚え	1170
1122	159	乍恐以書付奉願上候	文政十二年 丑 九月	一通	鹿塩村名主定右衛門 他・飯田御役所	入会山の沢井金重前沢から書翰呂輪の小白木を割り出した。見分は村役人に仰せ付け願う	220
1123	160	(一、二) 乍恐以書付奉願上候	文政十二年 丑 九月	一通	下会井村・塩尻町・ 松本御役所	これまでの酒造高と今後の酒造に付いて願書呈し。年号は文政十年丑と記されているが、本文内容から十二年丑である	736
1124	161	大木山勘金割入帳	文政十二年 丑 九月	一冊	塩泉院旨申	永平寺勘行金その他計一両三分余を塩泉院旨申人数割りで割り寛え	1171
1125	162	(塩泉院大般若三件) (一) 覚 文政十二年丑十一月 塩泉院より彦兵衛他へ大般若寺付金十両の借用書 (二) 書簡 (文政十二年丑十二月九日 塩泉院より連中衆中 大般若のため哀哀へ (三) 三 借用申金子證文之事 文政十二年丑十二月十二日 彦兵衛他より近江屋虎之助へ 大般若のため二十八両の借用書 (四) 覚 (文政十二年丑十二月二十九日) 二條トル新町通彦兵衛より塩泉院へ 仏堂代五両二分の受取 (五) 票 文政十二年丑十二月 御支配所御田嘉兵衛より塩泉寺 大般若経の代金二十八両の内十両は京都へ受け取り、残り十八両は飯田村屋にて	文政十二年 丑 十二月、十二月	六通			737
1126	163	(一、二) 阿組軒別割付寛帳	文政十二年 丑 十二月八日	一冊	鹿塩村名主定右衛門・ 源三郎他	三月一日付けからの入用経費ならぬ組へ割付、二百四十二軒へ二軒につき四十四文余	1172
1127	164	(一) (二) 借用申す金子證文之事	文政十二年 丑 十二月	一通	本人塩泉院その他・ 彦兵衛その他	大般若その他入用のため十五両と十両の借用証文。借り方と贖物が導う	469
1128	165	貯穀小割付御遺帳	文政十二年 丑 十二月	一冊	鹿塩村名主源三郎他・ 飯田御役所	貯穀としての本麦六斗七升五合余と穀一斗三升余の割付寛帳と預り寛え	1173
1129	天保 1	(一、二、三) 御用村用諸事用遺帳	(文政十三) 天保 元年 寅 正月吉 日	三冊	鹿塩村彦兵衛 傳兵衛	天保元年御用村用日記 (一) 一月から四月、(二) 四月から十一月、(三) 十一月から天保三年卯二月十日付けまで	1174
1130	2	乍恐以書付御居奉申上候	(文政十三) 天保 元年 寅 二月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	小白木割り出しにへき下書き。当番までに残らず引き払う	221
1131	3	櫛木山割出書付之事	天保元年(文政十三 年) 寅 二月	一通	中山村吉干・ 鹿塩村彦兵衛	瀬澤入式之沢から櫛木(ミネバリ)を割り出す。一駄につき連上銀二朱	1607
1132	4	(一、二) 定免切替三付村々吟味讀書 (三) 定免切替御請證文	天保元年(文政十三 年) 寅 三月、十月	三冊	十力村村役人・ 飯田御役所	文政十年の三年定免が切替で、増米、困窮の訴え、引き下げ願い、より長期の定免願い	738
1133	5	請取一札之事	天保元年(文政十三 年) 寅 四月十三日	一通	古役百姓代久太郎 仮 役百姓代彦兵衛・ 名主彦兵衛	江戸普請役より受領した人足賞金をたしかに受取った	1608
1134	6	寺院に被仰渡	(文政十三) 天保 元年 寅 七月	一冊	小野村神光寺他・ 飯田御役所	最上女犯破戒に及ぶ罪科を受けたる者、不相任の金子借金する者など多く、自戒の寺事務を全うせよ、などの仰せ渡しの請状	1175

1135	天保 7	倉	(文政十三年) 天保 元年 寅 十二月二十九日	一通	峠村中屋源・森衛・ 鹿塩村大嶋大黒屋彦兵衛	金十両の受け取り證文	481
1136	8	湯淺御無心金割付帳	(文政十三年) 天保 元年 寅 十二月	一冊	百姓久兵衛	寛政四年割二十両のうち、十五両を寛年冬面組に割り 付け、寛年は七・三の割り、卯年は四・六の割合。久々 里の隣様への上納金	1176
1137	9	勘定入用拾七文金帳	(文政十三年) 天保 元年 寅 十二月	一冊	鹿塩村名主所	勘定入用金を十七文ずつ割り当てる徴収、計一貫五百二 十六文	1177
1138	10	面組別割付金帳	(文政十三年) 天保 元年 寅 十二月	一冊	鹿塩村名主所	諸入用費の軒別割付徴収帳	1178
1139	11	(一・九) 貯穀小割付御預帳	(文政十三年) 天保 元年 寅 十二月 から天保十三年 寅 十二月	九冊	鹿塩村・ 飯田御役所	天保元・二・五・六・八・九・十・十一・十三年の、 貯穀としての太妻割付を徴収、鼠などに食われぬよう、 年々新穀と替える事	1179
1140	12	(一・五) 村送り一札 (一) 送一札之事 (文政十三年) 天保元年 寅 二月 (二) 送一札之事 天保三年 辰 正月 二通問文 (三) 奉公人請状之事 天保七年 申 十二月 (四) 奉公人請状之事 天保十年 亥 十二月 (四) 奉公人請状之事 天保十四年 卯 十二月 (五) 送り一札之事 天保十四年 卯 正月	天保元年から 天保十四年	七通		転出する 村送り一札	1400
1141	13	宗廟御改下書帳	天保二年 卯 三月	一冊	鹿塩村塩屋院 名主彦 右衛門他・飯田御役所	塩屋院分八百一十一人の宗廟帳	1180
1142	14	湯淺御無心金割付帳	天保二年 卯 三月	一冊	鹿塩村名主彦右衛門・ 五郎左衛門	「湯淺御無心金」を十一カ村で割合、鹿塩村分二両 一先三百八十四文。村内各割りで徴収し、計二両米 三百四十六文	739
1143	15	差出申一札之事	天保二年 卯 三月	一通	本人宗郎他・ 御役人衆	善市郎家来米三兩が身請け百姓に取り立てられ、今後 も村役人衆の指図を寺り精進する	1609
1144	16	為取替申一札之事	天保二年 卯 六月	一通	柄山間屋松五郎他・ 鹿塩村名主組頭百姓代 衆中	鹿塩村から売り出す産物と下里から買う米などの荷継 について天明年中申上り合せのようにする	1610
1145	17	(一) 寛延御年貢勘定旨録 (二) 寛	天保二年 卯 七月	二通 一 包み	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	天保元年から三年、文政十二年から寛年まで三年の定 免の内 天保五年寅の年貢勘定仕付け、および納付金 差し引きの寛	222
1146	18	佐原以書付奉御覽申上候	天保二年 卯 八月	一通	鹿塩村名主代民之丞 他・飯田御役所	阿波原馬道一件について鑑書の争い。天保五年阿佐原 馬道猪場について入り組み出入り訴訟について飯田役 所へ鑑書。木主であり名主の彦兵衛控え	1611

1147	天保19	殿様御順村諸事御用留帳	天保三年卯十月	一冊	鹿嶋村彦兵衛	十月六日より二十二日付けまで、殿様巡村を近えるにあたり、諸運傳諸事の書き留め	1401
1148	20	(一)入組御取扱被下候様定一札之事 (二)差出申一札之事	天保三年卯十一月	一通	代右衛門、惣右衛門 他・村役人衆中	(一)天保元年寅に彦兵衛持分祿場恩返の草如を無断でしたとについて出入り内情のこと(二)付随して誰が行ったか明記した文	470
1149	21	(一)両組米銭引付帳 (二)両組米銭取調帳	天保三年卯十二月十八日、十九日	二冊	鹿嶋村名主五郎左衛門、伴左衛門	古殿方と仮役方面組へ米銭を分担する。当年は殿様巡行で入用も多く特別である	1181
1150	22	(一)殿様御無心金割付帳 (二)殿様御無心金割付勘定簡返帳	天保三年卯十二月	二冊	鹿嶋村名主所	久々里殿様への上納金に十両の内、卯年分十両を両組に六、四の割りで割り付けた。勘定違いがあり返金した	1182
1151	23	両組計別割付帳	天保三年卯十二月	一冊	鹿嶋村名主所	諏訪明神、秋祭り神酒代、遠山八幡祭禮人用費など諸入用金の割付	1183
1152	24	(一)下駄巻被代取寄引請一札之事 天保三年卯十二月 田村儀作 (二)為取替申一札之事 天保三年卯十二月 鹿嶋村彦兵衛 (三)差出申一札之事 天保五年午三月 中峠左次兵衛 (四)差出申一札之事 天保八年酉三月 四徳村傳兵衛 (五)柳本御株代取極々書付之事 天保十一年丑三月 木曾富越勘左衛門 (六)為取替書付之事 天保十二年丑三月 鹿嶋村彦兵衛 (七)差出申一札之事 天保十二年寅三月	天保三年卯十二月 から天保十三年寅二月	七通		柳本下駄、その他中山に入山の願い、取り決め	1612
1153	25	神宮御前造奉加帳	天保三年卯正月	一冊	小林民部	神宮造宮の奉加帳本文	740
1154	26	(金遣酒に付き) (一)乍恐以書付奉願上候 (二)三三三覚 (四)差出申一札之事 (五)乍恐以書付奉願上候御事 (六)覚	(一)三三三天保二年卯二月(四)天保五年午九月(五)天保七年申十二月(六)天保十四年卯三月	六通	鹿嶋村名主彦兵衛南山村治太夫・飯田御役所	(一)三三三造酒量の届出 (四)酒遣立休拾五石 (五)米遣作につき造酒米減石あるいは禁止を免して欲しい (六)酒遣糶糶札の受け取り覚え	223
1155	27	(一、二、三) 御用付用諸用留帳	天保三年辰正月	三冊	鹿嶋村名主彦兵衛 伴右衛門	天保三年の御用付用日記(一)二月から五月(二)六月から閏十二月一日(三)閏十二月から十二月二十四日まで	1184
1156	28	乍恐以書付奉申上候御事	天保三年辰二月	一通	鹿嶋村女高奉作・飯田御役所	被官の親子二人が我儘で役目を果たさない、暇を出す	224
1157	29	高瀬御改下書帳	天保三年辰三月	一冊	鹿嶋村高瀬院、名主伴右衛門他 飯田御役所	高瀬院分八百九人男四百二十五人女三百八十四人の宗門改下帳	1185
1158	30	家人数帳帳	天保三年辰三月	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛他・飯田御役所	家数百五十八軒 人数千二百八人 男六百四十四人 女五百六十四人 馬五十六疋	741

1159	天保31	増減御改帳(部分)	天保三年 辰三月	一通(部分)	鹿塩村	天保三年増減御改帳の表紙と減入覚へのページを利用した袋。宗門帳その他の帳面入れに使ったようだ。中身なし。袋のみで目出した。	1487
1160	32	差上申一札之事	天保三年 辰四月	一通	柳助他・御主人菅善一郎	御主人勝手方不如意に付き一年に十両、十年納めるよと言われたが、断り、一年に二両ならと回答したが理解さず。総旨追放騒ぎになったが、世話人となりなしで一年に四両三分で了解された。	742
1161	33	切添新開田畑并株場御改二付書上帳	天保三年 辰六月	一冊	鹿塩村名主所	畠田田畑・新田切開・焼畑など各地面積・持ち主の書き上げ	1186
1162	34	辰御改切添田畑株場切開小前帳	天保三年 辰六月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛他・飯田御役所	切添田畑・株場切開地の小前帳。享和十年、明和五年、安永九年、延享三二四年、安永五年の新畑・焼畑などの場所などを持ち主の書上帳(万延五年正月の写し)	743
1163	35	乍恐口上書を以御覽奉申上候	天保三年 辰十月	一通	鹿塩村名主彦右衛門・飯田御役所	入会山で無断で切畑を行った者について帳外処分にしたいが指図を願う	744
1164	36	安永九年新田定免切替御請證文	天保三年 辰十月	一冊	御預り所九方村・飯田御役所	安永九年新田の定免切替、当辰から申まで五年、災害などによる荒れ所などの条件などの請書	745
1165	37	御参略中年々御喜御入用御大調帳	天保三年 辰十月	一冊	御勘定所控亭	久々里十村家の家来・中間などの扶持、諸役費など着に向かつて入用の目録書	746
1166	38	乍恐以書付テ奉御訴申上候御事	天保三年 辰十月	一通	鹿塩村日左衛門・組頭・喜右衛門・飯田御役所	鹿塩村奉作被旨口次郎と佐惣左衛門は不埒で居定まらず。母死後埋葬したお棺を掘り出し鉄砲を持って奉作を脅した。手に負えず指図を願ひ伺う	747
1167	39	乍恐口上書御覽奉申上候	天保三年 辰十月	一通	鹿塩村名主武民之丞・飯田御役所	鹿塩村銀左衛門と輝五郎が裏内山岩端しという場所で隠れ畑を切り開いた。村内治めにしてほしい	225
1168	40	乍恐口上書御覽奉申上候	天保三年 辰十月	一通	鹿塩村名主彦兵衛・名主仮役作之丞・飯田御役所	入沢井山字岩端しという内山で栗・蕎麦を作っている者を中継耕地の者が発見し畑を荒らした事により出入りとなった。村役人取扱では手に負えず伺う	471
1169	41	(一、二) 覚	天保三年 辰十一月十六日	一通	市岡寛藏・鹿塩村名主	当辰年分の口米代受取、及び国役高掛の納額の覚え	226
1170	42	(一、二) 差出申一札之事	天保三年 辰十一月	一通	本人銀左衛門・輝五郎・飯田御役所	裏内山の内、字嵩伏に無届で切開作付けをした。不届きは今後無い。村内内済とした。一通同文	1488
1171	43	殿様より御下金割組引合帳	天保三年 辰十二月十八日	一冊	会所	殿様御勘村、伊勢御師払い金と、面組で分ける	1187
1172	44	殿様御下ケ金裏内山割返物右割付覚帳	天保三年 辰十二月十九日	一冊	鹿塩村会所	去の申年久々里殿様御勘の際、扶持米代と御参府金の利息などを割り返し金割付覚え	1188
1173	45	役中間出金割合算帳	天保三年 辰十二月二十三日	一冊	惣方立会相改	村役中に出勤を割り付け、引き合わせ	1189
1174	46	面組米銭引合帳	天保三年 辰十二月	一冊	鹿塩村会所	面組に米銭を割り付け、引合の覚え	1190

1175	天保47	軒別割付帳	天保三年辰十二月	一冊	百姓代屋左衛門	諸人用金の軒別割り付け	1191
1176	48	作忠以書付奉願上候御事	天保四年巳一月	一通	小川村はらめ八ヶ村村役人物代・飯田御役所	井上金四郎が村々に特別な計らいをしたという事で久々里へ戻されることに付いて、村々はそのような事は無いと述べて、勤めを続けられぬように願いだした	472
1177	49	定免勘書三付々吟味請書	天保四年巳二月	一冊	大河原村他十ヶ村名主他・飯田御役所	定免勘書につき勘米を請け、さらに三年定免ではなく十年定免を願っている	748
1178	50		天保四年巳五月から天保七年申七月	四通		小川村における出入り訴訟について、小川村正兵衛が同村新左衛門他六名を相手取り村治め方につき出入りとなつた。正兵衛はしばらく休役を仰せつけられた	1613
1179	51	已年定免之事	天保四年巳十月	一通	市岡寛藤・湯浅健治・鹿塩村名主市	当巳年御成箇、天保四年巳から天保八年酉までの五年の定免	227
1180	52	(一)辰年御年貢御勘定目録(1-1)寛 (二)巳年御年貢御勘定目録 (三)午年御年貢御勘定目録(3-1)寛 (四)未年御年貢御勘定目録(4-1)寛	(一)天保四年巳六月 (二)天保五年午六月 (三)天保六年未六月 (四)天保七年申七月	七通	鹿塩村名主他・飯田御役所	天保三年から七年分までの年貢勘定仕上げ、および納入金差し引きの寛え	228
1181	53	(一)田畑民取反別両組惣帳 (二)田畑民取反別書抜帳	天保四年巳十二月十五日	二冊	鹿塩村名主所	田畑、見取反別の書き上げと総まとめ帳	1192
1182	54	(一)両組夫錢引分改帳 (二)両組軒前取調帳	天保四年巳十二月十八日	一冊	鹿塩村名主所	諸人用金の寛え	1193
1183	55	(一、二)御用村用諸事留書帳	天保五年午一月吉日	一冊	鹿塩村名主彦兵衛・伴右衛門	天保五年の御用村用日記(一)一月から七月まで(二)七月から十二月まで	1194
1184	56	差出之申一札之事	天保五年午二月十五日	一通	彦兵衛間他・彦兵衛	彦兵衛控地内で川除を行うことについて願ひ一札	1614
1185	57	作忠以書付奉願上候御事	天保五年午二月	一通	十一ヶ村連司・地村平右衛門・飯田御役所	天明八年以来時弊し、年々新穀は替るが、ネズミや虫害が多く出る。しかも天保四年以来の凶作で困窮しているので貯蔵を残らず利用したい	473
1186	58	從御役所被仰渡請出帳	天保五年午二月	一冊	彦兵衛・飯堂中・御主人彦兵衛	百姓は人物がましき生活は不可、出役役人には一汁一菜・賭博禁止、野山荒らしを捕らえること、などお触れを寄附請けること	1195
1187	59	宗廟御改上書帳	天保五年午三月	一冊	鹿塩村宗平寺	宗平寺分宗門改めの工書き	1196

1188	60	為取替添口證文之事	天保五年 午 三月	一通	小野村名主佐左衛門 他・飯田御役所	小野村との出入り取扱證文の写し。神光寺入院撥磨の 際、鹿嶋について揉め事になり出入り、解決して十カ 村取り交わした證文	749
1189	天保 61	御傳木山證文	天保五年 午 三月	一冊	鹿嶋村代左衛門他・ 飯田御役所	御傳木山からみだりに諸木を伐り出さないこと。木地 師など入り込みならざるやないことを守る	750
1190	62	神谷俊助様續詰所寮御村人忌帳	天保五年 午 五月	一冊	鹿嶋村名主所	二人の役人廻村で働いた町人忌など名簿	1197
1191	63	本新田畑荒所記及内帳帳	天保五年 午 八月	一冊	鹿嶋村名主所	本新田畑のうち、荒所起し返りとなった地の調書	1198
1192	64	(一)相究申為取替一札之事 (二)為取替事件之事	天保五年 午 九月	一通	本人繁左衛門、直左衛 門他・	繁左衛門持分である字蔵立の山畑は直左衛門から譲り 受けたものだが、これまで見取年貢は直左衛門がたし ていた。これを改めた取替え證文	1402
1193	65	乍取以書付奉願上候御事	天保五年 午 九月	一通	鹿嶋村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	御傳木小木苗木が生長したので増木の件、雄木が生い 立ち役に立つ樹種が未生長につき増木できない	229
1194	66	(寛)	天保五年 午 十二月十八日 他	十通	飯田御役所・ 鹿嶋村	年貢一納、初納、国役金など受け取り覚え、および 請求書	1403
1195	67	乍取以書付奉願上候	天保五年 午 十二月	一通	小川村正兵衛・ 飯田御役所	天保四年井上金四郎の勤め方について裁件があつた が、事実と違ふ点を訴え再吟味を願っている	751
1196	68	(一)未錢割附帳 (二)未錢書上帳	(一)天保五年 九月 (二)天保十二年 十二月(三)天保十 四年十二月	七冊	鹿嶋村名主	天保年間 村入用費割付書上徴収帳	752
1197	69	(一、二)御用村用諸事用留帳	天保六年 未 正月吉良 十二月吉 日	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛 善 一郎	天保六年の御用村用日記(一)一月から四月まで(二) 十一月から十二月まで	1199
1198	70	(一)請取一札之事 (二)一札	天保六年 未 (二)四月(三)六月	一通	鹿嶋村名主彦兵衛他・ 三州川嶋村太田屋彦右 衛門	内山の地獄谷から増帳をのぞきその他の木品を五十両 で売却渡した内金として、五両の受取状と、伐採を延 期するが五十両の内二十五両を支払う一札	230
1199	71	(通知)	天保六年 未 七月	一通	各村名主組頭・	当六日福与村において神祇講講解教諭があるので来聴 願う	231
1200	72	(一)(二)寛	天保六年 未 十月(三)十六日 十一月十七日	一通	湯淺健治・ 鹿嶋村名主	年貢金の受取、十六両と十両一分の分納納入	232
1201	73	大黒講掛金請取帳	天保六年 未 十一月	一冊	湯淺健治・ 鹿嶋村	末年十一月から天保十二年丑までの大黒講掛金受取り 帳	1615
1202	74	両組米錢引分割帳	天保六年 未 十二月十二日	一冊	鹿嶋村名主所	未錢、両米金を各役役組に割割り割り当てる	1200

1203	75	(一、二) 運上物取調両組引帳	天保六年 未 十 二月、天保七年 申 十二月	一冊	鹿塩村名主所	運上物代金寛々と、各割り、高割で割り付け寛え	1201
1204	天保 76	(一、二) 軒別物置帳	天保六年 未 十 二月、天保七年 申 十二月	一冊	会所	諸事入用品など購入代金寛々と、割付徴収帳	1202
1205	77	從御役所被仰渡書	天保七年 申 二月	一冊	代右衛門他・ 惣御役人中	博奕・盗賊、諸注度取り締まること、無宿駄の者など 追いまうこと、公事出入り強訴などあるまじきこと、 など前々からの仰せ渡しを守る	753
1206	78	宮前御改下書帳	天保七年 申 三月	一冊	鹿塩村塩島院旦那・ 飯田御役所	塩島院旦那七百八十七人、男四百十三人、女三百七十 四人の宗西改め	1203
1207	79	小山村出入関係落書留	天保七年 申 四月	一冊	南山村深一郎他	小山村内で村役人を決めること、宗西帳作成などにつ いて出入りとなつたが落着した。その条件・儀奏その他 書留	1616
1208	80	うえをしのくしやう井凶作年号	(天保七年申十月)	一冊	大嶋高保	天保七年申年神無月享之、飢饉の際、何を食へ工夫し て生きぬくかの記事と、過去壬午百十九年の内、十二 度、天保五年から天保四年までの、飢饉の年号	754
1209	81	御請證文(指上申御請書之事)	天保七年 申 十一月	一冊	園次郎他十一カ村	当年は連作につき村々難儀しているので奢りがましい 生活はしないこと、博奕しない、盗賊、野荒れを捕ら え無宿人駄の者なら泊めないこと、九時出入り、強訴 徒党などをようにすること	755
1210	82	申渡	天保七年 申 十二月九日	一冊	六カ村酒造人・ 飯田御役所	酒造りを止める事を申し付けるといふ加賀守承認の上 駿河守の申しつけに承諾した	756
1211	83	両組引分金割合帳	天保七年 申 十二月十五日	一冊	鹿塩村名主伴四郎、伴 右衛門	両組本宮で金割引合勘定を行つた寛え	1204
1212	84	(一、二) 差出申一札之事	天保七年 申 十二月	一通	本人源次郎他・ 両組村役人中	博奕、賭け勝負を庭を破つて行なつたことが發覺、処 罰を与えられた。今後は繰り返さないという一札	1205
1213	85	(一、二、三) 御用村用諸事用留帳	天保八年 西 一月	三冊	鹿塩村彦兵衛、傳兵衛	天保八年御用村用日記(一)天保八年二月から四月、 (二)四月から十二月、(三)十二月から天保九年一月 六日まで	1206
1214	86	貯穀舞御願改帳	天保八年 西 一月	一冊	彦兵衛	彦兵衛願いの分として、天明から寛政分の貯穀、文左 衛門預かり分として寛政享和分の貯穀などの寛え	1207
1215	87	権之者書上帳	天保八年 西 二月	一冊	鹿塩村	天保の飢饉の際、城裏餓死に直面しているものの数、 三十五軒百二十四人の寛え	1208
1216	88	乍恐以書付奉願上候	天保八年 西 二月	一通	十一カ村名主組頭百姓 代・飯田御役所	去迄の表作は大書三不作、困窮しているので十カ年賦 で七百両の借用を願う	233
1217	89	貯穀舞預り辻井出穀改帳	天保八年 西 三月	一冊	名主彦兵衛	貯穀としての本表を預り出穀した調書	1209

1218	90	銀兵衛小兵衛傳八頭一仕諸人用覚帳	天保八年 西 三月	一冊	両百姓代	白米、たまり、酒など諸物品購入代金の覚え	1210
1219	91	貯穀代米借付差引帳	天保八年 西 四月二十一日	一冊	名主所	貯穀の代わりに米とこを貸し付ける計量帳	1211
1220	天保 92	覚	天保八年 西 四月	一通	傳兵衛他・ 彦兵衛	天明八年、寛政六・五・九年、享和二年分の貯穀量と 内訳の書上。計五石四斗六合六勺	757
1221	93	飢人江御救金割渡請書	天保八年 西 五月	一冊	鹿塩村名主所・ 飯田御役所	去る申年の郡中凶作により村内二十一人飢人になり救 金を久々里から受けただけで割渡した	758
1222	94	從御公儀欄作植付米喰貸借金高組 引分改帳	天保八年 西 六月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛・傳 兵衛	拝借金八十四両三錢八十二文を男女人引分人数割り で、四十七両二分三厘米金と三十二両三厘米金に高組に分 け十年で返済する	759
1223	95	從御奉行所欄作米喰貸借請證文	天保八年 西 七月	一冊	主彦兵衛・傳兵衛	拝借金四十七両二分三厘銀三両六分米金を来年戊から米 る来年まで十年で返済する。個々返納額詳細	760
1224	96	安永九子新田定免切替借請證文	天保八年 西 十一月	一冊	御預所九ヶ所・ 飯田御役所	これまでと同じ五年奉では雑用が掛かり過ぎ、当年よ り来る列まで七年迄免とする	761
1225	97	御料稻御領巡見三付村々用意書	天保八年 西 十一月	一冊	飯田御役所	幕府巡見使を迎えるに当たり、明細帳、高認帳、村入 用米錢帳、一村限り総図面など、その他刀拭、手水桶 など、献立用意、各科特別に入用の物など十一ヶ村へ の通知	762
1226	98	家別物割付覚帳	天保八年 西 十一月	一冊	鹿塩村名主所	諸人用物品代金、入用金など、分担割付徴収の覚え	1212
1227	99	欄作植付米食金理借證文	天保八年 西 十一月	一冊	太兵衛他・ 彦兵衛	天保七年から続く欄作で村民困窮、田畑欄作米食を奉 行所より借用した。返納は来年から十年間年賦	1617
1228	100	(一) 運上金取調高組引分帳 (二) 運上金割渡之帳	天保八年 西 十二月	一冊	鹿塩村名主所	北入谷、手開などからの小白米運上金十六両を高組へ 高割と各割りで分配、引渡し帳	1213
1229	101	(一) 染衣備前弥兵衛二件取調入用覚 (二) 善兵衛代次郎入組二件入用取調 帳	天保八年 西 十二月	一冊	百姓代佐兵衛門	村民同士の出入りを調べたことに伴い、使用した経費 の覚え	1214
1230	102	高組米錢引分帳	天保八年 西 十二月	一冊	鹿塩村余所	米錢を高組に割り当てる	1215
1231	103	仮役組庫敷高書持帳	天保八年 西 十二月	一冊	余所	仮役組の各庫敷高の書き上げ、反別合計七反九畝一分	1216
1232	104	畑之御引金高組引分帳	天保八年 西 十二月	一冊	名主所	畑の見取高、反別、取り米に割り付け	1217
1233	105	高組村役人入用取調帳	天保八年 西 十二月	一冊	余所	高組の村役人が諸事入用とした金等の覚え書き	1218
1234	106	御下ヶ金入用人数割調帳	天保八年 西 十二月	一冊	余所	下げ渡し金を入割りで分ける計量帳	1219

1235	107	御引金割渡帳	天保八年 西 十二月	一冊	鹿塩村名主所	御方の屋敷見取計算結果、差額が返されたので割り戻す	1220
1236	108	乍恐以書付奉願上候	天保八年 西 十二月	一通	当人傳兵衛他・ 御本山御役所	当三戸奈阿の筋に、香林寺印鑑を預けたが紛失してしまつた。まことに申し訳なく印鑑書発行願う	763
1237	天保 109	差上申御請證文之事 (差出申一札之事) (差上申御書寫之事)	天保九年 戊 三月	一通	名主仮役折左衛門他・ 飯田御役所	天保九年三月、八年十月、九年七月の表題文書三通分で一枚、鹿塩村名治について、年々入り組んだことになった諸事説明	1618
1238	110	御挂債金御返納取立差引帳	天保九年 戊 四月	一冊	名主所	挂債金の返納金額を徴収するための計算帳	1221
1239	111	(一)寛延御生貢勘定旨録 (二)貢	天保九年 戊 八月	二通一 包み	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	(一)寛延分年貢勘定仕上げ (二)年貢差し引き計算の算え	234
1240	112	差上申御請證文之事	天保九年 戊 八月	一通	鹿塩村名主又左衛門他 村役人・市岡貞蔵他	天保四年以来続く凶作で村は困窮。百姓持ちの山のつち、近井谷から停止木を除去し雄木を荒州田中屋並重蔵へ、また黒川谷横之日向谷から唐檜と白檜を小臼木板にして松本上神林村庄三郎に売り出す件が託されたので山人りする	474
1241	113	為取替申一札之事	天保九年 戊 十一月	一通	本人傳兵衛他・ 香林寺	延宝から宝暦年間の御堂金二件の入り組みを口入方により解決に至る	1619
1242	114	小臼木地師運上金割渡帳	天保九年 戊 十二月吉日	一冊	名主文左衛門、伴右衛 門	小臼木および木地師運上金計四十二両を、西内山は差割り、東内山は高銅で割り渡す	764
1243	115	木地師小臼木運上高組引分帳	天保九年 戊 十二月	一冊	百姓代	小臼木利用の運上金四十二両、東木地師よりの運上二両、計四十四両他、高銅で両組に分ける	1222
1244	116	高組引分差割高銅引分分帳	天保九年 戊 十二月	一冊	会所	清内路村へ助人民、御料所御巡見様止宿に、舞金など入用費を差割り、高組に割り当てる	1223
1245	117	(一)差上申御書之事 (二)乍恐以書付奉願上候御事	(一)天保九年 戊 七月 (二)天保十年 亥 四月	二通で 一枚	鹿塩村名主版右衛門他 村役人・ 飯田御役所	(一)鹿塩村役役が入り組んだ事になっているので一名の一代限りの加役を渡ける (二)願い人五左衛門は病気がちで年来小間いしてきたが、家仕事として鷹屋を開業したい	475
1246	118	(一)本新田畑高別取調書抜帳 (二)三本新田畑高別取調書抜帳 役組改帳	天保十年 亥 一月二十一日	三冊	鹿塩村名主伴四郎、傳 兵衛	本新田畑、屋敷、山畑、林畑などの高別、川欠けなどの年月などの総書上	1224
1247	119	不案内書抜帳	天保十年 亥 一月	一冊		田畑高、見取、荒所の再確認、確定を要する分の書き抜き	1620
1248	120	(一)乍恐以書付御届申上候 (二)取極メ申渡口書付之事	天保十年 亥 四月 五月	一通	飯田町宿松好屋源吉 大倉傳兵衛・鹿塩村 役人衆	万兵衛の相続人が他村へ移っている、その相続継続きを鹿塩村役人が意欲をとらな、万兵衛は役所に訴え、たが内務となり飯田借取扱とした	1404
1249	121	(一)乍恐以書付御届申上候 (二)取極メ申渡口書付之事	天保十年 亥 五月	一通	飯田町宿松好屋源吉 大倉傳兵衛・鹿塩村 役人衆	萬兵衛は親松奈阿加除について差支えが嵩、遠松島村傳兵衛との関係で生じた。飯田町宿に解決を求めた。そのいきさつの二通	476

1250	122	為殿書規定證文之事	天保十年 亥 五月	一通	名主伴四郎他、 田中半十郎他	入相山黒川谷と地獄谷岡山から檜 樅、唐檜、白檜を 除く諸木を売り渡す。懸意金五十両	1621
1251	123	黒川山懸意金割渡帳	天保十年 亥 六月廿日	一冊	名主伴四郎、傳兵衛	黒川山懸意金五十両の内、御役所への礼金三両二分三 朱を除き、東内山は高割で、南組半分は差割で半分は 高割で割り渡す	765
1252	天保 124	黒川山懸意金両組分帳	天保十年 亥 六月	一冊	鹿塩村余所	黒川山山林利用の懸意金五十両を高割と差割りで両組 に分配する	1225
1253	125	市岡様材木方御見分二付人員定帳	天保十年 亥 十月十三日	一冊	鹿塩村余所	十月十二日材木方見分と道橋遊請人定など調査	1226
1254	126	御口米御国役両組分帳	天保十年 亥 十一月二十九日	一冊	余所	口米と国役金を両組へ高割り差割りで分割割り当て	1227
1255	127	角材運上取調引分帳	天保十年 亥 十一月	一冊	鹿塩村名主伴四郎、傳 兵衛	沢井谷、黒川谷、内山山林利用の運上金百二十六両余 を高割りで、北大、地獄谷運上三十三両余を差割りで 分配	1228
1256	128	軒別割付帳	天保十年 亥 十二月	一冊	鹿塩村名主伴四郎、傳 兵衛	諸用費の軒別割り当て、徴収帳	1229
1257	129	運上取調帳	天保十年 亥 十二月	一冊	鹿塩村余所	たん子運上、木地蔵運上、角材浦木酒代など、諸運上 金書き留め	1230
1258	130	(一、二) 御拝借金納返納取立帳	(一) 天保十年多十 一月(二) 天保十二 年子十月	一冊	名主伴四郎、傳兵衛 文左衛門、伴右衛門	開作宗儀拝借金四十七両余の天保九年から十年間分割 返納二年、三年目の返納金取立之帳	766
1259	131	(一、七) 大嶋氏下作控帳 (一) 当亥下作納所帳、天保十年十一月、大嶋彦兵衛、高保 (二) 当午下作帳、安政五年十月、大嶋彦兵衛、保文 (三) 当申下作帳、万延五年十二月、大嶋彦兵衛、保文 (四) 当子下作納所帳、元治五年十一月、大嶋光保 (五) 当丑下作納所帳、慶應五年十月、大嶋光保 (六) 当卯年下作納所帳、慶應三年十月、大嶋光保 (七) 当午下作納所帳、明治三年十二月、大嶋光保	天保十年 から 明治三年	七冊	大嶋彦兵衛、高保、保文 または光保	大島孝六保から明治の卜作帳、下作納所帳までは下作 態、保文と光保氏は同一人で文が三年頃に保文から光 保に改名した	1405
1260	132	高反別帳面調方纏付帳	天保十二年 子 正月	一冊	余所	一旦十二日三十日、高反別調査に従事した人々への 懸意帳	1231
1261	133	(一) 両組増減入用書抜帳 (二) 両組宗門入用書合帳	天保十二年 子 二月	二冊	名主所惣昌姓代	宗門帳、宗門増減の調査で入用だった物品金など 算へ、分相払い割り付け	1232
1262	134	(一) 宗門御改下書帳、宝久寺旦那 (二) 宗門御改下書帳、塩泉院座中	天保十二年 子 三月	二冊	宝久寺、塩泉院・ 飯田御役所	宝久寺分百八十九人男百七人女八十二人、塩泉院分七 百三十五人男三百八十一人女三百四十四人の宗門改め 帳	1233

1263	135	市岡様渡辺様差所起返御出役人足帳	天保十二年 子 九月	一冊	会所	差所起し返りの地を真間を訪ね市岡、渡辺の両役人 に付いた人足名、出迎え、料理人足など	1234
1264	136	御預り所村々借用金諸拂規定書	天保十二年 子 十一月	一冊	湯淺儀兵衛他	千村・千石衛門預かり所十一カ村から、勝手方不如意に つき返向を借金した趣文	767
1265	137	市場耕内入組三付入用帳	天保十二年 丑 一月、十二、三	一冊		米、とうふ、たまご、酒など、市場でもめことあり寄 合いで入用だった膳料惣代金の書え	1235
1266	天保 138	御用付用諸事入用帳	天保十二年 丑 正月、廿日	一冊	鹿塩村名主・藤兵衛 彦 兵衛	天保十二年御用付用諸用で要した費用の覚え、一月か ら十二月まで	1236
1267	139	為取替申一札之事	天保十二年 丑 一月	一通	塩原物次茂兵衛他・ 河合、塩原、大栗、中 老衆中	市場五耕地の若輩たちが、五耕地が三と二耕地に別 れているのではなく、一つになってやつていくようにす るという一札	477
1268	140	夫持借金返納覚帳	天保十一年 丑 二月	一冊	名主彦兵衛	去る亥、子年で返納分を差し引き、計六十八両二分永 二百二十七文六分六厘を当丑から来る丑年まで二十五 年で返納する。彦兵衛と被官分個々の返納額詳細	768
1269	141	從御公儀拝借金村々御請證文	天保十一年 丑 二月	一冊	十一カ村名主組頭百姓 代・飯田御役所	近年不作続き、拝借金返納が難しいので二十五年度で 返納する事になった	769
1270	142	一札之事	天保十一年 丑 二月	一通	林村金兵衛他・ 葛嶋翁助	弟金田郎は江戸へ行つたきり帰らない。難縁が延引き になっていたが今度荷物ともども引き取る	1406
1271	143	宗南御改下書帳	天保十二年 丑 三月	一冊	宝久寺旦那中	宝久寺旦那中百九十一人男百七人女八十四人の宗南改帳	1237
1272	144	覚	天保十二年 丑 四月六日	一通	湯淺儀兵衛・ 鹿塩村役人中	借入金、画二束の受け取り	478
1273	145	差申御請書之事	天保十二年 丑 九月	一通	大河原、鹿塩、南山村 名主中	風増立ち枯れは当面ない。苗木を植えてついても育つも のはほとんどなく、実生も育まない。文政享保の増木 以後、増木すべきものは無い。今後よく見回る	235
1274	146	(一、二) 覚	天保十一年 丑 十月、十一月	一通	湯淺儀兵衛・ 鹿塩村名主	当丑年分の年貢金分納意思、一の受取	236
1275	147	殿様御無心金取立差引帳	天保十二年 丑 十一年	一冊	鹿塩村会所	久々里の殿様の勝手不如意につき、村々へ無心。金子 割り付け徴収帳	1238
1276	148	御年貢過上金割渡差引帳	天保十二年 丑 十二月	一冊	会所	納めすぎに年貢金払い戻す、計算留め書き	1239
1277	149	(一、二) 夫崎拝借金返納覚帳	(一) 天保十三年丑 (二) 天保十三 年寅十一月	一冊	名主所	夫崎拝借金六十八両余の二十五年度返納覚帳	770
1278	150	(一、二、三) 軒別物取立覚帳	添付十五、十六 年、十四、四年 十二月	三冊	鹿塩村名主所	寄合の酒代、制化金など割り付け徴収帳	1240
1279	151	(一、二) 宗南御改下書帳	天保十三年 寅 三月	一冊	鹿塩村宝久寺旦那、塩 泉院・飯田御役所	宝久寺旦那百九十六人男百八人女八十八人、塩泉院分七 百四十四人男三百九十六人女三百五十四人	1241

1280	152	乍現以書付御居ヲ奉申上候	天保十三年 寅 三月	一通	鹿嶋村土居松代文左衛門・小弥太・飯田御役所	鹿嶋村治まり方について、特に土役、仮役などが文書に奥印するときの書き方に付いて	479
1181	153	(一)酉年御年貢御勘定目録 (二)寛	天保十三年 寅 八月	二通一 包み	鹿嶋村名主彦兵衛他・飯田御役所	(一)丑年分年貢勘定仕上げ (二)年貢差し引き計算の寛	237
1282	天保 154	乍現書付を以御居方申上候	天保十三年 寅 十一月	一通	鹿嶋村仮役組役人惣代五左衛門・織左衛門・飯田御役所	土地年貢課文の奥印、年貢など諸納入金の領収書、御樽木山絵図、寄附帳など、仮役組を別に取扱願いたい	480
1283	155	東西内山運上割付帳	天保十三年 寅 十二月	一冊	名主伴四郎 文左衛門	東西内山運上金五両一分の割渡し帳	771
1284	156	御下々殺時殺御預り書上帳	(天保十三年) 寅	一冊	鹿嶋村	天保五年に時殺太妻を下殺挫損、凶作につき返納は遅れたが新殺で詰め戻した寛	1242
1285	157	両組増取調帳	天保十四年 卯 一月十七日	一冊	鹿嶋村	天保十三年の宗前増取調書。増人四十五人男十七人女二十八人、減人三十一人男十二人女十八人	1243
1286	158	御用村用諸事用留帳	天保十四年 卯 正月吉日	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛・嘉兵衛	天保十四年一月八日から十二月二十五日まで御用村用日記(最後のページに天保十五年辰十二月十七日付の記事あり)	1244
1287	159	(一)五七十四 寛 (二)一札之事	天保十四年 卯 二月十一日	十四通	役人惣代休番名主傳兵衛・栄人他	傳兵衛より栄人、忠兵衛、太郎左衛門、惣七、才三郎、彦左衛門他へ、諸地證文それぞれ一通を御役所入用につき預かるの寛	1622
1288	160	護地證文改書留帳	天保十四年 卯 三月	一冊	鹿嶋村名主所	「護渡申畑地證文・町家證文・護渡持材」など売買された田畑林家屋の護地證文写し帳	1245
1289	161	御年貢勘定取調書帳	天保十四年 卯 五月	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛	文化・文政・天保年間の年貢勘定調べ、書き上げ	1246
1290	162	寛	(天保十四年) 卯 六月十七日	一通	梨原・飯田御役所	文化・文政・天保年間のいくつかの年貢納り受け取り寛の寛	1407
1291	163	御改革三付御勘意	(天保十四年) 卯 八月四日	一冊	鹿嶋村名主所	天保の改革に関して申し渡しと、正徳三年と天保十三年の書付写し	772
1292	164	屋敷名無之者連名帳	天保十四年 卯 八月	一冊	鹿嶋村名主所	屋敷の名がない者の名簿	1247
1293	165	御用通り御何方得帳	天保十四年 卯 八月	一冊	鹿嶋村名主所	享保十八年、延享三年、宝暦三年、明和五年の人別帳は無い。寛政五年人数は千三百四十一人男七百十三人女六百二十八人、他に御用の何方、作法が簡単に記されている	1248
1294	166	古役組小前方印形改帳	天保十四年 卯 九月十八日	一冊	鹿嶋村名主所	古役組の小前方一人ひとりの名前と印形個数の寛	1249
1295	167	堀大和守様御加増村口享書	天保十四年 卯 閏九月	一冊	鹿嶋村彦兵衛	堀大和守が加増になり、村々へ知年からの物成小物成など渡した高書き上げ写し	1250

1296	168	貯穀倉高書上帳 (倉)	天保十四年 卯 閏九月	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛他	大妻二十六石余、粉・斗奈を貯穀してあることの報告	773
1297	169	御改革帳面取調人用覚帳	天保十四年 卯 十月	一冊	名主所	改革帳面調べて要した諸物品、金子の覚え、八月十九日から十月まで	1251
1298	170	出入方金銭取調覚帳	天保十四年 卯 十二月	一冊	名主彦兵衛	卯一月二十日付けから辰一月二十九日付けまで、金銭の出入り覚え書き	1252
1299	弘化 1	寺送り一札之事	(天保十五年) 弘化 元年 辰 正月	一通	大草村常泉寺・ 鹿嶋村塩泉院	大河原村百姓良藏、厄介の直助は家族五人で常泉寺から塩泉院の旦那に写す	774
1300	2	開作未食律借金返納方御請書	(天保十五年) 弘化 元年 辰 三月	一冊	鹿嶋村名主文左衛門 他・飯田御役所	鹿嶋村分律借金返納方を差し引き三十両永百三十四圓を並辰から来る辰まで二十五年賦で返納する	775
1301	3	宗簡御改下書帳	(天保十五年) 弘化 元年 辰 三月	一冊	鹿嶋村塩泉院・ 飯田御役所	塩泉院分七百六十四人男三百五十五人女三百六十九人の宗簡改め	1253
1302	4	為取替書付之事	(天保十五年) 弘化 元年 辰 四月	一通	地方連田与七他・ 彦兵衛	地方連中一統相談の上、川除普請をする。賃金その他申し合わせ取替文書	1623
1303	5	(一)卯年御生貢勘定目録 (二)覚	(天保十五年) 弘化 元年 辰 八月	二通 一 包み	鹿嶋村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	(一)卯年分年貢勘定仕上げ (二)年貢差し引き計算の覚え	238
1304	6	御樽木山井内山社木堂寺百姓持林木 数略記	(天保十五年) 弘化 元年 辰 九月	一冊	鹿嶋村	社木持山に榿八本、櫻八本、樺十五本、唐松一本、計三十二本、大花沢山七分目通り、小花沢他御樽木山各所にある用材級樹木数	1254
1305	7	(一)百姓持山木品書上帳 (二)寺社境内百姓持地木品書上帳	(天保十五年) 弘化 元年 辰 九月	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛、文 左衛門名主辰後槐松・ 飯田御役所	榿百五十本、櫻百本ほど、目通り五尺から七、六尺ほど、尺角以上の材木御用につき百姓持ち山の書き上げ。谷々に採々にある。寺社境内の榿八本、櫻八本、樺十五本、唐松二本	776
1306	8	御樽木山為御見分御普請役御巡村人 用割金帳	(天保十五年) 弘化 元年 辰 十月	一冊	鹿嶋村出役彦兵衛	御普請役大地政次郎、林敬三郎の御樽木山見分の際入用の覚え	1255
1307	9	邊遠採御頼金取立帳	(天保十五年) 弘化 元年 辰 十二月	一冊	鹿嶋村会所	「邊遠採御不勝手」により十一カ村が出しあい、七十五両を總通した。鹿嶋村分三両三分を割勘徴収	777
1308	10	(一) (二) (三) 去喰律借金返納覚帳	弘化五年辰 弘化三年巳 弘化三年十一月	三冊	名主所	三十両余を二十五年度で返納する。弘化五年から三年の各々返納覚帳	778
1309	11	(一)宗簡御改下書帳(金久寺) (二)宗簡御改下書帳(塩泉院)	弘化三年巳 三月	一冊	鹿嶋村宝久寺、塩泉 院・飯田御役所	金久寺分三百二人男百十四人女八十七人(五年の付紙二百二人男百十三人女八十九人、塩泉院七百六十七人男二百九十九人女二百六十七人の宗簡改め帳	1256
1310	12	取築申一札之事	弘化三年巳 四月	一通	鹿嶋村彦兵衛・松本在 上米村野口庄三郎代人 良兵衛	松本城本丸御用につき、彦兵衛持つ小島社木の樽一本一両三分でどうか。一通は控え、一通は下書き包み紙	482
1311	13	当年生貢初納二納割帳	弘化二年巳 十月	一冊	鹿嶋村名主伴四郎、伴 右衛門	当年生貢の初納二納、それぞれ三十両、十五両の割り付け	1257

1312	14	(一)御国役金割付小前帳 (二)御口米金割付小前帳	弘化三年 巳 十二月 吾日	一冊	鹿嶋村名主 伴右衛門・ 伴四郎	国役金と口米代金の割付帳	1258
1313	15	古役分軒別物事控帳	弘化三年 巳 十二月	一冊	百姓代庄七	三月十三日、四月八日、十一月三日付け諸人用金の寛え	1259
1314	16	軒別物割取立帳	弘化三年 巳 十二月	一冊	鹿嶋村名主所	三月一日付以降、諸人用金の寛えと割付徴収帳	1260
1315	17	田畑山林譲地高割寛帳	弘化三年 巳 十二月	一冊	鹿嶋村名主伴四郎・伴 右衛門	譲り地の高反別寛え書き	1261
1316	弘化 18	差上申一札	弘化三年 巳 十二月	一通	鹿嶋村塩泉院祖宗他・ 本山常泉寺役寮	多病につき勤め果たせず引退したい。後事は寛忍和尚へ譲る	483
1317	19	真内山連上割付帳	弘化三年 巳 十二月	一冊	鹿嶋村名主伴四郎・伴 左衛門	真内山木地師六軒連上金九両を金四百五十五両五匁に割付、各個人に割り付ける	779
1318	20	弘化三年起返所什帳	弘化三年 巳 十二月	一冊	鹿嶋村名主所	起返田畑の高反別寛え	1262
1319	21	御用村用諸事用留帳	弘化三年 午 正月 吾日	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛・彦 治郎	弘化三年一月から弘化四年正月まで御用村用日記。十二月二十八日要左衛門宅・鹽屋家・薬師堂・十五堂焼失の記事あり	1263
1320	22	宗廟御改下書帳(塩泉院)	弘化三年 午 三月	一冊	鹿嶋村塩泉院・ 飯田御役所	塩泉院分七百七十七人男四百五人女三百六十五人の宗門改め帳	1264
1321	23	増減御改帳	弘化三年 午 三月	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	増人五十一人、減人五十三人の弘化三年分増減報告。増人・減人共に内訳数かまどめられている	780
1322	24	(一)(二)為取替申一札之事	弘化三年 午 四月	一通	惣右衛門・ 好左衛門	字原蔵庫を好左衛門も蔵庫として利用したい	1624
1323	25	塩泉院青山諸事記録帳	弘化三年 午 九月	一冊	大嶋高保	塩泉院十三代祖宗大和尚隱居により、十四世寛忍和尚新任住職。諸事所入用などの記録	1265
1324	26	客藏修繕蔵造作青山諸人用割金帳	弘化三年 午 十月	一冊	塩泉院青山中	二冊同文。塩泉院客藏と蔵の造作。新住職就任諸人用割り付け	1266
1325	27	当年御年貢初納二納割付帳	弘化三年 午 十月	一冊	鹿嶋村名主所	当年年貢の初納三十両、国役二両二分、二納十五両二朱の割り付け寛え	1267
1326	28	(一)(二)寛	弘化三年 午 十月 十二月十六日	計六通	市岡寛藏・ 鹿嶋村名主	当年年貢金・口米代、開作・食返納金、国役・掛金納入用金の受取	239
1327	29	夫錢帳	弘化三年 午 十二月	一冊	名主彦兵衛・彦次郎	村入用費の書上、割付徴収帳	781
1328	30	田畑山林譲地證立寄書帳	弘化四年 未 二月 吾日	一冊	鹿嶋村名主彦兵衛	天保十四年、文政七年、文政四年付け六通の譲り渡し田畑・山林地の證立寄し帳	1268
1329	31	宗廟御改下書帳	弘化四年 未 三月	一冊	鹿嶋村塩泉院・ 飯田御役所	塩泉院分七百六十七人男四百七人女三百六十人の宗門改め帳	1269
1330	32	(一)(二)当年御年貢勘定目録 (三)寛	弘化四年 未 六月	三通	鹿嶋村名主彦兵衛他・村 役人・飯田御役所	弘化三年当年年貢傳代金増減・物成金の勘定目録とその写し、及び差し互に計算の寛え	484

1331	33	(一、二、三)差出し申一札之事	弘化四年 未 七月 十月	一通	中山源四郎他・ 彦兵衛	中山にて灰焼き	1625
1332	34	当主彦年貢初納二納割付帳	弘化四年 未 十月	一冊	鹿塩村名主所	当年の年貢初納三十四両、国役金 両一分二納十五両一朱の割り付け覚え	1270
1333	35	書書	弘化四年 未 十月	一通	大嶋彦兵衛 高安氏	本地師金弥也 名を大山した事。十月十八日に見分のため津四郎などを出掛けたことなどの覚え	782
1334	36	貯穀小前割付御預帳	弘化四年 未 十二月	一冊	信州伊那郡鹿塩村	ネズミなどに蔵を荒らされることも無く、米などを食い荒らされること無うにする	1271
1335	弘化 37	(一)御国役金割付小前帳 (二)御口米金割付小前帳	弘化四年 未 十二月吉日	一通	鹿塩村名主伴四郎、嘉 彦兵衛	国役金と口米金の割付覚え	1272
1336	嘉永 1	小島丹石衛門様御村人足帳	嘉永元年 申 六月二日	一冊	鹿塩村会所	六月一日から三日まで諸々の仕事に従事した者の名前	1273
1337	2	嘉永元年切替御免享帳	嘉永元年 申 十月	一冊	飯田御役所、 鹿塩村名主	当申から来る已まで十年定免と申年御勘定官録(嘉永二年六月)の写し	1274
1338	3	御拝借金取立差引帳	嘉永元年 申 十一月十二日	一冊	名主所	拝借金徴収帳	1275
1339	4	定免切替村々御請證文(差上御請證文之事)	嘉永元年 申 十一月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛、大 河原村人郎九郎、津内路 村文左衛門・飯田御 役所	大河原、鹿塩、津内路三村の定免切替、年季十生請け 文	783
1340	5	東内山運上割渡差引帳	嘉永元年 申 十二月	一冊	鹿塩村名主所	東内山利用の運上金を割り渡す覚え	1276
1341	6	(貯穀帳) (一、二)貯穀小前割付御預帳 (三)貯穀小前割付御預下書帳 (四)貯穀小前割付御預帳 (五、六)当主貯穀小前割付御預帳 (七)当主貯穀小前割付御預帳	嘉永元年から 六丑年 嘉永元年、二酉年、三戌年十二月 嘉永四年十二月 嘉永五年十二月 嘉永六年十月	七冊	信州伊那郡鹿塩村名主 彦兵衛・飯田御役所	貯穀を預かり、ネズミ喰いなどないよう心がけ、毎年 新穀に替える	1277
1342	7	(一)塩泉院本堂意匠修繕き薪炭帳 (二)塩泉院本堂意匠修繕人用費帳	嘉永元年 酉 六月、十二月	一冊	大島氏控え	塩泉院本堂の屋根葺き替へ入用金などの覚え	1278
1343	8	御年貢初納二納小物成割付帳	嘉永元年 酉 十月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛、彦 治郎	当年年貢 初納 二納割り付け	1279
1344	9	西組御年貢方取調帳	嘉永元年 酉 十一月	一冊	名主彦兵衛	弘化四年、嘉永元年の年貢納、小物成、口米代など納 方調査の覚え	1280
1345	10	弘化三年蔵御年貢方勘定帳	嘉永元年 酉 十一月吉日	一冊		本達見取取米九十五石二斗九合の代金四十二両三分、 他	1281
1346	11	西組半銭取調帳	嘉永元年 酉 十二月	一冊	鹿塩村	二月二十日付けから十二月十七日付けまで南北西組半 銭の覚え	1282

1347	12	嘉永二西高割寛	嘉永二年 西	一冊	名主仮役	本新田畑 林畑など 高割り寛之書き	1283
1348	13	(一)差出申一札之事 (二)送り一札之事	(一)嘉永三年戌二月 (二)嘉永七年 安政二壬寅二月	一通	大草村・ 鹿塩村彦兵衛	(一)大草村金三郎娘しな 十人歳が鹿塩村多兵衛へ嫁ぐ 人別送る (二)大草村柳兵衛佐藤助 二十七歳を鹿塩村作左衛門方へ養子として送る	1408
1349	14		嘉永三年 戌五月 嘉永七年 寅二月	四通	左記諸人・ 彦兵衛	大島森持地中山へ木地師入山 栗枝伐出し 灰焼きの願い、取り決め	1626
1350	嘉永 15	(一)西年御年貢御勘定目録 (二)子年御年貢御勘定目録	(一)嘉永三年戌六月 (二)嘉永六年丑六月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他・ 飯田御役所	嘉永元年申から安政四年巳まで十年定免ならびに弘化元年辰から嘉永六年丑まで十年定免	240
1351	16	差出シ申一札之事	嘉永三年 戌 十月	一通	四徳村三人・ 鹿塩村役人中	三人のものが鹿塩山へ入り込み 停止木を伐り出した事を科役人が発見した。内渡を願い、今後不埒の無いようにする一札	1284
1352	17	差出し申一札之事	嘉永三年 戌 十月	一通	本人・ 御役人中	三人で大切な停止木を伐採している所を科役人に見つかつた。最初につかまつた者の首魁ではなかつた	241
1353	18	西内山伐免趣意金勘渡差引帳	嘉永四年 亥 三月六日	一冊	鹿塩村名主所	西内山樹木伐採利用で得た金を割り渡す	1285
1354	19	宗廟御改下書帳 (塩瀬院)	嘉永四年 亥 三月	一冊	鹿塩村塩瀬院・ 飯田御役所	塩瀬院分八百五十六男四百三十二女三百八十三人の宗廟改帳	1286
1355	20	差上申一札之事	嘉永四年 亥 三月	一通	本人吉兵衛・ 御主人彦兵衛	兄弟が宗が主人へたびたび不埒に及んだことを詫言る	242
1356	21	寛	嘉永四年 亥 十月	一通	飯田御役所・鹿塩村名 主	当亥年御年貢取箇の寛え その他置掛小物成の通達	485
1357	22	御用箱諸帳面書留帳	嘉永五年 子 一月廿日	一冊	鹿塩村名主所	文化年間から年貢取立帳、貯穀帳、その他諸帳面で保管されていたものの目録、帳面物約三百八十冊、書付五袋	1287
1358	23	貯穀取集帳面差上候御請書号	嘉永五年 子 八月	一冊	十一カ村・ 飯田御役所	貯穀帳はこれまで翌年三月宗門帳と共に提出していたが、今後はその年貢納納の際に提出する請書	784
1359	24	(一)、(二)寛	嘉永五年 子 十一月	一通	市岡芳太郎・ 鹿塩村名主	当子年分(一)米金送納金二両二分米百二十文(二)納入用金二分米七十六文二分九厘の受け取り寛え	785
1360	25	貯穀取調改寛帳	嘉永五年 子 十二月廿日	一冊	名主所	俵三十二石余、天明八年より文化三年まで取り集めた量の代金を貸し付けておいたが、代金ではだめで貯穀すべきこと	786

1361	26	寛	嘉永五年 子 七 月十二日 十二月二 十八日、十二月十八 日	三通	鹿塩村 戸主代鉄次郎 孫兵衛・大河原村治郎 兵衛	中山の栗板木、株の代金と運上金の受け取り	486
1362	27	(一、二) 御口米金割付小前帳	嘉永五年十二月 嘉永六年十二月	一冊	鹿塩村 名主彦兵衛 伴 右衛門	口米代四両一分余 割付の詳細	1288
1363	28	当主御年貢初納二納割付帳	嘉永六年 丑 十月	一冊	名主所	当年分年貢の初納、二納割り付け覚え	1289
1364	29	御国役金割付小前帳	嘉永六年 丑 十二月二日	一冊	鹿塩村 名主彦兵衛 伴 彦兵衛	御国役金の割り当ても徴収帳(表紙には嘉永五年と記さ れているが、実は嘉永六年十二月の記録である)	1290
1365	嘉永 30	御国役金割付小前帳	嘉永六年 丑 十二月三日	一冊	鹿塩村 名主伴四郎、嘉 兵衛	御国役金二両余を高配し割り付け勘定	1291
1366	安政 1	(一) 衆置屋根着へ本堂墓置明細割付 帳 (二) 衆置屋根着本堂ましかや惣目中 割合帳	(嘉永七年) 安政元年 寅 三月九日	一冊	(一) 彦兵衛 控え (二) 塩河村	塩置院本堂の屋根葺き替え入用費割り付け	1292
1367	2	(一、二) 当主詰穀小前割付御覆帳	(嘉永七年 安政元 年 寅十月から 安静 六年末十月)	六冊	鹿塩村 名主伴四郎 他・ 飯田御役所	安政元年から六年まで、貯穀としての大奉納も当て書 き上げ	1293
1368	3	蔵置普請用帳	安政三年 卯 二月	一冊	大嶋彦兵衛	蔵置普請につき杣、大工、石屋、屋根職人など入用費帳	1627
1369	4	殿様御廻村上穂御違見用留帳	安政三年 卯 四月二日	一冊		安政三年四月に久々里の殿様が各村へ立ち寄り、前例 のように上穂村において遠見、各村代表とお目見えし たときの日記風記録	1294
1370	5	上穂村出役入用帳	安政三年 卯 四月三日	一冊		諸事入用金、賄い金の覚え、御本陣御礼金、お目見え小 休所へ遣わす、などが認められるので、殿様廻村上穂 村泊まりへ出役の入用帳と思われる	787
1371	6	寛	安政三年 卯 四月五日	一通	彦兵衛 他	安政三年四月殿様代替わり御巡見は前例通りおこな う、村役人の名前などの覚え	788
1372	7	(付掲載要図)	(安政三年 卯 四月五日)	絵図一 枚		「大鹿村誌」上巻一七三頁、安政三年大河原村名主蕃 五郎の絵図の写しと思われる。千村公大河原鹿塩村遠 見の説明図	1409
1373	8	(一、二) 寛 (四、六) 寛・書付	安政三年 卯 十月十二日、十一 月十六日	六通 一 包み	湯浅貞左衛門、 鹿塩村名主	国役金、問取金、夫食金納金、納入用金の受け取り覚え、 請求の覚え書付など	487
1374	9	諸入用割合帳	安政三年 卯 十二月	二冊 一 組	塩河村	衆寄遣作入用費など、割り付け覚え	1295
1375	10	(御請證文) 差出申一札之事	安政三年 卯 十二月三日	一冊	被官頭太兵衛 他 十三 人・御主人	榎木山を常々守ること、塩置口論しないことなど守る。 主人への勤めに励むことの約束	244

1376	11	借地書替一札之事	安政三年 卯 十二月	一通	本人金八郎 請人庄三郎・彦兵衛	借用した場所を無償で蔵文に書き入れ、加えて畑一畝書替で記入した。このことについて迷惑はかけない一札	1489
1377	12	(一)譲り渡申田畑蔵文之事 (二)譲り渡申畑作蔵文之事	安政三年 卯	三通一 包み通	七左衛門・幸三郎・市五郎・源蔵	田畑の譲渡蔵文等し、裏書を各主役彦兵衛がしている	243
1378	13	相渡申實地所年奉蔵文之事	安政三年 辰 二月	一通	本人左重郎・他彦兵衛	借金返済が滞った際に實地を差し出す蔵文の下書き	488
1379	14	差出申一札之事	安政三年 辰 三月	一通	川除連中・他彦兵衛	彦兵衛持の字塙・厚縄地内を田畑開発するため、天保十四年以來川除をしたが、嘉永三年の洪水で流れた。とうにもならないので川除を止める	489
1380	15	取極議定書之事	安政三年 辰 三月	一通	利右衛門・他郭秀文四郎・他彦兵衛	去々成年の出水でこれまでの家を引き払い、このたび再建する	1490
1381	安政 16	差出申一札之事	安政三年 辰 三月	一通	川除連中・彦兵衛	天保十四年以來川除を字塙・厚縄地で行なってきたが、嘉永三年洪水で押し流された。再び川除したいが、心遣いなどないも行なう	1491
1382	17	普請明覚書	安政三年 辰 十一月	一冊		寛延三年の火災再建して以來、安政三年三月十一日の火災により本家隠居宅など焼失した。其の様子と出水冒無い、及び再建の詳細がまよめられている。どのような材料を使い、どのくらいの費用が掛ったか、当時の様子がよく分る重要な文書とある	1628
1383	18	湯淺孫市岡様御無心金割付帳	安政三年 辰 十二月	一冊	鹿塩村名主所	湯淺彦兵衛門・市岡田太郎の希望により贈連する二十九両三分を村民に割り付けて集めた	789
1384	19	旧記書	安政四年 巳 二月	一冊	大嶋村之進高保	神武天皇の時代以來、江戸時代までの年貢(税)の納め方の歴史を述べ、安政四年までの鹿塩村の年貢の納め方について詳しく述べられている	1410
1385	20	(寛延家御衆中江廻込)	安政四年 巳 四月二十二日	一通	萩原一之進・他伊那地方各庄酒豪	京都松尾御社へ額を奉納するにつき、大きき三ザインなど出来つつあることの知らせ	1492
1386	21	川除金割付并實錢掛付帳	安政四年 巳 四月	一冊	地持連中	川除にかかった費用分担と、支払い實錢の覚え	1493
1387	22	鹿塩村名主普書	安政四年 巳 四月	一冊		寛延元年南組・北組にわかれて、それぞれの名主表役を置くいきさつ、明和二年以來文久二年までの歴代名主、名主連組頭名が記されている	1411
1388	23	櫛木割株代取極一札之事	安政四年 巳 十一月	一通	大草村桑原本人定助・同村請人倉蔵・比古彦彦兵衛	持山・中山の内から櫛木を割り出した。連中その他について約束事の一札	490
1389	24	差出申一札之事	安政四年 巳 十一月	一通	大河原村助次郎・彦兵衛	大島桑持・中山中で灰燼きの願いと取り決め	1629
1390	25	村送り一札之事	安政五年 午 一月	一通	大草村庄屋宗彦兵衛・鹿塩村庄屋桑中	当村堤の助被官倉蔵・蔵持・嘉吉三十二歳を鹿塩村彦兵衛・倉又八方の養子となるに当り、宗持送る	491

1391	26	土俵方書撥費帳	安政五年 午 一月	一冊	鹿塩村大國屋比古兵衛	天保八年から万延五年まで、主に金の貸し方一覽	1412
1392	27	差出し申一札之事	安政五年 午 二月	一通	たれ・ 彦兵衛	豊崎村ら山の中山で竹を切り、馬二疋を追い込んだこととは不埒であった。今後このようなことはしない	245
1393	28	字原蔵通再規定帳	安政五年 午 二月	一冊	彦兵衛始め三十六人	規定一札之事、宝暦年中遺審請の取り決め規定を再び定めること	1296
1394	29	字原蔵通再規定帳 (規定一札之事)	安政五年 午 二月	一冊	比古兵衛他人数三十六人	遺審請と利用についての規定を守るための一札	1297
1395	30	(一) ～ (四) (向田川陰帳) (一) 向田川陰修覧帳 安政五年 午 (二) 向田川陰諸借取入用口記 万延五年 文久元年 酉 二月 大島控 (三) 向田河陰諸勘定此勘取調帳 明治七年五月 世話人 (四) 向田河陰蔵通諸人用取調割付帳 明治十年 丑 五月 大島氏控	安政五年 午 三月 万延五年 文久元年 酉 二月 明治七年五月 明治十年 丑 五月	四冊	大島他	向田川治水工事に要した費用とその分損、支払いなど	1494
1396	31	(一) 隠居祖宗和尚請事日記帳 (二) 十三世祖宗和尚内葬諸人用帳	安政五年 午 四月三日 五日	一冊	彦兵衛控え	景福院隠居祖宗和尚病歿、安政五年四月五日死去。葬式までの日記および内葬諸人用覧え	1298
1397	32	御八儀御他界御觸書	安政五年 午 八月十七日	一冊	鹿塩村休養名主比古兵衛	八月十四日付けで、甲八日公方様(家定)御他界の觸書。鳴り物音曲その他停止のこと、火元注意など	790
1398	33	当節悪病流行之由三而間部土佐守様より江戸市中江御達し之旨	安政五年 午 八月	一冊		コレラの流行により、その予防法と治療法のお触れ写し。芳膏散、芥子泥などの使用	1299
1399	34	本宅材木出諸品日記調帳	安政五年 午 九月十二日	一冊	大嶋比古兵衛保文	九月十二日三時から十月四日まで材木を出す作業に従事した人数と酒その他娯楽物品の覚え	1413
1400	35	(一) 御国役金割付小前帳 (二) 御口米金割付小前帳	安政五年 午 十二月	二冊	鹿塩村名主圭之輔 伴四郎	国役金二両、口米代金四両二分の割り付け	1300
1401	36	見取切替山畑名掌帳 (仮役組之分)	安政六年 未 正月	一冊	名主彦兵衛	見取山畑の個人別名掌明細。焼畑で切り開いた土地、延享四年、安永三年の焼畑で、煎草が圧倒的に多い	791
1402	37	見取切替山畑名掌帳 (古役組之分)	安政六年 未 正月	一冊	名主彦兵衛	主に延享四年焼畑、見取切替畑の持ち主、広さ、場所など書上	792
1403	38	見舞人足家不實日記録建前祝義請納	安政六年 未 一月	一冊	大嶋彦兵衛保文	安政三年辰に家屋焼失、その見舞金、材料など見舞い品の覚え	1630
1404	万延 1	作玖以書付奉申上候	万延五年 申 五月	一通	鹿塩村名主孝之助 組頭仮役物左衛門・飯田御役所	目録より簡以上、末口一尺五寸以上の櫓材の御用だが、当村にはそのような大材木はない	492
1405	2	本新田畑山林見取増差所小前帳	万延五年 申 五月	一冊	会所	辰新田、本畑、安永新田、本田豊田別書き上げ	1301
1406	3	堀山十三世祖宗和尚内葬諸人用取調并割金帳	万延五年 申 七月	一冊	大嶋彦兵衛	景福院十三世祖宗和尚葬儀、諸人用費調べと割り当て分損	1302
1407	4	当市時穀小前割付御預帳	年 (安政七年 万延元 申 十月	一冊	信州伊那郡鹿塩村・飯田御役所	貯蔵としての大麦、天明八年、寛政元年、同二年の三年分、初一斗三升五合余、万延五年分出穀分六斗七升五合余	1303

1408	5	新嘉敷合帳	万延5年 申 十二月二十一日	一冊	治郎八・伴左衛門	新嘉敷として木郷十二区代金 西二分余、その他利息など。諸規定書の保管場所の覚えが記されている	1304
1409	6	議定書一札之事	万延5年 申 十二月	一通	伴四郎他十四人の者	十四人の者明和元年以来役勤めをしてきたが、文化年間以後入り廻み、各主役役など決めてやつてきた。近年治めたいが、役人二統治まり方第一にやつていく	493
1410	文久 1	本新田畑見取山林帳	(万延5至文久元年 西一月)	一冊	地主彦兵衛	大島嘉兵衛分の本新田畑 見取畑、山林の高と年貢口入先に以後明治までの変更が付紙で記されている	1631
1411	2	(一)年功以迄参奉申上候御事 (二)規定一札之事 (三)年功以口上書ヲ返参奉願上候御事 (四)書付下書	(万延5至文久元年 西一月 三月)	四通	鹿塩村頭分惣代名主孝之助他・飯田御役所	村役人役など鹿塩村南北両組間題 (一)殿様巡村の際の羽織袴着用の上お目見えについて、 (二)殿様がお目見えの際、肩衣着用に付いて出入りの件、 (三)南北両組分けについて、役人選びに付いて、(四)二つ三つの包み紙として利用されていた一枚、貯蔵 役役選びについて	494
1412	3	年功以迄参奉願上候御事	(万延5至文久元年 西一月)	一通	鹿塩村区役人惣代源蔵・折兵衛・飯田御役所	高戸別諸帳面、年貢、貯蔵など、各組ごとに成すことを願う。文化年間の組み分けは役人たちの押頼、我儘によること	495
1413	4	規定一札之事	(万延5至文久元年 西三月)	一通	彦兵衛	殿様お目見の際、肩衣着用に、諸人用金など、役役が心得るべき約定の書きよろし	793
1414	5	(一)差上方申一札之事 (二)覚	文久5年 西 三月	二通一 包	鹿塩村名主文左衛門他・市岡佐蔵	(一)貯蔵預り人・預り高、計上金三十七石四斗六升八合二勺七杓、(二)右貯蔵の他、初二斗三升余	795
1415	6	貯蔵穀取調帳	(万延5年)文久元 年 西 三月	一冊	鹿塩村名主所	天保弘化・嘉永、安政年間の貯蔵文書穀数書き上げ、四斗二合余から四斗七合余まで	1305
1416	7	年功御願申上候御事	文久5年 西 七月十五日	一通	鹿塩村年寄彦兵衛・同 嘉兵衛	小前の者共が我儘増長し、頭分を相手取り出訴に及んだ。去る冬から飯田町宿に出張して吟味を蒙りだが、はかばかしく進まない。主に袴着用の件をはじめいくつかの吟味を促進してほしい	246
1417	8	(以書付奉申上候)	文久5年 西 七月	一通(部 分)	鹿塩村年寄彦兵衛・同 嘉兵衛・久々里役所	前 本文無し。おそらく村治に関する嘆願書、又は訴訟事についての申告書	1632
1418	9	当宿貯蔵小前割付御項帳	(万延5至文久元 年 西 十月)	一冊	信州伊那郡鹿塩村・飯田御役所	貯蔵としての大妻と初二斗三升五合余割り付け	1306
1419	10	年号	(万延5至文久元年 西)	一枚		明和元年以来、各年号の元年から当(万延5年)文久元年西までの年数。安永二年人馬窓敷帳、村総図の所在、嘉永年中殿様巡村の際、彦兵衛村は袴着用、仕舞組頭は羽織袴でお目見えしたことの覚書	794
1420	11	覚書	文久5年 戊 一月	一通	大嶋尚之進	延享三年と宝暦三年に江戸御奉行上村の際にこれまで送迎したかについて、および大河原村から出材にあたり新郡村へ出した一札之事について覚書	796

1421	12	為御替申内済議定証文之事	文久二年 戊 二月	一通		四徳渡より瀬京掛地までの通行橋は、毎年十月から三月は架けて通行自由など、大卒、部卒、峠村地内の通行の議定	496
1422	13	(一) 遺言状之事 (二) 遺言状書添之事	文久二年 戊 七月二十一日	二通	(前嶋八郎九郎正嗣 前嶋頼負	前嶋八郎九郎正嗣と前嶋頼負の遺言状とその書き添え。葬儀は神葬とすること。(同一文飯田吉善庵に所蔵されている4359文久14)	1495
1423	14	本堂裏側屋根葺外入用割合帳	文久二年 戊 十一月	一冊	旦那彦兵衛控え	塩草院本堂屋根葺その他の入用割控え	1307
1424	15	御用内用日記帳	文久三年 亥 一月	一冊	鹿塩村大嶋比古(彦) 兵衛光保	七月九日より八月二十四日付けまで、主に久々里・飯田出張の記。次に五月十四日付けから金銭覚えがはさまり、八月廿五日付けから九月廿日付けまで再び久々里出張時の記録	1308
1425	16	癸亥三月九日英国軍艦より差出し候書簡号	文久三年 亥 三月	一通二 枚		文久二年八月生妻事件の事件処理について、英国から犯人が身捕りと英人云云いで首級を刻ねる事、殺害された英人妻女に償金五十万ポンドを要求、さもなくば戦争という内容	797
1426	文久 17	乍玖以上書奉申上候	文久三年 亥 八月	一通	鹿塩村彦兵衛他・ 久々里御役所	仮役所様着用の上お目見えしたいと申し出たことについて、大河原村各主が鹿塩村越前主を仰せ付けられたことについて、時勢について、峠村に地が私有地かの争いについて、殿様へ用金について、など口上	1496
1427	18	訴訟	文久三年 亥 八月	一通	鹿塩主役人組 二十一人 惣代弥左衛門・飯田荒町御役所	(前文決定)村役人による訴訟諸事不正実の訴状写し	1633
1428	19	御用内用記	文久三年 亥 十一月	一冊	大嶋彦兵衛	七月二十五日付けから十一月十二日までの御用内用日記。主に仮役達が頭分達を相手取り訴訟、年貢・納初納など	1414
1429	20	為御替規定	文久三年 亥 十二月	一通	北組名主仙六他・ 南組連中	鹿塩村南北両組に飯田役所へ久々里から出張して来た役所官兵衛から、村治諸事項について申し渡しの請状、申し合わせ状	497
1430	元治 1	乍玖這細書取ヲ以歟願奉申上候御事	文久四年(元治)元 年 子 二月	一通三 枚	鹿塩市場番者中・ 飯田御役所	入浴井仕言の際に若者により金銭トラブルが起った。人殺しなどと呼ばれ言いぐらとされて若者二統迷惑している	247
1431	2	所々十分亭大卒意	元治五年 子 九月	一冊	朝泉亭	年貢物成の覚え、大豆、小豆、栗、大豆の納入	1415
1432	3	見舞諸納帳	元治五年 子 十月二十八日	一冊	保文政多大嶋光保	一隣雄角居士の百回忌(九十九年自)他五名の回忌の法事。参列者、見舞い食品などの嶋浪主通行で混乱。飯田での買い物に困ったという記録がある	1416
1433	慶應 1	願書御請書(乍玖以上書付奉願上候)	慶應元年 寅 五月	一冊	大河原村善五郎、鹿塩村彦兵衛他・御掛御役人中	御用金上納、および善五郎と彦兵衛、一代塩草御免になる。他に小野村他の御用金上納、いずれも本人と倅が名等帯刀などが許されている	798

1434	2	寛	慶應三年 寅 五月	一冊	赤沢町名主彦左衛門他	新開場、見取場、御林その他自分のため廻料した出役 たちの休泊その他入用金の分担割合の取り決め寛え	1417
1435	3	妙蓮閣書寛	慶應三年 卯 一月	一冊	一瓢写す	諸病、虫歯、血止、痢病などの妙蓮閣書き	1634
1436	4	(一、二) 乍恐以書付奉願上候	慶應三年 卯 三月十七日	一通	鹿塩村坐三郎・藤左衛 門・飯田御役所	蘭四本、目通り四尺廻りから七尺、長さ三間から五間 を差り渡す付け。一通は控え、同文	1497
1437	5	(一) 差上申御請證文之事 (二) 寛	慶應三年 卯 三月 二月	一通	大河原村善五郎・鹿塩 村彦兵衛・飯田御役所	(一) 長防征伐軍事實の一部として百両を上納する。 (二) 調達金を小野、小川、大倉原、鹿塩村の面々で 納入する寛え	1498
1438	6	(書付)	(慶應三年) 卯 三月	一通	飯田御役所・ 鹿塩村百姓彦兵衛	長防征伐軍費に百両上納したので褒美の丁銀十五枚を 与える	248
1439	7	書、申候一札之事	慶應三年 卯 三月	一通	大坂屋源七・岐阜屋 太郎・鹿塩村酒屋	文久三年に買入れた襦袢の代金十七両は岐阜屋が保 証人として四月十日までに支払う	1635
1440	8	寛	(慶應三年) 四月十七日	一通	大河原村役人・ 彦兵衛	公儀軍費として供出金二十両を預かる	1636
1441	慶應 9	差出、申一札之事	慶應三年 卯 十月	一通	馬道連中惣代 新兵衛 他、地主彦兵衛	彦兵衛地所中で田畑養い馬道利用したが、連中は勘弁 してもらっていたが、不心得な金貸り取りなど行な つて止めれを立てさせるに至つたことへの詫言状	1499
1442	10	米錢書上帳	慶應三年 卯 十二月	一冊	鹿塩村蘭組名主佐喜太 郎他・飯田御役所	村入用費書上、蘭組分、割付徴収帳	799

明治大正

号 番 理 整	号 別 番 年	題 目	年 月 日	数 量	筆 者 差 出 人・ 受 取 り 人	主 内 容	備 考 番 号
1443	明 治 1	山崩流矢見舞書島帳	(慶應四年) 明治元年 辰 五月	一冊	大島光保	明治元年閏四月二十六日から大雨降り続き、五月十三 日、十九日の二度の大洪水により田畑残らず流失、あ ちこちで山崩れ発生、屋敷も流れたことなど、見 舞い人などとの記録	1637
1444	2	領物御書替為替證文之事	明治元年 辰 十月廿日	一通	鹿塩郡比古兵衛・吉田 郡広田屋喜兵衛間	古株小十一石通りの酒造鑑札で品目借用の證文	249
1445	3	奉差上御請書之事	明治元年 辰 十二月	一通	南山村酒造人作太夫 他・伊那儀御役所	酒造改め、鑑札発行について、酒造石数百石の酒造人 七名書上	800
1446	4	乍恐以書付奉願上候	明治元年 辰 十二月	一通	鹿塩村年寄彦兵衛・町 宿次郎太・飯田御役所	文左衛門と彦兵衛が名主役を仰せ付けられ太が、彦兵 衛は免除を願出た	1638

1447	5	乍恐以書付奉願上候	明治三年 巳 一月十三日	一通	願入善人・ 主人	善人が遠く小原村庄を衛門方に養子になる	1639
1448	6	村用諸事入用覚帳	明治三年 巳 一月	一冊	世話人太島	村用諸事で要した諸品諸経費の覚え	1500
1449	7	金札	明治三年 巳 七月發行	一枚		信州飯田領限りの金采札	1640
1450	8	乍恐以書付奉歎願候	明治三年 巳 十二月	一冊	鹿塩村彦兵衛・善左衛 門・伊那眞御役所	明治三年辰年に稀なる大洪水、山崩れ、川が干で村は 困窮している。川除開作のため夫々補い方を歎願する	1641
1451	9	(一、二) 乍恐以書付奉嘆願候	明治三年 巳 十二月	一通	鹿塩村彦兵衛・ 市田扇御役所	鹿塩村は深山で諸作不熟の場所、特に去年と去年は遭 作、去年は稀なほどひどい洪水で村は困窮している。 夫々堪堪したい	1418
1452	10	御救米代金割渡帳	明治三年 午 二月吉日	一冊	太兵衛 喜左衛門・ 御主人	朝廷より窮民に御救い米が支給され、割渡された	801
1453	11	乍恐以書付奉願上候	明治三年 午 四月廿八日	一通	酒造人惣代・伊那眞飯 嶋御役所	去年酒造資金千五百両を借り入れた。五百両を取り集 め返すが残り千両は来る六月まで堪堪延期を願う	1642
1454	明治 12	明治三年支那米勘定書	明治三年 午 五月十八日	一冊	鹿塩村酒造人彦	酒造の原料支那米の取引覚え	1643
1455	13	譲り渡申田畑證文之事	明治四年 未 二月	一通	本人彦平他・ 儀平他	小島彦兵衛下田、中畑、下畑、持ち林の売り渡し證 文	250
1456	14	差出申勘方小作請一札之事	明治四年 未 三月	一通	本人藤作他・ 門三郎	七画二分で小作勤める、年頭はじめ、その他の勤めは 古来のように、また年に三日は御用次第勤める	1644
1457	15	差出し申一札之事	明治四年 未 三月	一通	政吉他・ 紋三郎 和吉	主家政易により今度百姓なみに生活してゆく。組内に いれてほしい	1645
1458	16	乍恐以書付御居奉申上候	明治四年 未 七月十日	一通	鹿塩村北組組頭伴重 郎・南組名主幸夫・ 伊那眞御役所	七月二十七日に例年鹿塩村市場耕地の産土神祭礼があ り、その際に獅子舞神楽を行いたいという届けに致し 芝居に紛らわしい事はしてはならないと返事	802
1459	17	持高取調書抜大保得	明治四年 未 十一月	一冊	大嶋一瓢	明治四年当時、大島家本新田畑、扇崎、持ち山、焼畑 株山などの総書き上げ	1501
1460	18	(一) 炭焼願證文一札之事 (二) 炭焼き證文一札之事	明治四年 未 十 二月、明治六年 西 十 三月	一通	尾梨利三郎他・ 大島一彦	作開の移ぎに大島家持ち山内で炭焼きを行ないたい	1502
1461	19	酒價記	明治五年 申 一月	一冊	鹿塩村大島酒舎	明治五、六、七、八年の酒價段と旧金と新金の両替相 場の覚え	1646
1462	20	廻状	明治五年 申 四月十六日	一通	筑摩眞飯田出張所・ 郡奈村片桐蔵他	筑摩村はじめ筑摩眞廻状、清酒醸造の運達	1647
1463	21	手形一札之事	明治五年 申 八月	一通	売主平三郎・ 一彦	京察杉樺木二十五本を三両で売り渡し、金手を受取つ た	1648
1464	22	差出し申一札之事	明治五年 申 八月	一通	弥兵衛他・ 地主一彦	馬道として大島家土地内を通行したい	1649

1465	23	御触書之号	明治五年 申 九月 十月	一冊	大島一彦	明治五年壬申九月十四日、九月十八日太政官布告「八月晦日大蔵敷井上蔵、九月二十四日太政官布告など号、地券に必要につきすべての田畑、林、荒所なら調査寛え」	803
1466	24	地券二附畝割地荒所高生高分配高書 按帳	明治五年 申 十月	一冊	大嶋一彦	当年から八年間伐り出し、西内山にある草木を残らず金五両で売り渡す	1419
1467	25	西内山草木荒渡し證書之事	明治五年 申 十一月二十日	一通	山本亮主惣代大嶋一彦・西尾三郎平・近藤謙一郎・宮山口平	下島、落合、小島、向田、大栗の田畑面積、高、持ち主の書き上げ	498
1468	26	荒畝参付堀川中記	明治五年 申			第五十七小校不学、男百七十五人、女百七十八人、明治五年十二月二十七日開校、三十七両一分余を費やした	1503
1469	27	調書	明治六年 西 二月二十七日	一通	筑摩、大河南世話方・筑摩眞、永山盛輝	戸長、副戸長のこと、これまで各組頭、百姓代の名称だったが、今後は人員増減する。戸長、副戸長には従前村役人が勤める事	1650
1470	28	御状を通写	明治六年 西 二月十八日	一冊	筑摩眞、飯田出張所・知久平村他	筑摩県の十八、二十四大区までの区分けと各区の区長、通達、大河南村（不徳村）は区長、副区長太郎	804
1471	明治 29	(御状)	(明治六年) 四月十日	一通	筑摩眞、飯田出張所	酒造改め巡回の際の醸造高（酒造人、大嶋一彦）の報告	1504
1472	30	清酒醸造高取調書	明治六年 西 四月十三日	一冊	大嶋一彦・酒井好正	前々から報告し運上税を上納していた水車二カ所（稼人、大嶋一彦）の報告	805
1473	31	(水車書上) 誌	明治六年 西 四月	一通	戸長、大島桂五郎・筑摩眞、永山盛輝	鹿塩の宇中山の立木を伐採した小得運いの詫言状	251
1474	32	差出し申一札之事	明治六年 西 四月	一通	下松松弥・大嶋彦兵衛	地券発行に関わり土地調査を再度行なうよう願う	252
1475	33	実地調査願	明治六年 西 十月	一通	二十四大区二小区鹿塩村惣代西尾三郎平他・筑摩眞、横倉永山盛輝	大島桑林宇中山から樹木割り出し願う	1651
1476	34	差出し申、櫛木山證文之事	明治六年 西 十二月十一日	一通	亦重郎・大嶋一彦	櫛木を伐採することを知り承知してもらったが、ミネバはじと三種以外は伐らない。何事も迷惑をかけない	1652
1477	35	差出し申、櫛木山願書之事	明治六年 西 十二月	一通	林村小池治郎作他・大嶋一彦	農閑期に持山で炭を焼く。運上の約束、證文	253
1478	36	(一)炭焼證書人置手形之事 (二)炭焼證書人置申一札之事	(一)明治六年西十二月二日 (二)明治八年亥二月	一通	横平孫四郎他・大島彦兵衛・大嶋一彦	数枚である巨豊右衛門の販売寛え	806
1479	37	巨豊右衛門売下ヶ簿	明治七年 九月	一冊	塩井学校	大島桑地所を借用し水車小屋および井架道を作りたい	1653
1480	38	願書之事	明治七年 戌 十二月十四日	一通	夢野惣三郎・大嶋一彦		1654

1481	39	(一) 去戌租税二納金割付簿 (二) 戌三納割賦簿 (三) 戌年租税割付帳	明治八年 亥 一 七月十六日 二月 十 七日 四月	三冊(合 冊と一 冊)	塩川耕地	明治十年分の税金 二納、三納、初納の割付帳	1505
1482	40	(一) 改正實地奉附調帳 (二) 耕地地場取調帳	明治八年 亥 三月十八日	二冊合 冊	塩川耕地	田畑区別等級と地価、生産物量の書き上げ	1506
1483	41	地差等級總計簿	明治八年 亥 三月	一冊	大鹿村の内地川耕地	紀元二千五百三十五年、各地差の等級、高低別、地価の書き上げ	1309
1484	42	以書付ヲ奉願上候	明治八年 四月	一通	大鹿村坂屋嘉之吉・ 塩井学校	学校の欠席周、長女、坂屋ます を当四月から十月まで農作のため学校を欠席させる	1420
1485	43	亥三納塩川分割付簿	明治八年 亥 八月十六日	一冊	立会五戸	亥年分初納三納割り付け取立帳、二納金計十四円八十七銭、厘、初納金計九円八十三銭七厘五毛	1507
1486	44	作書一札之事	明治八年 亥 八月三十一日	一通	北澤藤藏・ 大嶋二彦	借金の質地について無沙汰したことの詫状	254
1487	45	記	明治八年 亥 八月	一通	大嶋二彦・ 筑摩貞健、永山盛輝	大島家所持の酒樽十本の大きさの記録簿	807
1488	46	差出申一札之事	明治八年 亥 十二月	一通	柄山耕地下澤重五郎 他・大嶋二彦	中山土屋敷で炭焼きを行うにあたり、伐り越しなどしないこと、損失賠償をけないことの一札	255
1489	明治 47	田畑実地大嶋二彦取調帳	明治八年 亥 初冬	一冊	七十七翁大嶋二瓢	鹿塩村、宇大嶋の田畑、屋敷、藪、荒地などの位置、広さ、地価の書上	1421
1490	48	県税徴収更正科目	明治十年 丑 一月	一冊		御意業、料理営業など、四十種目ほどの生業に関する帳簿の書き上げ	1508
1491	49	御達二付手続書ヲ以奉申上候	明治十年 五月二十五日	一通	松下嘉藤太・長野貞権 令橋電通	明治五年地租改正以後も、土地境界について不明な所を正す件	1655
1492	50	(一) 川除入用日記帳 (二) 向田下河除入費取調簿	明治十一年 寅 三月十四日、八月 吉日	一冊		川除で要した目当、材料費など日記帳	1656
1493	51	御願書	明治十三年 一月二十六日	一通	大嶋二彦・ 下伊那郡長船越重郎	学校の生徒が俄か雪雨の時の登下校の難儀を救うため、下駄二十足購入分の二円二十五銭を寄附する	1509
1494	52	学校利子金毎月取集簿	明治十三年 辰 一月	一冊	計算掛大嶋氏控え	学資金一ヶ月利子総計金一円五銭六厘の分相徴収帳	1310
1495	53	記	明治十三年 七月二十七七日	二十三 枚		当十三年商業年行事選舉季の選挙済み証、選挙人名印が記されている	1657
1496	54	(一) 薩蘭社約定書 (二) 柏木権次大田記 (三) 柏木権次諸人費并高拂付帳	明治十四年 三月九日、四月 十二日二十四日	三冊	大嶋二彦他	薩蘭社を名乗り、大嶋氏持ち地所中山に柏の木を植栽する約定、八条から成り、カジロを三千株、諸雜費のこと、伐採利益の分配のことなど	1510
1497	55	(一) 松島大賣渡約定書	明治十四年 巳 八月十七日	一冊	大嶋二彦他・ 長口仙三郎他	宇木の田、中木の田にあるマツ合計六百本と栗木悉皆を売り渡す約定	1511
1498	56	立木品買請證書	明治十四年 八月十七日	一冊	平栗傳一 郎他・ 大嶋二彦	宇木の田、新林分地にあるマツ合計六百本とクリの木悉皆を売却する	1512

1499	57	(木地師入山)	明治十四年から明治十七年	十通	(木地師)・大島氏	木地師入山、住居、作付け、借地、樹木採取などの證書申請書	1513
1500	58	里治郎相續三付相定メ	明治十五年 午一月	一通	親伊東彦治郎他・預り人太島彦兵衛	里治郎の相續人は長女の 一 称 とする	808
1501	59	隠字普請不積り	明治十六年 未 旧一月二十三日	一冊	塩瀬左次郎他・大嶋二彦	隠字普請に必要な材不見積もり	1658
1502	60	信濃國伊奈記	明治十六年 未 一月	一冊	一瓢	信濃の国伊那地方の地理、産物などの記。八十余歳の一瓢氏による写し、最後のページに短歌と俳句がそれぞれ一首目記されている	1422
1503	61	知見字控帳	明治十六年 未 一月	一冊	鹿塩村大嶋一瓢高保	大嶋一彦名義各地土地の地券写し	1311
1504	62	契約書	明治十九年 七月	一通三枚	借主平田要治郎、貸主大嶋二彦	生産馬競売のため大嶋二彦所有の地を貸す件の契約書、地所図面付	809
1505	63	産分一納所帳	明治十九年 戊 十一月	一冊	大島並保	諸生産物生産量に応じた物納の覚え	1514
1506	64	薪枯木約定書	明治廿年 亥 旧十二月二十五日	一通	鹿塩村大嶋二彦・大河原村瀬谷新三郎	中山の内から薪枯れ木の伐出約定書	1659
1507	明治 65	差出申渡書	明治廿一年 五月十四日	一通	入作人生田村松沢初太郎・鹿塩村大嶋二彦	大島桑持地に入作したい	1660
1508	66	馬市場諸用目家意	明治廿一年 子 八月七日	一冊	鹿塩村大嶋	馬市場が開かれた際の、必要物品、費用、馬数などの覚え	1423
1509	67	(一)原野火入許可願 (二)山林火入御許可願 (三)山林原野火入願	(一)明治廿三年 三月十九日(二)明治廿三年四月十三日(三)明治廿七年五月廿日	二冊	大島二彦・長野県知事または飯田警察署長	大島桑持ら山に火入れの許可願。現地見取り図が付属している	1515
1510	68	塩原院拾五世和尚新命和尚普山記録	明治廿四年 卯 十一月	一冊		塩原院住職第十五世新任の諸行事諸人用費記録 十一月四日付けから	1312
1511	69	古市場万揚市場	明治廿六年 四月十六日	一通	鹿塩区願人菅沼信吉他・大鹿村長松下直雄	古市場万揚市場にある田畑は明治十五年以来の洪水で今や鹿塩川奔流中にある。加えて四戸の今家も危つい。個々の川係でいきまざが起つた。堤防を築くことで解決を図ること	1516
1512	70	下伊那郡大鹿村鹿塩尋常小学校落成	(明治二十六年十一月七日)	一冊		鹿塩尋常小学校巧者の新築落成式の祝辞や、欄外に新築するまでのいきまづや落成式次第などが記されている	1517
1513	71	検見取穀数書按帳	明治廿七年 午 十一月	一冊		各個の産物種類名とこれ高の書き上げ	1518
1514	72	(記)	(明治廿八年) 一月十四日	一通	西尾弁次郎 小島太八郎	隣里 一月十四日夜、惣集會、鹿塩尋常学校の件で役員三名改選の件で役員三名改選の投票結果について	1661

1515	73	検見取察致記載簿	明治二十九年陰曆九月二十三日	一冊	大嶋 控え	大豆、稗、小豆、栗、蕎麦、冷え、タバコなどの生産 量記録	1313
1516	大正 1	祝詞	大正三年十二月二十日	一通	前組頭総代小堀庄五郎	消防組二十周年記念式典における祝詞	810
1517	2	書簡	大正九年九月十四日	一通	長野県知事赤星興六・大島博	国勢調査への協力依頼と賞励	256

年号不明

整理番号	年号別番号	題 目	年 月 日	数 量	筆者 差出人・ 受取り人	主 内 容	備 考 仮 番 号
1518	不明 1	(御検地絵図控) (一) 鹿塩村絵図控 (二) 鹿塩村真山・西山 (三) 鹿塩村土地利用図 (四) 鹿塩村十七枚の絵図 (五) 明治十七年二月八日鹿塩土地 境図		絵図 枚計二十	鹿塩村	(一) 鹿塩村全体絵図 集落名など 色付き 45cm× 63cm (二) 鹿塩村用材の山々、谷々地名・色付き 53cm ×83cm (三) 御糠木山川道田地畑地村居の別 色付き 34cm×50cm (四) ①川合 ②大嶺 ③5年7月調査時では大落 ④塩川 ⑤市場 ⑥北中集 ⑦南中集 ⑧親原 ⑨沢 井 ⑩人屋 ⑪大栗 ⑫立瀬 ⑬柳嶋 ⑭小塩大塩 ⑮高安 ⑯儀内路 ⑰安高 色付き 大ききはいろいろ (五) 共有山と私有地境目など 26cm×65cm	対応不 明の袋 二枚 257
1519	2	鹿塩村絵図		絵図 一枚		彩色鹿塩村絵図 80cm×117cm	1424
1520	3	絵図		絵図 一枚		鹿塩村代薪田畑の番号・字名 反別を記して場所を絵 図にしたもの、明治年間か?	1425
1521	4	鹿塩村私有林絵図		絵図五 枚文書		鹿塩村私有林私有林の二覧図 境目地図	1662
1522	5	(一) 名主彦兵衛方三有之候御免定之 分 (二) 名主健四郎より出候分御免定		一冊		延享七年から明和八年まで九十二年の内、免定 五十九通 享し六十年分が彦兵衛のもとにあるとして 存在する年号が書き出されている	1426
1523	6	(一) 己丑年免定 (二) 当卯年免定 (三) 寅年免定 (四) 丑年免定 (五) 丑年免定		四通		丑年(一通) 寅および卯年の免定額控え	258
1524	7	覚	丑 五月	一通	鹿塩村役人中・ 飯田御役所	飯田役所へ鹿塩の諸問題伺い。宗門下知の延期、御 用とありのこと	1519
1525	8	(七月十一日御勘定所にて松前渡彦)	丑 七月	一冊	梶野土佐守・他	寛政四十年の申し渡しのように御山をよく管理し御林 帳を改め整い置くこと、木を二本伐つたら菅草二本を 植えて付けること、養生を大事にするこの村々くの仰 せ渡し	1427

1526	不明 9	差上申御請書之事	丑 十月	一通	十カ村名主組頭惣百姓 代・飯田御役所	これまで六尺餘米を上納してこなかったが、今後は納めるようにとの仰せにより、当丑年から納める	510
1527	10	(一)鹿塩山より出申雑木分二割寛 (二)御公儀より被下倭雑木分高之寛	(一)丑 十一月二日 (二)年号月付不明	一通	彦兵衛他	鹿塩山から伐り出した雑木一万八千九百一十二本(子年分)と九千四百八十五本(丑年分)を、惣百姓・塩竈院・佐次兵衛・彦兵衛で分けた。(金書の先頭に寛文十年戊七月二十八日とあるが、子、丑の九年後に分ける文書となるため、年号を詳とした。後日子の年号の材木払い下げ、分けの寛文年間文書との関係で年号を確認できなかう)	511
1528	11	寛	丑 十二月	三通	京都・宮内省・竹内傳左衛門・塩竈院	塩竈院関係、人員賃錢入用、表資代受取書(大般若につき京都往復の際の入用か?文政十三年?)	1315
1529	12	寛	寅 二月二日	一通	鹿塩村名主左衛門・飯田御役所	正八幡社人の善三郎が吉田様免託副官のため上京する	259
1530	13	(一)〃(二)寛 (四)書簡	(一)寅 四月五日 (二)辰 十二月十一日 (三)未 三月十日 (四)十月十三日	四通	各人 市岡才助 市岡源六・鹿塩村大嶋彦兵衛	(一)寛所産還戻分のため来村した三人の三浦三屋の米 (二)年貢・俵米の高掛 (三)卯年江注諸用金山五カ村割付の内、四カ村分 (四)材木代金支払に残額の見え、伴四郎より	260
1531	14	差上候書付	寅 六月	一通	何村名主組頭惣百姓 代・飯田御役所	同一文一通。村々の見取田畑の吟味があつたが、新たに寛入れるような傍所はないことの報告原稿	507
1532	15	申渡	寅 六月	一冊		博桑または紛らわしき事の勝負事の禁止のお触れ	818
1533	16	飛州郷留三控老ノ所ニ而諸荷物十分一運上入札之儀ニ付信濃國御料私領村々江懸書	寅 八月	一冊	飛州御代官幸田善太夫・信濃國御領私領村々名主他	飛州へ出入りの品々はこれまで運上を取り立てたが、今後は請負で入れにする。交易物名一覽	819
1534	17	寛	寅 八月	一通	十一カ村名主他・吉田八郎 藤井儀左衛門	今泉陸右衛門と桑原五兵衛が久々里へ通糞、御用など滞らぬようにということを承知した	261
1535	18	(一)寛 (二)送り状之事 (三)寛 (四)信請取寛	寅 十月十二日 十月二十八日	四通	八手村名主赤次郎他・鹿塩・大河原村役人衆中	米送付受け取り状 見え ほか	509
1536	19	(運造) 口入	年号不明寅十月二十日 卯十二月	一通		運造について、年号不明 通	812
1537	20	申渡寛	寅 十一月五日	一通	鹿塩村	寅十一月五日に藤井儀左衛門・市岡才右衛門に十六人廻村の節、渡された口上書、百姓相対するべき事	262
1538	21	(角渡)	寅 十一月二十八日	一冊	飯田御役所・十カ村	金銀貸借の利息は二十五両につき一分とする。高利は禁止、両替の定め	820
1539	22	差上候書付	寅 十二月	一通	六カ村名主組頭惣百姓 代	当年素巡見様が通つたとき、願書や訴状を出すような事は無かつた	515

1540	不明 23	借用申金子之事	如 二月七日	一通	大河原山御用不支配人 右馬之丞・鹿塩村大嶋 屋彦兵衛	十三両余の金子借用書	499
1541	24	御時穀封印	如 五月四日	五枚	時穀会所	時穀袋に付ける封印	1663
1542	25	申渡	辰 四月	一通	飯田御役所・ 鹿塩村役人	御樽木山で發伐止まずには居ぎ、小屋がけなごて番 人を付けて厳しく取り締まる事	505
1543	26	寛	辰 十一月六日	一通	飯田御役所・鹿塩村彦 兵衛・五郎左衛門	当辰左年貢樽木・御樽木代樽木の取立て定納諸書。取 米五十六石四斗六升七合・樽木一萬三千五百七十八挺	263
1544	27	(金替證文)	辰 十一月二十四日	一通 (前分)	鹿塩村役人惣代文左衛 門・飯田御役所	何らかの出入りを主河原村八郎九郎が取扱人物代とな り飯田町宿孫吉と赤四郎扱いにおいて内済としたとき の取替文證文。前書き不明	1428
1545	28	(一)北組辰年御樽木差引目録 (二)南組辰年御樽木差引目録 (三)辰年御樽木差引目録 (四)辰年皆済目録	辰	四通		辰年年度計算の算下書き 北組二・南組二は三つの関係にあるので同一年のもの のだが、ひとくくりになっていた四は別の年か？ 安政三年辰から	264
1546	29	寛	如 七月三十一日 辰十一月六日	一通	湯浅健治 源太郎・ 鹿塩村名主 伴四郎	(一) 久々里裏健人金五両の受け取り、来年正月に利 息を渡す (二) 一両の日雇連土金の受け取り	822
1547	30	(朱判金触状)	申六月 辰十月	一冊	飯田御役所・ 鹿塩村名主彦兵衛	世上通用のため二束の朱判金を咄きだてた。申年六月 十カ村では朱判六つで二両、辰年十月は八つで一両のお舐れ	821
1548	31	(一)指上申事件之事 (二)差上申御請書之事	辰四月	一通	飯田御役所	(一) 木綿の種子を公儀から受け取る。播き方、育て 方 (二) 木綿置木を育てるにつぎ土地を譲る事	823
1549	32	寛	巳 三月十五日	三通	南組主所・ 預主彦兵衛	時穀形三枚。時穀として大麥七俵(八太郎三人組分) 十二俵繁右衛門四人組分、一斗六升(御役所三人組分) を渡す	1669
1550	33	(一)二書簡・書付	四月九日 巳四月二十八日	一通	飯田御役所棚橋元右衛 門・ 鹿塩村名主彦兵衛	(一)御樽木町帳の写しを取るための領し出し (二)材木貸上げ、儀兵衛の請負證文持参の上、役所への 出頭命令	265
1551	34	掛札	(一)巳五月 (二)未五月 (三)申五月 (四)酉五月	五通	飯田御役所・ 鹿塩村	定安辰午、見取り未、申年取箇の掛札。安永字改 と言ふ文字が見えるので、安永年間のものか？	506
1552	35	(一)以書付申上候 (二)寛	巳 八月十五日 八月十七日	一通	鹿塩村名主代組頭藤次 郎・ 飯田御役所	(一)古来からの穀許證文・繪図など一切持していない ことの報告と(二)御役所からの廻状などの大河原村か らの廻状などの大河原村からの受け取り覚え	508
1553	36	(御用利用日記)	巳 十月	一冊		十月二十六日付から二十八日付まで村役人を交代の 件、御樽木山吟味の件で召求、ほか	1325
1554	37	書付を以御達申上候御事	巳 十一月九日	一通	鹿塩村惣目代三郎兵 衛他・飯田御役所	御裁件書物を江戸屋敷へ持参せよとの達しで小川村の 者が行く	266

1555	不明 38	(寛 書付)	午 三月十六日、十 月 十五	一通		堀景隆御祭、入用金などの寛えと割り付け、十月二十 五日葬式普山人用について	1316
1556	39	御吟味二付申上候事	午 十月	一通	鹿塩村彦兵衛・ 飯田御役所	寛延は元来十五五株のところ四石に止めていた。隠遣 ならしていないと保五年午か？	267
1557	40	和吉永事いぬ三人仕入寛帳	午 未 十二月まで	一冊		諸々買い物、特に着物、反物その他衣類、鏡、櫛など 価格を知るに於出来る。宝暦年代か？	1672
1558	41	書簡	未 十月晦日	一通	前嶋右馬次・兵左衛 門・大嶋彦兵衛	宝暦十三年か安永四年の前嶋右馬次筆の書簡	1520
1559	42	寛	申 二月	一通	千村左衛門他	御蔵番 年貢長次 川除普請 不審の者を治めてはな らないなど、諸事下知すること	268
1560	43	(村々御触之御請書)	酉 三月	一冊	鹿塩村名主彦兵衛 五 郎左衛門他	村々巡行に際し、村々の対応準備についての中山貞五 郎、中尾左衛門、村田兵左衛門によるお触れの請状	503
1561	44	(人相書触)	酉 九月	一冊	飯田御役所・ 小川村他十カ村	去る申生三月三日の武州中里新田昌姓紋左衛門は親を 殺害して逃走中である。再度手配、人相書きの触れ	1429
1562	45	書簡	酉 十一月十二日 十二月十三日	一通	飯田御役所・ 鹿塩村名主彦兵衛	葛嶋渡場見分に立寄る旨のこと、御傳木帳場改めを来月 三日または四日に行うので、どちらかに決めよ。迎え 人足と駕籠を用意せよ	512
1563	46	寛	戌 六月	一通	鹿塩村	宝暦四年のものと思われる鹿塩山樹木数書き上げの 寛、木数九万五千九百五十三本ほど	269
1564	47	寛	戌 七月十日	一通	名主彦兵衛他・ 飯田御役所	去る酉年出役の扶持米代金の受取り寛えと、扶持米 手形紛失についての寛えの写し	1664
1565	48	御初穂御姓名帳	戌 十二月	一冊	内宮正量太夫内、玉木 利兵衛・大嶋彦兵衛	内宮への初穂を寄せた人々の名前書き上げ	1430
1566	49	鹿塩会所三有遺契	戌 十二月十日	一冊		鹿塩村会所に備わっている遺契目録	1314
1567	50	寛	亥 一月十六日	一通	鹿塩村名主彦兵衛・ 大河原村名主中	川上御触、中泉役所御用書き、村々請印帳の村継伝達	1665
1568	51	寛	亥 九月	一通	鹿塩村名主彦兵衛他	村々上下二名の御用遺留中、鹿塩村における米銭と米 代の受取りと二斗一菜の外、馳妻がましきとはしてい ない、この知らせ	1666
1569	52	鹿塩村向組江合船仕治り之為	亥 十一月	一板	鹿塩村南北惣代・ 飯田御役所	画組を南組、北組と唱え、和談の土旨姓出精のこと。 守るべき諸事書き下ろし	824
1570	53	一札之事	閏 六月二十七日	一通	升屋傳左衛門・ 鹿塩村彦兵衛・銀次郎	組み分けの一件に関わり米銭について依頼されたので 差し出された二画を渡した	1521
1571	54	書簡	二 月二十九日	一通	宮下和左衛門・ 大嶋彦兵衛	殿様巡行について、先年の書付の写しを御用立てする。 その他御用について、鹿塩村から飯田出役中の彦兵衛	1667

1572	55	御榑木より朽木老木伐	一月から三月	一冊	彦兵衛 八郎九郎・ 御勝手御役所	御榑木山にある孝太朽木の類を抜き切りした。小木 苗木がよりよく生立つ、など、大河原鹿塩村からの 願い書簡の写し	1668
1573	不明 56	書簡	三月十三日	一通	市兵衛・ 鹿塩大河原村名主	小川村八郎兵衛 十左衛門、勝次郎の三人が江戸へ行 った事に付いて、久々里よりお尋ねの件。榑木代材木 納の事。(延享四年か?)	500
1574	57	書簡	三月十五日	一通	唐沢左衛次・大嶋彦兵 衛・前嶋玄馬之丞	出府される由、苦勞千万のねぎらいと、中川又兵衛 のこと	501
1575	58	室前手形之事(一礼之事)	三月十六日	一通	木下町法泉寺・ 松下彦兵衛	市左衛門の宗門証明	502
1576	59	書簡	三月廿日	一通	大島岡之進・前嶋八郎 九郎・桑原佐内次	桑原氏の村より出した請け状について	1522
1577	60	書簡	三月十九日	一通	遠州二所村前嶋与左衛 門・大嶋彦兵衛	御林より材木切り出すにつき、明細を仰せ付けくだ り、委細承知、近々参上する	270
1578	61	卯月廿日より日記出役中覚	四月廿日	一冊		和左衛門と彦兵衛が飯田役所へ出役、四旦十二日か ら四旦二十九日、六旦二十五日付けの日記	1431
1579	62	(秋葉山から) 覚	四月二十七日	一通	秋葉山役所・ 鹿塩村彦兵衛	秋葉山からの神納品送り取り状	504
1580	63	書簡	五月十八日	一通	信州山本・前嶋右馬之 丞・大嶋彦太夫・彦兵 衛	井川山からの材木伐り出しば、本当に仰せ付けられ たかな、唐い合わせ。安永年間か?	1432
1581	64	差上候御請書之事	六月	一通	名主彦兵衛飯田役人	越中射水郡高見河原の左原太公由勢少輔と名乗り老中 に事状差し出す異、獄門の所、病死したことの公儀よ りのお触れを承知した	271
1582	65	書簡	八月十四日	一通	堀大和守・ 市岡淺之助	在家しているのでおいでください	825
1583	66	書簡	九月二十五日	一通	伴右衛門・大嶋彦兵衛 宮下五郎左衛門	客含いの知らせがあつたが、内用に付き出席できない。 先だつての小前嶋荒所牽引帳は手聞取り、まだ完成し ていない、その他掛用	1670
1584	67	書簡	十月三十日 十一月十二日	一通	大嶋一彦・玉木利兵 衛・富岡繁寛彦兵衛	富岡繁寛先生へ山裾製造について。初榑の仕取り集め のこと	826
1585	68	口上	十一月六日	一通	大河原村名主他・鹿塩 村名主他	入会地での草木伐り刈り禁止のこと承知した。大河原 村内の入会草木山も差し止めることの通告。享暦四年 か?	1433
1586	69	下作規定	十一月八日	一通	彦兵衛他	地主と下作方相方納得の上定めた下作についての約定	1671
1587	70	覚	十一月十八日	一通	飯田御役所・大河原 鹿塩名主市	上十人の役人出張につき人足と襦籠の手配指示	273
1588	71	覚	十一月	一通	鹿塩村名主・ 御役所	鹿塩村の四方向出入り境界への距離報告	513

1589	72	書簡		十二月三日	一通	宮下幸内・大嶋彦兵衛	材木仕出しを当科も請負いたいという隠居への相談	274
1590	不明 73	書簡		十二月二十八日	一通	前嶋八郎九郎・大嶋彦兵衛	赤達三郎様にお祝いをすべき所、失礼している。桶合・高橋喜請の費用・酒代勘定に付いて、めずらしく春は嫌いだと言う感情の記述がある	514
1591	74	寛			一通		大河原村との村費の覚え	1434
1592	75	寛			一通		巳年の樽木三分二割り付けの覚え、南組七十八人、北組六十二人分、金西両の樽木仕入金を三百四十人に一人七十三文ずつ割り付ける	1435
1593	76	申合一札之事			一通		中家耕地主吉母の死去の際、色買衣着用したところについて取り締まり、役所で調べの入用費などは別割とする	1436
1594	77	書簡			一通		大河原村前嶋竹應(右馬之丞の父親)の時代、材木出し方について差しさわりが生じている	1437
1595	78	寛			一通		天明八年から文政三年まで、時穀としての榎積り高、預り人の覚え(文政三年間と思われなく)	1438
1596	79	本宅本取寛			一冊		大島桑本宅建築のための材木取りの覚え	1439
1597	80	存念書			一通		公役来村につき鹿嶋面出すべきところ、鹿嶋村は分村組に分け以来、別々に帳面を付けている。しかし地主名前などはまとめる	1440
1598	81	風損不攷			一通		榎三本、樽百五十本、縦巨二十本、唐樽巨五十本、栗二巨本、など風損不調査結果の覚え	1441
1599	82	飯田阿村相会所々札寛			一通		大河原・鹿嶋両村費用分拍の覚え	1442
1600	83	(雑書付・寛)			七通		年貢なら取り米高、金々覚え、土堀境界の覚えなど	1443
1601	84	(一、二二寛 三三免定)			三通		借入金二覧、文書預かり覚え、免定亭し	1444
1602	85	(一、二二寛)			一通		(一)文政三年、六年、天保四年年貢仕の覚え (二)文政九年、天保七年、九年の年貢仕覚え	1445
1603	86	書簡			十一通		村用御用向き書簡、差出人棚橋正左衛門・渡辺定三郎・堀原文左衛門、牧野惣重郎、鹿嶋村名主桑中、嘉平、前嶋右馬之丞、窪田伊右衛門、伴四郎、七左衛門、彦兵衛のそれぞれ一通ずつ	1446
1604	87	(田畑高反別の覚)			一通五枚		北入村持ち、市場村持ち、堀川、川合村持ち、中家村持ちの田畑高反別の覚え	1447
1605	88	(飯田御役所と役人からの廻状御用状)			三十一通	飯田御役所、鹿嶋村	飯田御役所からの御用廻状	1448
1606	89	年貢被仰付候三付奉返候御事			一通		名主役役頭役が去る冬に殿様参府の際には着用の願と、時穀について問ひ合わせにたいする説明口上	275

1607	90	(書付)		二枚		享保十一年、九年、宝暦七年、文政二年、安政五年の土地利用などにかかわる木法の覚	276
1608	不明 91	(雑書付)		六通		物品などの受取、雑書付	277
1609	92	(金子請取)		十八通		年貢金、その他金子の請取	278
1610	93	(廻状請取)		九通		諸村からの廻状請取	279
1611	94	乍恐以書付奉願上候		一通	大河原、鹿嶋村	以前から横、桂の苗木を植えつけたり実生木の生長を見てきたが、老木太木のため苗木は良く育たない。老木倒木の類を払い下げ願う	280
1612	95	唐塩大河原山より出仕候材木島嶋渡場ニ差置候段御尋ニ付上候書付		一枚		元文商木払い下げによる諸木伐り出し期、伐り出した材木を島嶋渡場に留め置くことについて、元文四年または五年の文書か？	281
1613	96	一札之事		一通	尾州材木屋柳頭兵左衛門・御役人中	内山から材木伐り出しの入用費について文政年間のものか？	282
1614	97	乍恐以書付奉願上候		一通	彦兵衛・飯田御役所	入会山のうち、黒川山から桂二本、塩地一本、手開沢から材木、地獄谷から塩地一本、計四本伐り出したい(文政年間の文書か？)	283
1615	98	此境		一通		土地売却の際、境界の詳細説明文と地図。明治期のものか？	284
1616	99	申合一札之事		一通		葬儀の際に色着衣を着用して参られ、騒ぎが起こった。今後その様な時の掛費は本人と組の者が負担する	285
1617	100	荒木流神文前書		一通		荒木流武芸各種の相伝書前書き	286
1618	101	乍恐口上書を以奉願上候御事				宗廟帳は塩泉院、光林寺、安久寺関係を取り合わせて一帳にする、それがためなら御役御免を願う	516
1619	102	覚		六通		金子、米、年貢勘定などの覚、書付は延享二年から四年の間の文書か？	517
1620	103	覚		二通		(二通同文)山内柳取り出し方、日雇諸人用金などの見積もりと、入用金差感の上で材木買い上げの願、上書き(元文商木の際、山内に残った一万本余の材木についてか？)	518
1621	104	覚・書付		七通		金子、米、その他領収書類延享四年から寛延四年頃のものと？	519
1622	105	覚・書付		七通		金子、その他受け取り状	520
1623	106	覚		一通		新開島取場の具分結果について	521
1624	107	覚		一通	桑原寛左衛門、今泉陸右衛門、鹿塩村名主組頭惣一、百姓	材木山上げは金子太都合では差支えるので、油断なく渡場着できるようにせよ(元文五年か？)	811

1625	108	(書付)		一枚		金暦八年または九年頃）宝暦三年から人寅年の三年間、組頭（仕地）と惣旨姓代の名前書き出し	813
1626	不明 109	午十二月三日北組江御年貢御上納引合三付走右衛門右連彦兵衛参り候処与左衛門も女高江可参三而双方同道幸内殿江觀越之引文之件（左三印）	（文化十二年または以後）	一通		午年十二月はじめ年貢上納につき北組南組諸人合いに入るゝとしたところ、北組に不都合起つたにきまつと、幸内殿様の書きとめ。北組南組の、ままつの様子が記されている（金暦年間の文書か?）	814
1627	110	(書付)		一枚		自昭太師の戒名の信州佐久郡山田村鈴木姓、七郎左衛門義は合計二百十人もの子、孫、曾孫、玄孫がいて、葬儀の際に残らず参集した。子安石があるという	815
1628	111	乍坂奉願候口上書之事	(明治年か?)	一通	堀ノ、峠、鹿塩、大河	去々辰年御一新」とあるので明治二年またはそれ以後、伊那郡酒造人が酒造規定離れ改めにつき献願	816
1629	112	地目交換取調図面	(明治間か?)	一冊	原村酒造人	柴山、山林、総計八十九筆の地目交換図、堀河耕地	817
1630	113	(出頭命令書) 煙状	(明治期)	一通	筑摩県飯田出張所・村々役人	村々役人の出頭命令。これまでの戸籍取扱人、戸長、三役人	1673
1631	114	学校創立堀川分取立覚	(明治期) 十一月十日	一冊		小学校創立會、堀川地区の取立覚	1674
1632	115	以書付申上候	(明治期)	一通		鹿塩耕地東山田公有地に作付け伐畑を行なつてきた者について	1675
1633	116	信州伊那郡鹿塩村御林御材不敷木問短		一冊		総計樫尺々千五百五十四本四分八厘、樺木敷百二十九本の内訳、不種不敷の覚帳	827
1634	117	算書付		五通	もろもろ一括	年貢高、取高などの覚	828
1635	118	(社寺之事)		五通		堀河院関係。村内の寺宗派について、神職について、一括	829
1636	119	乍坂以書付奉願上候御事		一通	鹿塩村名主組頭、百姓代・飯田御役所	鹿塩村百姓山の地獄谷から片桐村の東が樫樺尺々六百本程伐り出したと言つので、願ひあける	830
1637	120	(一) 区別書拔帳 (二) 区別書拔帳 (三) 新田書拔帳 (四) 新高田高別田御上納帳		四冊		田畑など書き出し帳、村各人上納帳	831
1638	121	永代日護摩施主控記		一冊	京都愛宕山福寿院	護摩料など覚	832
1639	122	娘捨山縁記		一冊		信濃国娘捨山の言ひ伝へ、武州川越大蓮寺寄付	833
1640	123	書上		一冊	鹿塩村	鹿塩村勢、街道、周囲の村々、寺、宮、土城跡など書きとげ	834
1641	124	(高区別帳)		一冊		本新田畑の高区別覚をト書き	1317
1642	125	(覚)		一冊		本新田畑の高区別の覚（天保三年庚が見えるので天保三年以後）	1318
1643	126	切替書上帳		一冊	鹿塩村	山畑、新田の高区別、持ち主の覚	1319

1644	127	(御年貢本新田畑見取并小物成取立帳)		一冊		本新田畑見取、小物成取立、中樽木勘定	1320
1645	不明 128	六ヶ村一統此度四年分御材木納方御願三付申合一札之事		一通	五ヶ村各主組頭惣右衛門代・大河原村各主右馬之丞	丑年の廻船方川村新兵衛請負の件、差配人左馬之丞に頼む一札(樽木代材木納期のもとと思われる)	1321
1646	129	(寛)		一通		歴代塩簀院住持の覚え書き、第七世信庵英洲和尚から十三世重山祖宗和尚まで出生出身地、没年月などの覚え	1322
1647	130	記取尺廻シメ出書帳		一冊	塩簀院	材木尺メ百六十四本余の内記録	1323
1648	131	(高区別帳)		一冊		田畑上中下の高区別明細帳	1324
1649	132	(本新田畑高区別帳)		一冊		高区別帳 表紙、とじも無し	1326
1650	133	当辰年御年貢御借米代并六尺給米代山林米借揚物辻帳	辰	一冊		当辰辰年貢小物成など辻帳	1327
1651	134	(寛)		一冊		申年過木、南組分七十七丁、北組分六十二丁、他の覚え(代材木納期から?)	1328
1652	135	寛		一冊		未銭の覚えと、家別高持十六人の名前	1329
1653	136	(田畑川流れ高区別の覚え)		一冊		川谷け、流れの田畑覚え、公儀納出の覚え	1330
1654	137	持林持山区別		一冊		彦兵衛他の持林持山区別書き抜き、計五町五区余	1331
1655	138	信州鹿塩村諸名目出納帳		一冊		本新田畑の年貢高区別覚え、免定制り下しのまゐる	1332
1656	139	(寛書付)		八冊と 八枚と		中樽木納、軒別金字割り付け、下書き、書付など	1333
1657	140	(御高割返書)	(文政三年か)	一通	(前嶋兵衛門政考・御奉行所)	正徳高庄九郎の弟徳三衛門が、大河原村各主左衛門を奉行所に訴えた。右馬之丞代の借金百九十両を返済していないとのことだが、本庄姓に取り立てることと引替えに済んだ話である	1523
1658	141	(寛書付)	(延享二年か三年頃)	十一枚		樽木代材木納期の樽木、代材木その他納入の覚え。山仕事日雇費用などの覚え	1524
1659	142	旧西内山六本売り渡し証書	(明治年間)	一枚		西内山からコナラ、ミズナラ(桜花之木)計六本を二十五円で売り渡す	1525
1660	143	(寛)		一通		文化七、十、十二年分金銭など割り付けの覚え(文化年間(二年頃))	1526
1661	144	(井上金四郎御用書簡)		十一通	井上金四郎	井上金四郎宛の諸事御用書簡	1527
1662	145	(御用書簡)		十通		諸事御用書簡	1528
1663	146	寛書付		三通		村中初總、子年十月の二納、口米代、納入用の覚え、山代金讀取	1529

1664	147	寛		一通	幸田・彦兵衛	酉・申年の年貢高過木方。御樽木一万三千九十七丁を出し、過木三千八百七丁	1530
1665	148	(金帳面損受取)		九通		御用村用の諸帳面損り受け取りの覚え	1531
1666	不明 149	作 恐内黨御訴訟奏申上候御事		一通	隠居控え・ (飯田御役所)	天保以後の時期。お目見えの際の株着用の件、仮役小前の者の良くない風聞について、献金して町屋敷救の事や、株着用を贈る者のことなど、村治についてよくないことの内幕訴え	1532
1667	150	一札之事		一通	郭泰村名主	今度大河原山内から材木出し、川長の際、郭泰村御林内の立木や下草にも手をつけないこと	1533
1668	151	(樽木納付帳)		一冊		樽木代材木納期か？(延享、寛延)堀川と北川から長樽木二万六千六百九十挺仕出した	1534
1669	152	一札之事		一通	文右衛門他・ 村役人中	御樽木出や百姓持ち出し入り込み。必要とはいえ屋敷板を伐り出したことは申し訳ない。どのよう処分されても仕方なく受けるが、村内で相隣になるよう願う	1535
1670	153	(諸事書付)		十七枚 (通)		エシキテル、東照神君の薬合、赤穂浪士戒名書付など諸事	1536
1671	154	寛		六通		年貢、貢加金、その他上納の覚え	1676
1672	155	当山世代年譜		一通		塩島院前住職年譜、太安祖御和尚から八世祖出雲禪大和流(天明年間)まで	1677
1673	156	(一)算術問書 (二)算術日用弁		一冊		算術問書問集、明治期か	1678
1674	157	煙火打揚書付		一冊	市場書年固	花火大会打揚花火の目録。花火銘と提供者名。明治年間	1537
1675	158	和歌字し		一枚		平田篤胤のもの二首、他に鷹宮閑白、仙洞御所、中山大納言、正親町前大納言の歌	1538
1676	159	(和歌書付)		一通		和歌二十首ほどの書付。「紫雲部をよめる」がある	1449
1677	160	(熨斗のし包、折り方見本)		十三通 り		熨斗包みの折り方見本	1450
1678	161	(雑書付、区故紙など)				書付断片、区故紙、包み紙など	1334

長野県下伊那郡大鹿村
大島家文書目録
二〇〇六年十一月

